

平成 19 年度
待機時消費電力調査報告書

平成 20 年 3 月

財団法人/省エネルギーセンター

目次

第1章 要約

1.1 調査概要	1
1.1.1 現販売機器の待機時消費電力調査	1
1.1.2 調査の方法	1
1.2 結果概要	2
1.2.1 主要機器の待機時消費電力	2
1.2.2 現販売機器による待機時消費電力量の推計	4
1.3 今後の課題	5
1.3.1 利用者（家庭、企業）における待機時消費電力の削減対策	5
1.3.2 家電製品・ガス石油機器メーカーの待機時消費電力に対する取り組み	5

第2章 調査概要

2.1 背景と目的	6
2.2 用語の定義	7
2.2.1 本報告書における待機時消費電力の定義	7
2.2.2 用語の定義および説明	8
2.3 調査構成	10
2.4 調査内容	11
2.4.1 調査対象	11
2.4.2 調査方法	11
2.4.3 調査時期	11
2.4.4 調査項目	12
2.4.5 調査対象機器	12

第3章 調査結果と結果分析

3.1 家電製品	13
3.1.1 メーカーの取り組み状況	13
3.1.2 待機時消費電力の概要	20
3.1.3 AV機器の待機時消費電力	29
3.1.4 IT機器の待機時消費電力	46
3.1.5 調理・家事機器の待機時消費電力	58
3.1.6 空調・給湯機器の待機時消費電力	68
3.1.7 電気便座・照明・その他機器の待機時消費電力	75
3.2 ガス・石油製品	83
3.2.1 メーカーの取り組み状況	83
3.2.2 待機時消費電力の概要	87
3.2.3 暖房機・衣類乾燥機の待機時消費電力	94
3.2.4 ガス給湯機器の待機時消費電力	97
3.2.5 石油給湯機器の待機時消費電力	100

3.3 過去調査との比較	107
3.3.1 家電製品	107
3.3.2 ガス・石油製品	109
3.4 機器別ヒヤリング調査	111
3.4.1 ヒートポンプ給湯機	111
3.4.2 ネットワーク機器	113
3.4.3 考察	115

第4章 待機時消費電力の推計および削減可能性の検討

4.1 現販売機器による待機時消費電力量の推計	116
-------------------------	-----

第5章 今後の課題

5.1 家庭における省エネ意識と待機時消費電力の削減対策	118
5.2 企業における待機時消費電力の削減対策	118
5.3 家電製品・ガス石油機器メーカーの待機時消費電力に対する取り組み	118

第6章 資料編

6.1 調査機器とモード別待機時消費電力原単位	119
6.2 家庭で所有されている機器と現販売機器の比較	123
6.3 現販売機器における待機時消費電力の推計	125
6.4 調査入力表（家電製品）	126
6.5 調査入力表（ガス・石油機器）	141
6.6 調査入力補助表	147

第1章 要約

1.1 調査概要

1.1.1 現販売機器の待機時消費電力調査概要

2007年7月末時点でメーカー等のカタログに記載されている家電製品およびガス・石油機器の待機時消費電力を各機器について把握し、これをもとに機器区分毎の待機時消費電力を算定する。また、家電製品を製造しているメーカーの待機時消費電力削減への取り組み状況を聴取し、併せて家庭で所有されている機器が全て現在販売されている機器に置き換わった場合の年間待機時消費電力量を推計した。

以下、本調査は「フローベース調査」という。

1.1.2 調査の方法

(1)調査方法：電子ファイル自記入式調査

(2)調査対象機器：2007年7月末時点でカタログに記載されている機器のうち、待機時消費電力を有すると考えられる機器

(3)調査対象メーカー：日本国内向けに家電製品、ガス・石油機器を製造しているメーカー

(4)調査依頼数、及び回収数

	調査依頼数	回答社数	回収率	回答機器数
家電製品(照明・便座機器は除く)	107社	63社	58.9%	3,957サンプル
家電製品(照明機器)	10社	10社	100.0%	287サンプル
家電製品(便座機器)	10社	8社	80.0%	125サンプル
ガス・石油機器	20社	19社	95.0%	1,168サンプル

(5)調査項目：機器の待機時消費電力、稼働時消費電力、定格消費電力、待機時消費電力削減への取り組み状況等

1.2 結果概要

1.2.1 主要機器の待機時消費電力

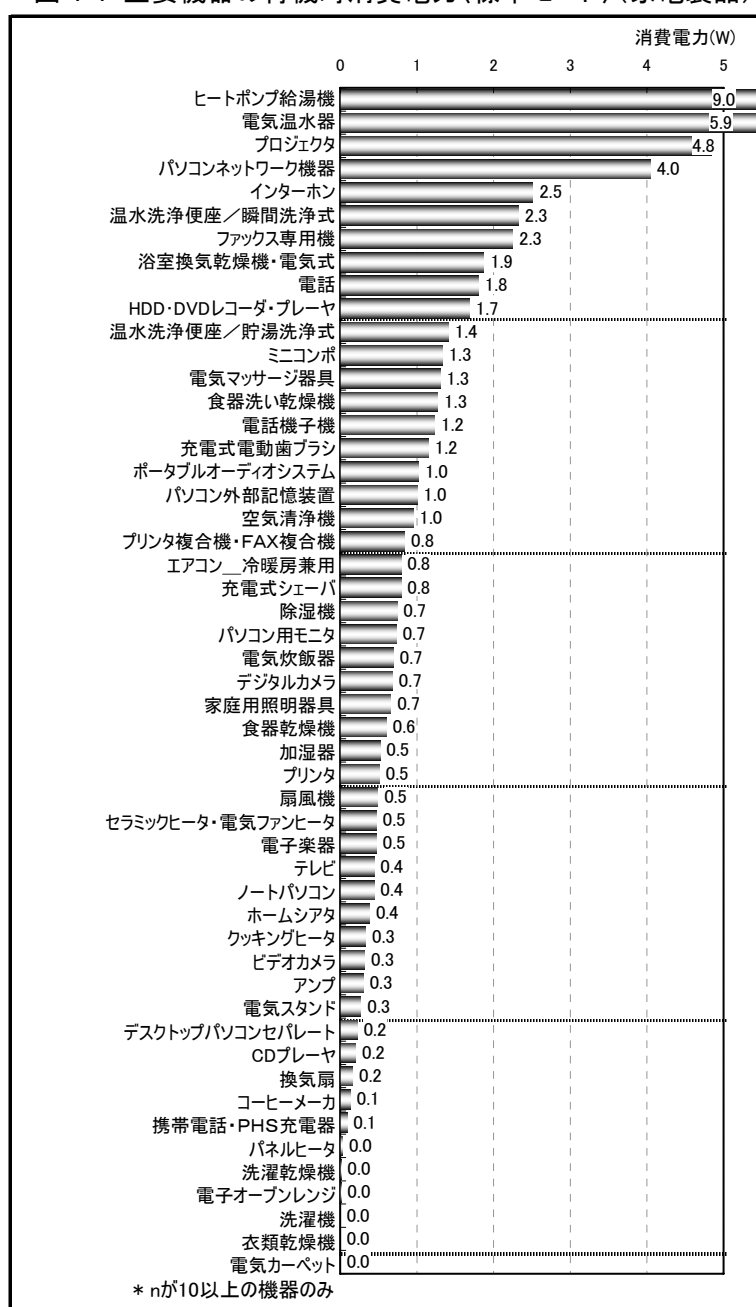
(1)家電製品

現在販売されている主要な家電製品の待機時消費電力を図 1-1 に示す。

待機時消費電力の大きい製品はヒートポンプ給湯機 9.0W、電気温水器 5.9W、プロジェクタ 4.8W、パソコンネットワーク機器 4.0W 等である。(ここでは標準モードの待機時消費電力を示している。待機時の各モード定義については 8 ページを参照のこと。)

* 標準モードとしてオンモードの値を採用している機器には、ヒートポンプ給湯機、電気温水器、パソコンネットワーク機器、インターホン等がある。オンモード、オフモードの値については、それぞれ 27、28 ページを参照のこと。

図 1-1 主要機器の待機時消費電力<標準モード>(家電製品)

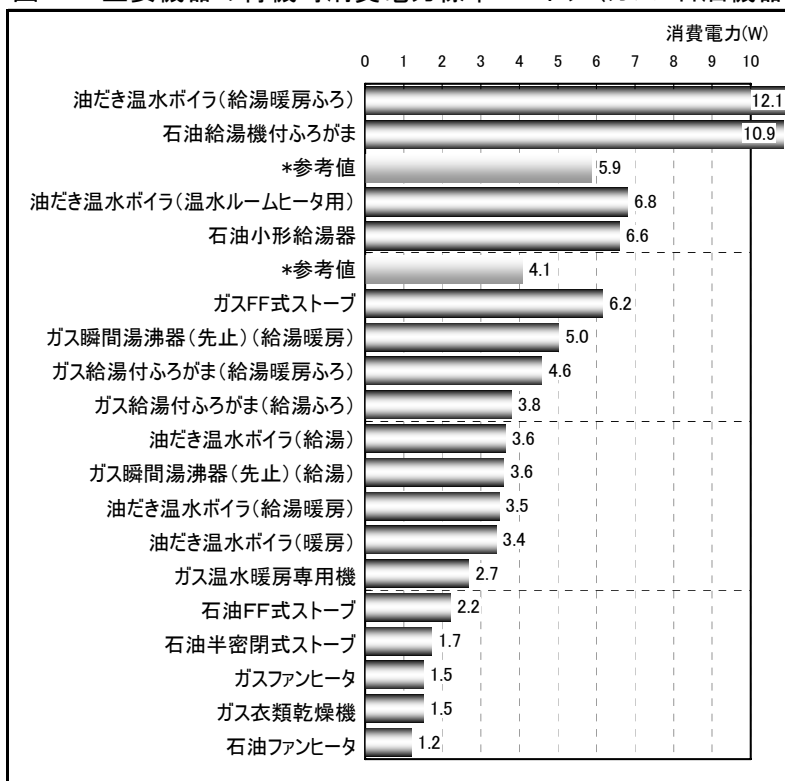


(2)ガス・石油機器

現在販売されているガス・石油機器の待機時消費電力を図 1-2 に示す。

待機時消費電力が大きい機器は、油だき温水ボイラ(給湯暖房ふろ) 12.1W、石油給湯付きふろがま 10.9W、油だき温水ボイラ(温水ルームヒータ用)6.8W、石油小型給湯機 6.6W、ガスFF式ストーブ 6.2W 等である。

図 1-2 主要機器の待機時消費電力標準モード>(ガス・石油機器)



*気化式の石油温水機器は灯油を気化するために気化器を一定温度に予熱しておく機能を持つ。気化器の予熱のためには100W程度の電力が必要であり、本調査ではこれらの数値も含めて集計しているが、この予熱のための消費電力を考慮しない場合の値を参考値として示した。燃焼後一定時間(90分程度)が経過すると気化部の保温が自動的にオフされる機能もあり、また、不必要な時にはリモコンをオフにすれば気化部の保温もオフとなる。

1.2.2 現販売機器による待機時消費電力量の推計

現販売機器の待機時消費電力調査結果(待機時消費電力原単位)と、家庭における機器の待機発生時間、各機器保有率を用いた待機時消費電力量の推計を図 1-3 に示す。なお待機発生時間と各機器の保有率については平成 17 年度調査結果を活用した。

世帯あたりの待機時消費電力量は 180kWh/年・世帯となった。その構成を見ると、ガス給湯器・風呂釜 12% (22kWh/年)、HDD・DVD レコーダ・プレーヤ 8% (15kWh/年)、ビデオデッキ 8% (15kWh/年)、石油給湯機・風呂釜 7% (12 kWh/年)などであった。

また、大区分別の構成比を図 1-4 に示す。AV 機器 32%、給湯機器 27%、IT 機器 15%、照明・その他機器 14%、空調機器 9%、家事調理機器 3%となった。

図 1-3 現販売機器による待機時消費電力量の推計

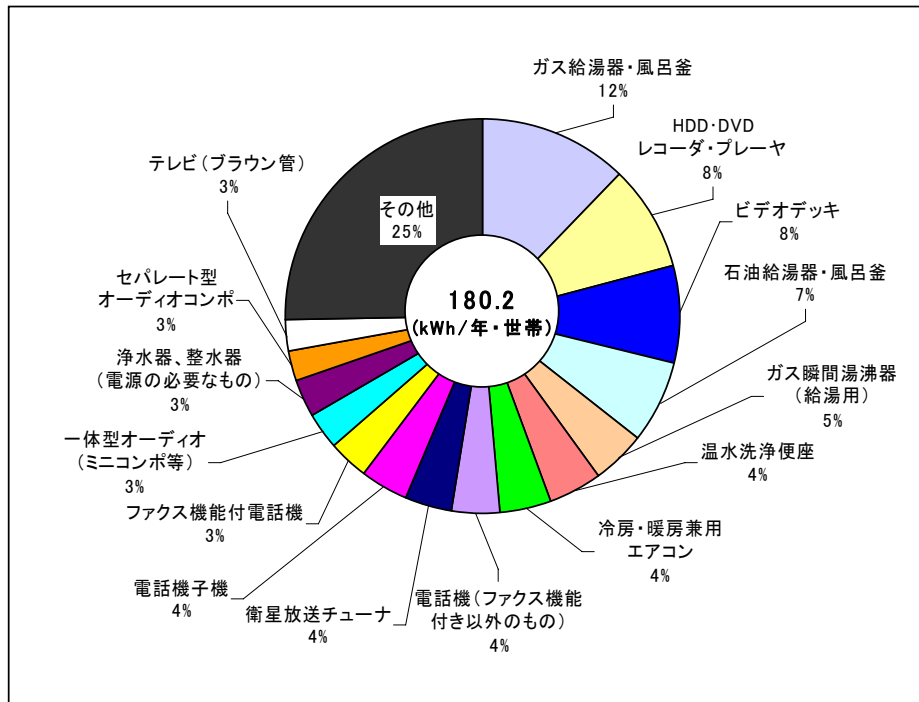
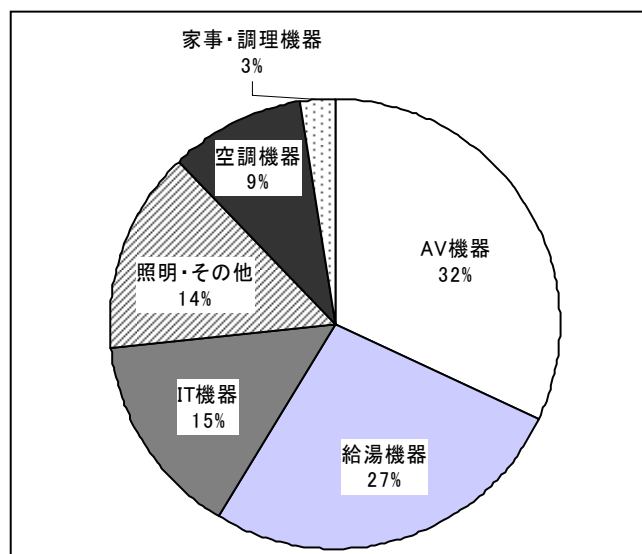


図 1-4 家庭における待機時消費電力量大分類別構成比の推計



1.3 今後の課題

1.3.1 利用者(家庭、企業)における待機時消費電力の削減対策

家庭における機器利用者にとって「電気製品の非使用時はプラグを抜き待機時消費電力を少なくする」ことは、「言葉は知っているが容易に行動に結びつかない省エネ行動」の一つとされている。また、非使用時はプラグを抜くという行為は、機器自体への影響の懸念などもあり、現実の行動はプラグを抜くことが容易な製品に限定されてしまう可能性が高い。よって、待機時消費電力に関する正確な情報の一層の周知により行動を促すとともに、家庭における待機時消費電力量削減の方策は、利用者が容易に取り組むことができる手段をもって講じる必要がある。

企業においても、今後は IT 機器の待機時消費電力の削減に注力する必要があると考えられる。業務用ビルにおけるエネルギー消費量の多くは動力系と空調系であるが、IT 機器の稼働状況から推察して、これに伴う消費電力量は増加しており、待機時消費電力量も増えてきていると考えられる。機器の調達や導入段階で待機時消費電力量削減の方策を講じる一方、削減を促す使用規定作りや呼びかけを行い、また、それを受けて、各利用者が行動・実践する必要がある。

1.3.2 家電製品・ガス石油機器メーカーの待機時消費電力に対する取り組み

家電製品・ガス石油機器メーカーの取り組みは積極的であるが、このメーカーの取り組みを結実させるために適切な情報提供を行い、機器利用者に有効な取り組みをしてもらえるように働きかける必要がある。

具体的に、情報提供の方策として「カタログ等への待機時消費電力の記載」があるが、利用者に注目されるような工夫が必要であろう。利用者に対する「適切な情報提供・呼びかけ」をさらに吟味し、多くの利用者に実感として捉えやすく、わかりやすい情報提供を工夫する必要がある。

また、利用者の行動による待機時消費電力の削減方策としての「非使用時はプラグを抜く」という行為にはいくつかのハードルが伴うゆえ、「より消費電力の少ない待機状態へと切り替えを行ってもらうことの重要性を認識してもらおう」こと、さらに、「より消費電力の少ない待機状態へと切り替える方法」を機器そのものに付加していくことの検討・開発も必要と考えられる。

また本調査により、プラグを抜かなくても待機時消費電力がゼロとなる機器や、また、プラグを抜くことを推奨できない機器も存在することが明確になりつつある。利用者の省エネ意識を煩雑さにより阻害することなく、最大の効果が得られるような情報を適切に提供することが必要と考えられる。

第2章 調査概要

2.1 背景と目的

近年、国際的なエネルギー需給逼迫の恐れが恒常的に存在しており、とりわけ我が国においては燃料資源の大部分を輸入に依存せざるを得ない事情から、エネルギーの安定確保は極めて重要な施策として位置付けられている。更に、主としてエネルギーの使用に起因する二酸化炭素の排出等による地球温暖化は、人類の生存基盤に深刻な影響を及ぼすおそれがある重大な問題となっており、こうした地球温暖化防止の観点からもエネルギー対策への取り組みは重要な施策となっている。

かつて我が国のエネルギー消費は製造業を中心とする産業部門が大部分を占めていたが、オイルショック以降の省エネルギー推進により、製造業の業種別エネルギー消費原単位(IIP)は、2005年度には58.8ポイントまで下がっている。これに対し、民生部門のエネルギー消費量は増加の一途をたどり、特に家庭部門ではライフスタイルの多様化と人々の快適性へのニーズ、IT機器の普及等に伴い、2005年度の家庭部門のエネルギー消費は1985年度比で50%増、1995年度比で約10%増と、近年の伸び率はやや鈍化したものの、今後も引き続き増加傾向は続く予想される。

こうした背景のもと、伸び続ける家庭部門のエネルギー需要を抑制するために、家庭電気機器の更なる省エネルギー化や、機器に使用されるデバイスの低損失化が求められている。なかでも「待機時消費電力」削減への取り組みは、利用されることのない無駄な電力削減の観点から、世界的な注目が集まりつつあり、我が国のみならず、世界各国地域のエネルギー利用の効率化、省エネルギーの進展のために、その重要度を増している。

2001年以降、業界団体は待機時消費電力削減の自主取り組みを相次いで表明し、待機時消費電力削減への努力が払われている。このような情勢の中、家庭における待機時消費電力の現状を経年的に把握することは重要である。

これまで(財)省エネルギーセンターでは平成11年度から待機時消費電力に関する調査を行い、家庭における年間待機時消費電力量を推計するとともに、メーカーなどの待機時消費電力削減への取り組み状況や、待機時消費電力の推移について示してきた。

今年度本調査を次のとおり実施した。平成19年7月末時点でカタログに記載されている家電製品、ガス・石油機器の待機時消費電力を把握するとともに、メーカーの待機時消費電力削減の取り組み状況について調査を行った。また、この結果と平成17年度に実施した「家庭用エネルギー消費機器の使用実態調査」結果を元に、現販売機器を利用した場合の家庭における待機時消費電力量を推計した。

2.2 用語の定義

2.2.1 本報告書における待機時消費電力の定義

本報告書における待機時消費電力の定義を次に示す。

なお、平成 11 年度から継続的に実施されている同調査との継続性を図るため、同様の定義を用いている。

待機時消費電力の定義

機器が非使用状態、若しくは何らかの入力(命令指示等)待ちの時に定常的に消費している電力

なお、この定義において「使用状態」とは、対象となる機器がその機器の主機能と考えられる動作を行っている状態を指し、「非使用」とは使用状態以外の時を言う。また、機器の「主機能」とは、対象となる機器が提供する効用のうち、主となるものを言う。

待機時消費電力の定義は上記によるが、機器は多様であり、加えて動作モードも様々であるため、どのモードが待機時に当たるかは機器ごとに異なる。

本報告書では、特定モードの消費電力が待機時消費電力にあたるかどうかを主たる機器ごとに以下のように定義した。

- ・ ビデオデッキやオーディオコンポ等のオンモード(主電源がオンで、かつ再生等していない非稼働時)は、非使用時になるため待機時消費電力とする。
- ・ 衛星放送受信アンテナや電話機類など、信号等の待ち受け時の消費電力は待機時消費電力とする。
- ・ パソコンの電源オン時は現在の家庭ではほぼ使用時と見なし、電源スイッチオフ時のみを待機時消費電力とする。
- ・ 充電式の機器は、充電時以外の消費電力(充電用アダプターのみが接続されている状態)や機器が過充電状態の消費電力を待機時消費電力とする。
- ・ 高機能便座(温水洗浄便座・暖房便座)の非使用時の便座や洗浄用温水の加温のための消費電力は一定間隔で変動しながら消費されており、待機時消費電力にあたる。しかし、この消費電力は特定が困難であることから、現状では常時消費されている最低レベルの消費電力を待機時消費電力と考える。
- ・ 電気ジャーポットの保温時の消費電力は、保温を「使用」と考え、保温時の消費電力は待機時消費電力としない。

*なお、今般の待機時消費電力削減に対する国際的な注目の下、日本における取り組みとその成果を示すためにも国際的な協調が可能となるような情報整理が重要であると考えられる。そのため、今後待機時消費電力とモードの定義、測定方法等を含めた再検討および統一化が必要と考えられる。

2.2.2 用語の定義および説明

本報告書における待機時消費電力以外の定義を以下に示す。

(1)使用

機器がその機器の主機能と考えられる動作を行うことをいう。タイマー予約は機器の主機能と言えないため、使用と考えない。また、使用者が機器を使用している時を使用時、その時間を使用時間とする。

(2)待機時

対象となる機器が非使用状態であり、かつ通電状態をいう。

(3)各モード及び状態

・タイマーモード

待機時で、機器が主機能動作を開始する時刻を機器内蔵のタイマーで設定されている状態をいう。これは、例えばビデオデッキでは録画予約されている状態、電気炊飯器では炊飯予約をされている状態であり、機器の主機能を停止させるタイマー設定ではない。

・アダプターモード

本体とは別に AC アダプターがある機器の場合、AC アダプターはコンセントに接続されているが、本体と AC アダプターが接続されていない状態をいう。

・省エネモード

表示部を消灯するなど一部の機能を停止することで、待機時消費電力の削減が可能な機器において、消費電力を削減している状態をいう。

・オンモード

待機時で機器の主電源が「入り(オン)」、または内部主回路が通電状態をいう。オンモードに2つ以上の状態があるものはその平均値をオンモード値とする。

・オフモード

待機時で機器の主電源が「切り(オフ)」、または内部主回路が非通電状態をいう。内部主回路が通電状態であっても主電源スイッチがオフであればオフモードとする。オフモードに2つ以上の状態があるものはその平均値をオフモード値とする。

※ビデオデッキの表示部オフ機能の取扱方法は、省エネ法に準拠し、オフモードの待機時消費電力を「通常モード×0.8+低電力モード×0.2」とした。ビデオデッキ以外で表示部オフ等の省エネモードがある機器は、ビデオデッキ表示部オフにおける省エネ法の計算方法に準じた。

・リモコン待機時

機器がリモコンの受信待ちにある状態をいう。表示部オフ機能がある場合の消費電力は、ビデオデッキの計算方法に準じるものとする。

・電源スイッチオフ時

電源スイッチオフ時に通電があり、かつリモコン待機時でない状態を言う。表示部オフ機能がある場合の消費電力は、ビデオデッキの計算方法に準じるものとする。

・電源オン非稼動時

機器の主電源が「入り(オン)」で主機能を稼動していない状態をいう。表示部オフ機能がある場合の消費電力は、ビデオデッキの計算方法に準じるものとする。

・標準モード

機器によって様々な待機時のモードが存在するため、機器の種類ごとに待機時消費電力の評価を容易に行うために設置したモードである。標準モードには以下の3つのパターンがあり、各機器をそのいずれかのパターンに該当させている。

- ① オンモードとオフモードの単純平均値:テレビ、ビデオ内蔵テレビ、給湯機
- ② オンモード:エアコン、高機能便座、電話機類等通常オンモードのもの
- ③ オフモード:ビデオデッキ、洗濯機等および①、②以外の機器

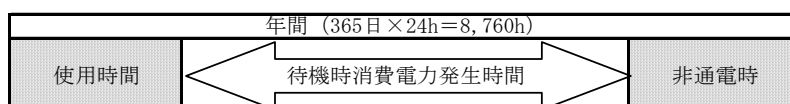
(4)待機時消費電力原単位

機器の集計区分ごと、およびモードごとに調査した待機時消費電力の平均値をいう。(単位:W)

(5)待機時消費電力発生時間

待機時の年間合計時間(単位:h/年)をいう。使用時と非通電時(コンセントプラグを抜いているとき)を特定し、それ以外を待機時として特定する。

図 2-1 待機時消費電力発生時間の考え方



(6)待機時消費電力量

年間の待機時に消費される電力量をいう。(単位:kWh/年)機器ごとの待機時消費電力量は、機器のオンモード、オフモードの待機時消費電力原単位とそれぞれの待機時消費電力発生時間、及び各機器の世帯保有率の積として求める。世帯当たりの待機時消費電力量は機器の待機時消費電力量を合計したものであり、次の式で求められる。

「世帯当たりの待機時消費電力量(kWh/年・世帯)」

$$= \sum Ni * (SPoni * SToni + SPofi * STofi + SPtmi * STtmi) / 1000$$

ただし、Ni : 機器 i の保有率(台/世帯)

SPoni: 機器 i のオンモード待機時消費電力原単位(W)

SToni: 機器 i のオンモード待機時消費電力発生時間(h/年)

SPofi: 機器 i のオフモード待機時消費電力原単位(W)

STofi: 機器 i のオフモード待機時消費電力発生時間(h/年)

SPtmi: 機器 i のタイマーモードの待機時消費電力原単位(W)

STtmi: 機器 i のタイマーモードの待機時消費電力発生時間(h/年)

(7)機器区分

本調査における機器の区分で、段階による3区分と、集計のための区分がある。

- ・ 大区分 : AV 機器、IT 機器、調理・家事機器、照明・その他機器、空調・給湯機器、ガス・石油製品
- ・ 中区分 : 機器の品目による区分
- ・ 小区分 : 機器の使用による区分
- ・ 集計区分 : 調査の設問設定や集計のための区分で、基本的に中区分を用いるが必要に応じて小区分を用いる。

2.3 調査構成

平成 11 年度から実施されてきた「待機時消費電力調査」は大きく以下の 3 つの調査から構成される。

- ① 現在販売されている機器の待機時消費電力調査
- ② 家庭で所有されている機器の使用実態調査
- ③ 家庭で所有されている機器の待機時消費電力実測調査

「現在販売されている機器の待機時消費電力調査(以下「フローベース調査」という。)」は、電気機器メーカーや代理店に対してアンケートを行い、最新機器の待機時消費電力を調査するものである。

「家庭で所有されている機器の使用実態調査(以下「機器使用実態調査」という。)」とは、全国の世帯に機器の所有台数や使用状況に関するアンケートを行い、モード区分ごとの待機時消費電力発生時間と保有率を調査するものである。

「家庭で所有されている機器の待機時消費電力実測調査(以下「ストックベース調査」という。)」とは、現在家庭で所有されている機器の待機時消費電力を計測し、機器のモードごとの待機時消費電力を求めるものである。

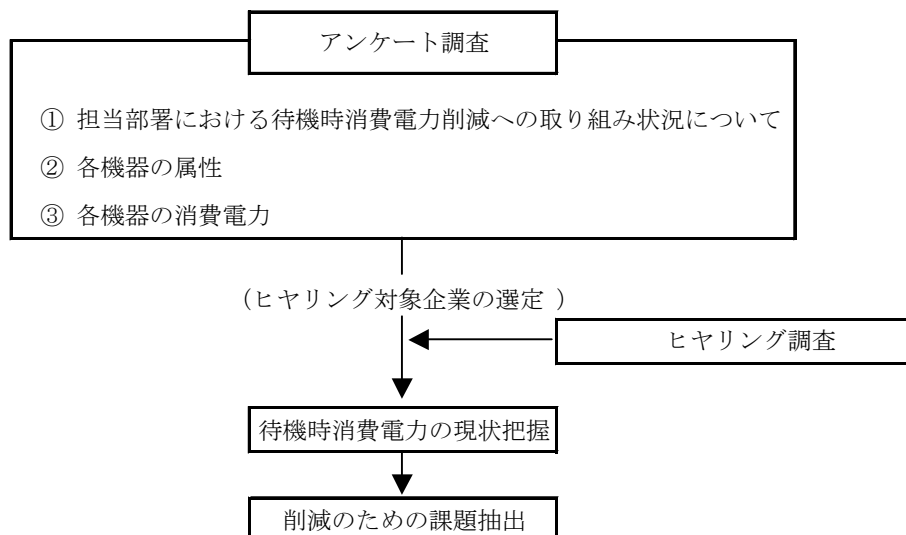
このうち、今年度は「フローベース調査」を実施した。

2.4 調査内容

家電製品およびガス・石油機器の待機時消費電力の現状を明らかにするために、現在国内で販売されている機器メーカーを中心にアンケート調査を実施した。

また、一部メーカー等に対して待機時消費電力削減に対する取り組み状況をヒヤリングした。

図 2-2 調査フロー



2.4.1 調査対象

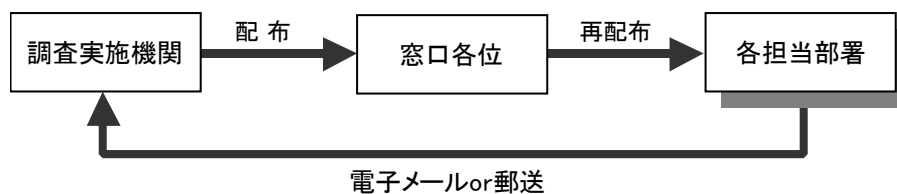
日本国内向けに家電製品およびガス・石油機器を製造しているメーカー

- ・ 家電製品(照明・便座機器は除く):107 社
- ・ 家電製品(照明機器):10 社
- ・ 家電製品(便座機器):10 社
- ・ ガス・石油機器:20 社

2.4.2 調査方法

電子ファイル自記入式留置調査(回収は郵送または e-mail による)

図 2-3 調査方法フロー



2.4.3 調査時期

平成 19 年 10 月 11 日～平成 19 年 11 月 16 日

2.4.4 調査項目

(1)担当部署における待機時消費電力削減への取り組み状況

- ・ 機器の待機時消費電力削減への取り組み状況について
- ・ 機器の待機時消費電力に関する設計基準(方針)について
- ・ 待機時消費電力のカタログや取扱説明書等における表示について
- ・ 待機時消費電力を削減するための機構、機能、推奨する省エネ行動等について

(2)対象機器の属性

- ・ 機器名(機器の種類)、機能、形式名(型番)、販売開始年
- ・ 大きさ、容量等
- ・ 電源稼働スイッチの形態(オールオフスイッチ、リモコンを含む)

(3)対象機器の消費電力

- ・ 本体と物理的につながっている電源/稼働スイッチのオフ時における消費電力
- ・ 本体から離れた電源/稼働スイッチのオフ時における消費電力
- ・ 電源/稼働スイッチのオン時における主機能非稼働時の消費電力
- ・ 主機能稼働時の消費電力/定格消費電力
- ・ 省エネ状態への自動移行機能の有無、及び具体的な内容

(4)ヒヤリング調査

アンケート調査の集計結果を分析し、待機時消費電力削減への取り組みにおいて注目される企業に対し、ヒヤリング調査を実施した。

対象機器は以下の通りである。

- ・ ヒートポンプ給湯機
- ・ ネットワーク(ホームゲートウェイ)機器

2.4.5 調査対象機器

2007年7月末時点でカタログに記載している機器のうち、以下の品目を除いたもの。

<除外品目>

- ・ アイロン、ドライヤー等使用時のみコンセント接続すると考えられる機器
- ・ 冷蔵庫等常時使用と考えられる機器

<調査依頼数、及び回収数>

	調査依頼数	回答社数	回収率	回答機器数
家電製品(照明・便座機器は除く)	107 社	63 社	58.9%	3,957 サンプル
家電製品(照明機器)	10 社	10 社	100.0%	287 サンプル
家電製品(便座機器)	10 社	8 社	80.0%	125 サンプル
ガス・石油機器	20 社	19 社	95.0%	1,168 サンプル

第3章 調査結果と結果分析

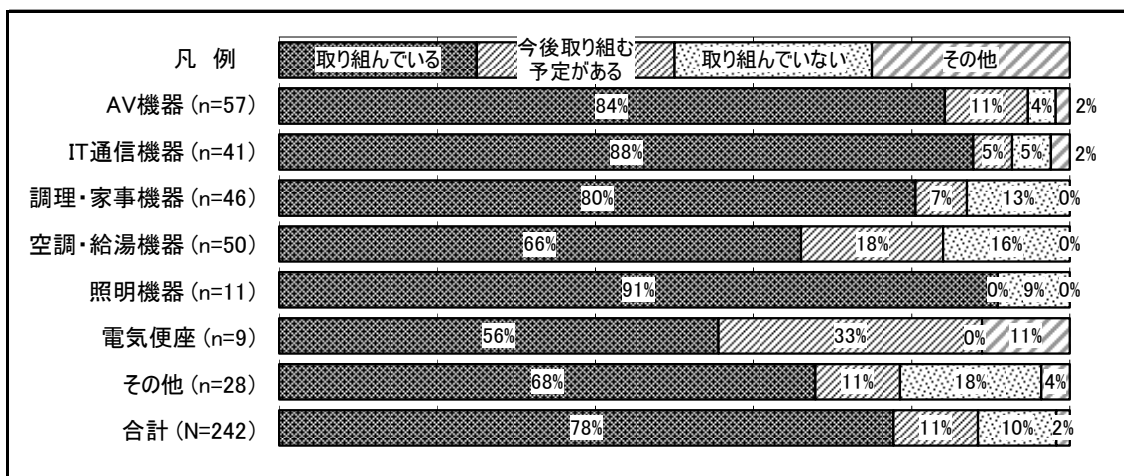
3.1 家電製品

3.1.1 メーカーの取り組み状況

(1) 待機時消費電力削減への取り組み状況

「取り組んでいる」との回答は全体で 78%であった。機器別では、照明機器(91%)、IT 機器(88%)、AV 機器(84%)の取組状況は高い。電気便座(56%)、空調・給湯機器(66%)については、「今後取り組む予定がある」(電気便・33%、空調・給湯機器・18%)との回答に期待したい。

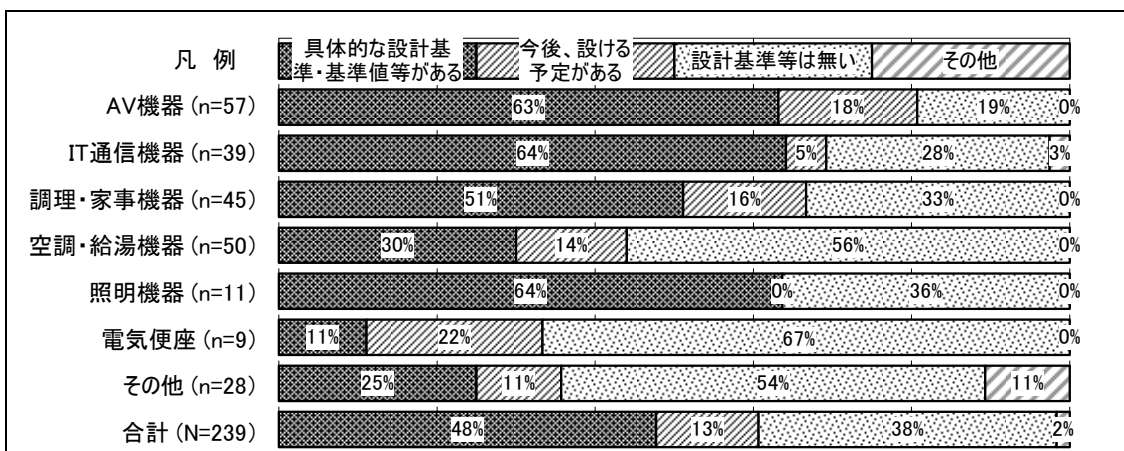
図 3-1 メーカーの取り組み状況(家電製品)



(2) 待機時消費電力に関する設計基準の有無

全体としては「具体的な設計基準(基準値等)がある」が 48%、「今後設ける予定がある」が 13%。機器別では照明機器、IT 機器、AV 機器で高い。具体的な基準としては、独自の数値目標のほか、業界団体基準、国際エネルギースタープログラム、グリーンプロダクトガイドライン等が指標として挙げられている。

図 3-2 待機時消費電力に関する設計基準の有無(家電製品)

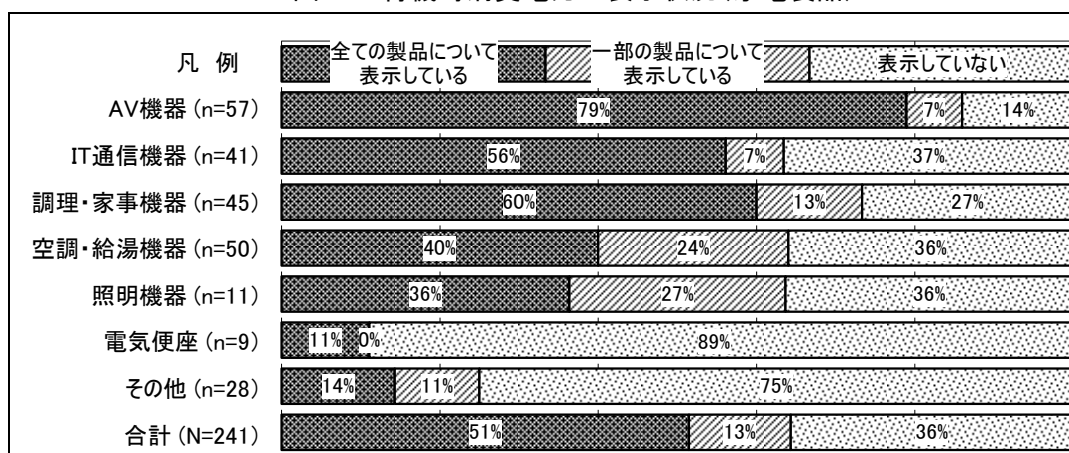


(3) カタログ等における待機時消費電力の表示状況

全体では「全ての製品について表示している」が 51%、「一部の製品について表示している」が 13%であった。「全ての製品」・「一部の製品」を合わせて表示率が高いものは AV 機器(86%)、調理・家事機器(73%)である。

電気便座では、表示しない理由として「省エネ法に基づき、省エネ基準達成率や年間消費電力量を記載している。」「年間消費電力を表示しており、購入者には一番理解しやすいと考えている。」「常時通電する機器であるため、省エネ基準達成率／年間消費電力量を記載している」などの回答が寄せられている。

図 3-3 待機時消費電力の表示状況(家電製品)



(4) 待機時消費電力削減のための具体的な取組状況／省エネモードへの自動移行機能

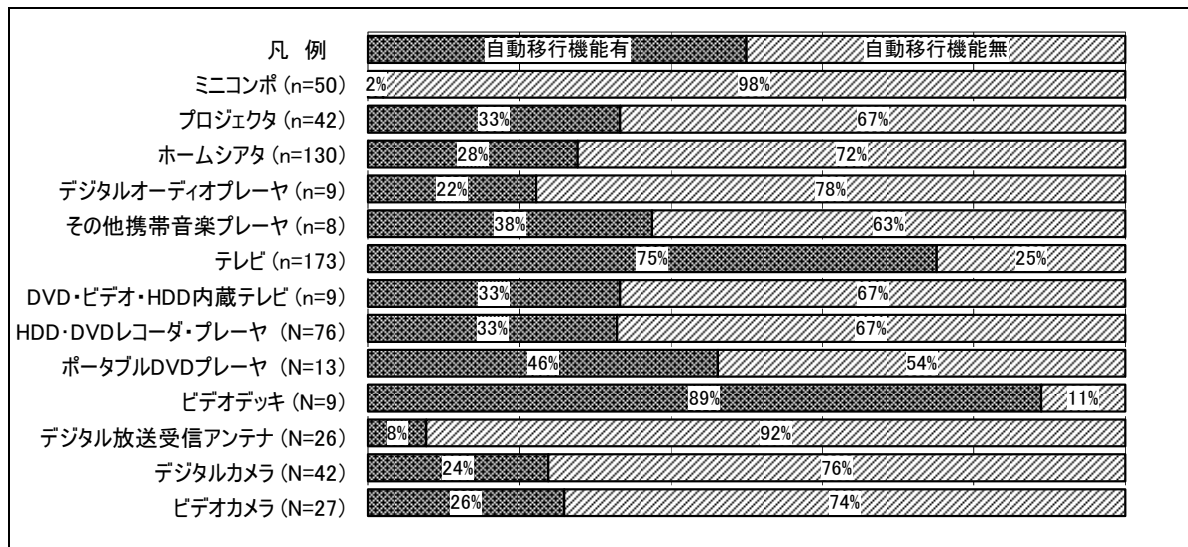
待機時消費電力に対して各メーカーも様々な取り組みを行っており、その具体的な内容として省エネモードへの自動移行機能がある。この機能は一定時間操作がない場合等に、自動的に消費電力の少ない省エネモードへ移行し、待機時消費電力を削減するもので具体的な内容は機器ごとに異なるが、本調査に回答のあった各機器における省エネモードへの自動移行機能の有無は次の通りであった。

1) AV 機器での省エネモードへの自動移行機能

一般家庭での利用率が高いテレビとビデオデッキは自動移行機能を有しているものが多く、テレビは 75%、ビデオデッキは 89%が省エネモードへの自動移行機能有り、次いでポータブル型 DVD プレーヤ、携帯音楽プレーヤ はバッテリー（電池）駆動のため、自動移行機能有りが比較的多い。

家電市場でビデオデッキに代わるHDD・DVDレコーダ・プレーヤでの自動移行機能有りは33%で、またホームシアタでは28%である。ミニコンポでの自動移行機能有りは2%であった。

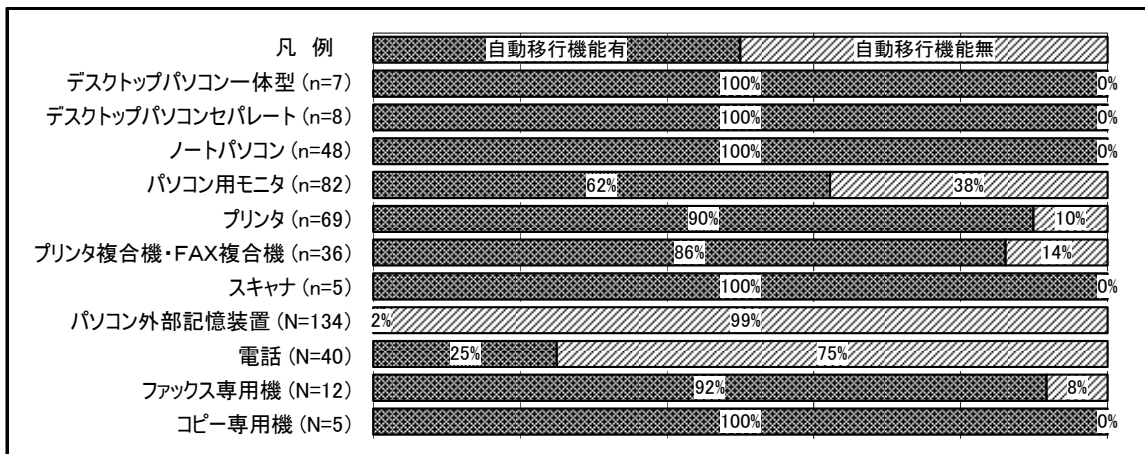
図 3-4 省エネモードへの自動移行機能等の有無 (AV 機器)



2) IT 機器での省エネモードへの自動移行機能

IT 機器は全般的に省エネモードへの自動移行機能を有しているものが多く、パソコン、スキャナ、コピー専用機は 100%、プリンタ、ファックス専用機、複合機はほぼ 90%、パソコン用モニタも 62% が自動移行機能有りである。

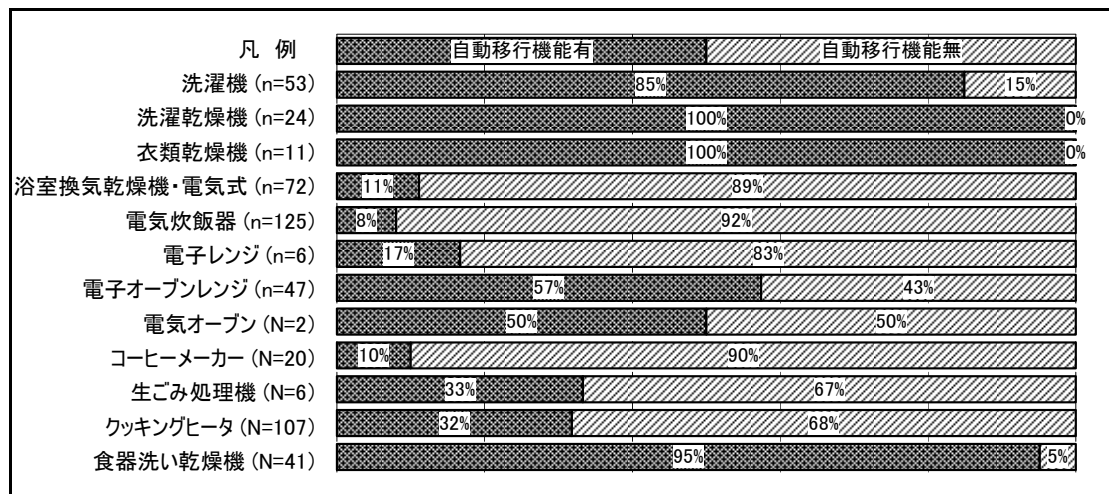
図 3-5 省エネモードへの自動移行機能等の有無(IT 機器)



3) 調理・家事機器での省エネモードへの自動移行機能

発熱量が大きい洗濯乾燥機、衣類乾燥機、食器洗い乾燥機は省エネモードへの自動移行機能を備えているものが多い。また洗濯機も 85% が自動移行機能を有している。

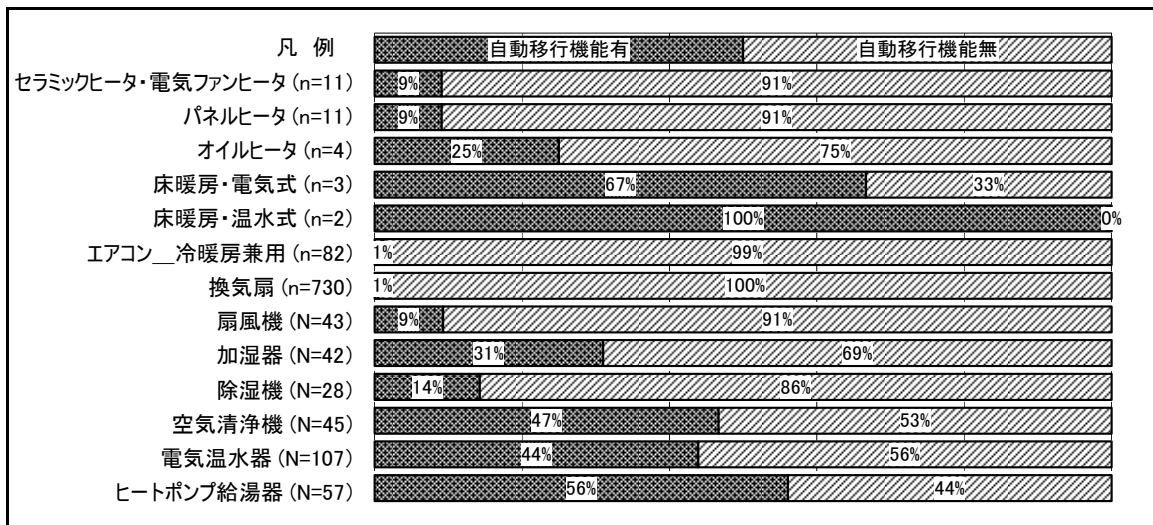
図 3-6 省エネモードへの自動移行機能等の有無(調理家事)



4) 空調・給湯機器での省エネモードへの自動移行機能

省エネモードへの自動移行機能を備えている機器は全体的に少ない。
 床暖房・温水式は 100%、同電気式は 67%となっているが、各々の集計数は 2、および 3 である。
 標準モードでの待機時消費電力が大きいヒートポンプ給湯機での自動移行機能有りは 56%、電
 気温水器では 44%であった。

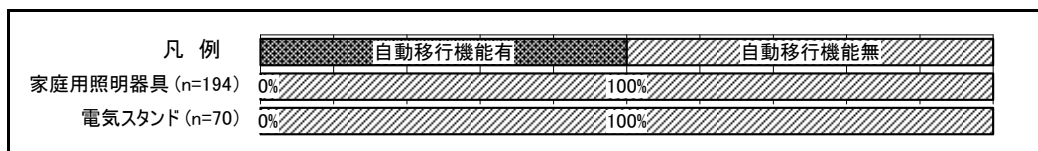
図 3-7 省エネモードへの自動移行機能等の有無(空調給湯)



5) 照明機器での省エネモードへの自動移行機能

照明機器は全製品、省エネモードへの自動移行機能を有していない。これは基本的に動作がオン・オフに限られるためと思われる。

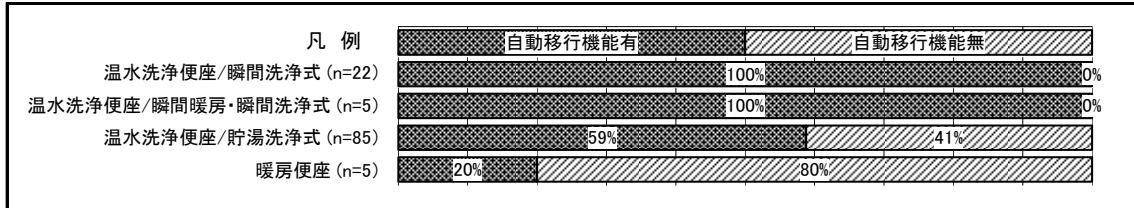
図 3-8 省エネモードへの自動移行機能等の有無(照明)



6) 電気便座での省エネモードへの自動移行機能

瞬間洗浄式の温水洗浄便座では 100%、貯湯式の温水洗浄便座では 59%が省エネモードへの自動移行機能を有している。

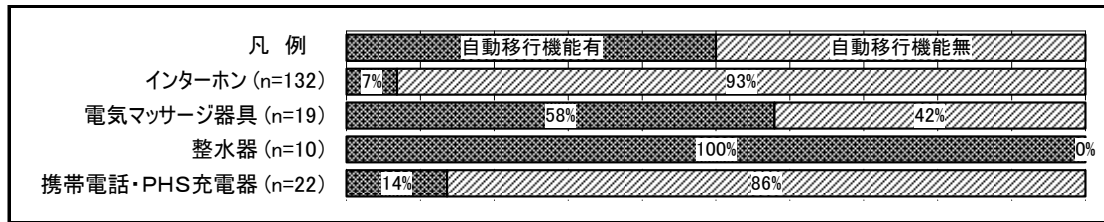
図 3-9 省エネモードへの自動移行機能等の有無(電気便座)



7) 家電その他での省エネモードへの自動移行機能

整水器は 100%、電気マッサージ器具は 58%が省エネモードへの自動移行機能を有している。

図 3-10 省エネモードへの自動移行機能等の有無(家電その他)



(8) 電源プラグを抜くことによる影響

当センターでは、機器を使用しない時にプラグを抜くことを推奨しているが、メーカーの考え方として、家庭での使用下において、待機時消費電力を削減するためにプラグを抜いた場合(あるいは分岐用安全ブレーカーを落とした場合など)に、機能面や製品耐久性の面などで、問題となることがあるか回答各部署に尋ねた。

その結果、回答 242 件中「特になし」が 61 件(25.2%)、「問題なし」が 32 件(13.2%)「無回答」が 50 件(20.7%)で多くの機器は特に問題は無いと思われるが、AV 機器や IT 機器、一部の調理・家事機器等のデータ蓄積機能・取得機能、時計表示機能を有している機器では、データ消去や非表示の問題が発生する。

以下、「電源プラグを抜くことによる影響」は下表のとおりである。

表 3-1 非使用時に電源プラグを抜くことによる影響について(家電製品)

	合計	AV 機器	IT 機器	調理・ 家事 機器	空調・ 給湯 機器	照明	電気 便座	その 他機 器
	(n=242)	(n=57)	(n=41)	(n=46)	(n=50)	(n=11)	(n=9)	(n=28)
・ 機能・記憶データが停止・消去される	31	9	5	8	5	-	2	2
・ 最新電子番組表の取得ができない	17	17	-	-	-	-	-	-
・ 時計の計時機能が停止する	13	7	1	3	1	-	-	1
・ プラグを抜く事は推奨できない	10	-	2	2	5	-	-	1
・ 自動ダウンロードができなくなる	6	5	1	-	-	-	-	-
・ 冬場など凍結の恐れがある	4	-	-	1	2	-	1	-
・ FAXなどその間の受信が損なわれる	3	-	3	-	-	-	-	-
・ 動作中にプラグを抜くとファイルが破損する	3	2	1	-	-	-	-	-
・ 自動運転機能を損ねる	3	-	-	-	3	-	-	-
・ 運転の立ち上がりなどに問題をきたす	2	-	-	-	-	-	2	-
・ 常時充電方式なのでプラグを抜くと充電できない	2	-	-	1	-	-	-	1
・ IHクッキングヒーターは組入式が多くプラグを抜くのが困難	2	-	-	2	-	-	-	-
・ 未使用時プラグを抜くと本電池を消費する	2	1	-	1	-	-	-	-
・ 運転停止直後にプラグを抜くと機器が加熱する	1	-	-	-	1	-	-	-
・ 定期的に作動させないと不都合が生じる	1	-	-	-	1	-	-	-
・ 再度電源を入れたとき点灯してしまう	1	-	-	-	-	1	-	-
・ 温度が上がったことを確認しないと温水が出ない	1	-	-	-	-	-	1	-
・ 運転積算時間で動く機能が損なわれる	1	-	-	-	1	-	-	-
・ センサーが不安定になる	1	-	-	-	1	-	-	-
・ ソフトウェアの自動更新ができない	1	1	-	-	-	-	-	-
・ ランプ点灯時にプラグを抜くとランプの劣化につながる	1	1	-	-	-	-	-	-
・ 分岐用安全ブレーカーを落とすと安全装置が動作しない	1	-	1	-	-	-	-	-
・ センサーの寿命低下	1	-	-	1	-	-	-	-
・ 湯量不足や高温の湯が出ることもある	1	-	-	-	1	-	-	-
・ 漏水検知機能が働かず漏水の可能性がある	1	-	-	1	-	-	-	-
・ 機能が劣化する事がある	1	-	1	-	-	-	-	-
・ 頻繁に抜くとコネクターへの応力や半差トラッキングが懸念	1	1	-	-	-	-	-	-
・ 使用後一定時間は電気部品保護のためプラグを抜かない	1	-	-	1	-	-	-	-
・ プラグでなくケーブルを引くと内部に負担がかかる	1	1	-	-	-	-	-	-
・ 分岐用安全ブレーカーを落とすことでの問題はない	1	-	-	1	-	-	-	-
・ 特になし	61	5	12	13	16	6	1	8
・ 問題なし	32	7	9	3	4	2	-	7
・ 無回答	50	10	7	11	10	2	2	8

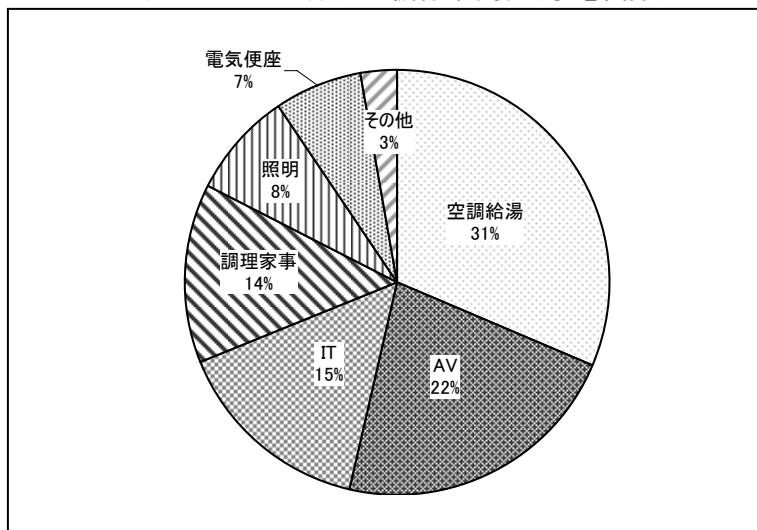
※ 件数

3.1.2 待機時消費電力の概要

(1) 回答機器

有効機器総数は4,285台で、区分別では空調給湯機器1,344台(31%)、AV機器955台(22%)、IT機器647台(15%)、調理・家事機器581台(14%)、照明機器284台(7%)、電気便座機器125台(3%)、その他機器349台(8%)であった。

図 3-11 大区別の機器数割合(家電製品)



販売開始年では、2007年1,363台(33%)、2006年1,276台(31%)、2005年528台(13%)で、3年間の合計で全体の77%を占めている。

大区分別ではIT機器、AV機器、空調・給湯機器で2006～2007年発売の新製品が多い。

図 3-12 販売開始年別機器数割合(家電製品)

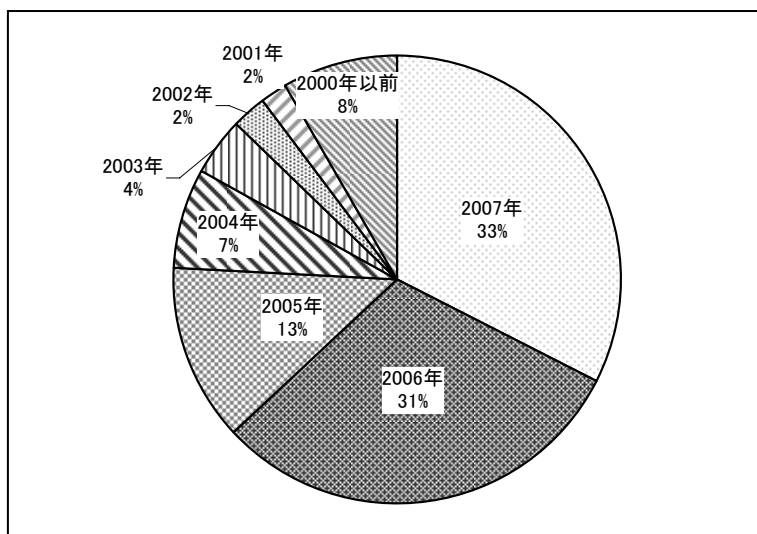
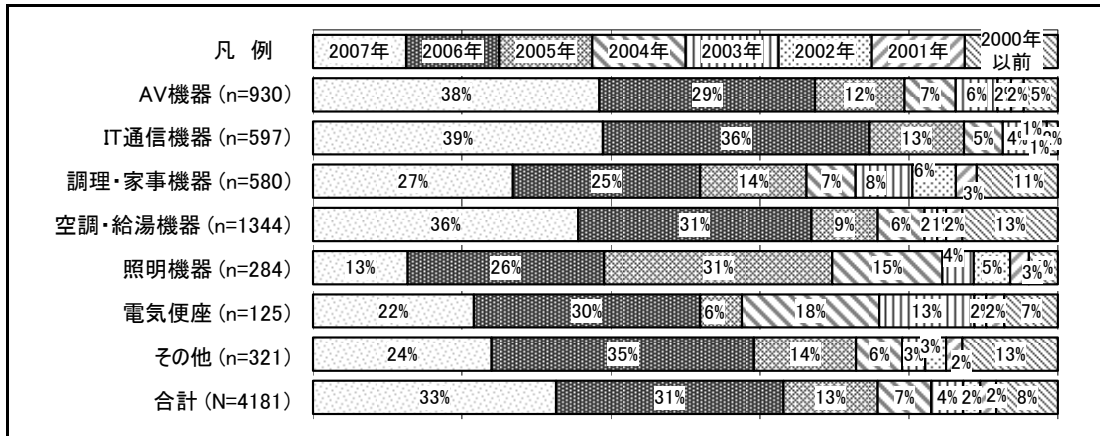


図 3-13 大区別の販売開始年別回答機器数の割合(家電製品)



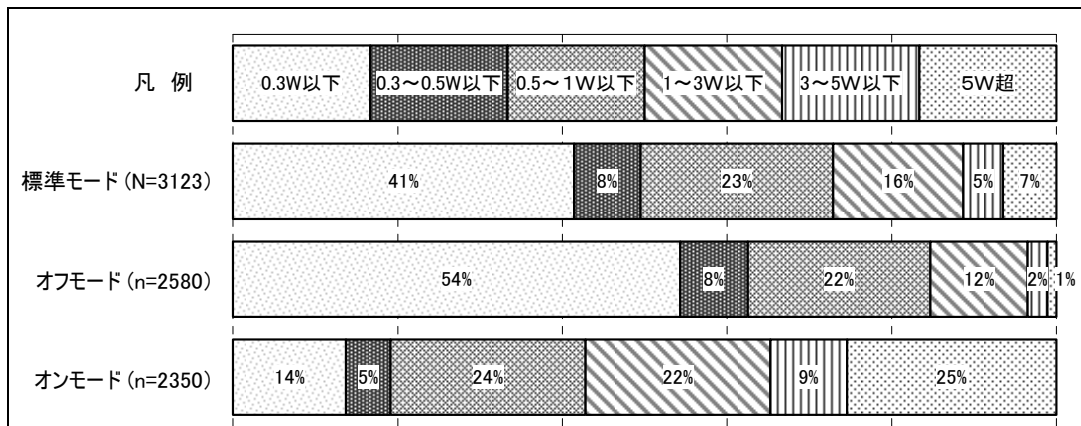
(2) 待機時消費電力の構成比

(a)全体の構成比

待機時消費電力<標準モード>では0.3W以下が全体の41%を占めており、割合が最も大きい。また、1W以下の機器は全体の72%を占めている。

なお<オフモード>では0.3W以下が全体の54%、1W以下の機器が全体の84%を占め、<オンモード>では0.3W以下は全体の14%、1W以下の機器は全体の43%であった。

図 3-14 待機時消費電力の構成比(家電製品)



(b)機器大区分別の構成比

<標準モード>の機器区分別では、AV 機器、調理・家事機器、照明機器で 0.3W 以下の製品割合が高い。電気便座は「1~3W 以下」区分の製品が最も多い。

図 3-15 機器大区分別待機時消費電力の構成比<標準モード>(家電製品)

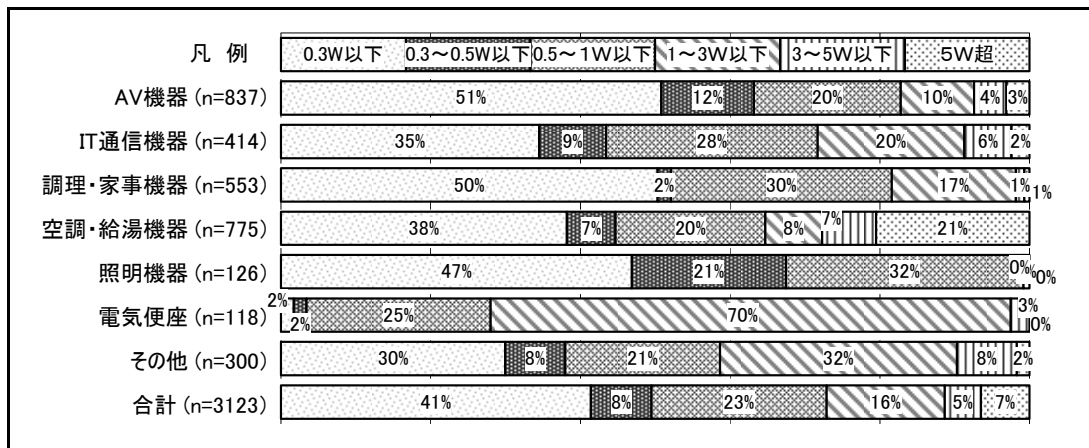


図 3-16 機器大区分別待機時消費電力の構成比<オフモード>(家電製品)

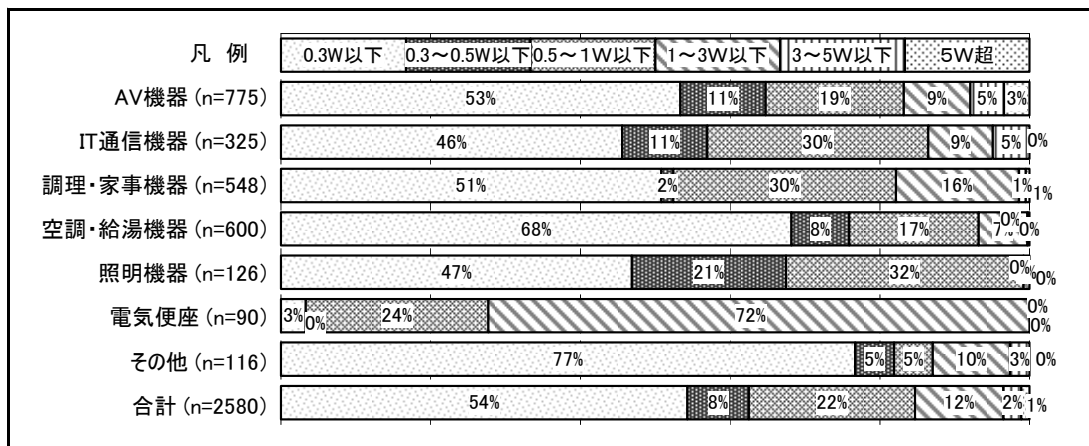
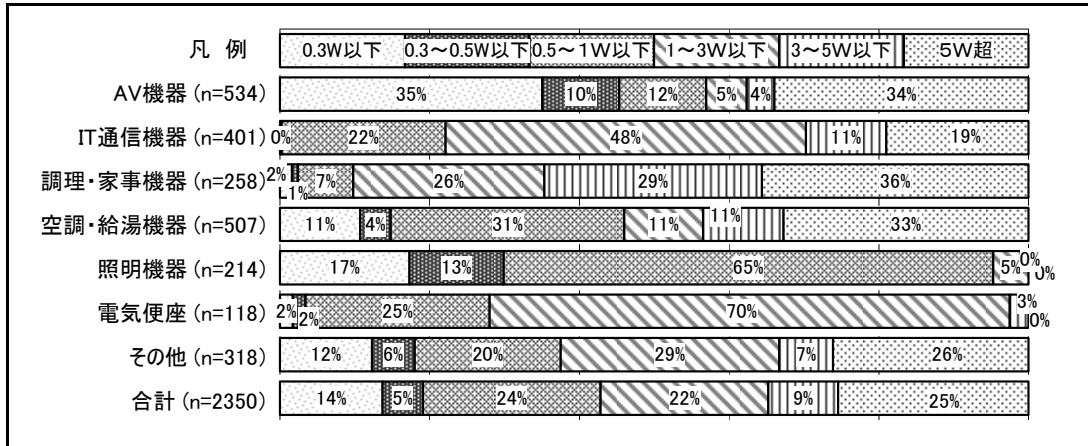


図 3-17 機器大区別待機時消費電力の構成比<オンモード>(家電製品)



(c)販売開始年別の構成比

販売開始年別に待機時消費電力<標準モード>の構成比を見ると、2002年に0.3W以下の割合が高く、52%前後を占めている。

なお<オンモード>、<オフモード>の販売開始年別・待機時消費電力は、図 3-19 図 3-20 に示している。

図 3-18 販売開始年別待機時消費電力の構成比<標準モード>(家電製品)

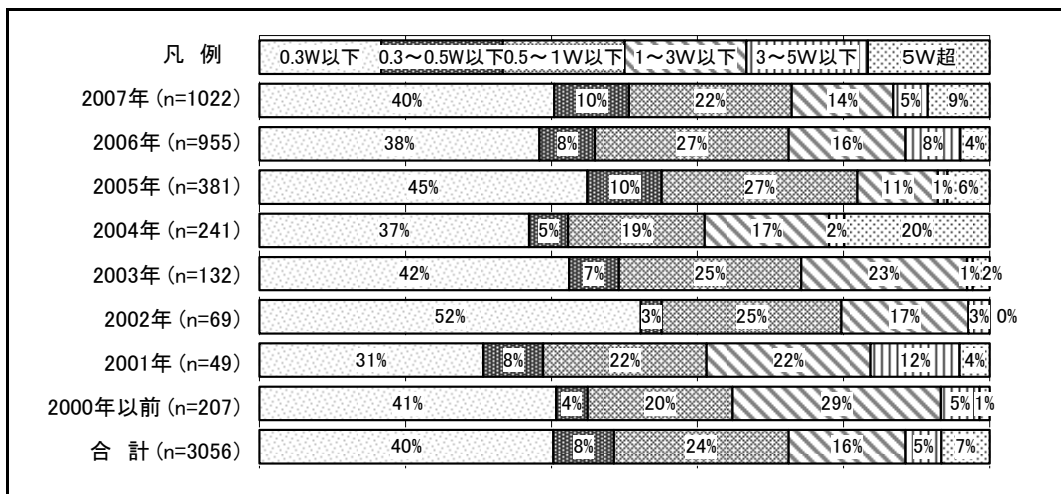


図 3-19 販売開始年別待機時消費電力の構成比<オフモード>(家電製品)

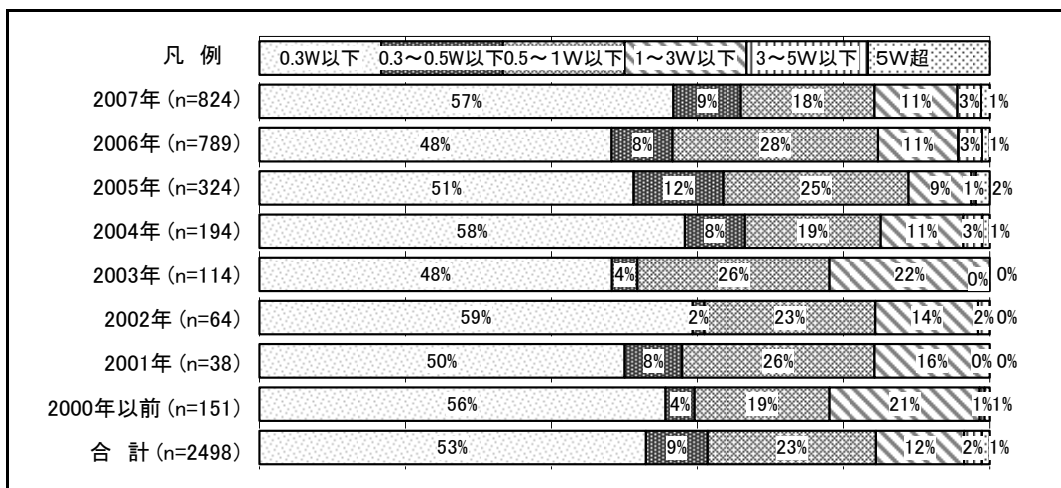
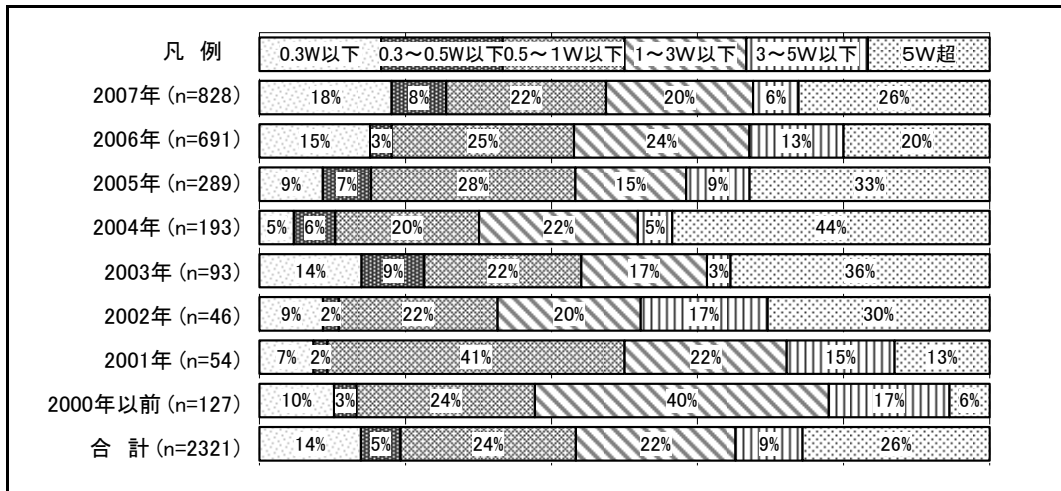


図 3-20 販売開始年別待機時消費電力の構成比<オンモード>(家電製品)



(3) 主要機器の時待機時消費電力(回答数が10件以上の機器)

<標準モード>での平均値が大きい機器はヒートポンプ給湯機 9.0W、電気温水器 5.9W、プロジェクタ 4.8W、パソコンネットワーク機器 4.0W 等である。

図 3-21 主要機器の待機時消費電力<標準モード>(家電製品)

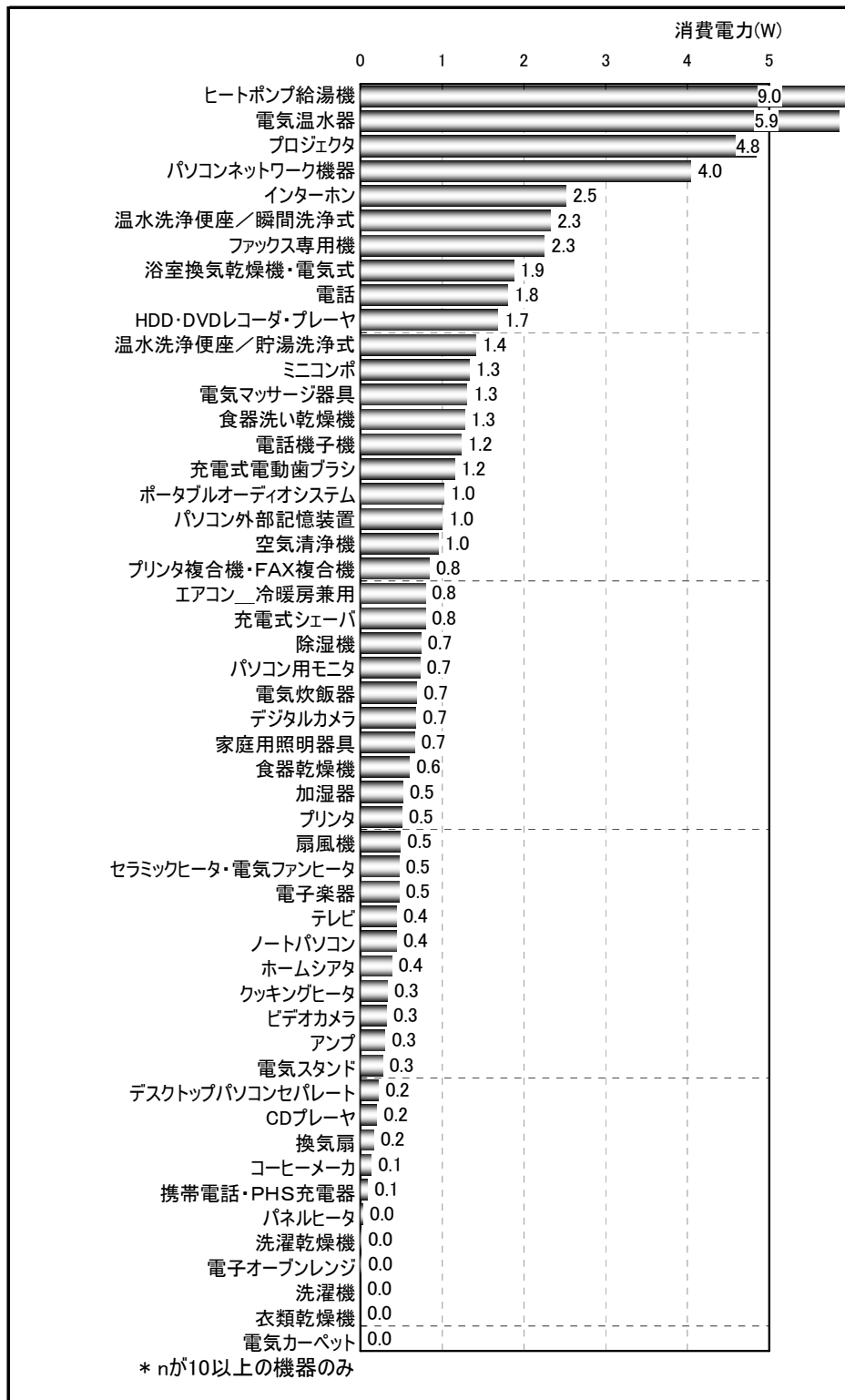


図 3-22 主要機器の待機時消費電力<オフモード>(家電製品)

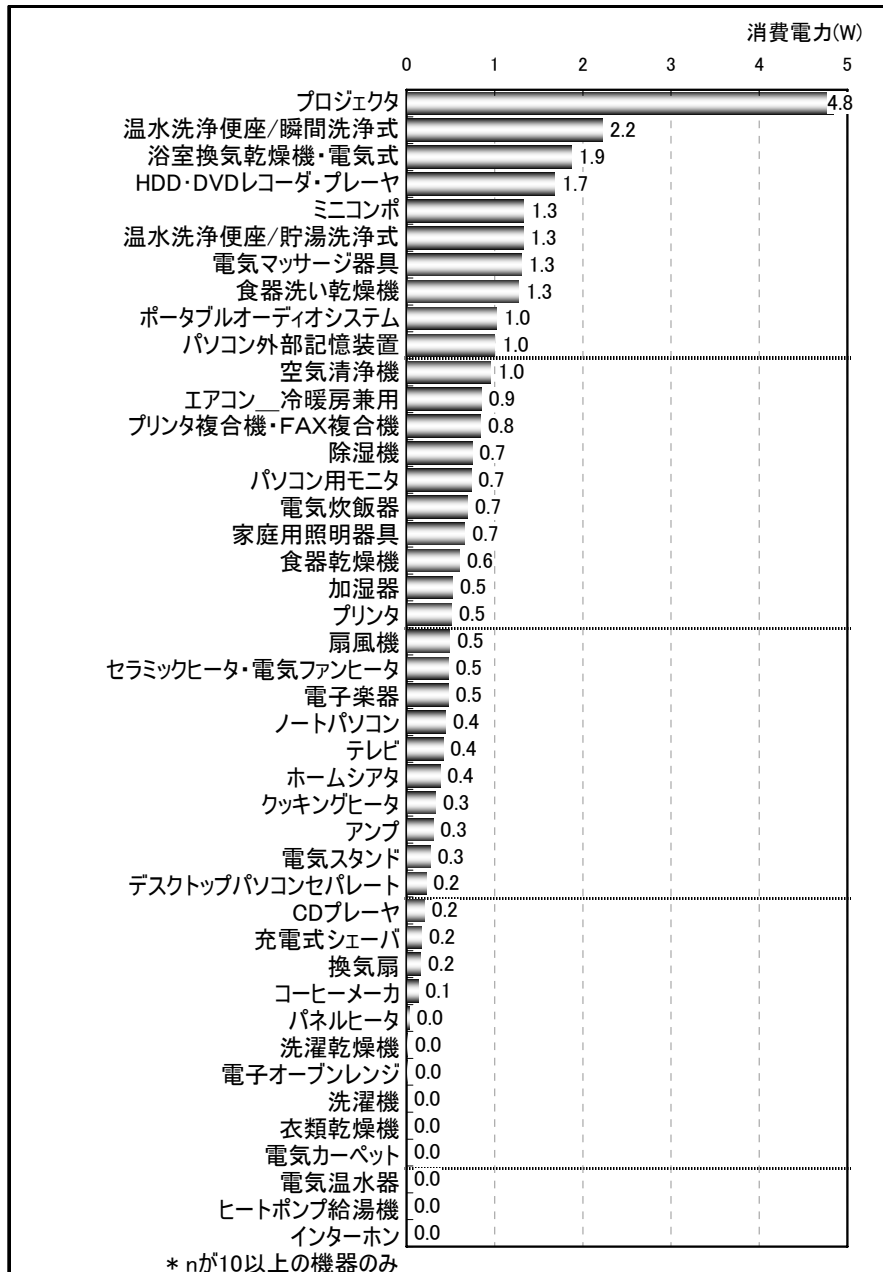
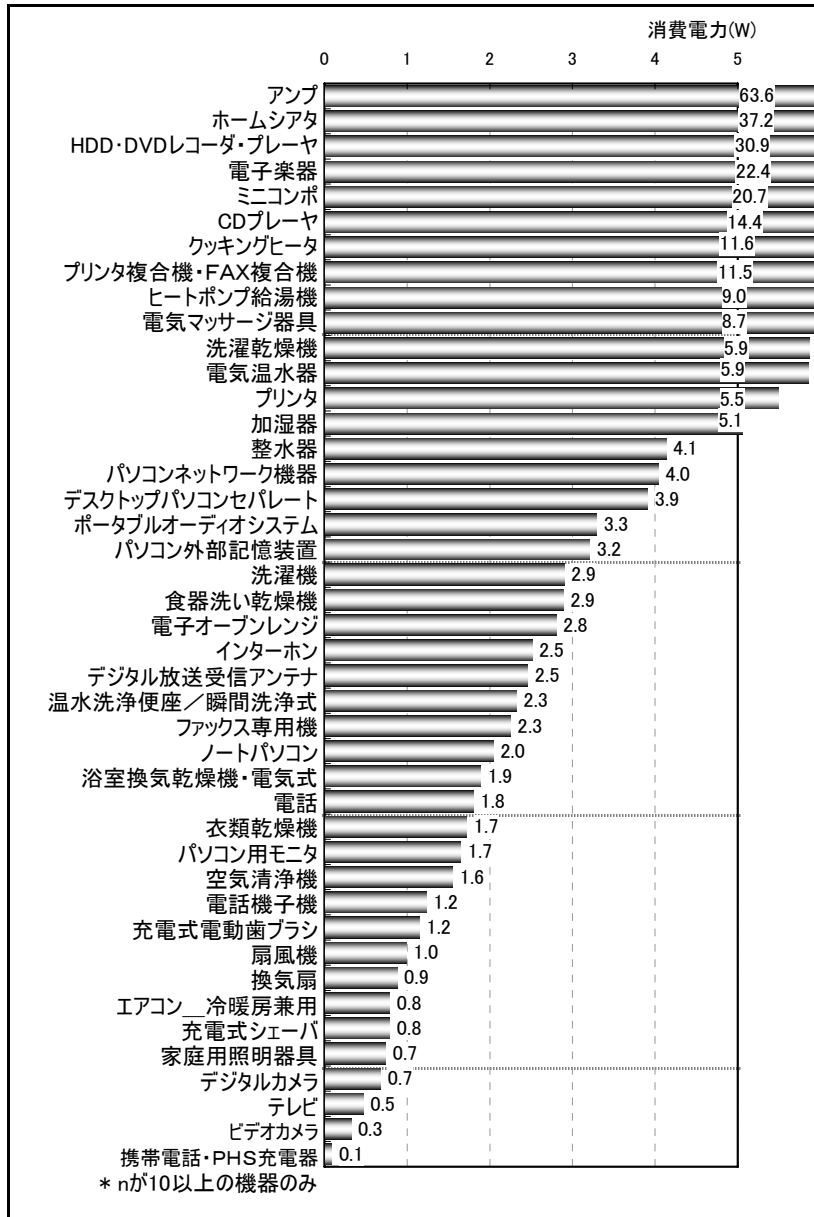


図 3-23 主要機器の待機時消費電力<オンモード>(家電製品)



3.1.3 AV 機器の待機時消費電力

3.1.3.1 販売開始年別 待機時消費電力の構成比

「標準モード」「オフモード」において、販売開始年が新しい機器であるほど待機時消費電力が少ない機器(0.5W以下)が増える傾向が見られたが、その一方で、1Wを超える機器も増加傾向にある。2007年に販売開始された機器においても8割以上が待機時消費電力を1W未満にまで削減している。

また「オンモード」における削減傾向も顕著である。

図 3-24 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<標準モード>(AV 機器)

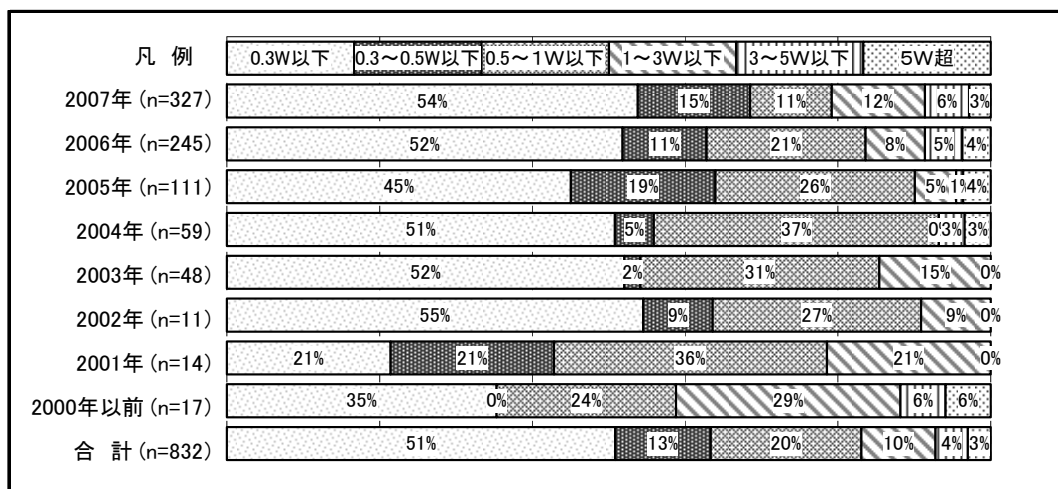


図 3-25 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<オフモード>(AV 機器)

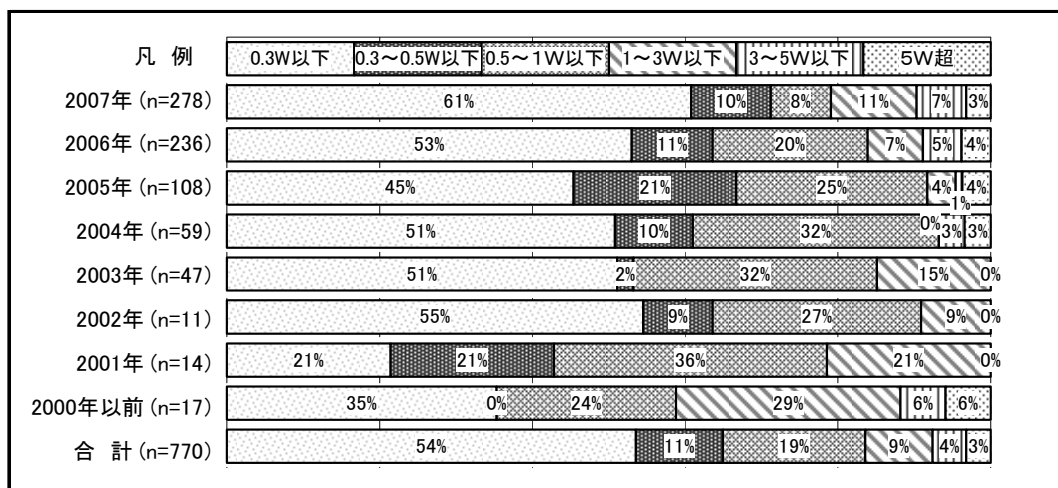
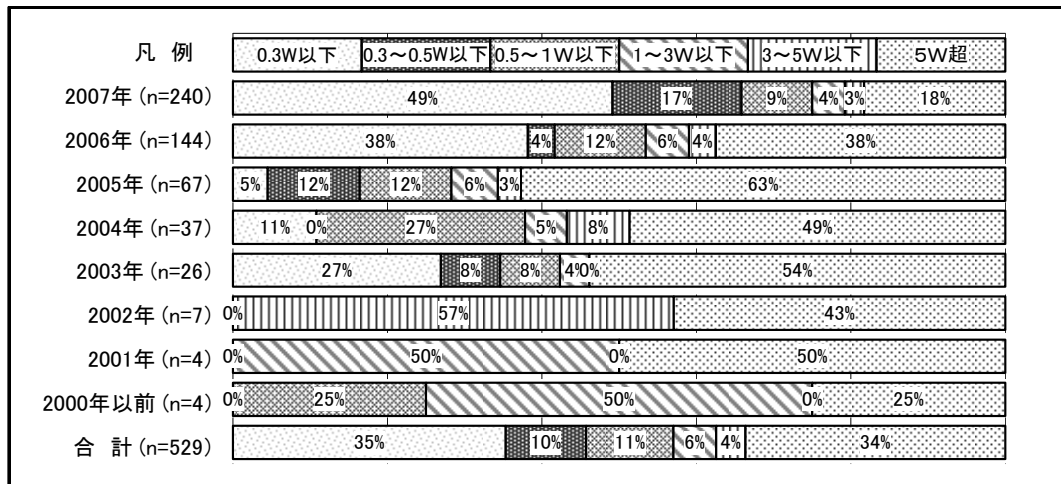


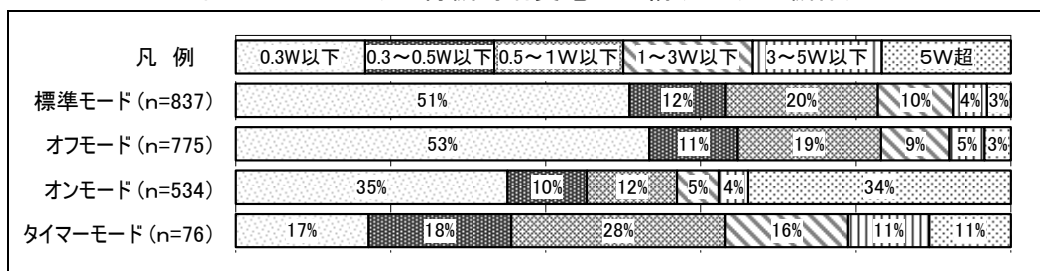
図 3-26 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<オンモード>(AV 機器)



3.1.3.2 モード別 待機時消費電力の構成比

「標準モード」「オフモード」「オンモード」「タイマーモード」の全てにおいて、1W 以下が全体の 5 割以上を占めている。「オンモード」において消費電力が大きい主要な機器はアンプ、ホームシアタである。

図 3-27 モード別 待機時消費電力の構成比(AV 機器)



3.1.3.3 機器別平均待機時消費電力

AV 機器で「標準モード」でみて、最も待機時消費電力が大きい機器はプロジェクタで 4.8W である。次いでデジタル放送チューナ 3.1W、HDD・DVDレコーダ・プレーヤ 1.7W、その他携帯音楽プレーヤ 1.4W、ミニコンポ 1.3W、ビデオデッキ 1.2W、ポータブルオーディオシステム 1.0W、DVD・ビデオ・HDD内蔵テレビ 0.7W、デジタルカメラ 0.7W、MDデッキ 0.6W、カセットデッキ 0.5W、テレビ 0.4W、ポータブルDVDプレーヤ 0.4W、ホームシアタ 0.4W、チューナ 0.3W、ビデオカメラ 0.3W、アンプ 0.3W、CDプレーヤ 0.2W、デジタルオーディオプレーヤ 0.2W、有線放送ホームターミナル 0.2W、デジタル放送受信アンテナ 0.0W である。

図 3-28 機器別平均待機時消費電力<標準モード>(AV 機器)

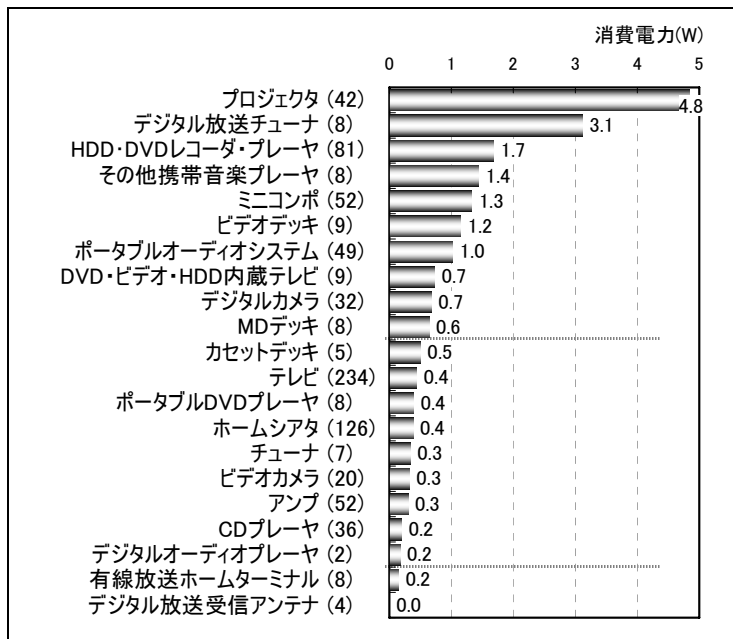


図 3-29 機器別平均待機時消費電力<オフモード>(AV 機器)

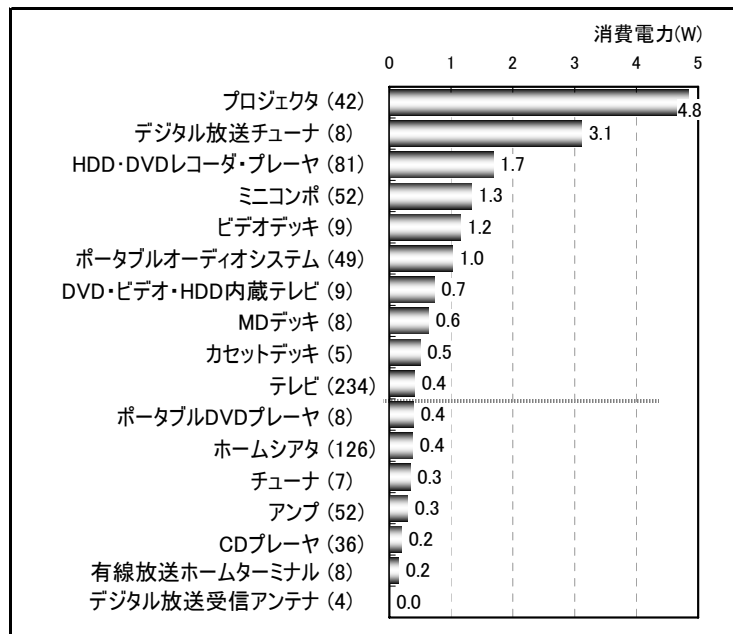
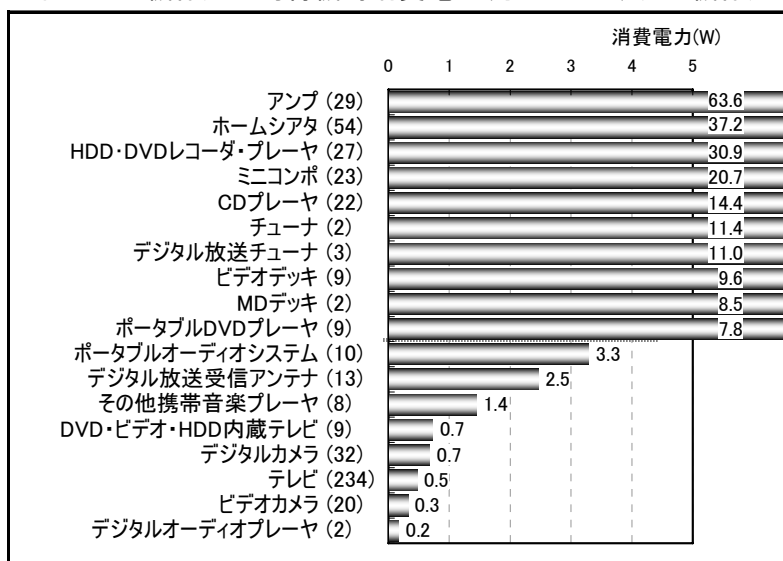


図 3-30 機器別平均待機時消費電力<オンモード>(AV 機器)



3.1.3.4 電源プラグを抜くことによる影響について

待機時(非使用時)に電源プラグを抜くことによる影響については、特にテレビ、HDD・DVDレコーダ・プレーヤにおいて「最新電子番組表の取得ができない」ことの影響が指摘されている。

表 3-2 電源プラグを抜くことによる影響について(AV 機器)

	AV機器 小計	ミニコンボ	CDプレーヤ	MDデッキ	カセットデッキ	アンプ	チューナ	プロジェクタ	ホームシアタ	ポータブルオーディオシステム	デジタルオーディオプレーヤ	その他携帯音楽プレーヤ	テレビ	DVD・ビデオ・HDD内蔵テレビ	HDD・DVDレコーダ・プレーヤ	ポータブルDVDプレーヤ	ビデオデッキ	デジタル放送受信アンテナ	デジタル放送チューナ	有線放送ホームターミナル	デジタルカメラ	ビデオカメラ	AV機器その他	
・最新電子番組表の取得ができない	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	1	5	1	-	1	2	1	-	-	-	1
・機能・記憶データが停止・消去される	9	3	3	1	1	3	2	1	4	2	1	1	2	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	3
・時計の計時機能が停止する	7	3	2	1	1	2	1	-	2	1	-	-	-	-	4	-	2	-	-	-	-	-	-	-
・自動ダウンロードができなくなる	5	1	1	1	1	1	1	-	1	-	-	-	3	1	2	1	-	-	1	-	-	-	-	1
・動作中にプラグを抜くとファイルが破損する	2	2	1	1	1	2	1	-	2	1	1	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	1	1	1
・未使用時プラグを抜くと本電池を消費する	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・ソフトウェアの自動更新ができない	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
・ランプ点灯時にプラグを抜くとランプの劣化につながる	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・頻繁に抜くとコネクタへの応力や半差トラッキングが懸念	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・プラグでなくケーブルを引くと内部に負担がかか	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
・特になし	5	1	1	-	-	-	-	1	1	1	1	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1	3
・問題なし	7	1	1	-	-	2	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	1	3
・無回答	10	1	2	1	1	2	1	2	2	1	-	-	2	1	2	1	-	-	1	-	-	-	1	1

※ 自由回答を集計:件数

3.1.3.5 主要機器別の待機時消費電力

i テレビ

a タイプ別 モードの有無割合

電源スイッチとリモコンはほぼ全てのテレビにおいて、有りという回答が得られた。タイマー状態はプロジェクションで回答数が多く、省エネモードへの自動移行機能は CRT スタンダード、CRT ワイド、PDP で9割以上が「有り」という回答が得られた。

表 3-3 タイプ別 モードの有無割合 (テレビ)

	電源 スイ ッチ 有	リ モ コ ン 有	タ イ マ ー 有	省 エ ネ モ ー ド へ の 自 動 移 行 有	
CRTスタンダード (n=22)	100.0	100.0	-	52.6	(%)
CRTワイド (n=4)	100.0	100.0	-	100.0	
PDP (n=36)	100.0	100.0	-	90.9	
プロジェクション (n=9)	100.0	100.0	77.8	100.0	
液晶スタンダード (n=16)	100.0	93.8	12.5	60.0	
液晶ワイド (n=148)	100.0	100.0	14.9	72.4	

b 平均待機時消費電力

テレビにおける標準モードは、機能待機時とタイマー時を除いた各待機時の平均値である。タイマー状態以外はどのモードも平均が 0.1~0.6W 程度である。

標準モードの構成比では、液晶ワイドの一部を除くほとんどの機種で 1W 以下となった。

図 3-31 モード別 平均待機時消費電力(テレビ)

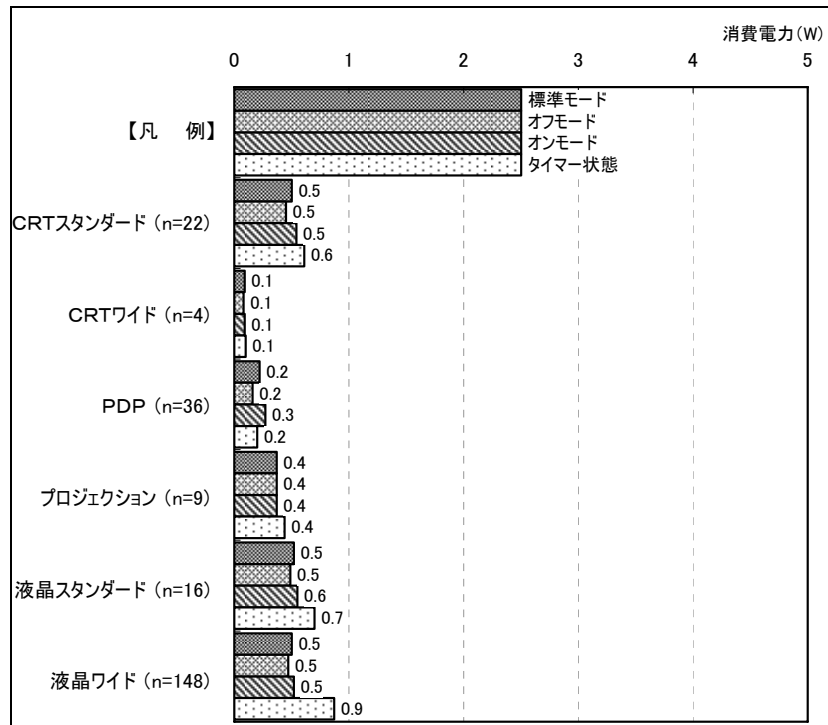


図 3-32 タイプ別待機時消費電力の構成比<標準モード>(テレビ)

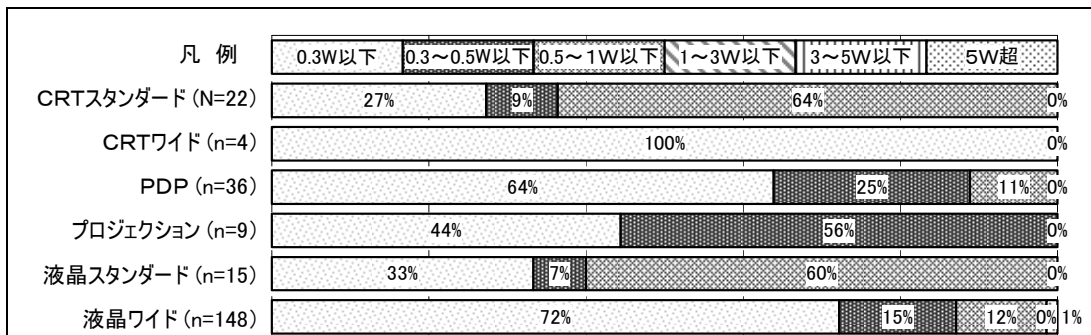


図 3-33 タイプ別 待機時消費電力の分布(標準モード)(テレビ)

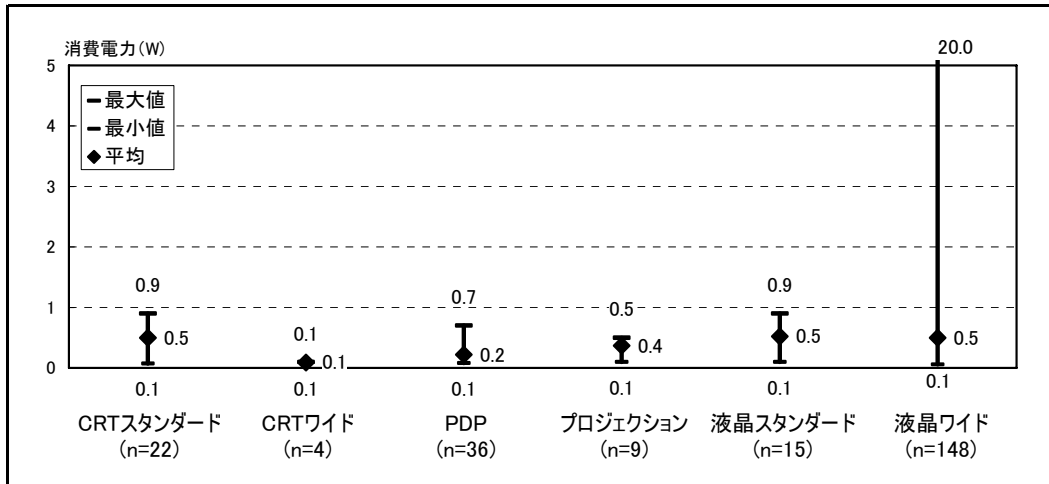


図 3-34 販売開始年別 待機時消費電力の分布(標準モード)(テレビ)

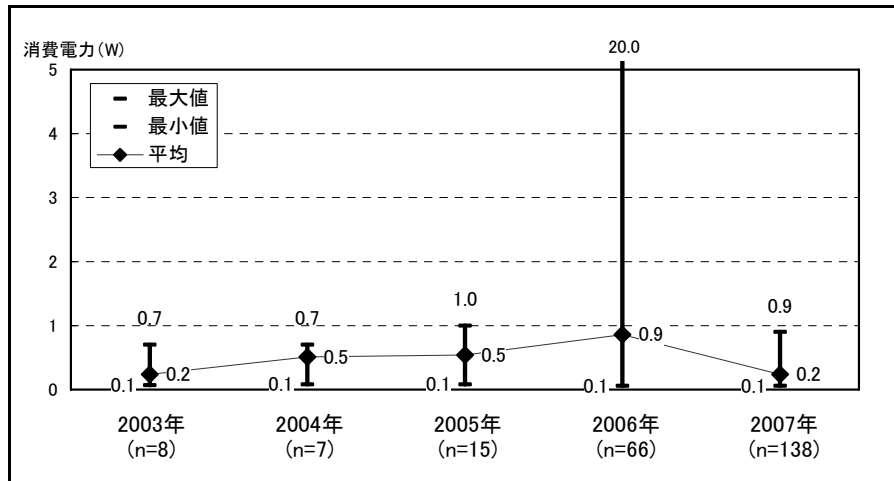
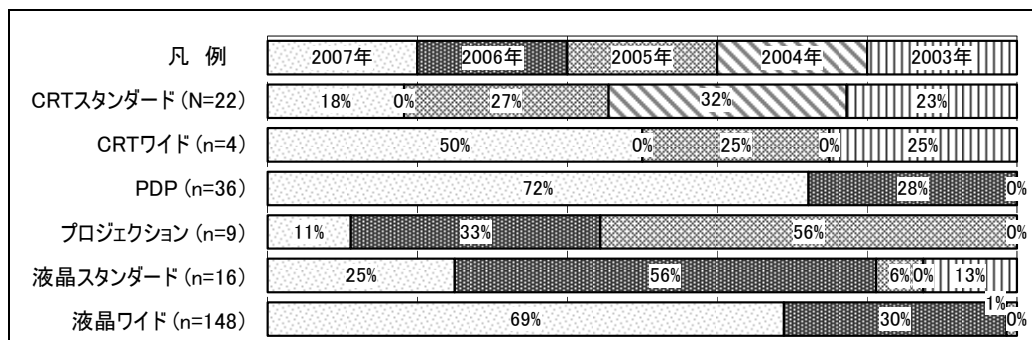


図 3-35 タイプ別 販売開始年別 構成比(テレビ)



ii HDD・DVD レコーダ/プレーヤ

a タイプ別 モードの有無割合

HDD・DVD レコーダ・プレーヤでは電源スイッチおよびリモコンはほぼ全ての製品で有り、という回答である。また HDD 内蔵タイプではタイマー状態で回答数が多く、省エネモードへの自動移行機能も付いている。

表 3-4 タイプ別 モードの有無割合 (HDD・DVD レコーダ/プレーヤ)

	電源 ス イ ッ チ 有	リ モ コ ン 有	タ イ マ ー 有	へ 省 エ ネ モ ー ド へ の 自 動 移 行 有	(%)
HDDなし録画・再生機(ビデオ付) (n=3)	100.0	100.0	-	-	
HDD内蔵録画・再生機 (n=34)	100.0	82.4	26.5	55.9	
HDD内蔵録画・再生機(ビデオ付) (n=13)	100.0	84.6	23.1	30.8	
再生専用機 (n=30)	100.0	100.0	-	7.7	
再生専用機(ビデオ付) (n=2)	100.0	100.0	-	-	

b 平均待機時消費電力

モード別では全般的に他の機器と比べて消費電力が大きいのが、単機能の DVD プレーヤ(再生専用機)では標準モードの平均値が 1W を下回っている。

標準モードの構成比では、0.3W 以下の製品が見られるのは単機能の DVD プレーヤ、HDD 内蔵録画・再生機である。

図 3-37 モード別 平均待機時消費電力(HDD・DVD レコーダ/プレーヤ)

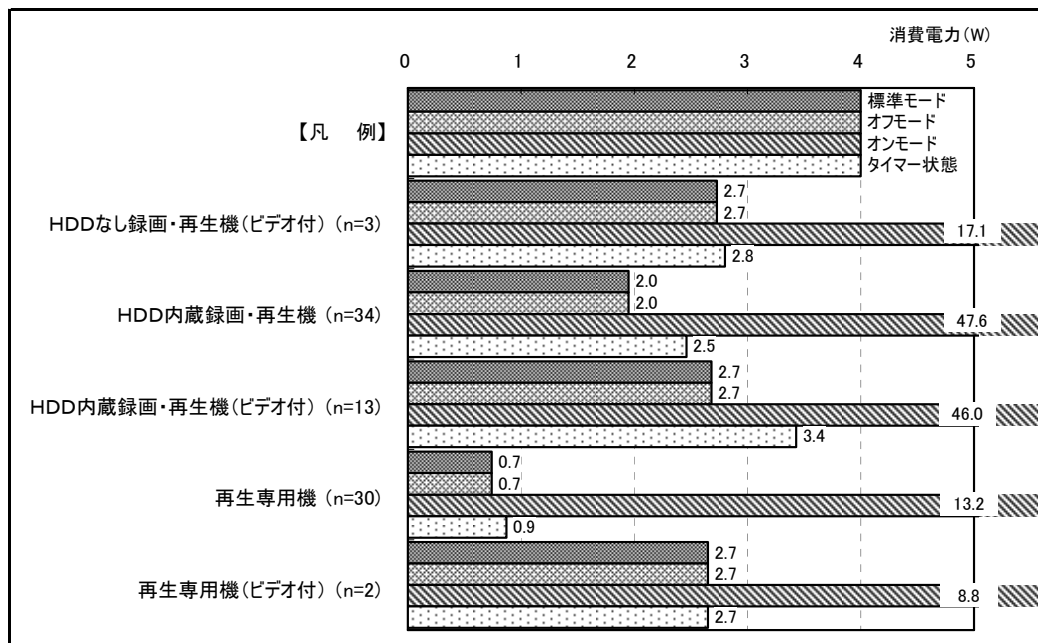


図 3-38 タイプ別待機時消費電力の構成比<標準モード>(HDD・DVD レコーダ/プレーヤ)

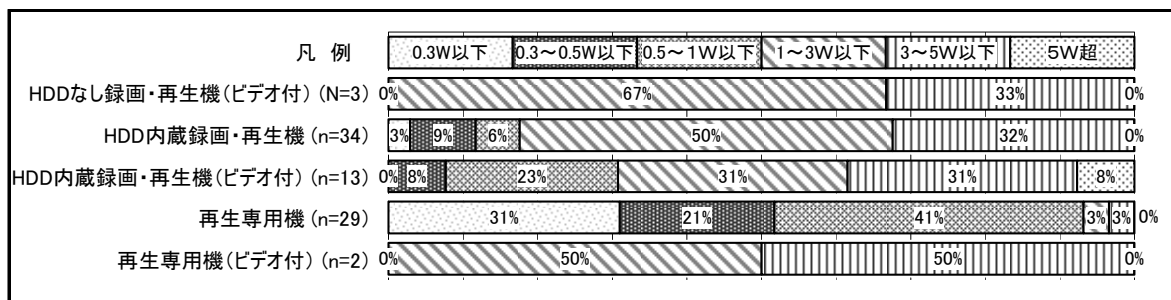


図 3-39 タイプ別 待機時消費電力の分布<標準モード>(HDD・DVD レコーダ/プレーヤ)

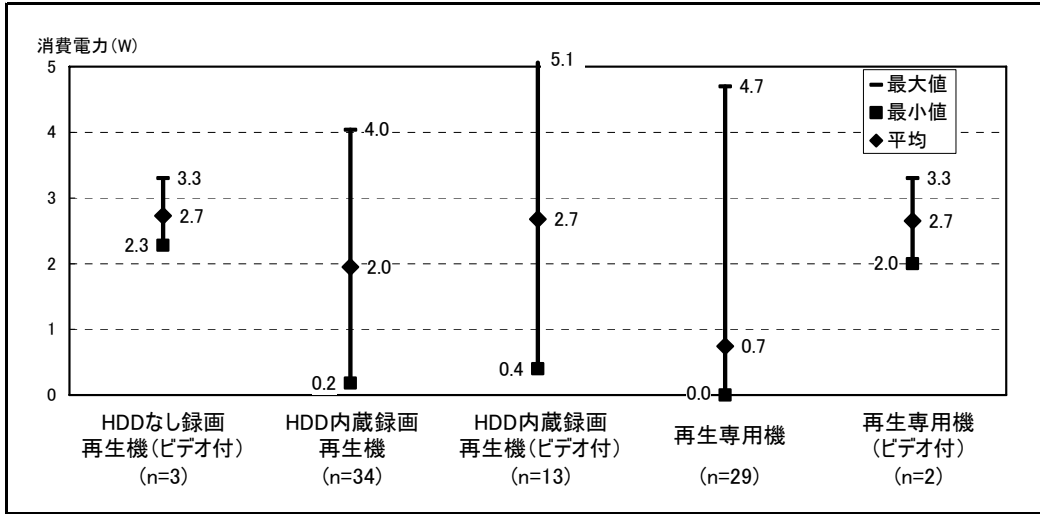


図 3-40 販売開始年別 待機時消費電力の分布<標準モード>(HDD・DVD レコーダ/プレーヤ)

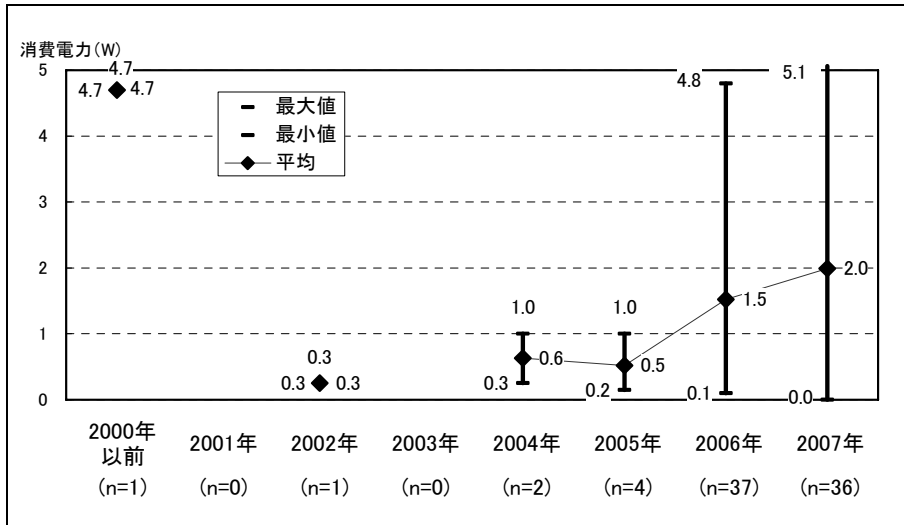
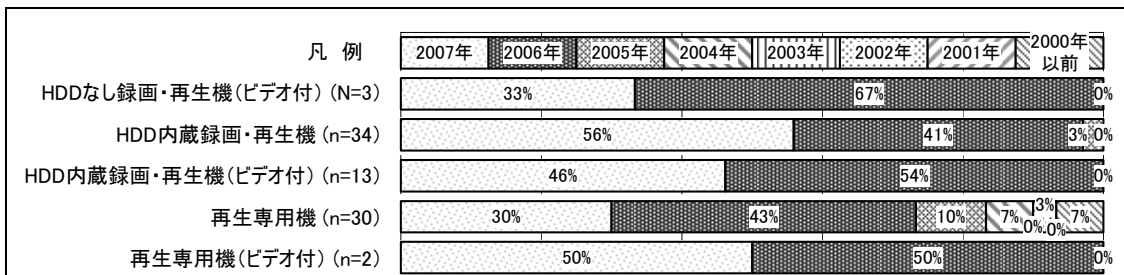


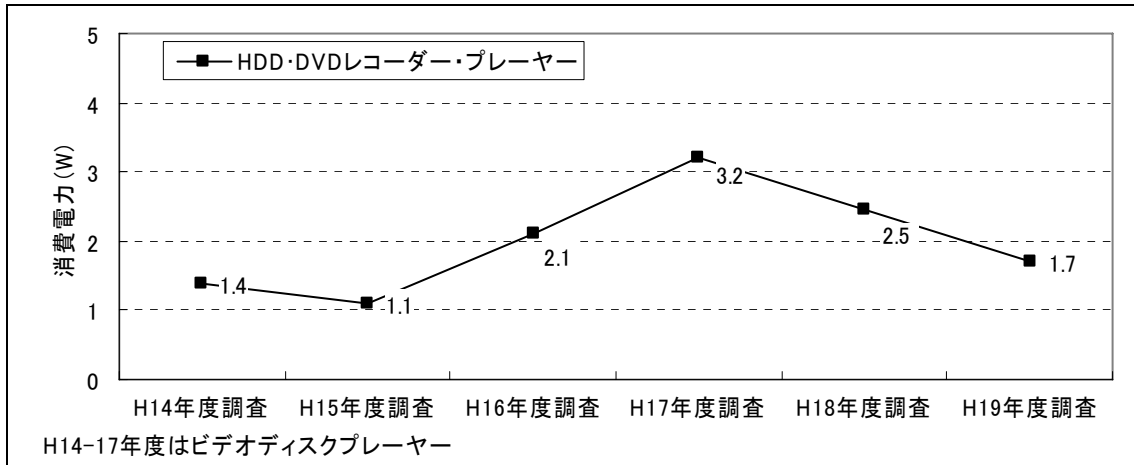
図 3-41 タイプ別 販売開始年別 構成比(HDD・DVD レコーダ/プレーヤ)



c 平均待機時消費電力の推移<標準モード>

調査年度別の推移を見ると、平成15年度から17年度にかけて待機時消費電力が増加している。これまでの分析から高機能製品が増えたことが影響していると推察される。また平成17年度から昨年度にかけて再度減少傾向となり、今年度にかけてもその傾向が続いている。

図 3-42 平均待機時消費電力の推移<標準モード>(HDD・DVDレコーダ/プレーヤ)



iii ミニコンポ

表 3-5 タイプ別 モードの有無割合 (ミニコンポ)

	電源スイッチ有	リモコン有	タイマー有	省エネモードへの自動移行有	(%)
ミニコンポ (n=52)	100.0	100.0	26.9	2.0	

図 3-43 モード別 平均待機時消費電力(ミニコンポ)

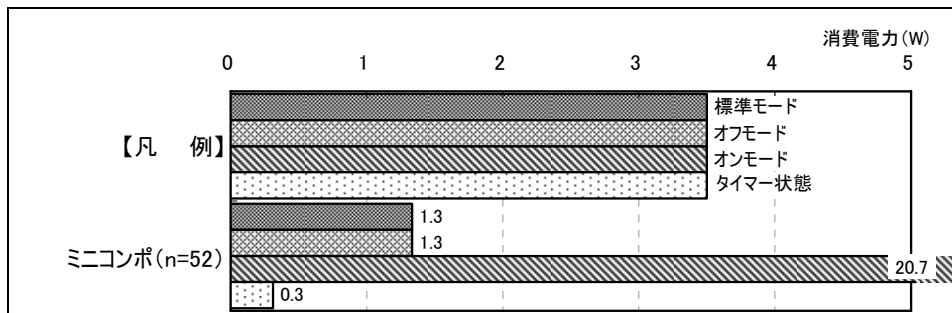


図 3-44 タイプ別待機時消費電力の構成比(標準モード)(ミニコンポ)

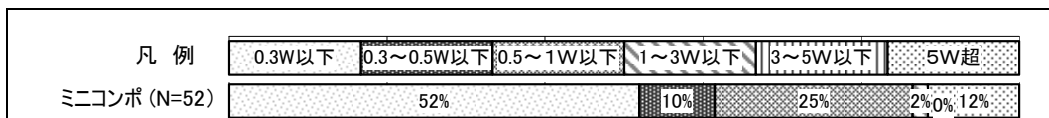


図 3-45 タイプ別 待機時消費電力の分布<標準モード>(ミニコンポ)

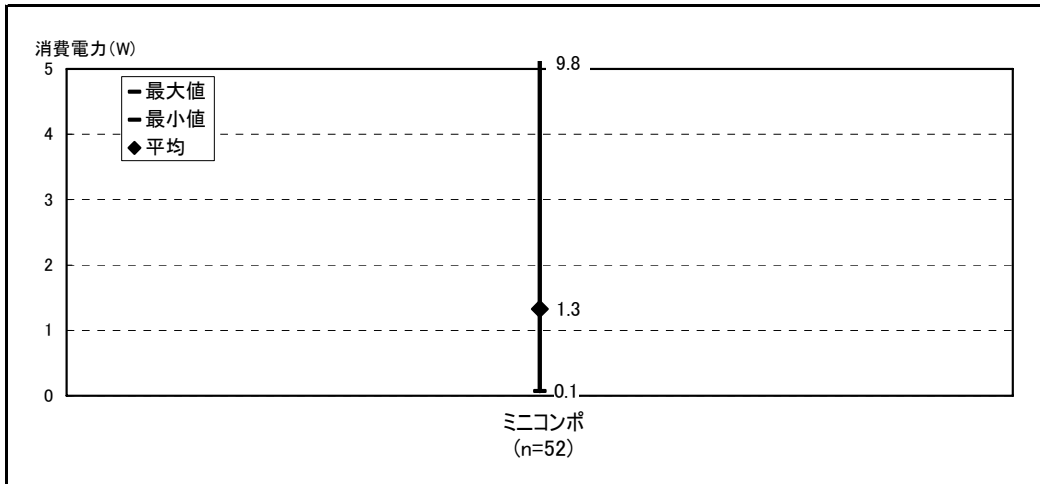


図 3-46 販売開始年別 待機時消費電力の分布<標準モード>(ミニコンポ)

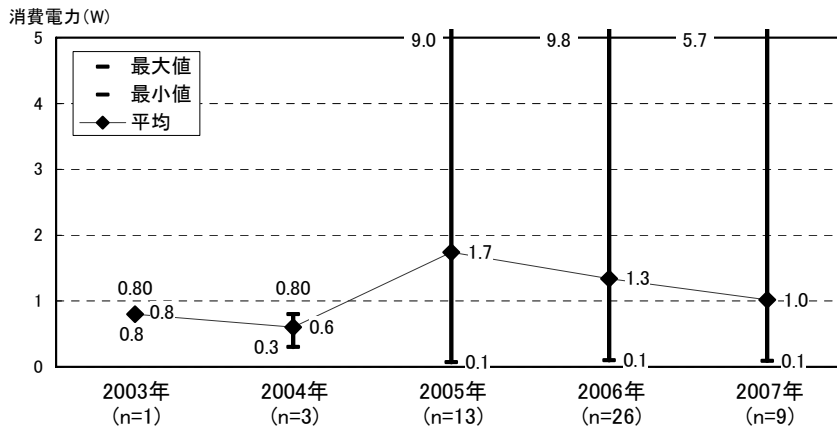
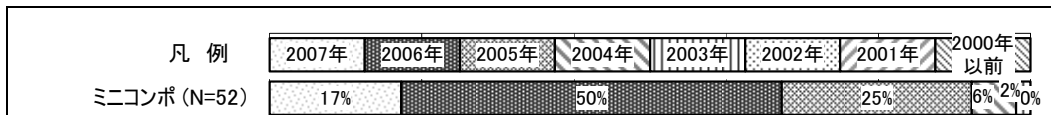


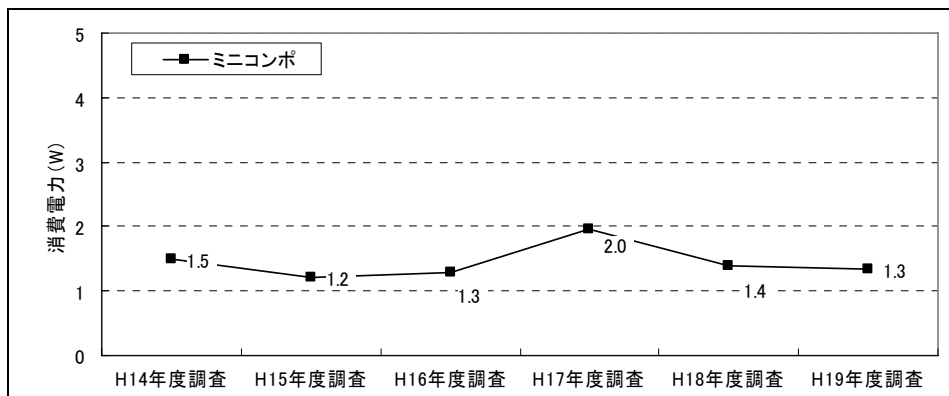
図 3-47 タイプ別 販売開始年別 構成比(ミニコンポ)



a 平均待機時消費電力の推移<標準モード>

ミニコンポの待機時消費電力は平成 17 年度調査では若干の増加が見られたが、昨年度調査からは、以前のレベルに戻り、今年度も同様の傾向である。平成 14 年度調査から通じて 1-2W の間を増減しており、大きな変化は見られない。

図 3-48 平均待機時消費電力の推移<標準モード>(ミニコンポ)



iv ポータブルオーディオシステム

表 3-5 タイプ別 モードの有無割合 (ポータブルオーディオシステム)

	電源スイッチ有	リモコン有	タイマー有	省エネモードへの自動移行有	(%)
CDラジカセ (n=16)	100.0	44.4	-	-	
MDラジカセ (n=7)	100.0	100.0	-	-	
ラジオ (n=27)	100.0	-	-	-	
ラジカセ (n=14)	100.0	-	-	-	
その他 (n=4)	100.0	-	-	-	

a 平均待機時消費電力

待機時消費電力は、CD ラジカセ、ラジカセで標準モードが 1W を超えており、MD ラジカセ、ラジオは 1W 未満であり、サンプル数は少ないものの機器によりやや差のある回答となった。

図 3-49 モード別 平均待機時消費電力(ポータブルオーディオシステム)

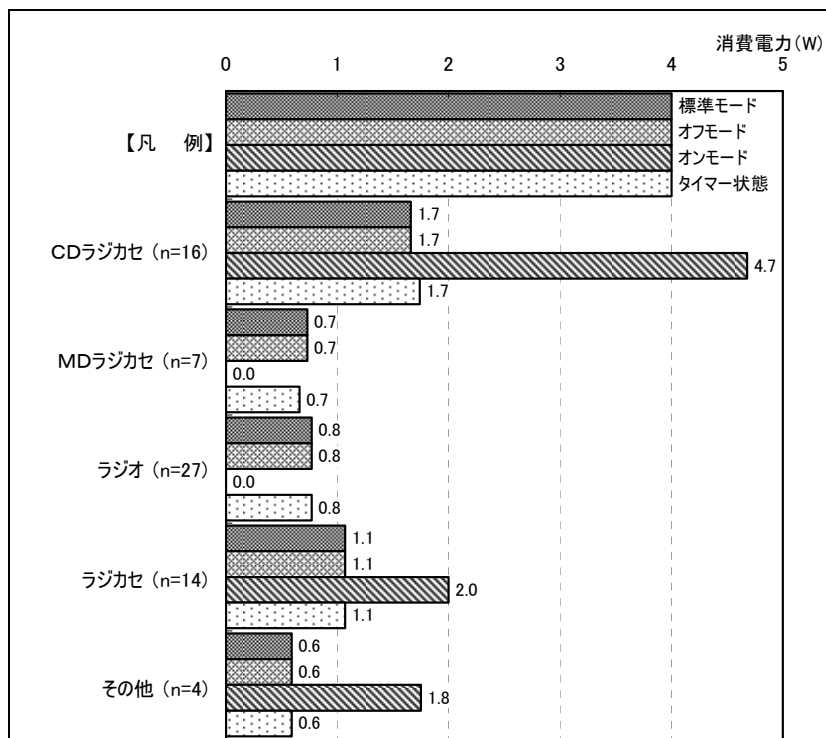
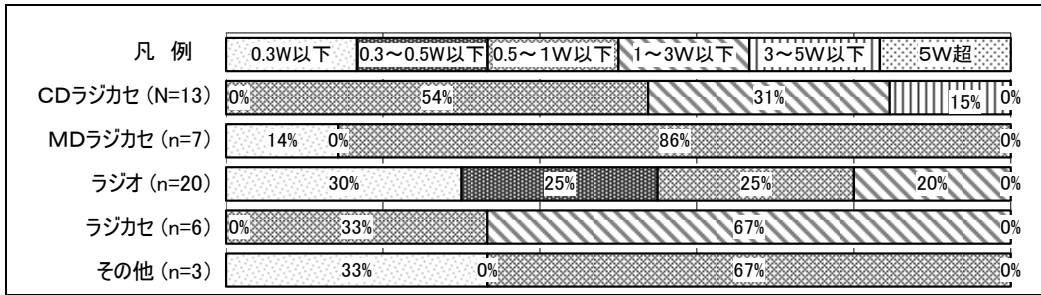


図 3-50 タイプ別待機時消費電力の構成比<標準モード>(ポータブルオーディオシステム)



d 待機時消費電力の分布

表中のモードの待機時消費電力分布をみると、CDラジカセで特に5W弱という高い消費電力の製品があることの影響があるが、ラジオではサンプル数は少ない中で全ての製品で高い消費電力であることが確認できる。

図 3-51 タイプ別 待機時消費電力の分布<標準モード>(ポータブルオーディオシステム)

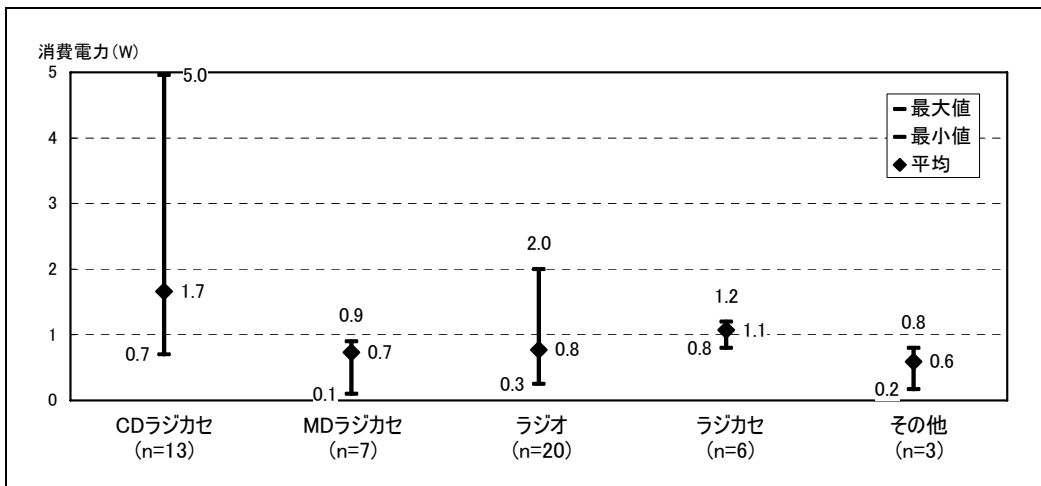


図 3-52 販売開始年別待機時消費電力の分布<標準モード>(ポータブルオーディオシステム)

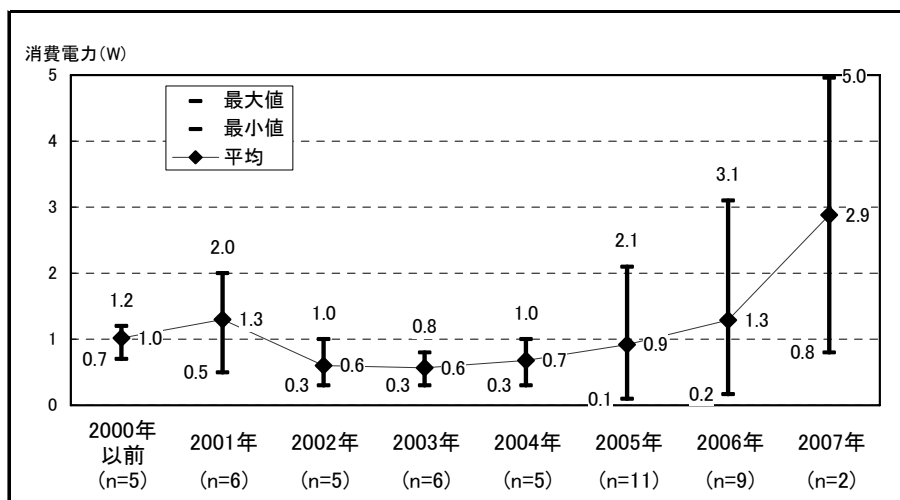
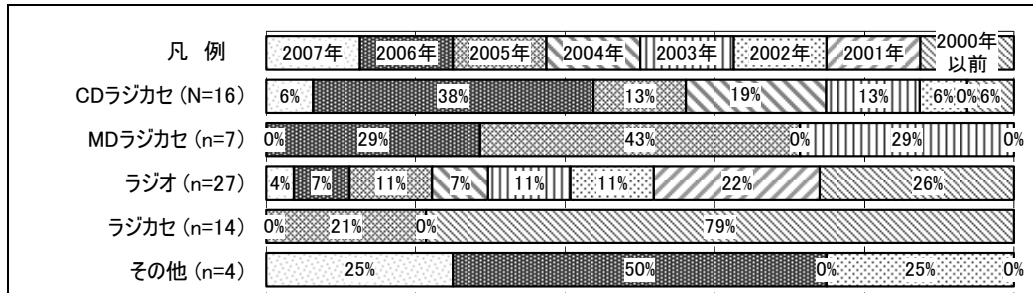


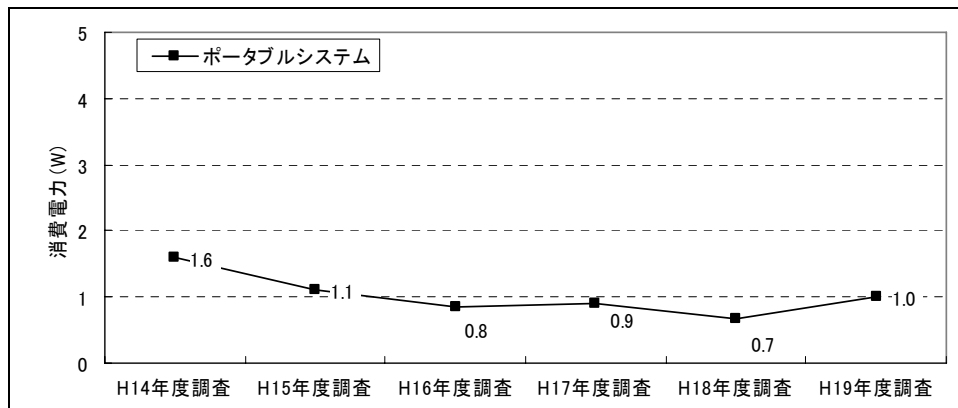
図 3-53 タイプ別 販売開始年別 構成比(ポータブルオーディオシステム)



c 平均待機時消費電力の推移<標準モード>

平均待機時消費電力は平成 14 年度から徐々に減少しており、平成 16 年度から昨年度まで 1W 以下を達成していたが、今年度は再び増加し 1W となった。この傾向が今後も続くか、注視する必要がある。

図 3-54 平均待機時消費電力の推移<標準モード>(ポータブルオーディオシステム)



3.1.4 IT 機器の待機時消費電力

3.1.4.1 販売開始年別 待機時消費電力の構成比

IT 機器の回答回収数は、2007 年が最も多く、新しい年のものほど多い傾向にある。また、待機時消費電力は販売開始年が新しい年の方がやや大きくなる傾向にある。

図 3-55 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<標準モード>(IT 機器)

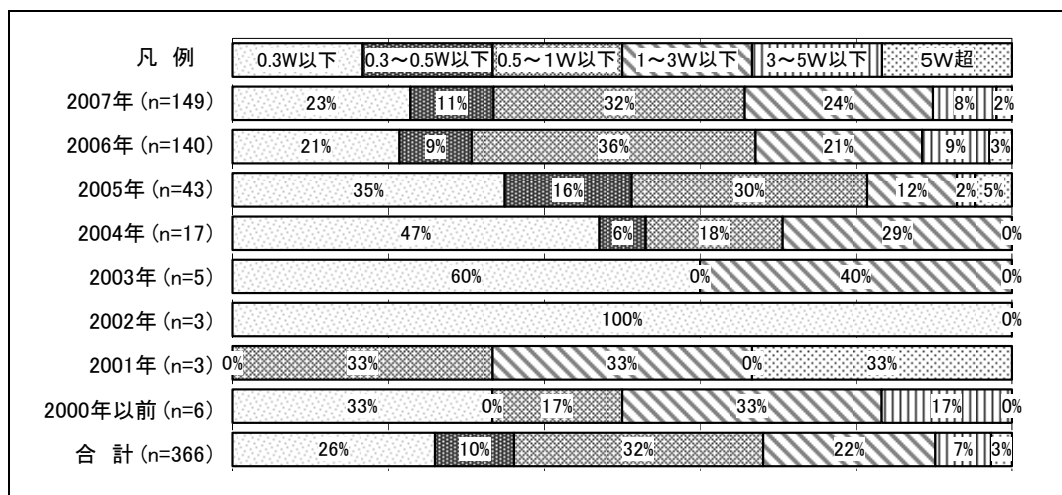


図 3-56 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<オフモード>(IT 機器)

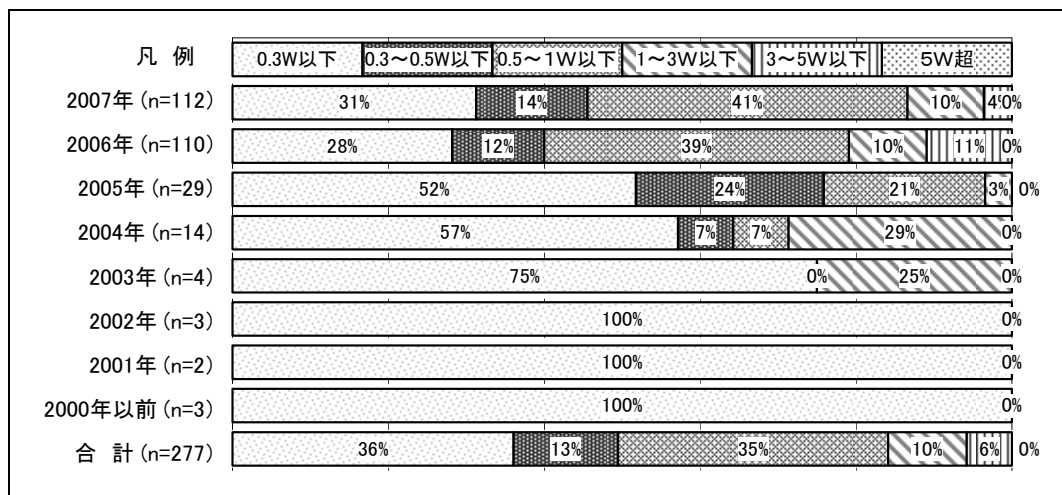
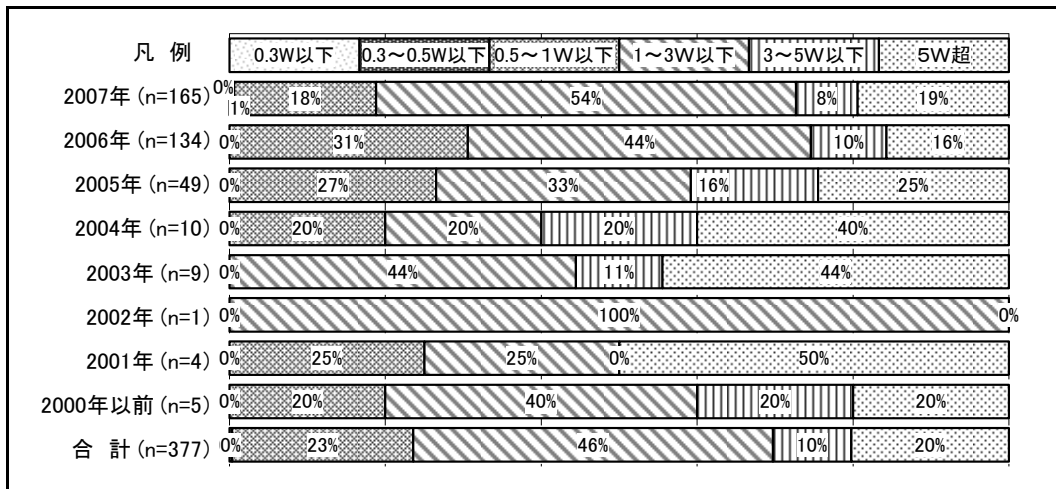


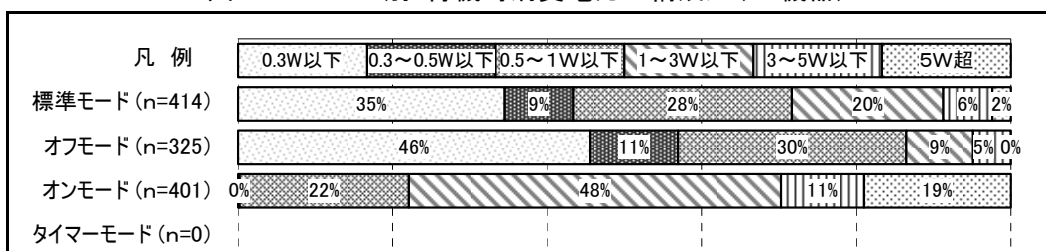
図 3-57 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<オンモード>(IT 機器)



3.1.4.2 モード別 待機時消費電力の構成比

状態別の消費電力回答数を見ると、タイマー状態に関して昨年同様に回答が得られなかった。

図 3-58 モード別 待機時消費電力の構成比(IT 機器)



3.1.4.3 機器別平均待機時消費電力

IT機器の〈標準モード〉待機時消費電力はパソコンネットワーク機器で最も大きく4.0Wであり、ファックス専用機2.3W、電話1.8W等、通信機器で待機時消費電力が大きい。またパソコンでは、デスクトップパソコンの一体型で1.5W、セパレート型で0.2Wとなった。

図 3-59 機器別平均待機時消費電力〈標準モード〉(IT 機器)

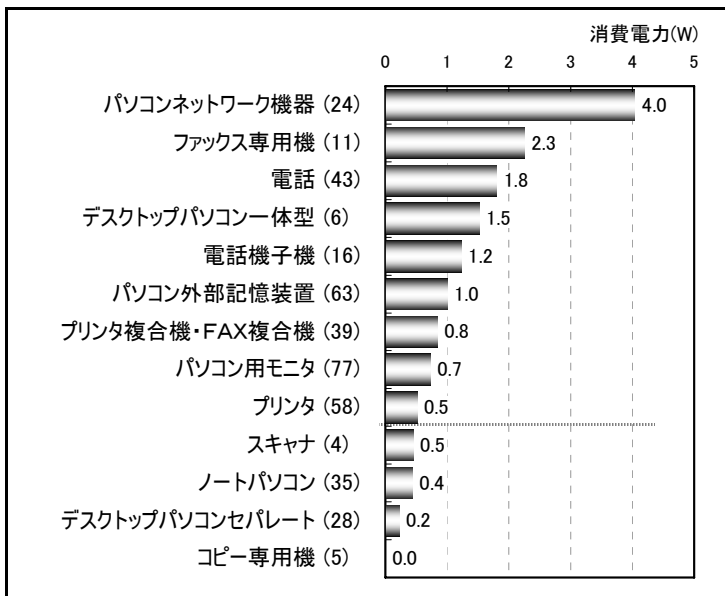


図 3-60 機器別平均待機時消費電力〈オフモード〉(IT 機器)

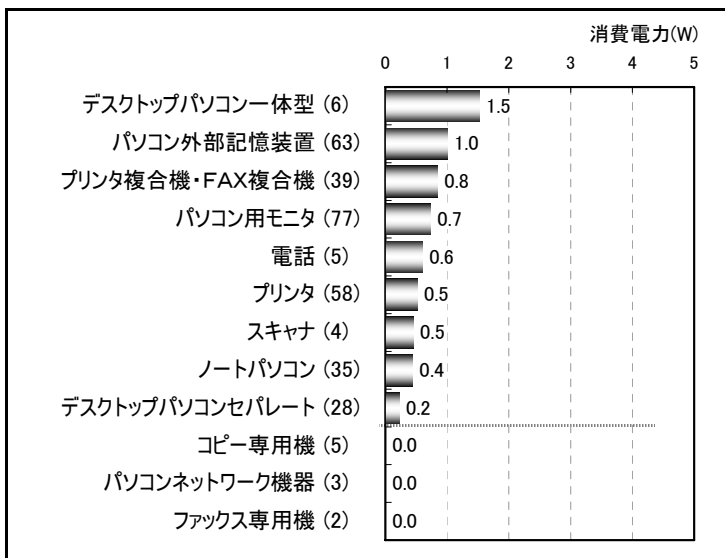
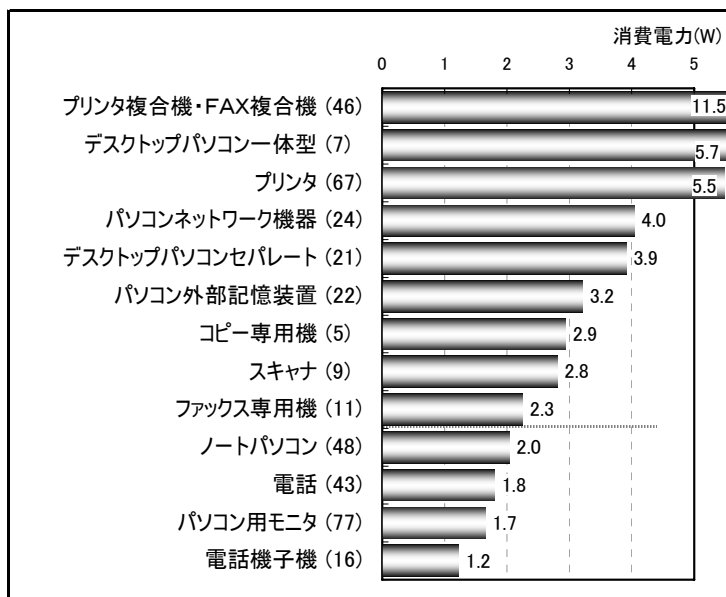


図 3-61 機器別平均待機時消費電力<オンモード>(IT 機器)



3.1.4.4 電源プラグを抜くことによる影響について

待機時(非使用時)に電源プラグを抜くことによる影響については、「機能・記憶データが停止・消去される」ことの影響を指摘する回答が見られるが、「特になし・影響なし」との回答も多い。

表 3-6 電源プラグを抜くことによる影響について(IT 機器)

	IT機器 小計	デスクトップパソコンセパレート	デスクトップパソコン一体型	ノートパソコン	パソコン用モニタ	プリンタ	プリンタ複合機・FAX複合機	スキャナ	パソコン外部記憶装置	パソコンネットワーク機器	インターネットターミナル	電話	電話機子機	ファックス専用機	コピー専用機	IT機器その他
・全体	41	4	5	8	8	9	5	2	3	9	-	6	5	2	1	1
・機能・記憶データが停止・消去される	5	1	-	1	-	-	1	-	-	2	-	2	1	-	-	1
・FAXなどその間の受信が損なわれる	3	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	1	2	1	-	-
・プラグを抜く事は推奨できない	2	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
・時計の計時機能が停止する	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1	1	-	-
・自動ダウンロードができなくなる	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
・動作中にプラグを抜くとファイルが破損する	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・分岐用安全ブレーカを落とすと安全装置が動作しない	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・機能が劣化する事がある	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
・特になし	12	1	1	2	4	2	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-
・問題なし	9	-	2	3	1	2	1	1	-	2	-	-	-	-	-	-
・無回答	7	1	1	1	1	2	2	1	1	2	-	1	-	1	1	-

※ 自由回答を集計:件数

3.1.4.5 主要機器別の待機時消費電力

i パソコン用モニター

表 3-7 タイプ別 モードの有無割合 (パソコン用モニター)

	電源スイッチ有	リモコン有	タイマー有	省エネモードへの自動移行有	(%)
液晶モニター (n=32)	100.0	21.9	-	88.0	
液晶モニター(スピーカー内蔵) (n=61)	100.0	25.0	-	50.9	

a 平均待機時消費電力

パソコン用モニターの待機時消費電力は、オンモードを除いて 1W 未満であった。タイプ別に標準モードの数値を比べるとスピーカー内蔵タイプのものの方がそうでないタイプの製品よりも倍近い待機時消費電力となっている。

なお、標準モードの数値で最も大きかった製品は地デジチューナー内蔵タイプである。

図 3-62 モード別 平均待機時消費電力(パソコン用モニター)

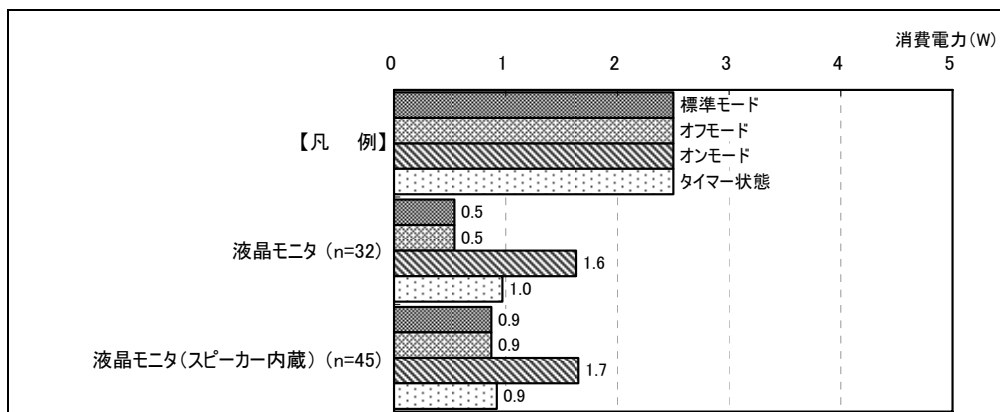


図 3-62 タイプ別待機時消費電力の構成比<標準モード>(パソコン用モニター)

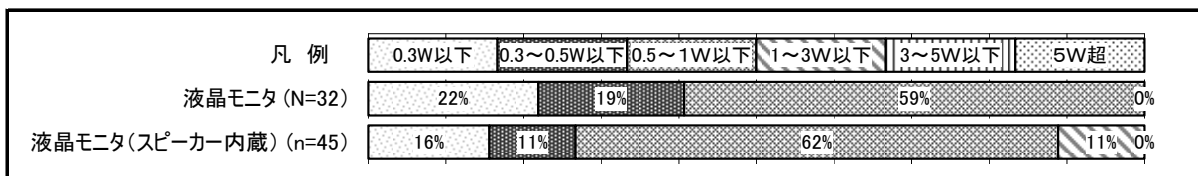


図 3-63 タイプ別 待機時消費電力の分布(標準モード)(パソコン用モニター)

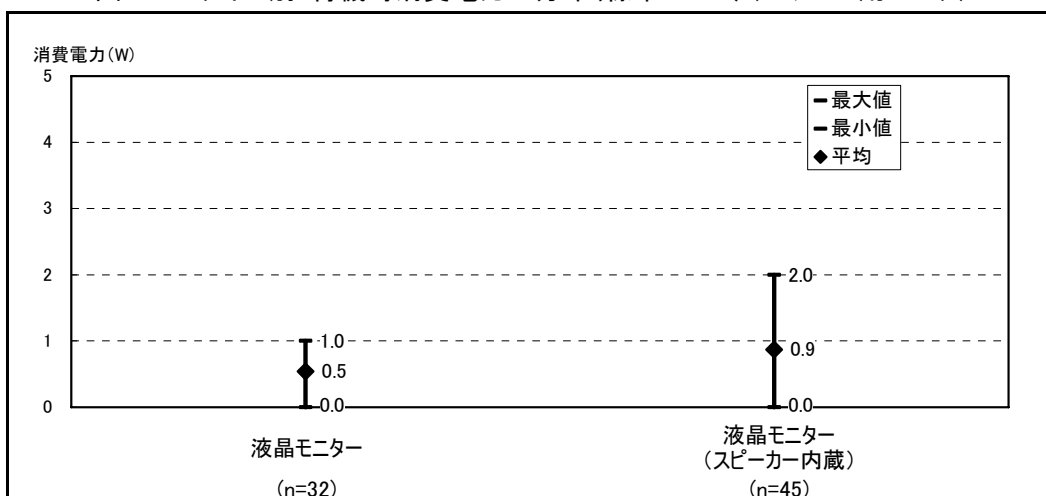


図 3-64 販売開始年別 待機時消費電力の分布(標準モード)(パソコン用モニター)

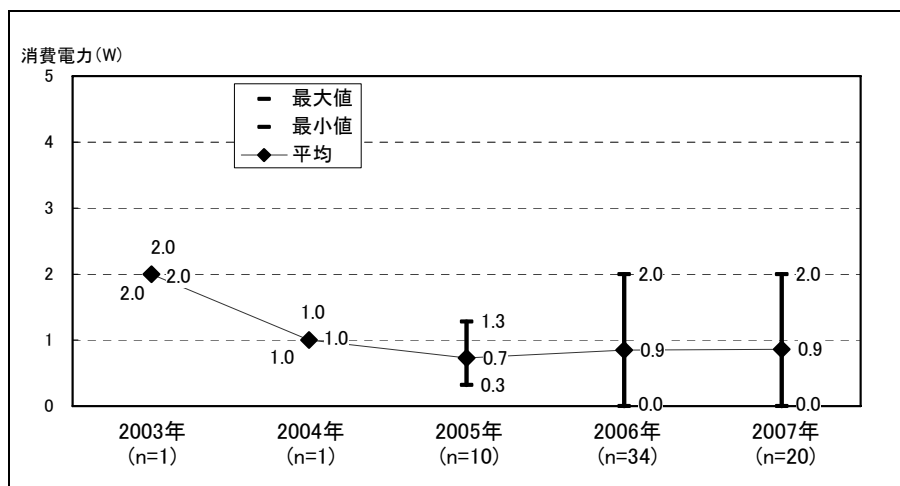
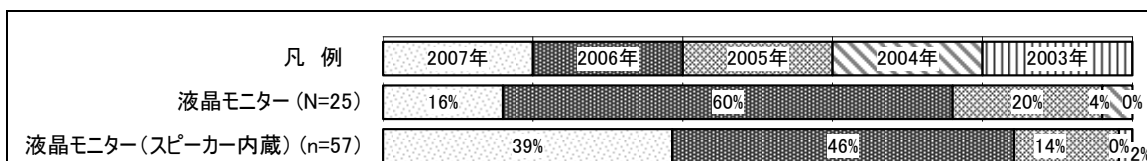


図 3-65 タイプ別 販売開始年別 構成比(パソコン用モニター)



ii プリンタ複合機・FAX 複合機

a タイプ別 モードの有無割合

回答数が最も多い、FAX+プリンタ+コピー+スキャナでは、「電源スイッチのない」タイプの製品が半数を超えている。また、ほとんどの製品では「省エネモードへの自動移行機能」が備わっている。

表 3-8 タイプ別 モードの有無割合（プリンタ複合機・FAX 複合機）

	電源 スイ ッチ 有	リ モ コン 有	タイ マー 有	省 エ ネ モ ー ド へ の 自 動 移 行 有	(%)
FAX+コピー (n=2)	100.0	-	-	-	
FAX+プリンタ+コピー (n=4)	100.0	-	-	100.0	
FAX+プリンタ+コピー+スキャナ (n=33)	45.5	-	-	76.2	
プリンタ+スキャナ+コピー (n=18)	100.0	-	-	100.0	

b 平均待機時消費電力

回答数が最も多い、FAX+プリンタ+コピー+スキャナは、標準モードの待機時消費電力が 1W を超えている。サンプル数は少ないが、FAX+コピー、FAX+プリンタ+コピーでは 0W である。

図 3-66 モード別 平均待機時消費電力（プリンタ複合機・FAX 複合機）

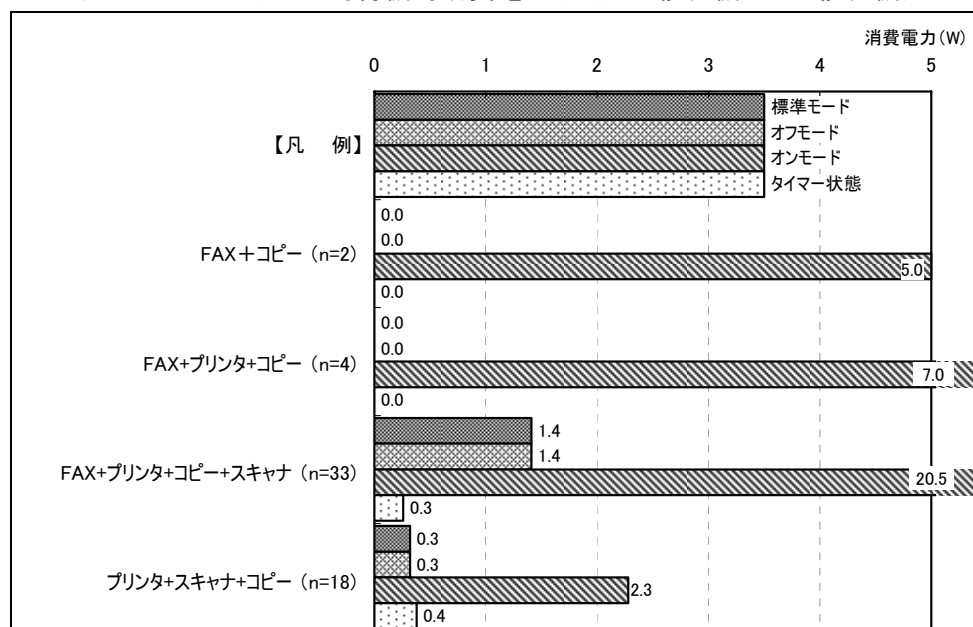


図 3-67 タイプ別待機時消費電力の構成比<標準モード>(プリンタ複合機・FAX 複合機)

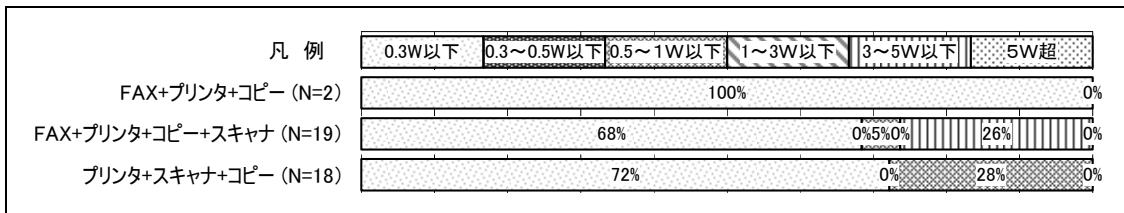


図 3-68 タイプ別 待機時消費電力の分布<標準モード>(プリンタ複合機・FAX 複合機)

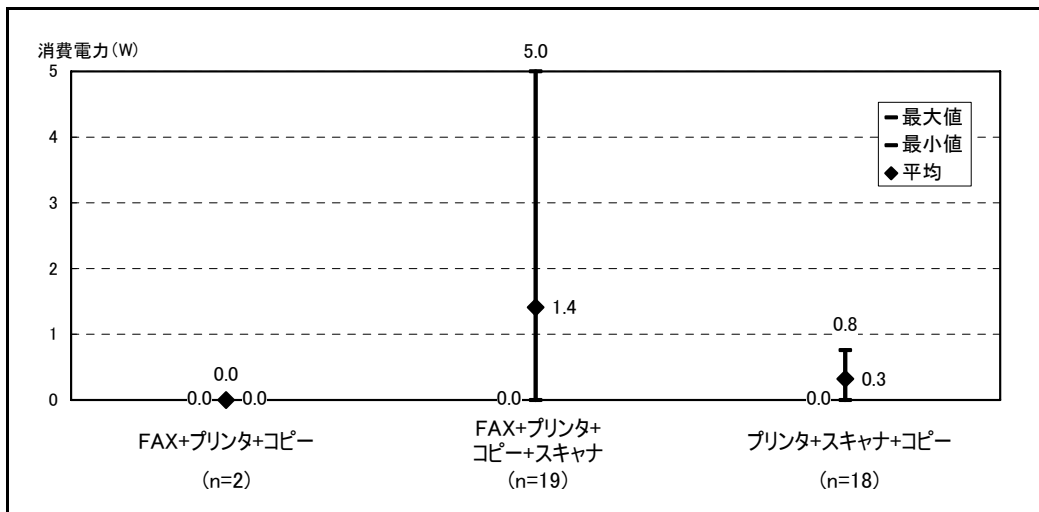


図 3-69 販売開始年別 待機時消費電力の分布<標準モード>(プリンタ複合機・FAX 複合機)

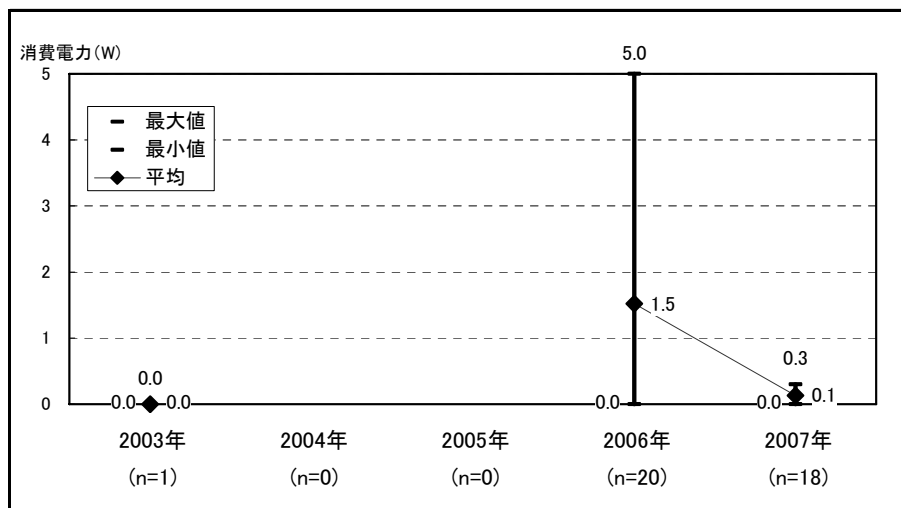
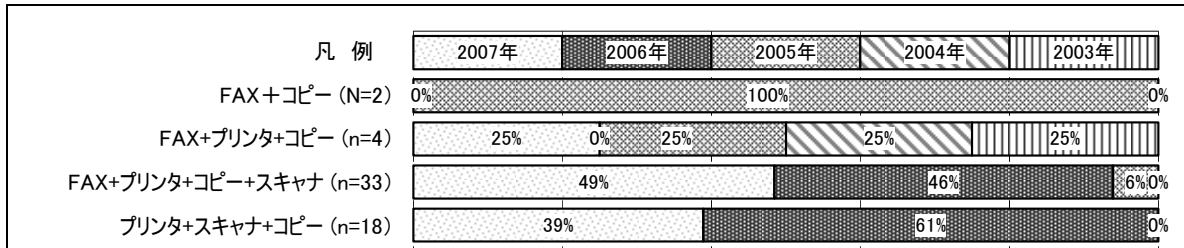


図 3-70 タイプ別 販売開始年別 構成比(プリンタ複合機・FAX 複合機)



iii プリンタ

a タイプ別 モードの有無割合

ほぼ全ての製品で「省エネモードへの自動移行機能」が備わっている。

表 3-9 タイプ別 モードの有無割合 (プリンタ)

	電源 スイッチ 有	リモ コン 有	タイ マー 有	省 エ ネ モ ー ド へ の 自 動 移 行 有	(%)
インクジェット式 (n=26)	100.0	-	-	100.0	
インパクト式 (n=11)	100.0	-	-	100.0	
レーザー式 (n=47)	24.4	-	-	100.0	
熱昇華型 (n=2)	100.0	50.0	-	-	

図 3-71 モード別 平均待機時消費電力(プリンタ)

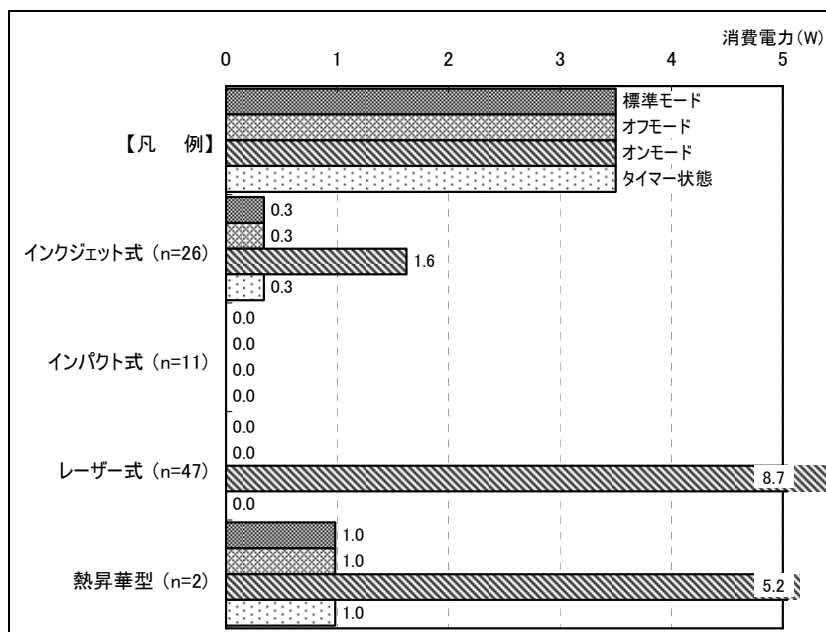


図 3-72 タイプ別待機時消費電力の構成比<標準モード>(プリンタ)

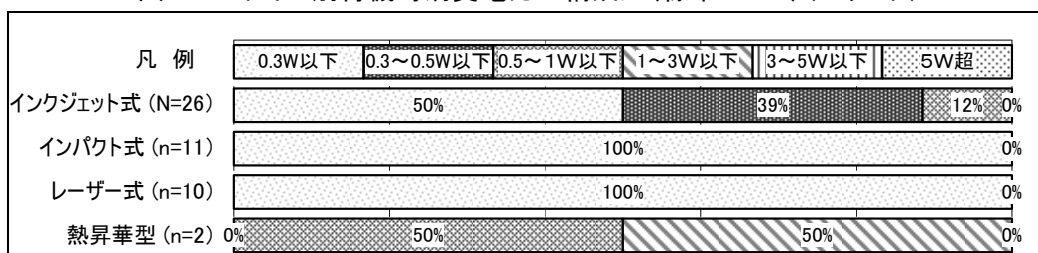


図 3-73 タイプ別 待機時消費電力の分布<標準モード>(プリンタ)

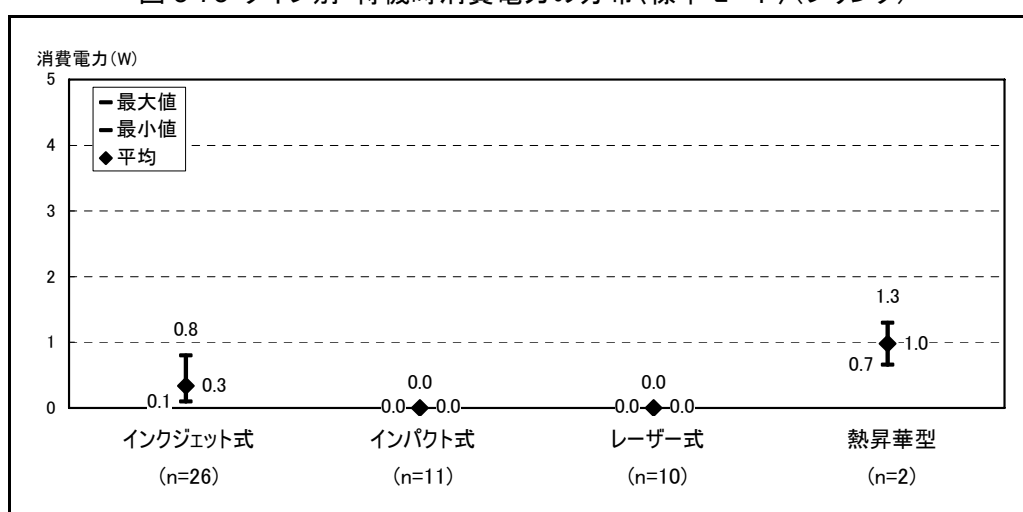


図 3-74 販売開始年別 待機時消費電力の分布<標準モード>(プリンタ)

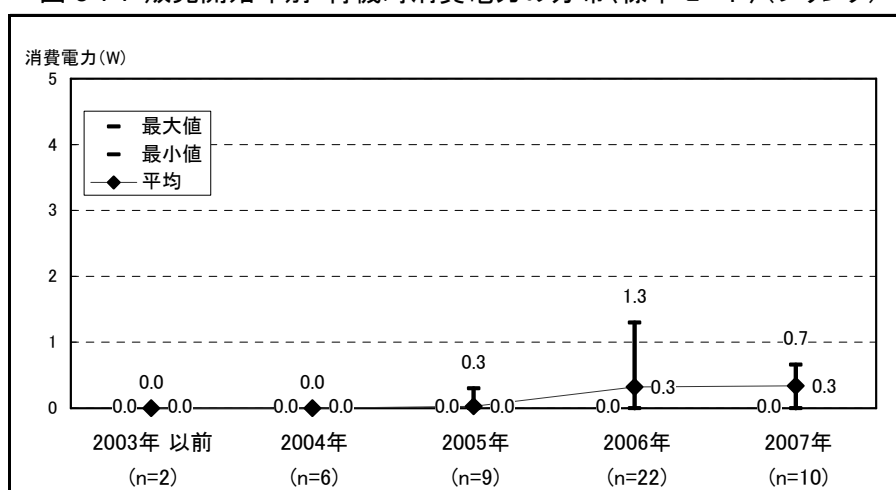
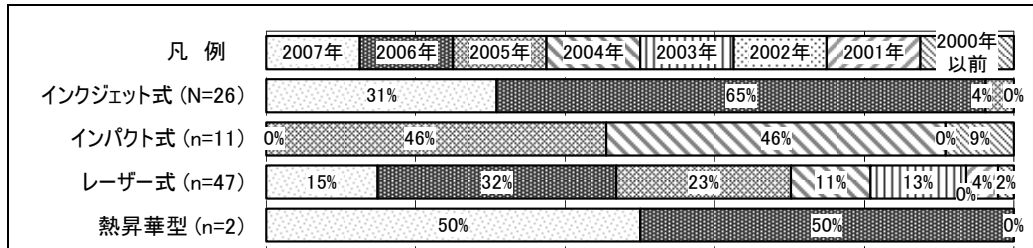


図 3-75 タイプ別 販売開始年別(プリンタ)



3.1.5 調理・家事機器の待機時消費電力

3.1.5.1 販売開始年別 待機時消費電力の構成比

販売開始年別に割合の変化を見ると、緩やかではあるが開始年が新しい機器ほど待機時消費電力が小さくなる傾向が見られる。特に0.3W以下の機器は2005年からの増加傾向が著しく、2007年に販売開始された製品では6割を超えている。

図 3-76 販売開始年別 待機時消費電力の構成比〈標準モード〉(調理・家事機器)

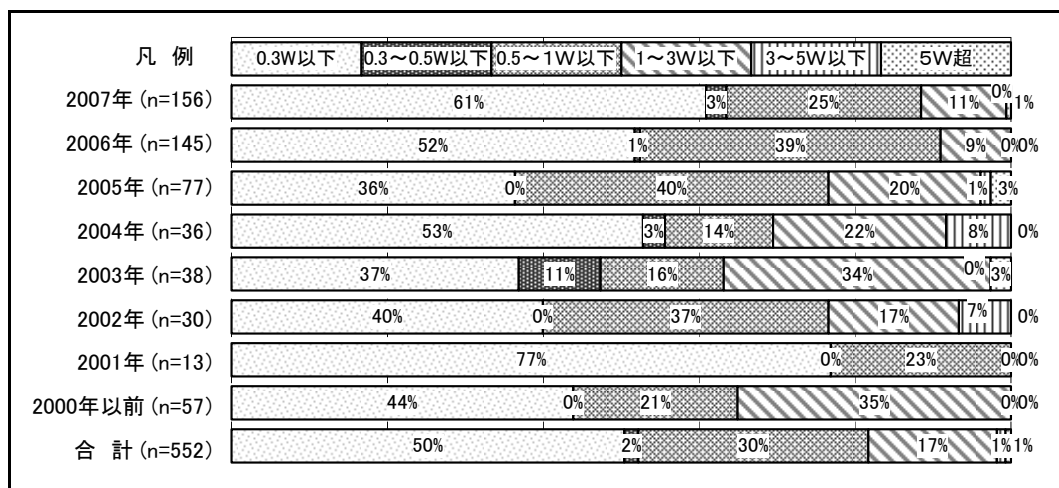


図 3-77 販売開始年別 待機時消費電力の構成比〈オフモード〉(調理・家事機器)

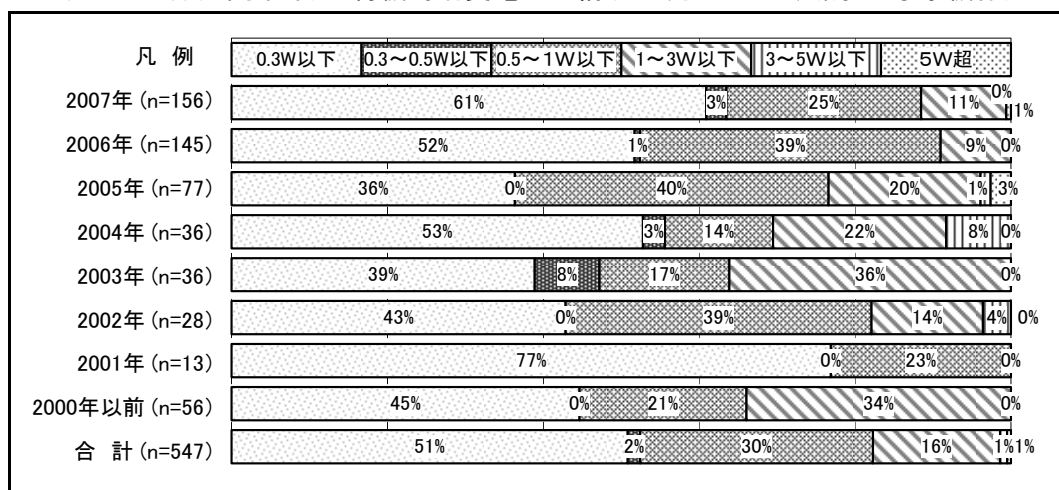
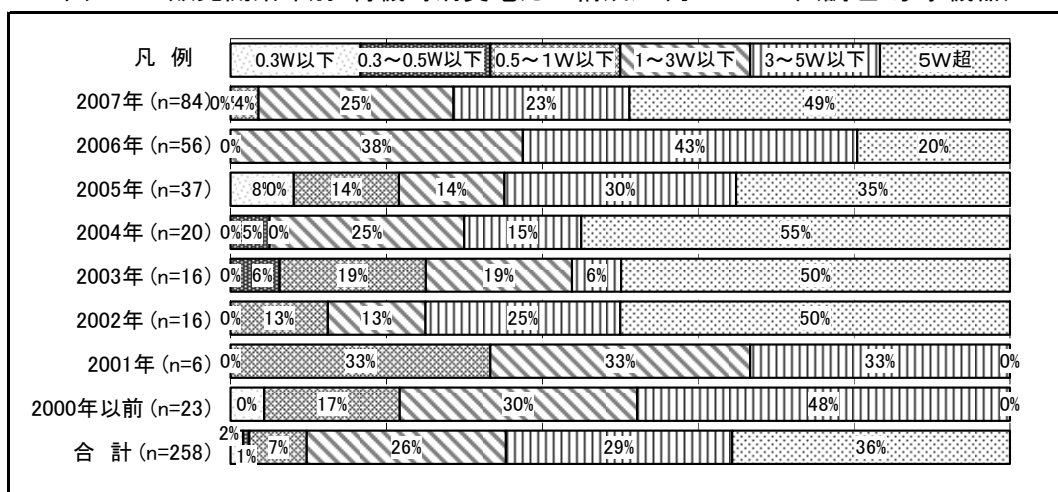


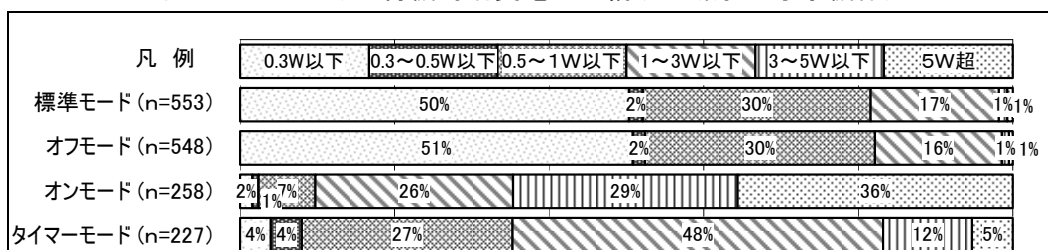
図 3-78 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<オンモード>(調理・家事機器)



3.1.5.2 モード別 待機時消費電力の構成比

標準モードでは全体の8割以上の機器が待機時消費電力1W以下を実現している。また、0.3W以下という特に低い消費電力を実現している製品が半数にのぼっている。

図 3-79 モード別 待機時消費電力の構成比(調理・家事機器)



3.1.5.3 機器別平均待機時消費電力

調理・家事機器に区分される機器では 1/3 程度が標準モードで平均 0W を実現している。待機時消費電力が大きい機器は充電式掃除機 3.5W(過充電時)、浴室換気乾燥機・電気式 1.9W、浴室換気乾燥機・ガス式(温水式)1.5W、食器洗い乾燥機 1.3W などである。モード別の待機時消費電力を見ると、洗濯乾燥機、浴室換気乾燥機、洗濯機でタイマーモードが 2W 以上である。

図 3-80 機器別平均待機時消費電力<標準モード>(調理・家事機器)

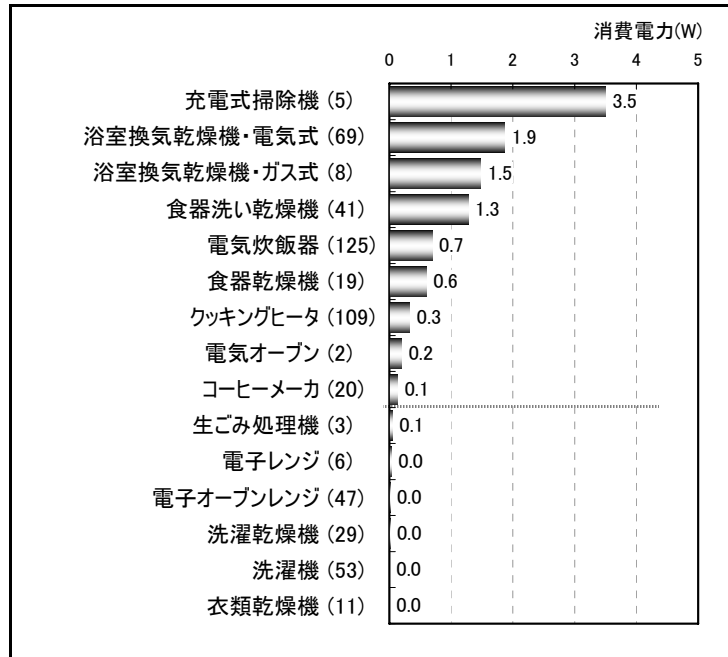


図 3-81 機器別平均待機時消費電力<オフモード>(調理・家事機器)

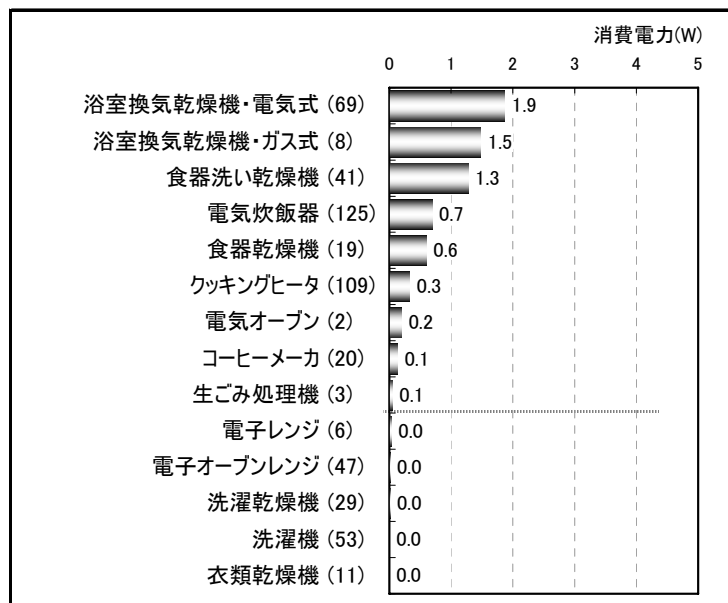
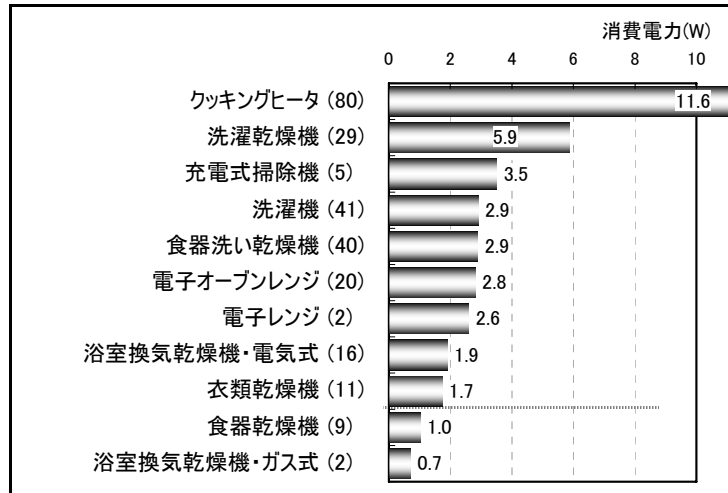


図 3-82 機器別平均待機時消費電力(オンモード)(調理・家事機器)



3.1.5.4 電源プラグを抜くことによる影響について

待機時(非使用時)に電源プラグを抜くことによる影響については、「特になし」という回答が多い。

表 3-10 電源プラグを抜くことによる影響について(調理・家事機器)

	調理家事 小計	洗濯機	洗濯乾燥機	衣類乾燥機	浴室換気乾燥機	電気炊飯器	電子レンジ	電子オープンレンジ	電気オープン	コーヒーマーカ	生ごみ処理機	クッキングヒータ	食器洗い乾燥機	食器乾燥機	充電式掃除機	調理家事その他
・全体	46	6	6	5	5	7	4	6	2	4	3	7	6	4	2	1
・機能・記憶データが停止・消去される	8	2	2	2	2	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-
・時計の計時機能が停止する	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
・プラグを抜く事は推奨できない	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-
・IHクッキングヒータは組入式が多くプラグを抜くのが困難	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
・冬場など凍結の恐れがある	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・常時充電方式なのでプラグを抜くと充電できない	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-
・未使用時プラグを抜くと本電池を消費する	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・センサの寿命低下	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・漏水検知機能が働かず漏水の可能性がある	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
・使用后一定時間は電気部品保護のためプラグを抜かない	1	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
・分岐用安全ブレーカを落とすことでの問題はない	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
・特になし	13	3	3	2	2	3	1	2	2	2	-	1	1	1	-	-
・問題なし	3	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	1	-	1	-
・無回答	11	1	1	1	-	2	2	2	-	1	1	1	1	1	1	1

※ 自由回答を集計:件数

3.1.5.5 主要機器別の待機時消費電力

i 電気炊飯器

a タイプ別 モードの有無割合

「電源スイッチのない」と回答された製品が半数を超えている。

表 3-11 タイプ別 モードの有無割合（電気炊飯器）

	電源 スイ ッチ 有	リ モ コ ン 有	タ イ マ ー 有	省 エ ネ ー ジ の 自 動 移 行 モ ー ド 有	(%)
マイコン式 (n=40)	45.0	-	97.5	-	
IH式 (n=48)	20.8	-	100.0	20.8	
圧力IH式 (n=37)	40.5	-	100.0	-	

b 平均待機時消費電力

標準モード、オフモード、オンモードともに機器別に大きな差はなく、全ての機器が 0.6~0.8W に分布している。

標準モードの構成比、分布をみても、全てで 1W 以下を達成している。

図 3-83 モード別 平均待機時消費電力（電気炊飯器）

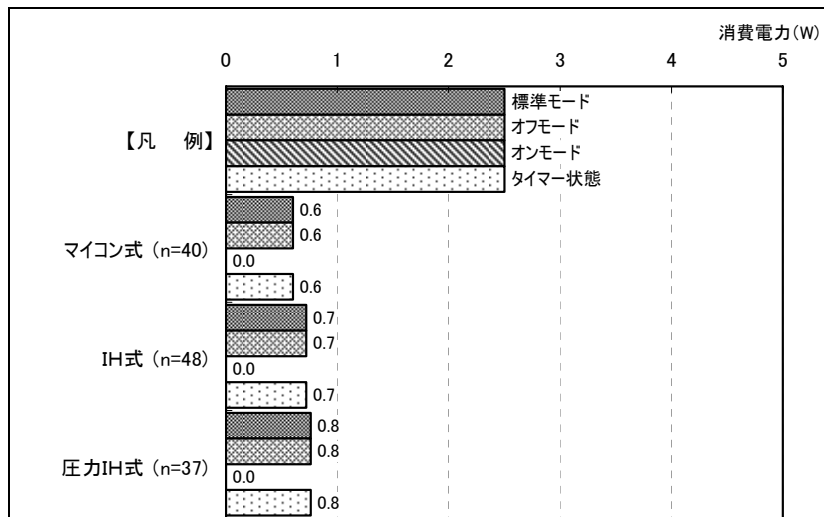


図 3-84 タイプ別待機時消費電力の構成比(標準モード)(電気炊飯器)

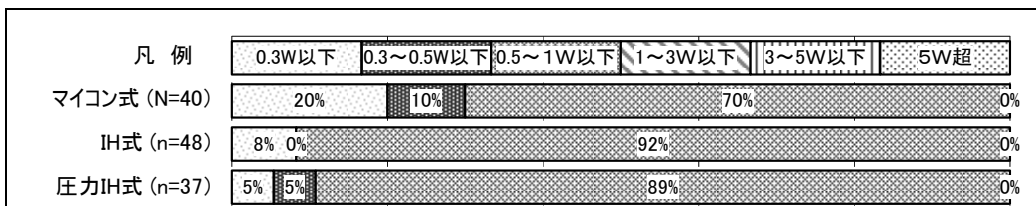


図 3-85 タイプ別 待機時消費電力の分布(標準モード)(電気炊飯器)

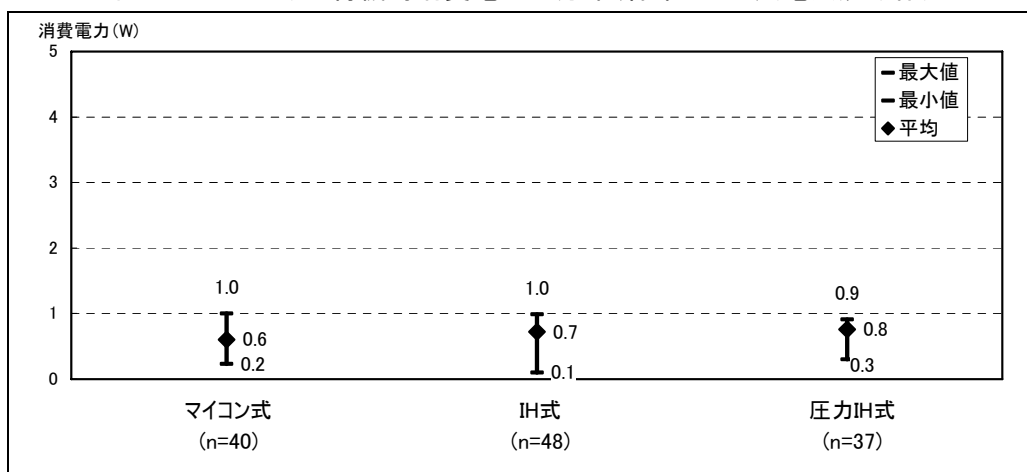


図 3-86 販売開始年別 待機時消費電力の分布(標準モード)(電気炊飯器)

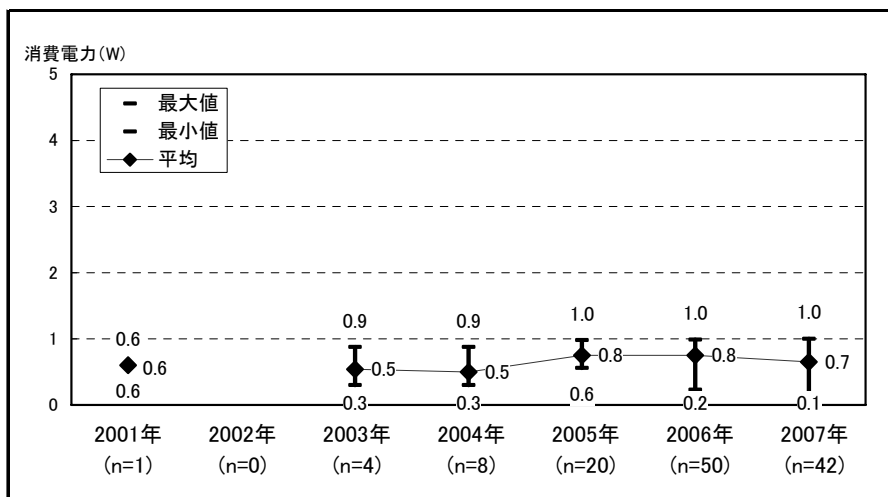
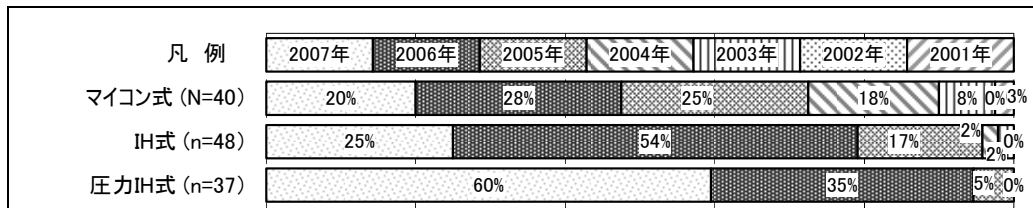


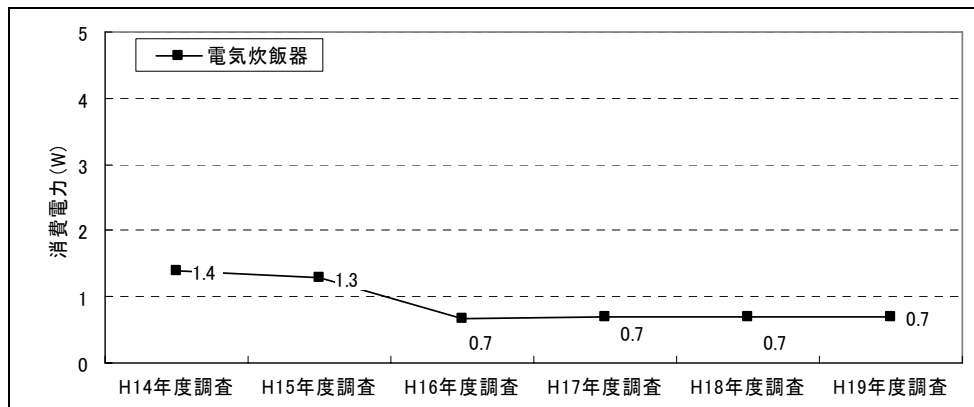
図 3-87 タイプ別 販売開始年別 構成比(電気炊飯器)



c 平均待機時消費電力の推移<標準モード>

標準モードの待機時消費電力の推移をみると、平成 16 年度に大きく減少し、ほぼそのレベルを維持しつつ推移している。

図 3-88 平均待機時消費電力の推移<標準モード>(電気炊飯器)



ii 電気洗濯機

a タイプ別 モードの有無割合

二槽式タイプでは「電源スイッチのない」タイプの製品が 1/3 程度ある。タイマー機能、省エネモードへの自動移行機能についても、全自動タイプよりも備わっている製品が少ない。

表 3-12 タイプ別 モードの有無割合 (電気洗濯機)

	電源 スイ ッチ 有	リ モ コ ン 有	タ イ マ ー 有	省 エ ネ モ ー ド の 自 動 移 行 有	(%)
全自動 (n=41)	100.0	-	68.3	97.3	
二槽式 (n=16)	62.5	-	-	56.3	

b 平均待機時消費電力

標準モードの待機時消費電力は全ての製品で 0W であった。

図 3-89 モード別 平均待機時消費電力(電気洗濯機)

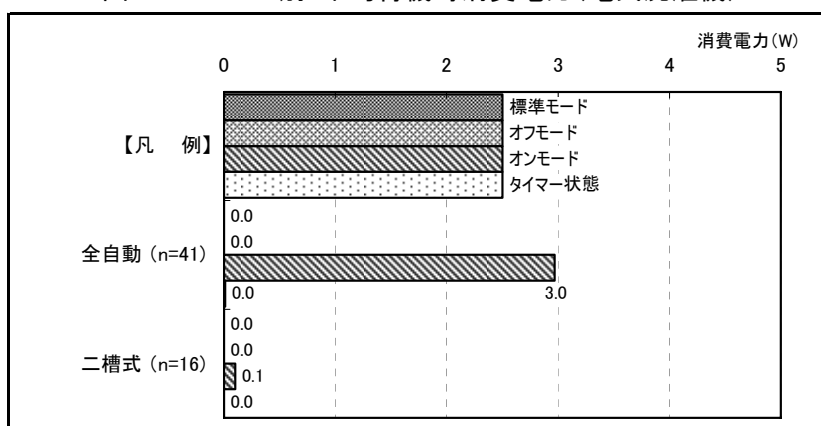


図 3-90 タイプ別待機時消費電力の構成比(標準モード)(電気洗濯機)

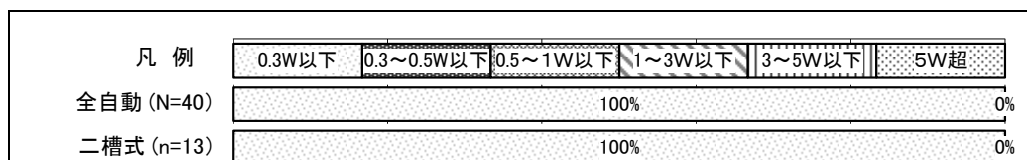


図 3-91 待機時消費電力の分布<標準モード>(電気洗濯機)

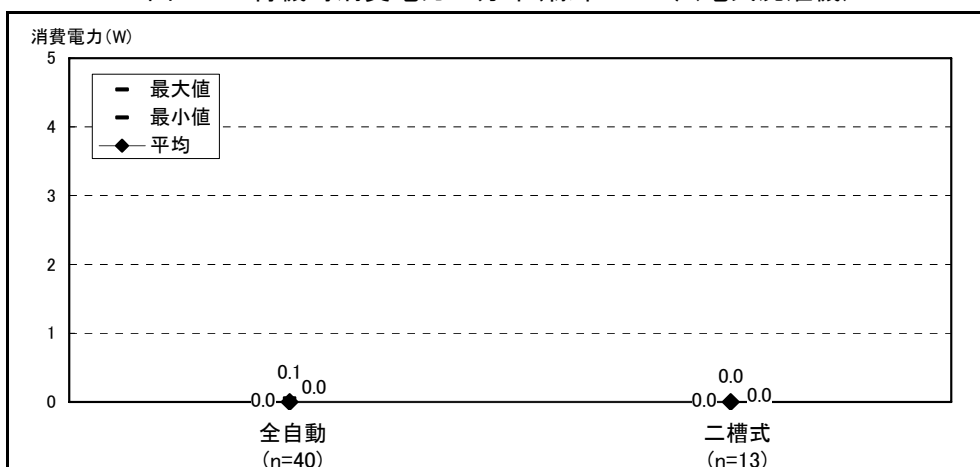


図 3-92 販売開始年別 待機時消費電力の分布<標準モード>(電気洗濯機)

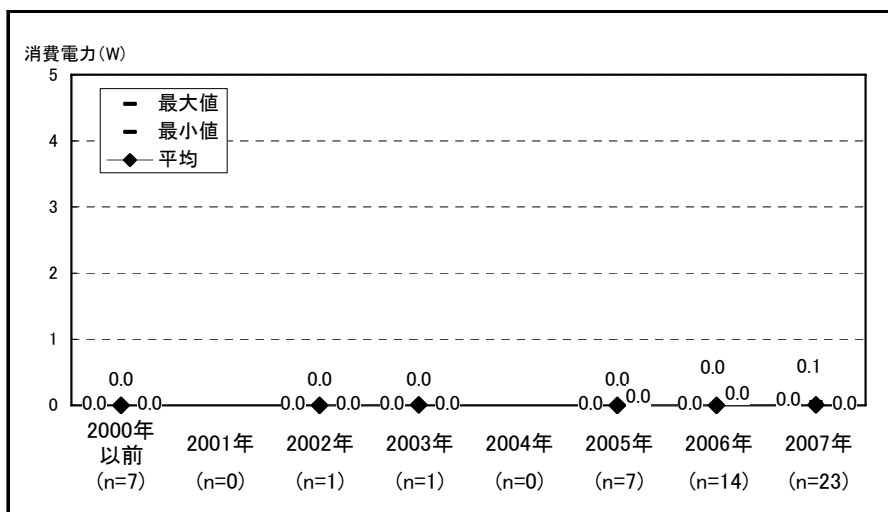
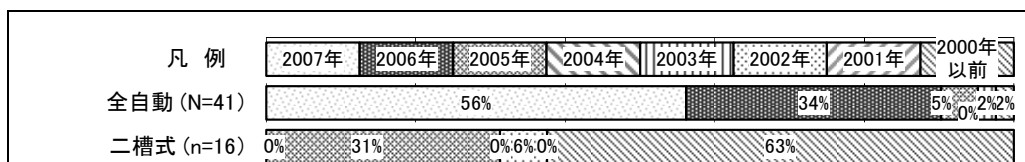


図 3-93 タイプ別 販売開始年別 構成比(電気洗濯機)



iii 電気衣類乾燥機

表 3-13 タイプ別 モードの有無割合 (電気衣類乾燥機)

	電源スイッチ有	リモコン有	タイマー有	省エネモード移行有	(%)
電気衣類乾燥機 (n=11)	100.0	-	-	100.0	

a 平均待機時消費電力

標準モードの待機時消費電力は全ての製品で 0W であった。

図 3-94 モード別 平均待機時消費電力(電気衣類乾燥機)

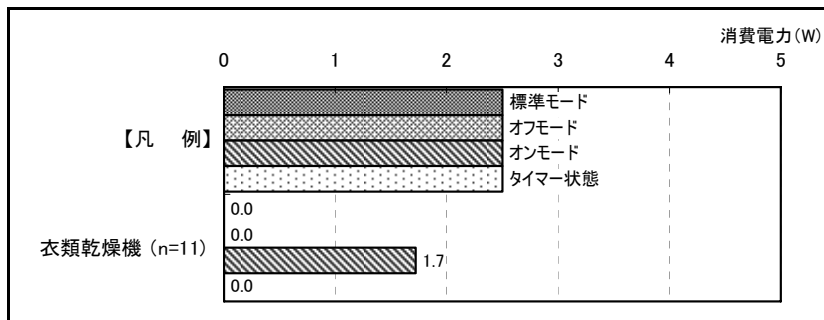
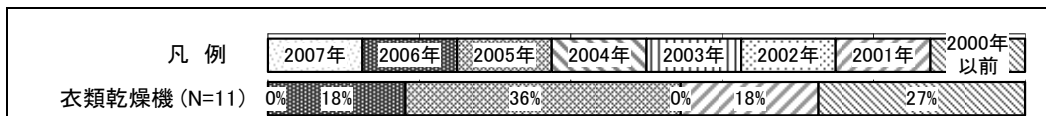


図 3-95 タイプ別待機時消費電力の構成比<標準モード>(電気衣類乾燥機)



3.1.6 空調・給湯機器の待機時消費電力

3.1.6.1 販売開始年別 待機時消費電力の構成比

販売開始年別の割合を見ると、開始年が新しいものほど待機時消費電力が大きいものが増えていのように見えるが、これは開始年が古いものに換気扇、電気温水器など標準モードの待機時消費電力が小さい機器が多いという機器構成によるものと考えられる。

図 3-96 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<標準モード>(空調・給湯機器)

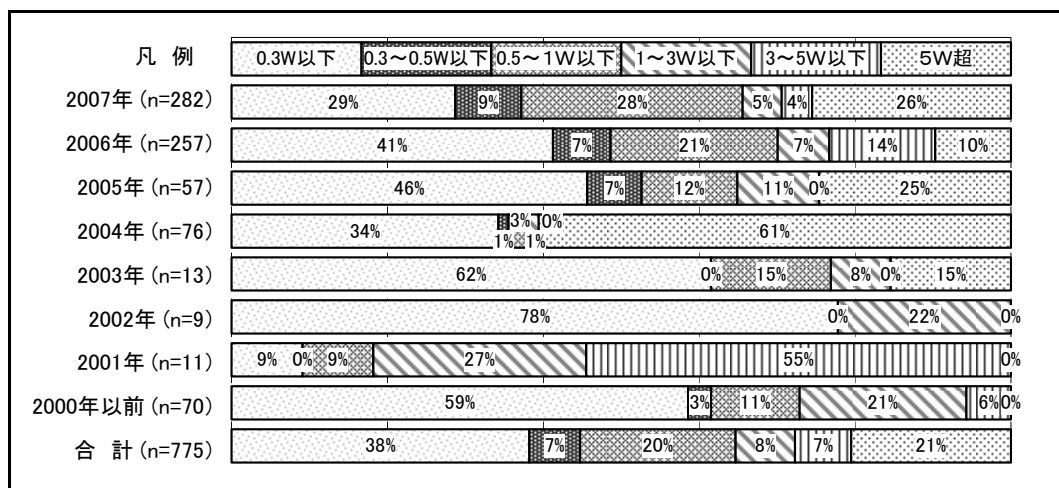


図 3-97 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<オフモード>(空調・給湯機器)

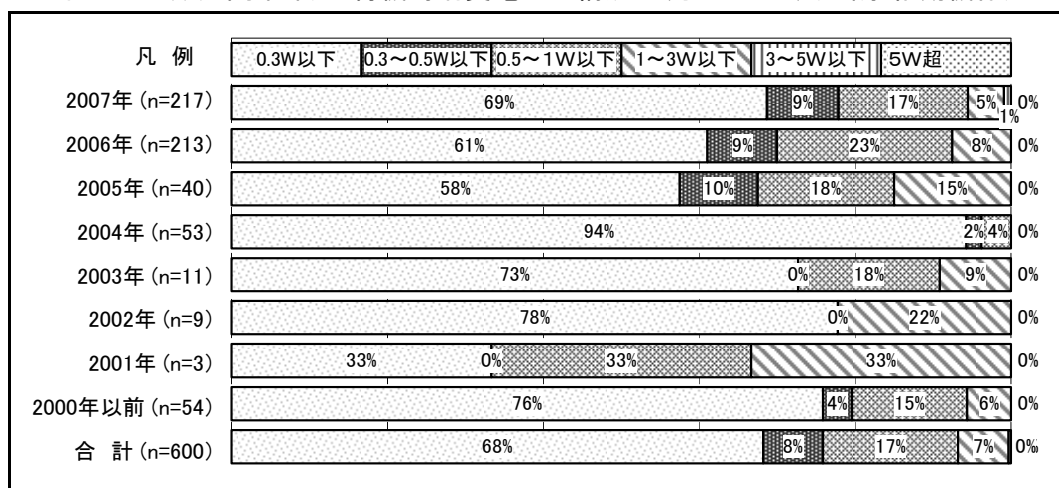
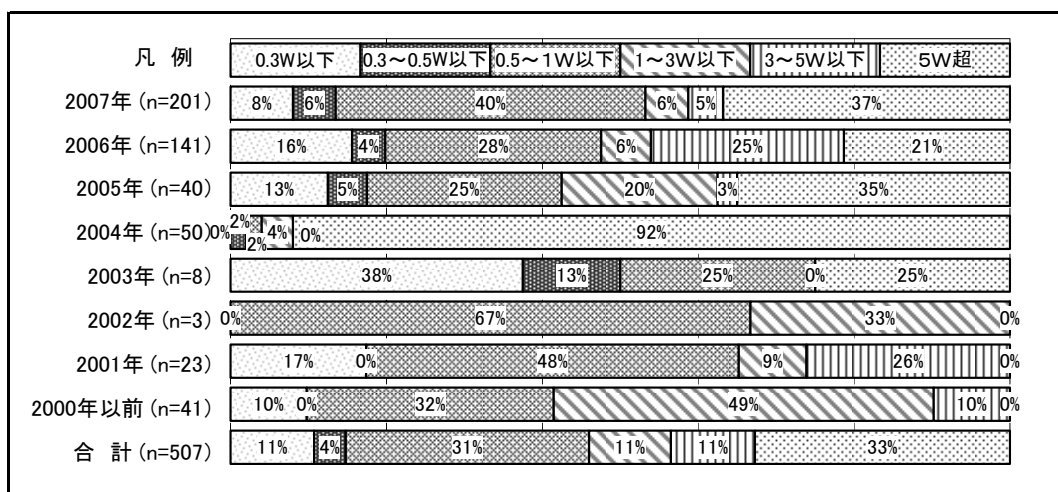


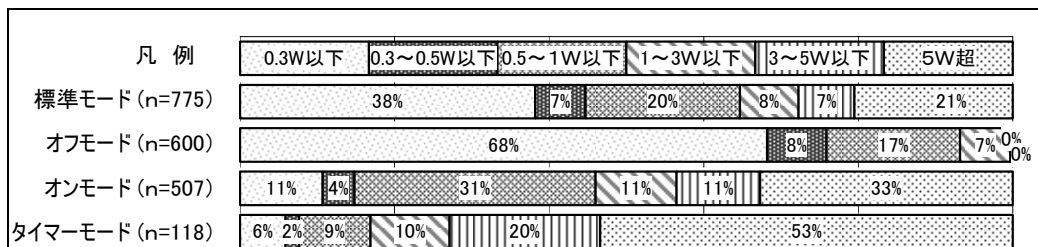
図 3-98 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<オンモード>(空調・給湯機器)



3.1.6.2 モード別 待機時消費電力の構成比

標準モードの待機時消費電力の割合を見ると、機器全体の65%が1W以下である。5W以上の割合が大きい理由は、給湯関連の機器によるものである(図 3-100 参照)。

図 3-99 モード別 待機時消費電力の構成比(空調・給湯機器)



3.1.6.3 機器別平均待機時消費電力

待機時消費電力が高かったのはヒートポンプ給湯機 9.0W、電気温水器 5.9W、床暖房・温水式 5.0W、太陽熱温水器 4.2W、である。他の空調・給湯機器の待機時消費電力は、全て 1W 未満であった。

図 3-100 機器別平均待機時消費電力<標準モード>(空調・給湯機器)

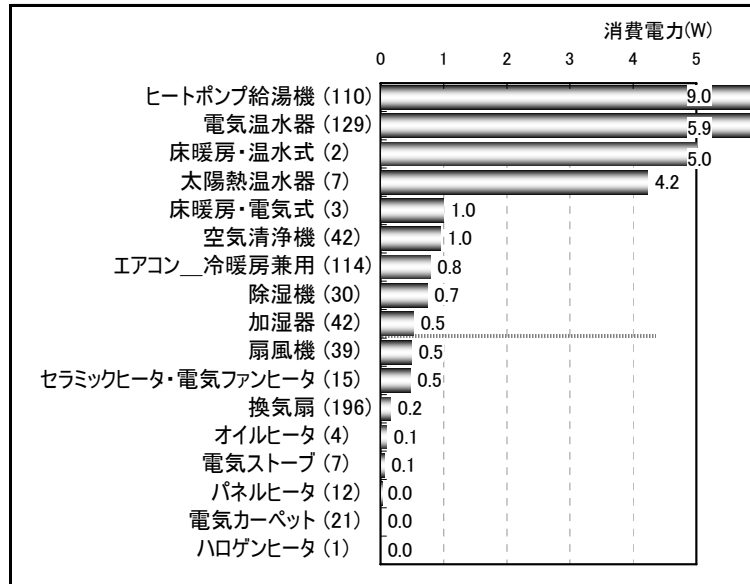


図 3-101 機器別平均待機時消費電力<オフモード>(空調・給湯機器)

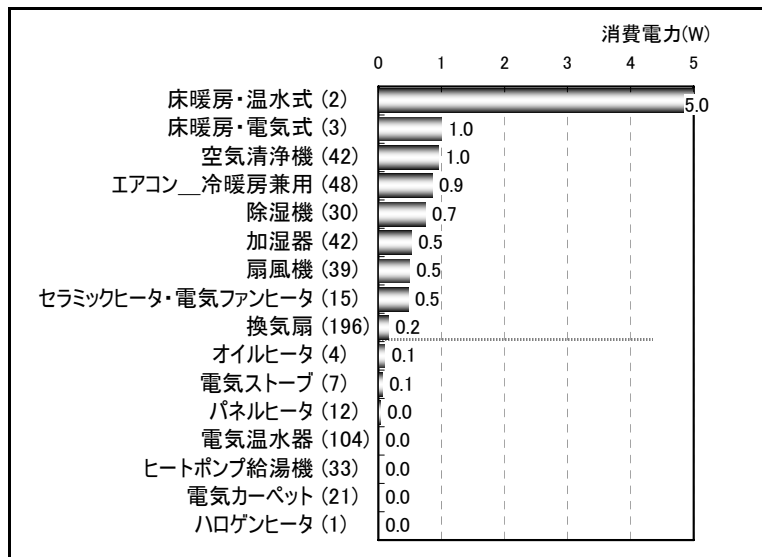
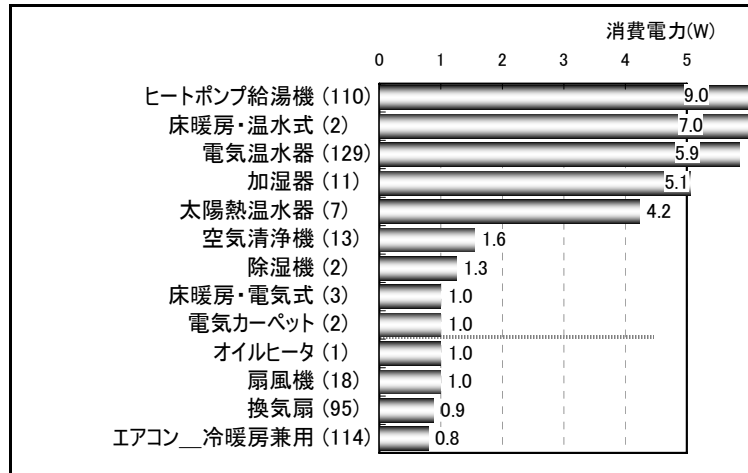


図 3-102 機器別平均待機時消費電力<オンモード>(空調・給湯機器)



3.1.6.4 電源プラグを抜くことによる影響について

待機時(非使用時)に電源プラグを抜くことによる影響については、「特になし・影響なし」との回答が多いが、電気温水器、太陽熱温水器で「プラグを抜くことは推奨できない」という回答が寄せられている。

表 3-14 電源プラグを抜くことによる影響について(空調・給湯機器)

	空調給湯小計	電気ストーブ	セラミックヒータ・電気ファンヒータ	パネルヒータ	オイルヒータ	ハロゲンヒータ	コタツ	電気カーペット	床暖房	蓄熱式電気暖房機	エアコン冷暖房兼用	エアコン冷房専用	換気扇	扇風機	加湿器	除湿機	空気清浄機	電気温水器	太陽熱温水器	空調給湯その他
・全体	50	2	5	4	1	1	-	2	2	-	12	-	5	5	10	10	8	10	3	2
・機能・記憶データが停止・消去される	5	-	1	-	-	-	-	1	-	-	1	-	1	1	4	1	1	-	-	-
・プラグを抜く事は推奨できない	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	-
・自動運転機能を損ねる	3	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	1	1	1	1	-	-	-
・冬場など凍結の恐れがある	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-
・時計の計時機能が停止する	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・運転停止直後にプラグを抜くと機器が加熱する	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
・定期的に作動させないと不都合が生じる	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
・運転積算時間で働く機能が損なわれる	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・センサーが不安定になる	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
・湯量不足や高温の湯が出ることもある	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
・特になし	16	1	1	1	-	-	-	1	-	-	6	-	2	2	2	3	3	1	-	2
・問題なし	4	1	1	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	1	1	-	-	1	-
・無回答	10	-	2	2	1	-	-	-	-	-	3	-	-	1	2	2	1	4	-	-

※ 自由回答を集計:件数

3.1.6.5 主要機器別の待機時消費電力

i エアコン

a タイプ別 モードの有無割合

エアコンでは省エネモードへの自動移行機能が有ると回答された割合が少ないが、これはオン・オフなどの利用者による操作が基本となっているためと考えられる。電源スイッチやリモコンについてはほとんどの製品で有りと回答されている。

モード別消費電力を見ると、タイマー状態も含めて 1W 以下と小さい。なお、今年度調査では冷房専用機は回答を得られていない。

表 3-15 タイプ別 モードの有無割合 (エアコン)

	電源 スイ ッチ 有	リ モ コ ン 有	タ イ マ ー 有	省 エ ネ モ ー ド へ の 自 動 移 行 有	(%)
エアコン_冷暖房兼用(n=114)	95.6	98.1	8.8	1.2	

図 3-103 モード別 平均待機時消費電力(エアコン)

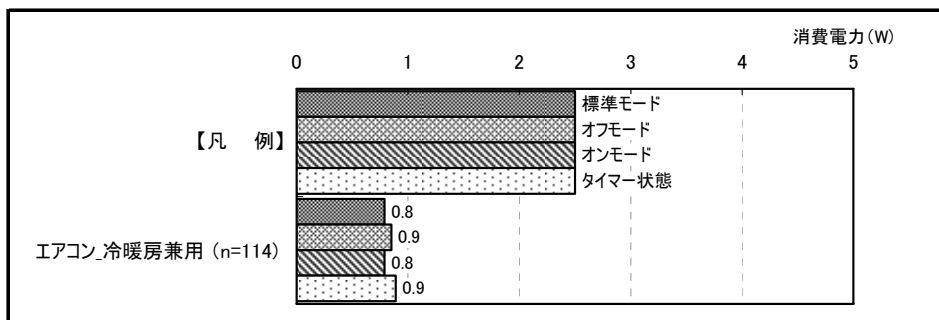


図 3-104 タイプ別待機時消費電力の構成比(標準モード)(エアコン)

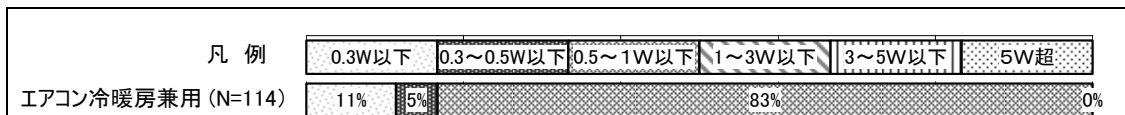


図 3-105 タイプ別 待機時消費電力の分布<標準モード>(エアコン)

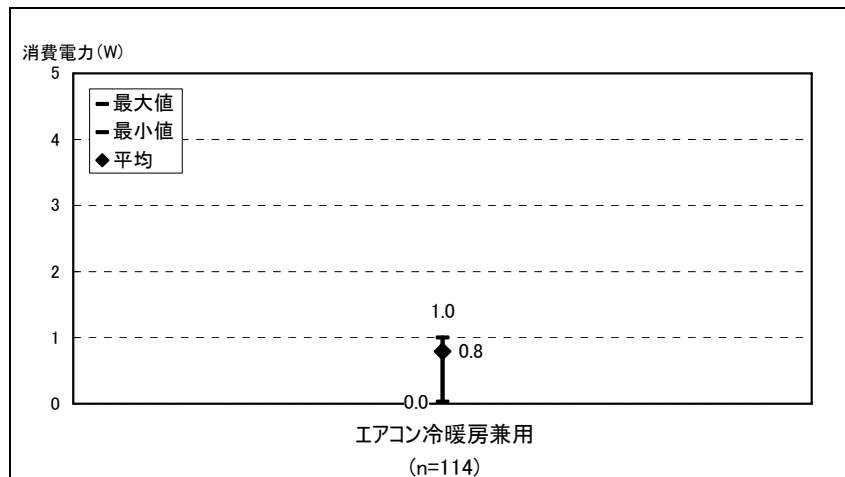


図 3-106 販売開始年別 待機時消費電力の分布<標準モード>(エアコン)

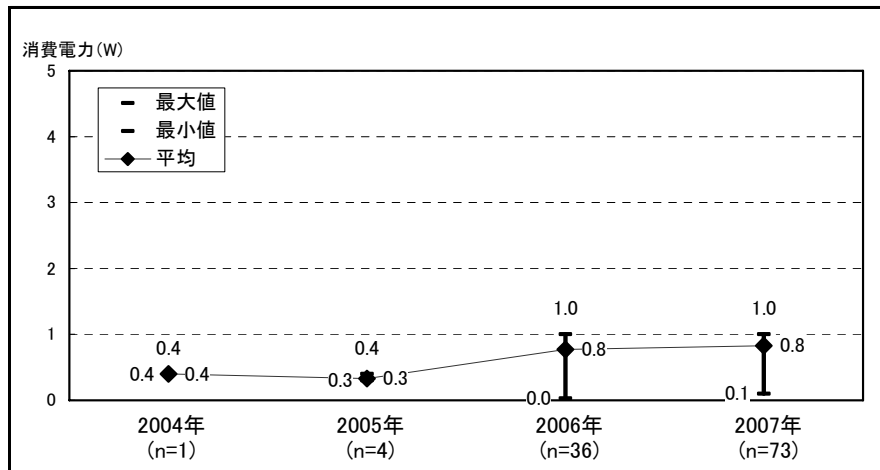


図 3-107 タイプ別 販売開始年別 構成比(エアコン)

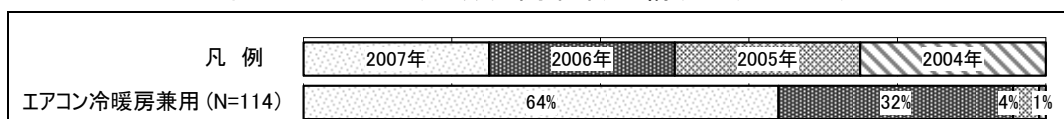
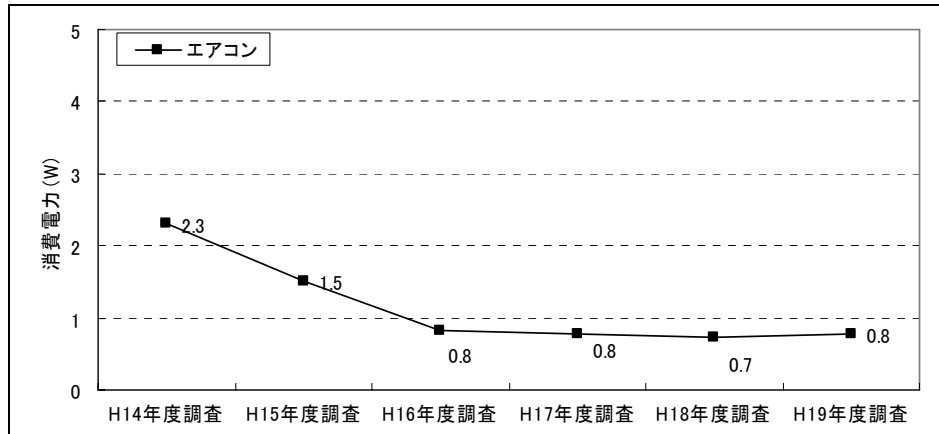


図 3-108 平均待機時消費電力の推移(標準モード)(エアコン)



3.1.7 電気便座・照明・その他機器の待機時消費電力

3.1.7.1 電気便座

① 販売開始年別 待機時消費電力の構成比

標準モード待機時消費電力は、2001年以降の全ての製品が3W以下であり、2003年以降では1W以下の製品も出てきている。現時点では1W～3W以下の製品が主流となっている。

図 3-109 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<標準モード>(電気便座)

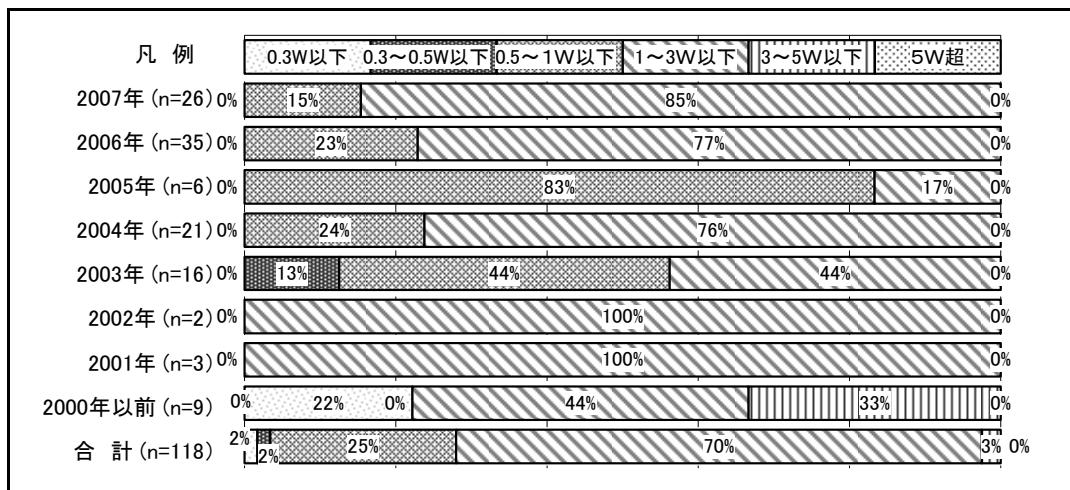


図 3-110 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<オフモード>(電気便座)

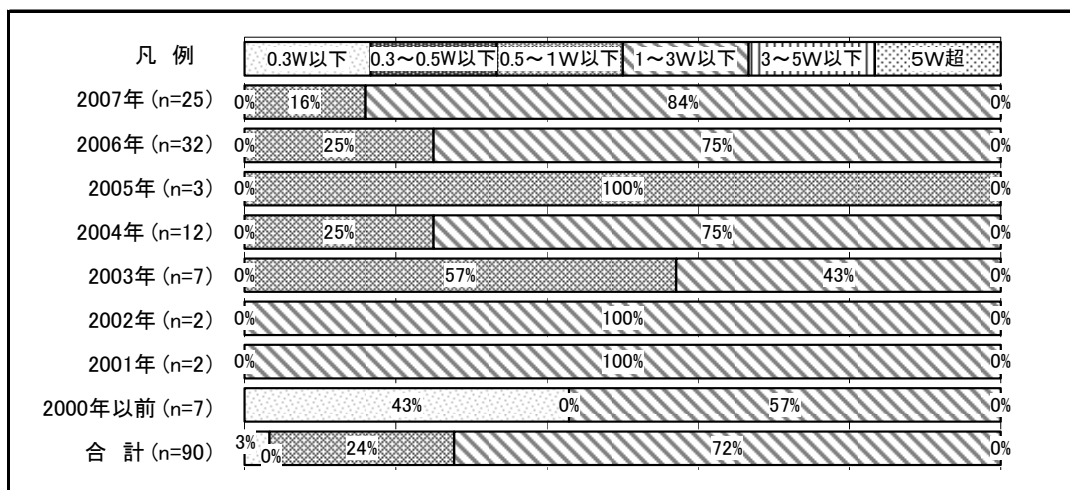
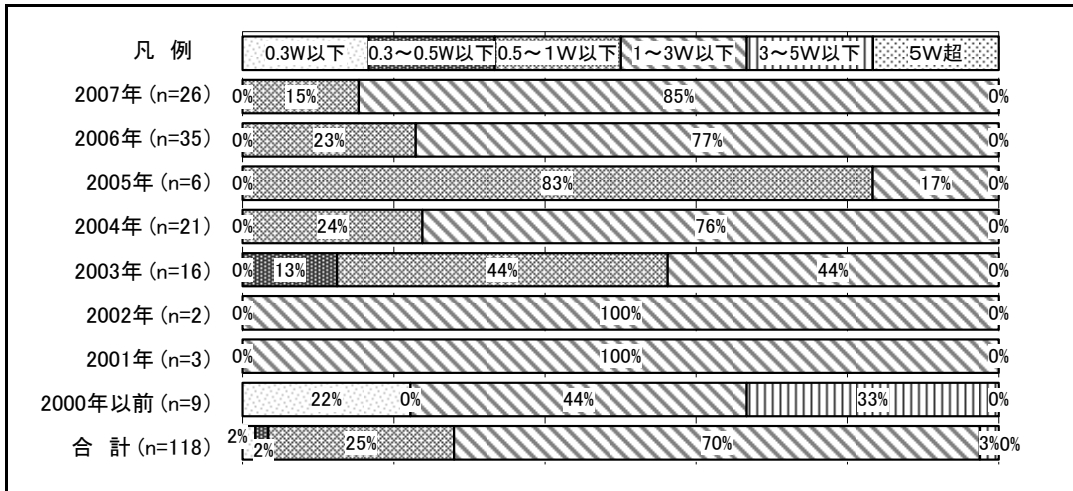
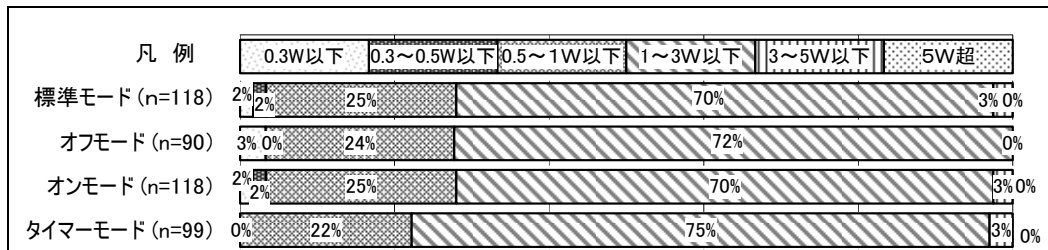


図 3-111 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<オンモード>(電気便座)



② モード別 待機時消費電力の構成比

図 3-112 モード別 待機時消費電力の構成比(電気便座)



3.1.7.2 照明

① 販売開始年別 待機時消費電力の構成比

照明の標準モードの待機時消費電力は、2005年販売開始の製品で0.3W以下の割合が大きく、販売開始年によってばらつきがあるが、ほぼ全ての製品で標準モードの待機時消費電力は1W以下となっている。

図 3-113 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<標準モード>(照明)

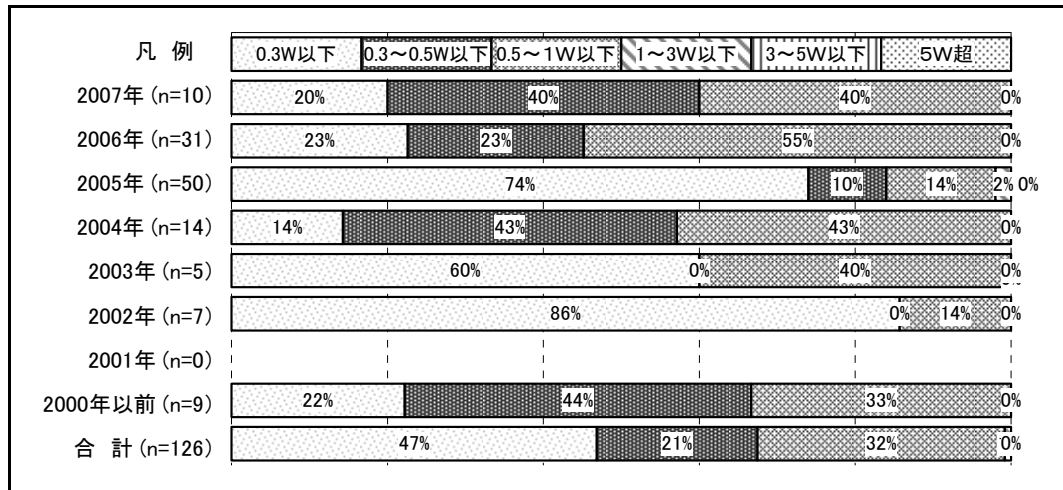


図 3-114 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<オフモード>(照明)

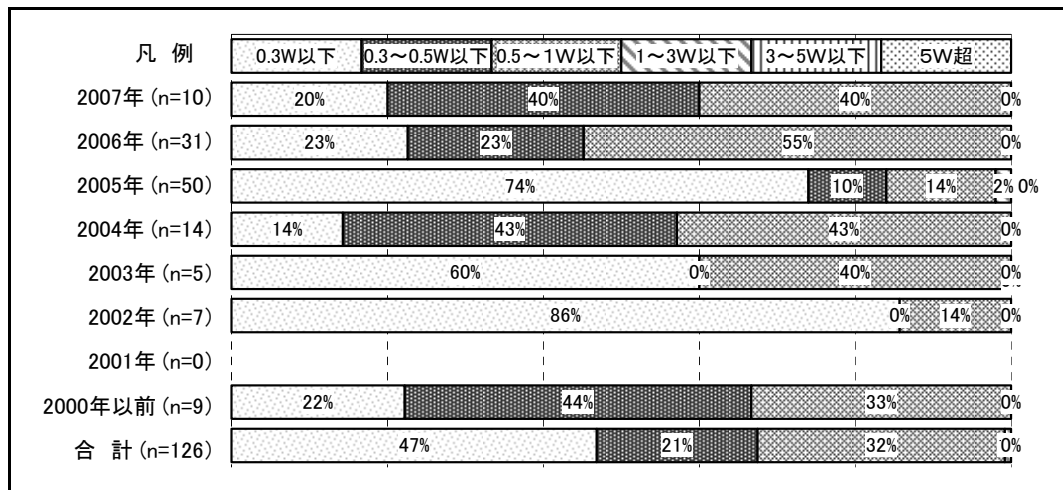
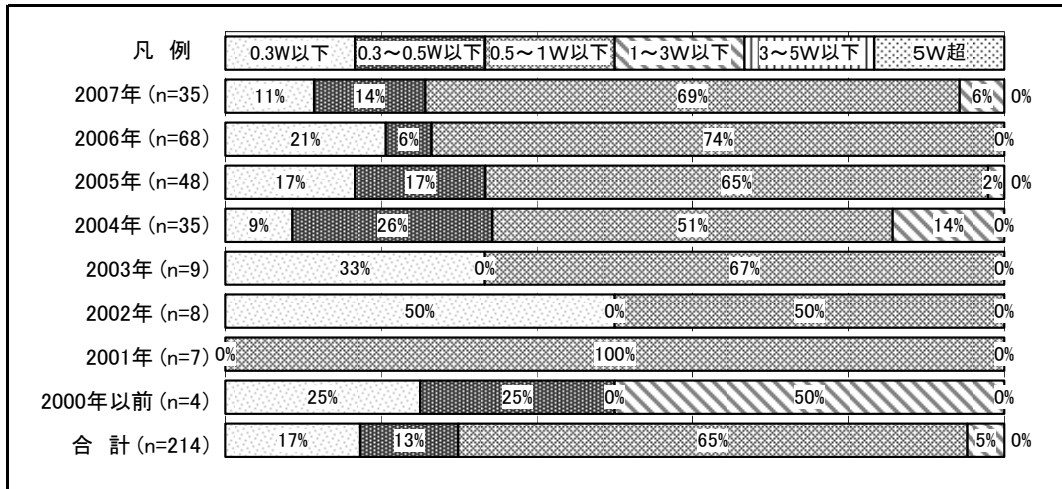
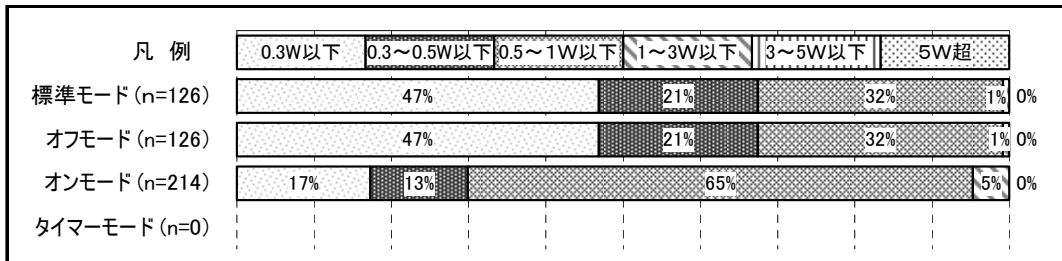


図 3-115 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<オンモード>(照明)



② モード別 待機時消費電力の構成比

図 3-116 モード別 待機時消費電力の構成比(照明)



3.1.7.3 その他機器

① 販売開始年別 待機時消費電力の構成比

その他機器の標準モードの待機時消費電力は、販売開始年によりばらつきがあるが、全体では標準モードの待機時消費電力1W以下の製品が5割を超えている。

図 3-117 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<標準モード>(その他機器)

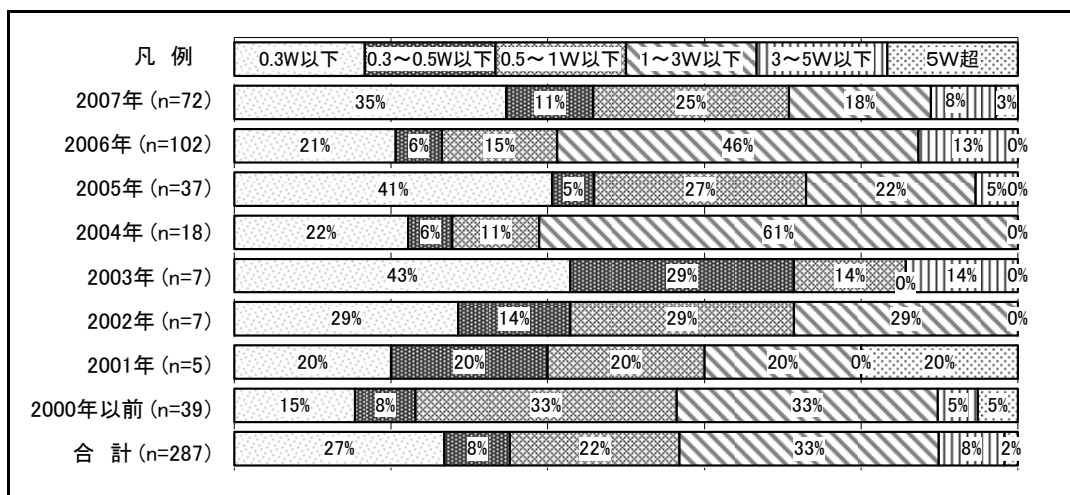


図 3-118 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<オフモード>(その他機器)

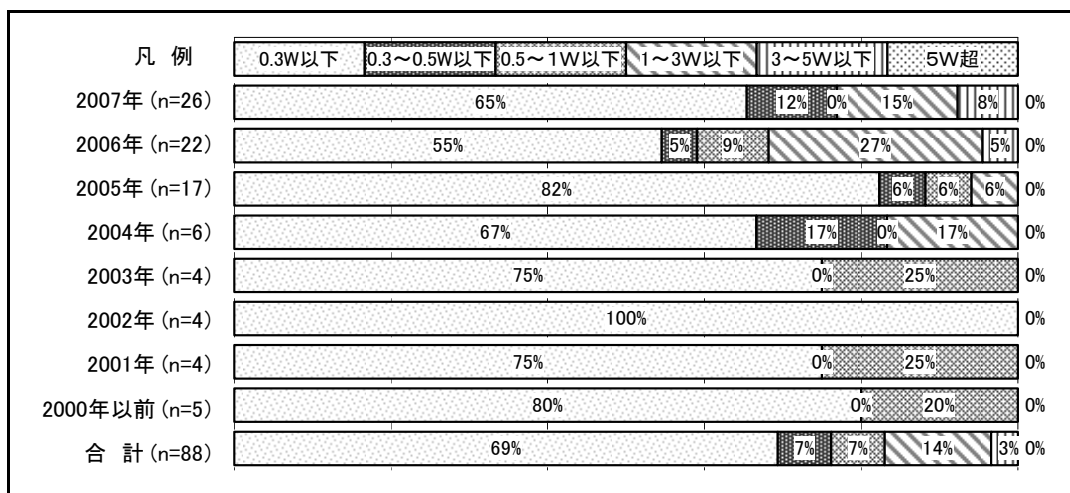
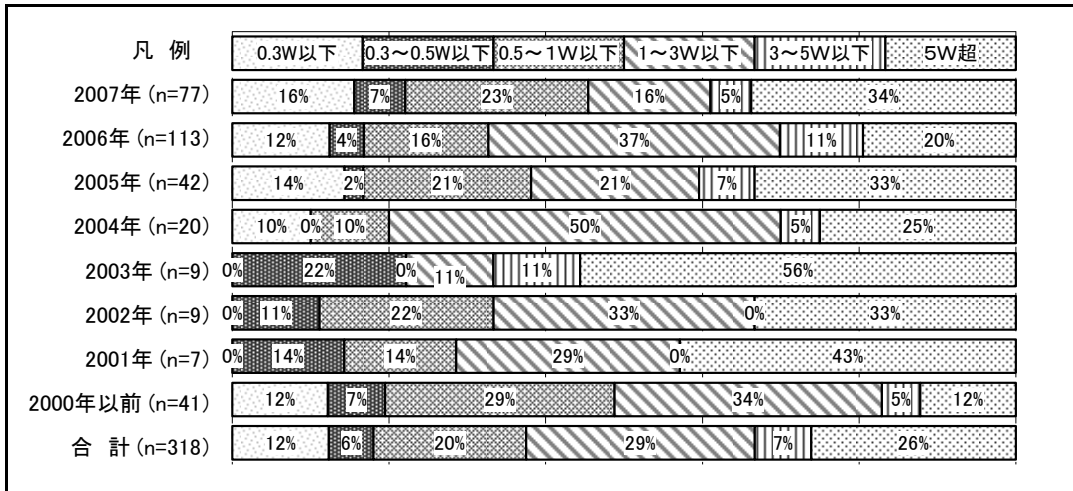
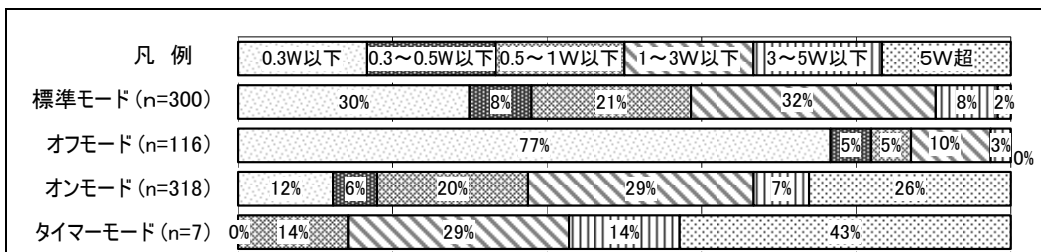


図 3-119 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<オンモード>(その他機器)



② モード別 待機時消費電力の構成比

図 3-120 モード別 待機時消費電力の構成比(その他機器)



3.1.7.4 機器別平均待機時消費電力

標準モードの待機時消費電力が比較的大きい機器としてインターホン 2.5W、温水洗浄便座／瞬間洗浄式 2.3W、温水洗浄便座／瞬間暖房・瞬間洗浄式 1.5W、温水洗浄便座／貯湯洗浄式 1.4W、電気マッサージ器 1.3W などが挙げられる。

図 3-121 機器別平均待機時消費電力<標準モード>(電気便座・照明・その他機器)

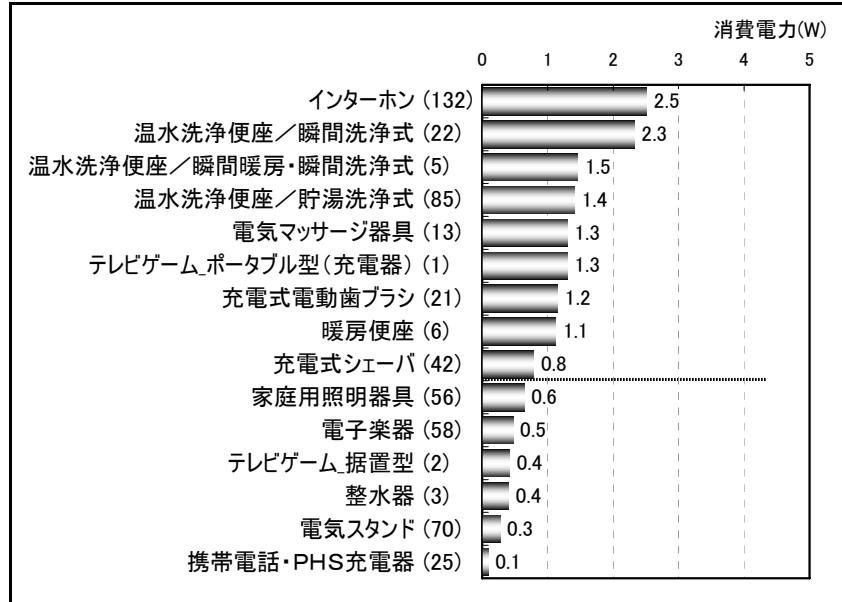


図 3-122 機器別平均待機時消費電力<オフモード>(電気便座・照明・その他機器)

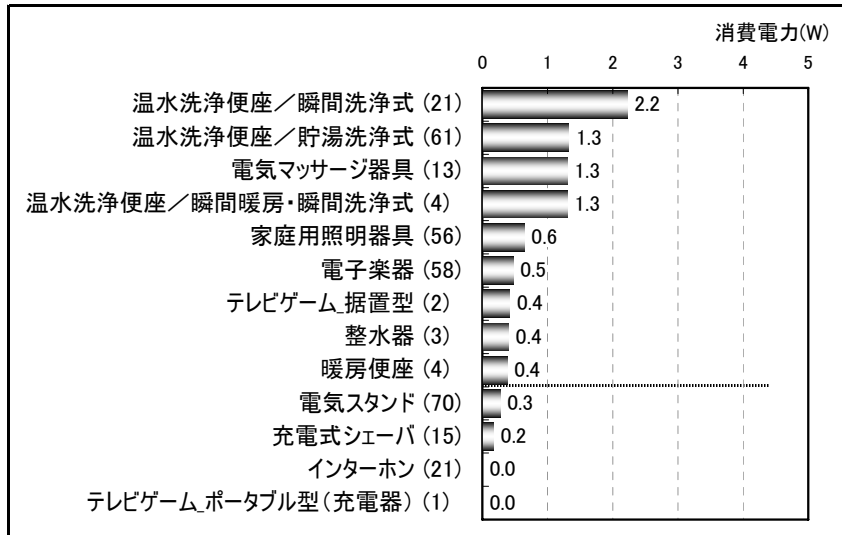
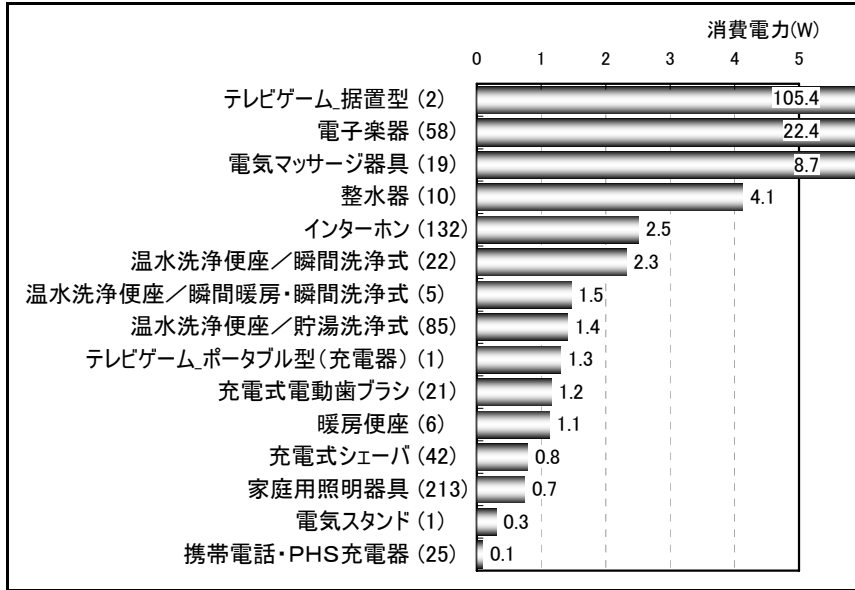


図 3-123 機器別平均待機時消費電力<オンモード>(電気便座・照明・その他機器)



3.1.7.5 電源プラグを抜くことによる影響について

表 3-16 電源プラグを抜くことによる影響について(電気便座・照明・その他機器)

	照明機器 小計	家庭用照明器具	電気スタンド	電気便座 小計	温水洗浄便座／瞬間洗浄式	温水洗浄便座／瞬間暖房・瞬間洗浄	温水洗浄便座／貯湯洗浄	暖房便座	家電その他 小計	インターホン	テレビゲーム据置型	テレビゲームポータブル型(充電式)	電気マッサージ器具	シュレッダ	浄水器	整水器	電子楽器	携帯電話・PHS充電器	充電式電動歯ブラシ	充電式シェーバ	電気自転車充電器	家電その他
・全体	11	10	7	9	4	2	8	3	28	4	1	1	3	-	-	1	3	7	4	4	1	5
・再度電源を入れたとき点灯してしまう	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・機能・記憶データが停止・消去される	-	-	-	2	2	1	2	2	2	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
・運転の立ち上がりなどに問題をきたす	-	-	-	2	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・冬場など凍結の恐れがある	-	-	-	1	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・温度が上がったことを確認しないと温水が出ない	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・時計の計時機能が停止する	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
・プラグを抜く事は推奨できない	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
・常時充電方式なのでプラグを抜くと充電できない	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
・特になし	6	5	4	1	-	-	1	-	8	-	1	1	1	-	-	-	1	3	1	1	1	-
・問題なし	2	2	2	-	-	-	-	-	7	-	-	1	-	-	-	-	1	4	-	-	-	1
・無回答	2	2	1	2	1	-	1	-	8	1	-	-	1	-	-	-	1	-	2	3	-	2

※ 自由回答を集計:件数

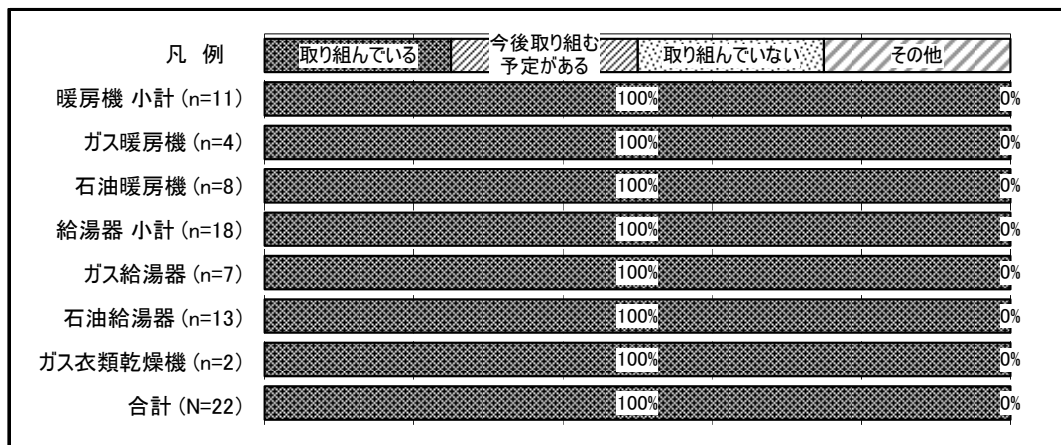
3.2 ガス・石油製品

3.2.1 メーカーの取り組み状況

(1) 待機時消費電力削減への取り組み状況

「取り組んでいる」との回答がガス機器・石油機器とも 100%である。

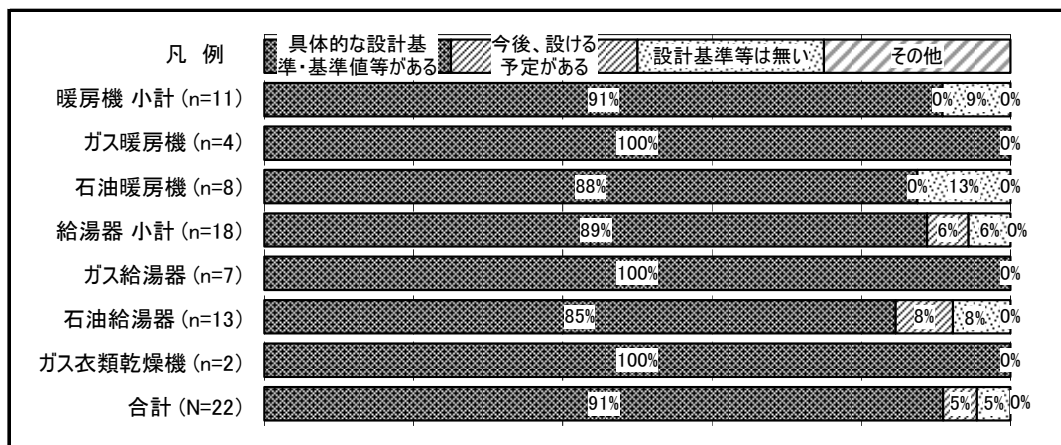
図 3-124 メーカーの取り組み状況(ガス・石油機器)



(2) 待機時消費電力に関する設計基準の有無

全体で「具体的な設計基準(基準値等)がある」が 91%と多い。

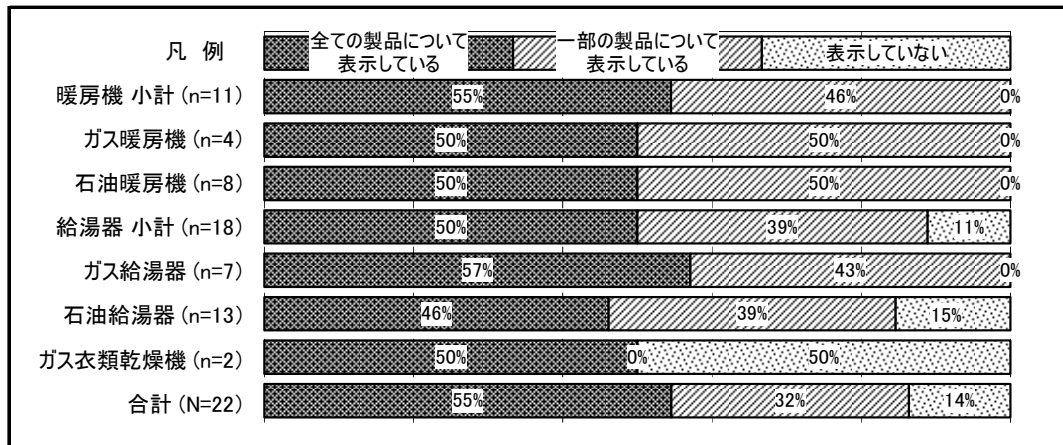
図 3-125 待機時消費電力に関する設計基準の有無(ガス・石油機器)



(3) カタログ等における待機時消費電力の表示状況

全体では「全ての製品について表示している」が 55%、「一部の製品について表示している」が 32%であった。

図 3-126 待機時消費電力の表示状況(ガス・石油機器)



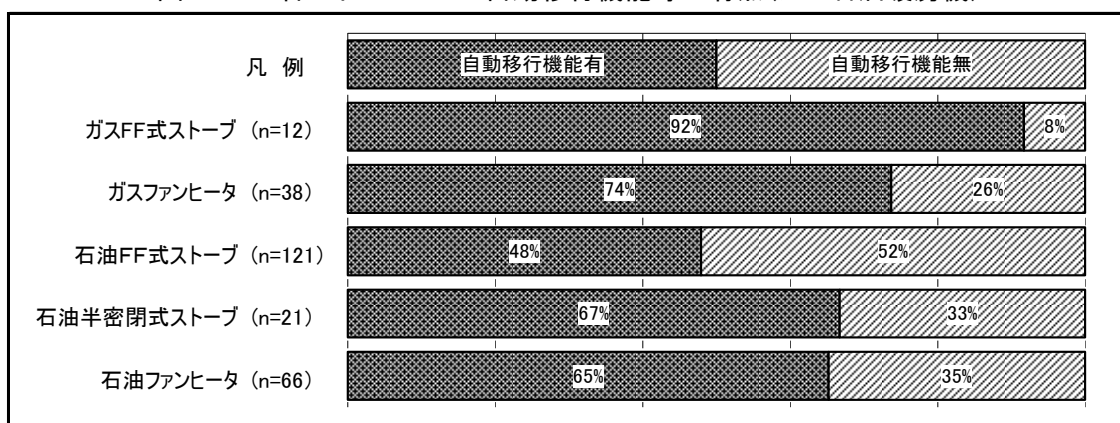
(4) 待機時消費電力削減のための具体的な取組状況

待機時消費電力に対して各メーカーも様々な取り組みを行っている。それぞれの待機時のモードにおいて消費電力そのものの値を小さくしていくことが重要であるが、その他の取り組みの一つとして、省エネモードへの自動移行機能の付加がある。この機能は一定時間操作がない場合等に、自動的に消費電力の少ないモードへ移行し、待機時消費電力を削減するもので、具体的な内容は機器ごとに異なるが、各機器における省エネモードへの自動移行機能の有無は次の通りであった。

1) ガス石油暖房機での省エネモードへの自動移行機能

ガス機器では、ガスFF式ストーブでの自動移行機能有りは92%、ガスファンヒータでは74%であった。一方、石油FF式ストーブでは48%と半数を割り、石油半密閉式ストーブは67%、石油ファンヒータは65%となった。

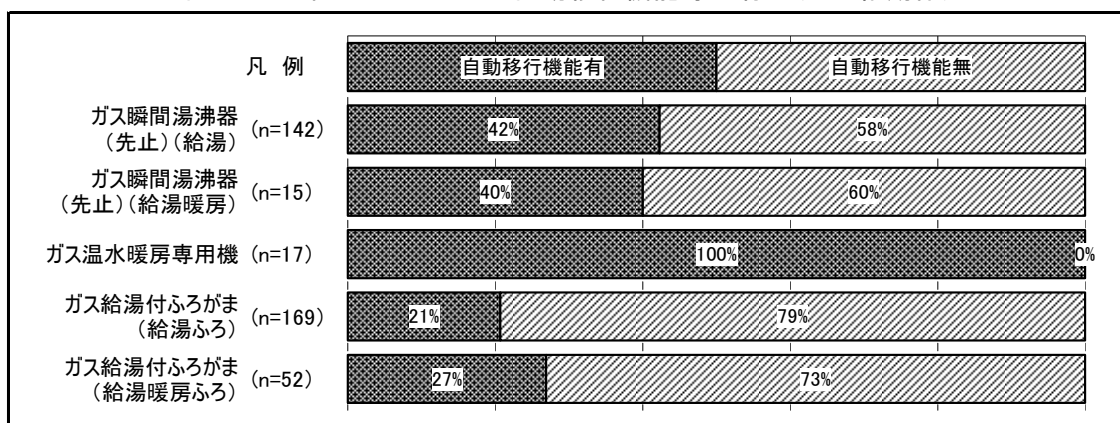
図 3-127 省エネモードへの自動移行機能等の有無(ガス石油暖房機)



2) ガス給湯器での省エネモードへの自動移行機能

ガス温水暖房専用機では全てで自動移行機能があるとの結果を得た。ガス給湯付ふろがま(給湯ふろ、給湯暖房ふろ)は20%台であった。

図 3-128 省エネモードへの自動移行機能等の有無(ガス給湯器)

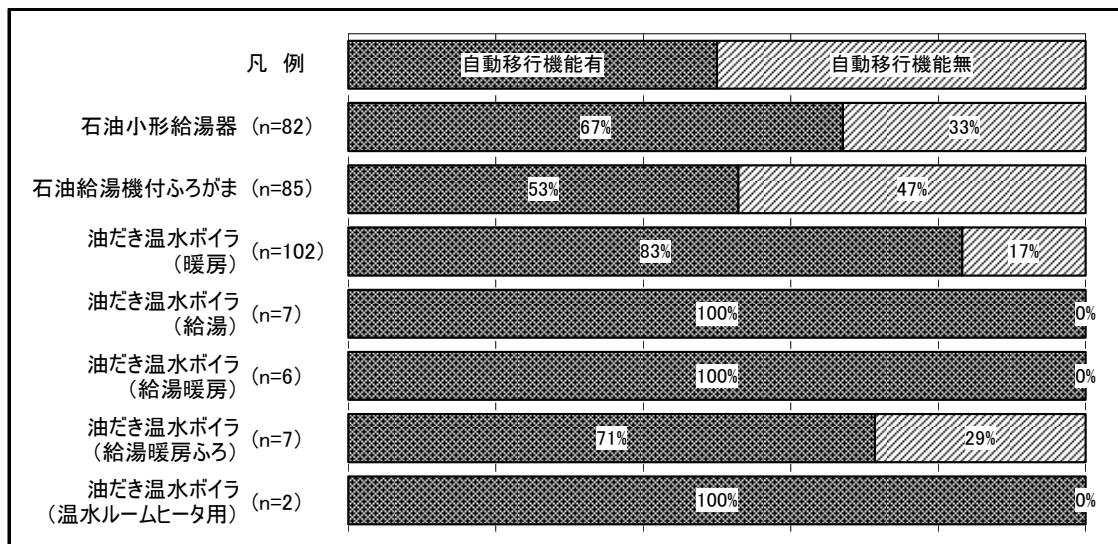


3) 石油給湯器での省エネモードへの自動移行機能

サンプル数は少ないものの、油だき温水ボイラ(給湯)、油だき温水ボイラ(給湯暖房)では全て自動移行機能がある。回答数の多かった油だき温水ボイラ(暖房)でも83%と自動移行機能を持った製品が多くなっている。

ガス給湯器も同様の傾向であるが、追い炊き機能が付いた製品では、自動移行機能を持った製品の割合がやや低い傾向が見られる。

図 3-129 省エネモードへの自動移行機能等の有無(石油給湯器)



(5) 電源プラグを抜くことによる影響

家電製品と同様に、機能面や製品耐久性の面などで、問題となることがあるか回答各部署に尋ねた。その結果、回答 22 件中「時計の計時機能が停止する」が 12 件(54.5%)と多くなっている。また、「冬場など凍結の恐れがある」という回答も 6 件あり、これはいずれもガス・石油給湯機器であった。以下、「電源プラグを抜くことによる影響」は下表のとおりである。

図 3-17 非使用時に電源プラグを抜くことによる影響について(ガス石油製品)

	合計	石油給湯器・ガス暖房機小計	ガス暖房機	石油暖房機	石油給湯器・ガス給湯器小計	ガス給湯器	石油給湯器	ガス衣類乾燥機
	(n=22)	(n=11)	(n=4)	(n=8)	(n=18)	(n=7)	(n=13)	(n=2)
・ 時計の計時機能が停止する	12	9	3	7	10	5	6	1
・ 冬場など凍結の恐れがある	6	1	1	1	6	5	3	-
・ 機能・記憶データが停止・消去される	5	2	1	2	5	3	3	-
・ プラグを抜く事は推奨できない	1	-	-	-	1	-	1	-
・ 運転停止直後にプラグを抜くと機器が加熱する	1	1	-	1	1	-	1	-
・ 定期的に作動させないと不都合が生じる	1	1	-	1	1	-	1	-
・ 特になし	4	1	1	-	2	-	2	1

※ 自由回答を集計:件数

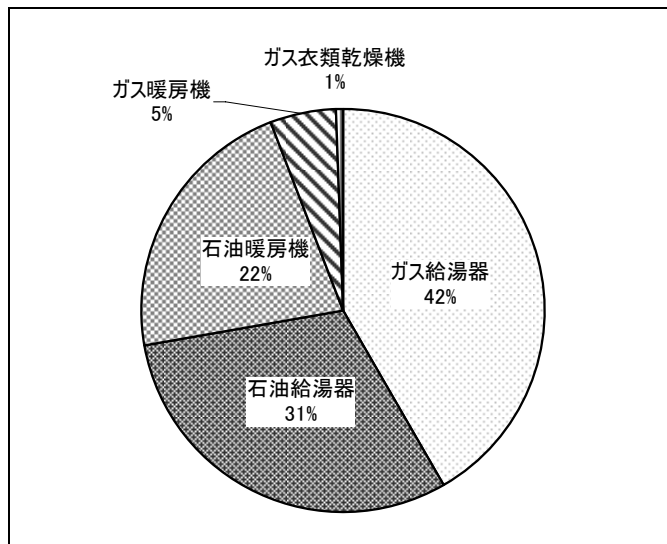
3.2.2 待機時消費電力の概要

(1) 回答機器

a 大区分別

有効機器総数は 950 台であり、その内訳はガス給湯機 395 台(42%)、石油給湯機 291 台(31%)、石油暖房機 208 台(22%)、ガス暖房機 50 台(5%)、ガス衣類乾燥機 6 台(1%)である。

図 3-130 大区分別の機器数割合(ガス石油機器)



b 販売開始年別

販売開始年別の機器数では、2006年が最も多く245台(26%)、続いて2005年が174台(18%)、2004年が148台(16%)であり、3年間の合計で全体の60%を占めている。大区分別では、ガス衣類乾燥機、石油給湯機、ガス給湯機、石油暖房機、ガス暖房機の順に新しい製品が多くなっている。

図 3-131 販売開始年別機器数割合(ガス石油機器)

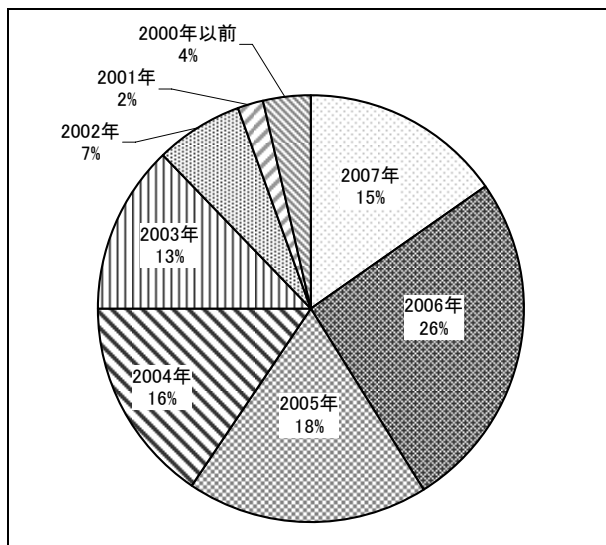
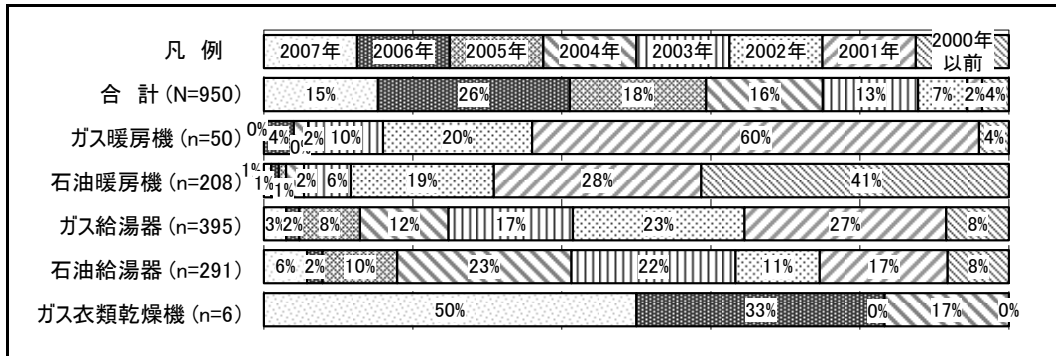


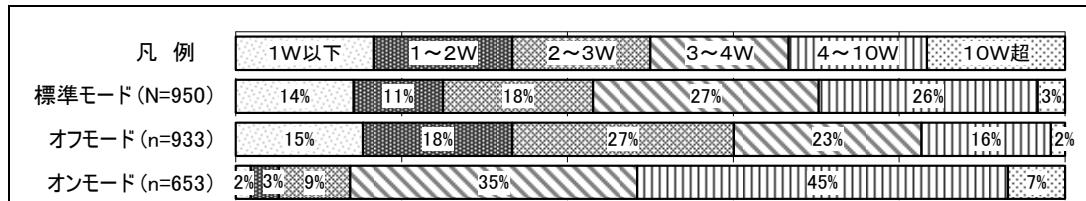
図 3-132 大区別の販売開始年別回答機器数の割合(ガス石油機器)



(2) 待機時消費電力の構成比

a 全体の構成比

図 3-133 待機時消費電力の構成比(ガス石油機器)



b 機器大区分別の構成比

図 3-134 機器大区分別待機時消費電力の構成比<標準モード>(ガス石油機器)

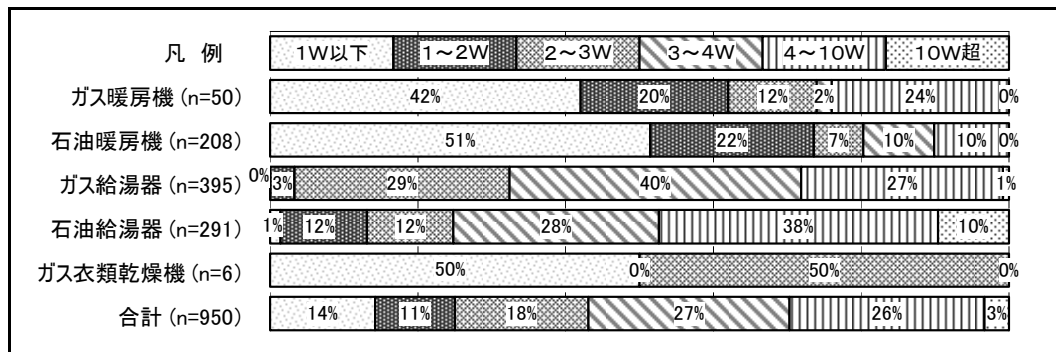


図 3-135 機器大区分別待機時消費電力の構成比<オフモード>(ガス石油機器)

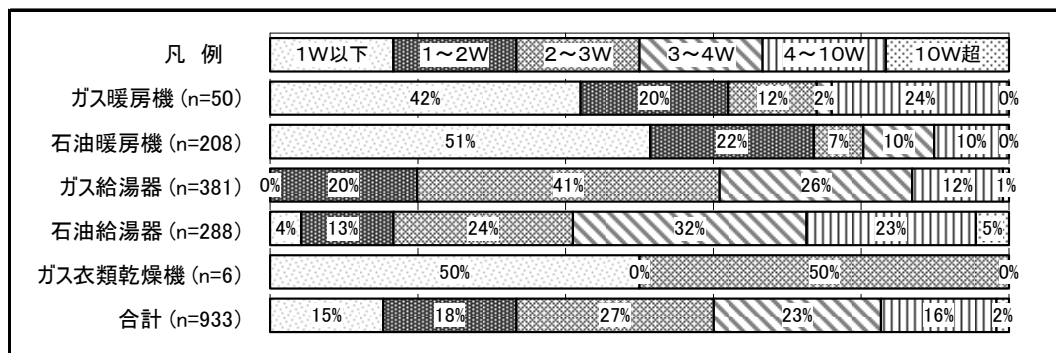


図 3-136 機器大区分別待機時消費電力の構成比<オンモード>(ガス石油機器)

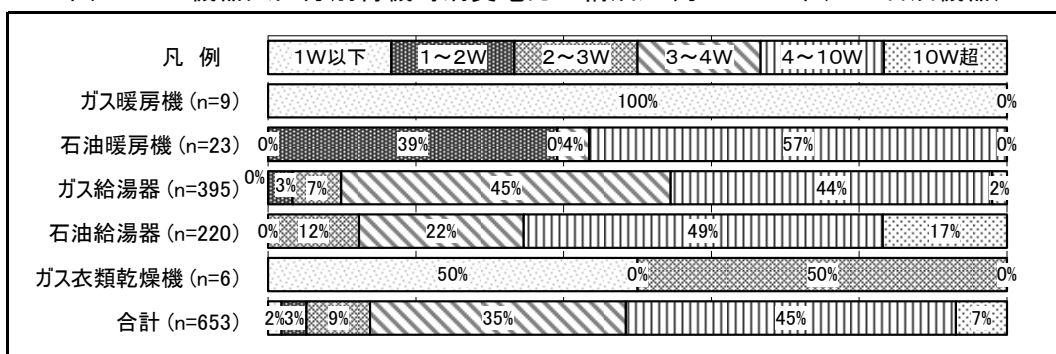


図 3-137 販売開始年別待機時消費電力の構成比<標準モード>(ガス石油機器)

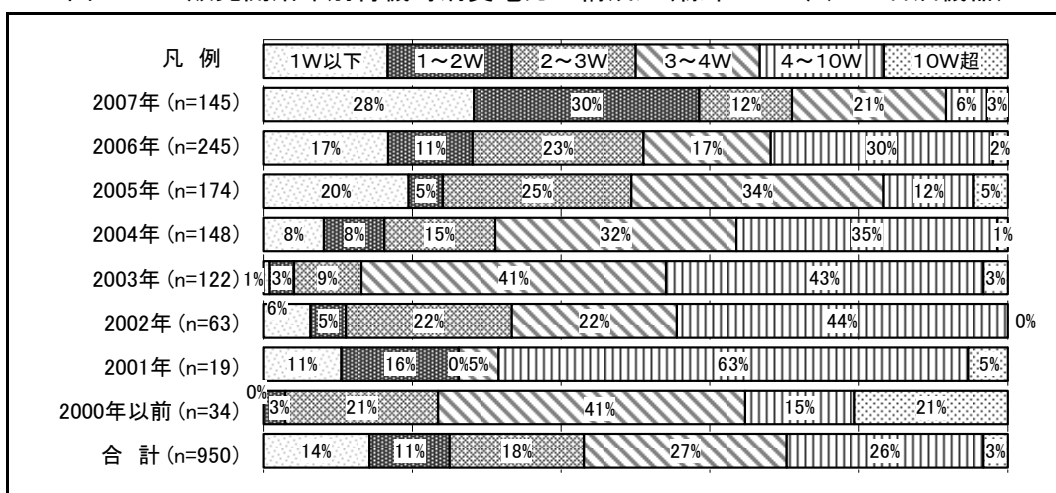


図 3-138 販売開始年別待機時消費電力の構成比<オフモード>(ガス石油機器)

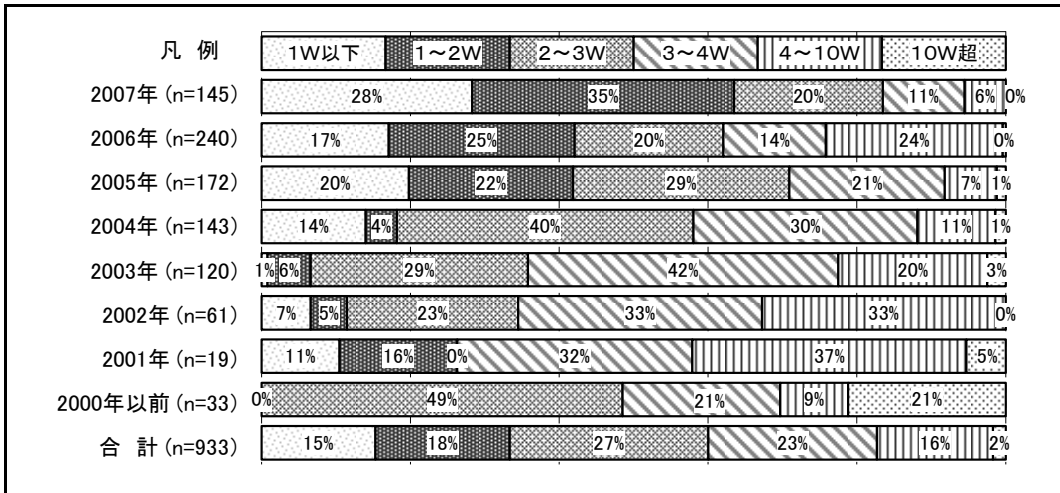
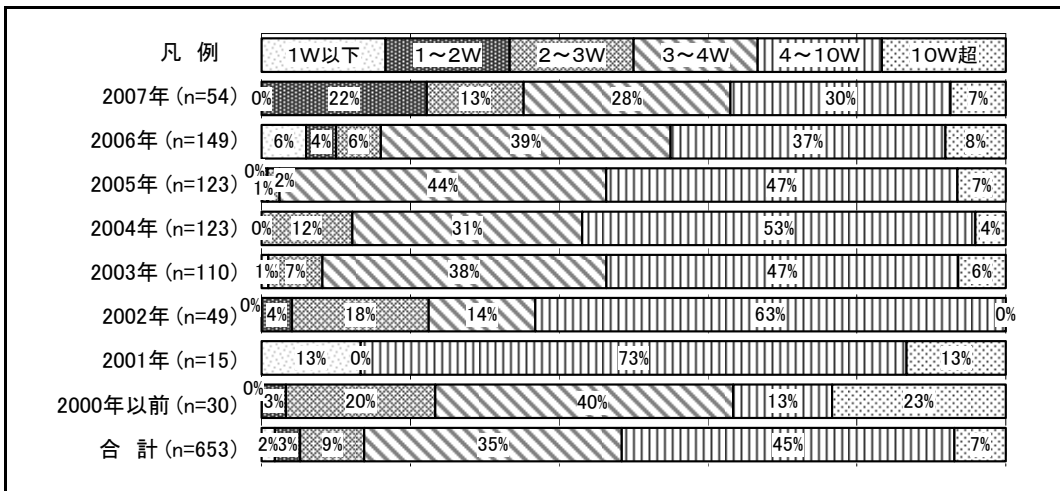


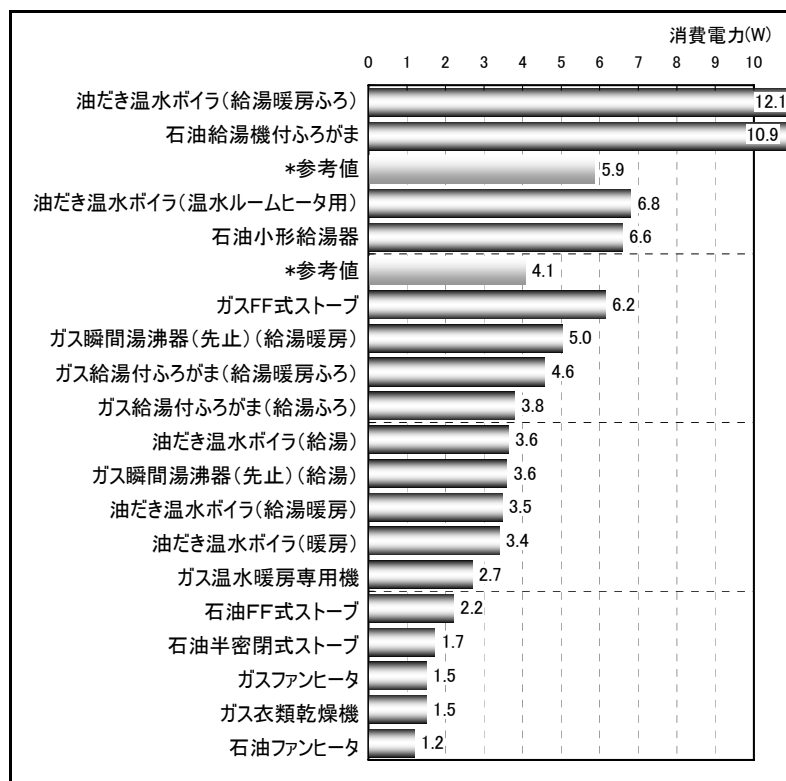
図 3-139 販売開始年別待機時消費電力の構成比<オンモード>(ガス石油機器)



(3) 主要機器の時待機時消費電力(回答数が10件以上の機器)

最も待機時消費電力量(標準モード)が大きい機器は油だき温水ボイラ(給湯暖房ふろ)12.1Wであり、続いて石油給湯付きふろがま 10.9W、油だき温水ボイラ(温水ルームヒータ用)6.8W、石油小型給湯機 6.6W、ガスFF式ストーブ 6.2W などである。

図 3-140 主要機器の待機時消費電力(標準ード)(ガス石油機器)



* 気化式の石油温水機器は灯油を気化するために気化器を一定温度に予熱しておく機能を持つ。気化器の予熱のためには100W程度の電力が必要であり、本調査ではこれらの数値も含めて集計しているが、この予熱のための消費電力を考慮しない場合の値を参考値として示した。燃焼後一定時間(90分程度)が経過すると気化部の保温が自動的にオフされる機能もあり、また、不必要な時にはリモコンをオフにすれば気化部の保温もオフとなる。

図 3-141 主要機器の待機時消費電力<オフモード>(ガス石油機器)

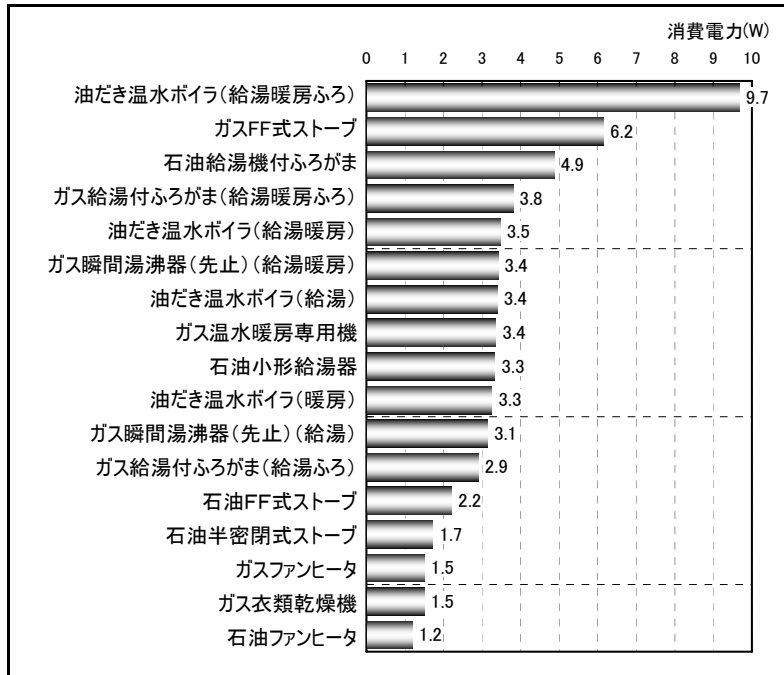
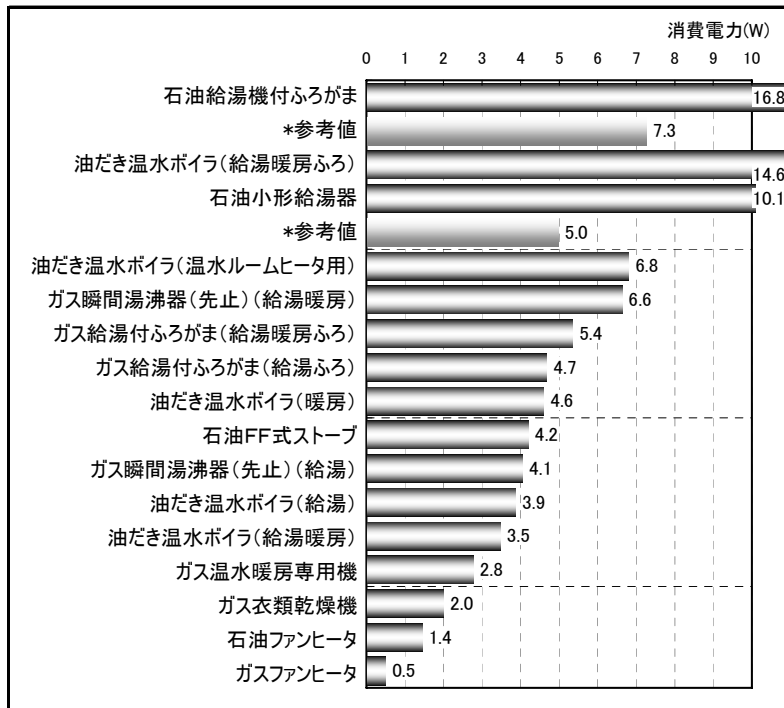


図 3-142 主要機器の待機時消費電力<オンモード>(ガス石油機器)



3.2.3 暖房機器・衣類乾燥機の待機時消費電力

3.2.3.1 販売開始年別 待機時消費電力の構成比

サンプル数がそろそろ 2005 年以降に販売開始された製品で標準モードの推移をみると、2005 年に販売開始されたものは 1W 以下が 2/3 以上を占めたが、2006 年販売開始の製品では 44%となっている。2007 年の販売開始製品になると、前年に比べて 1W 以下、1~2W 以下の割合が増加し、減少傾向にある。

図 3-143 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<標準モード>(暖房機器・衣類乾燥機)

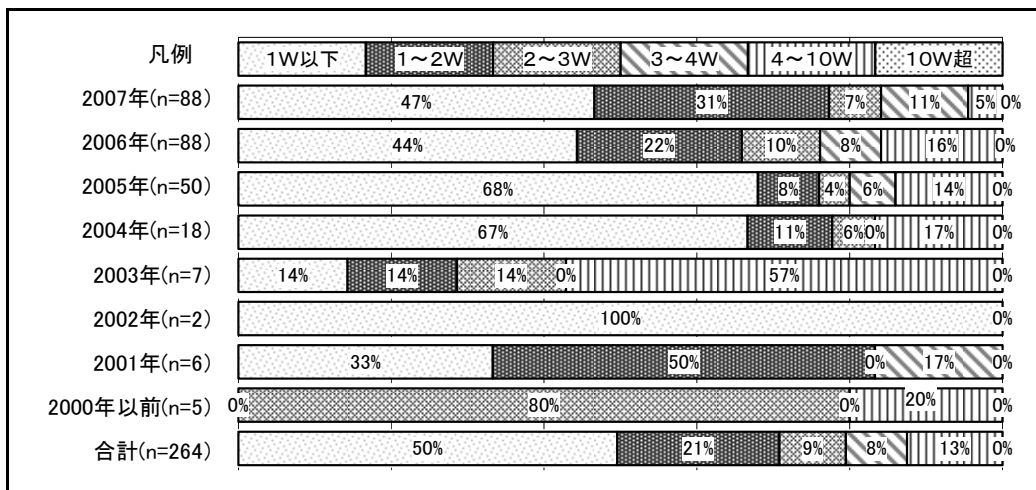


図 3-144 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<オフモード>(暖房機器・衣類乾燥機)

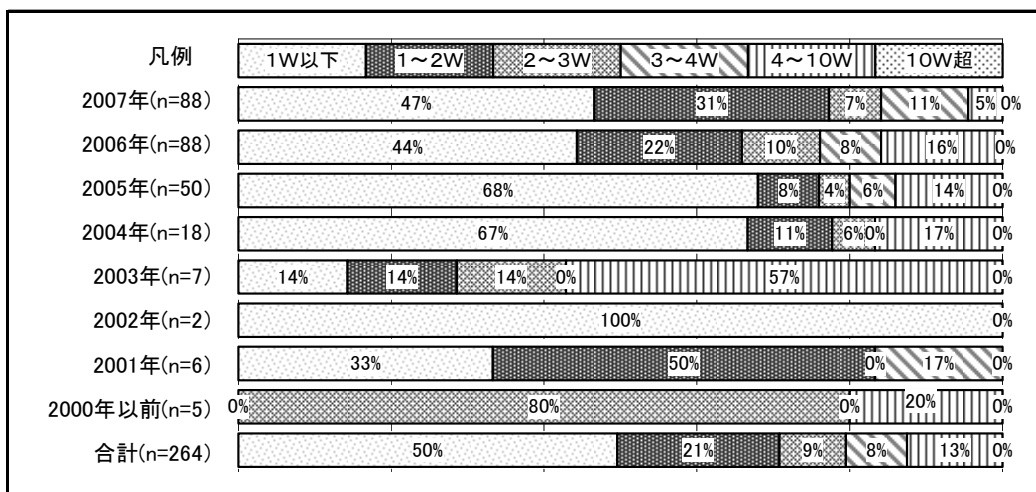
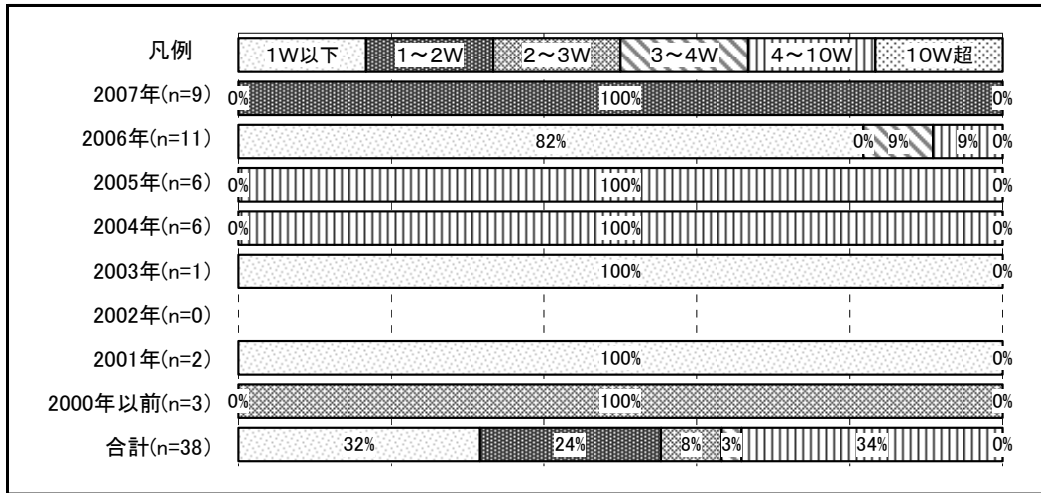


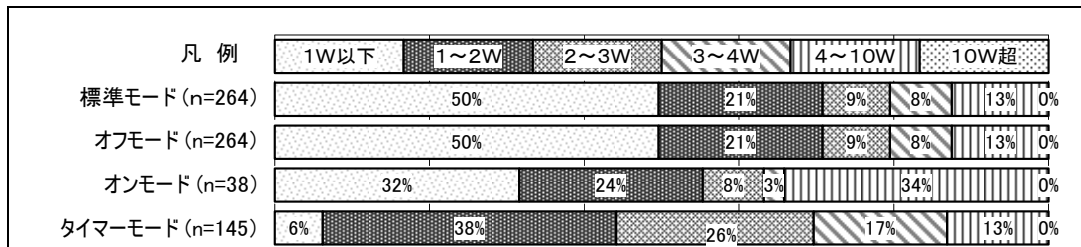
図 3-145 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<オンモード>(暖房機器・衣類乾燥機)



3.2.3.2 モード別 待機時消費電力の構成比

標準モードの待機消費電力の1W以下構成比は50%である。3W以下で全体の約8割を占めている。

図 3-146 モード別 待機時消費電力の構成比(暖房機器・衣類乾燥機)



3.2.3.3 機器別平均待機消費電力

機器別の待機時消費電力(標準モード)はガスFF式ストーブが6.2W、石油FF式ストーブ2.2W等となっている。具体的な待機時消費電力の内容としては、主に「メモリ保持」「トランスロス」などが挙げられている中、「対震装置等の監視」等、安全性に関する機能によるものも見られる。

図 3-147 機器別平均待機時消費電力(標準モード)(暖房機器・衣類乾燥機)

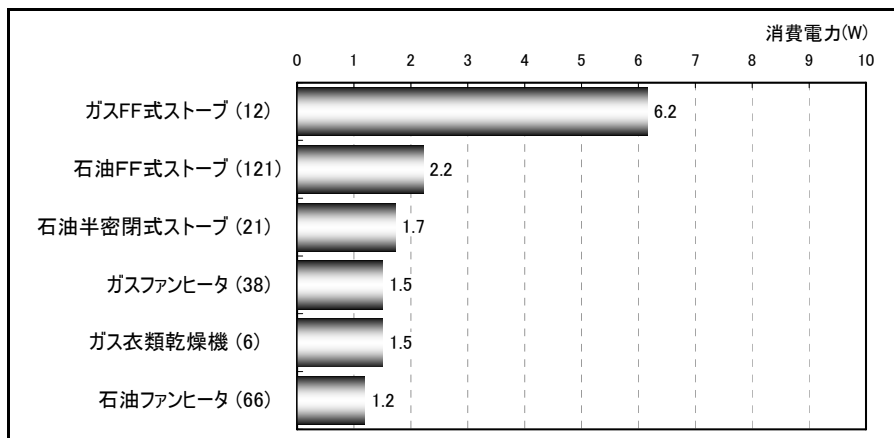


図 3-148 機器別平均待機時消費電力(オフモード)(暖房機器・衣類乾燥機)

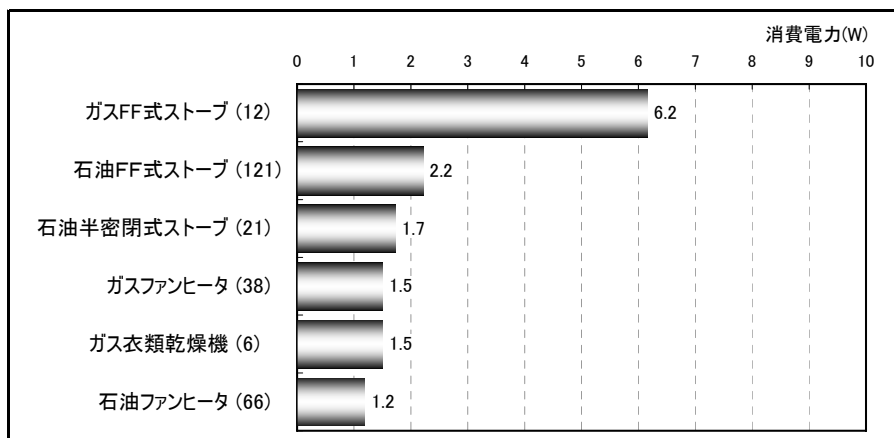
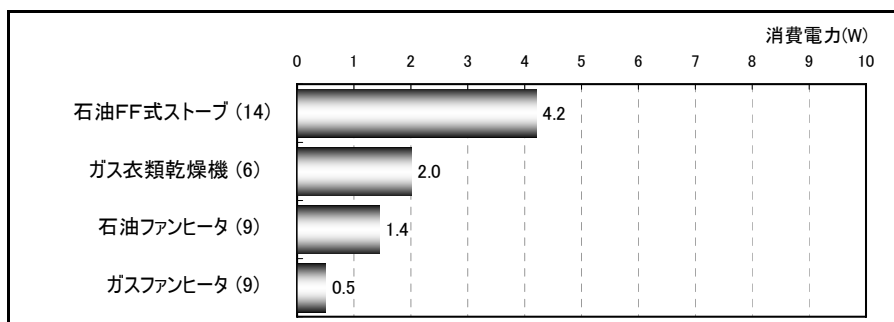


図 3-149 機器別平均待機時消費電力(オンモード)(暖房機器・衣類乾燥機)



3.2.4 ガス給湯機器の待機時消費電力

3.2.4.1 販売開始年別 待機時消費電力の構成比

2005年以降に販売開始された製品で標準モードの推移をみると、2005年製品から2W以下と3～4Wの製品が増加している。これは、機器構成(リモコン数)などにより待機時消費電力の自主目標値が異なるためと考えられる。

図 3-150 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<標準モード>(ガス給湯機器)

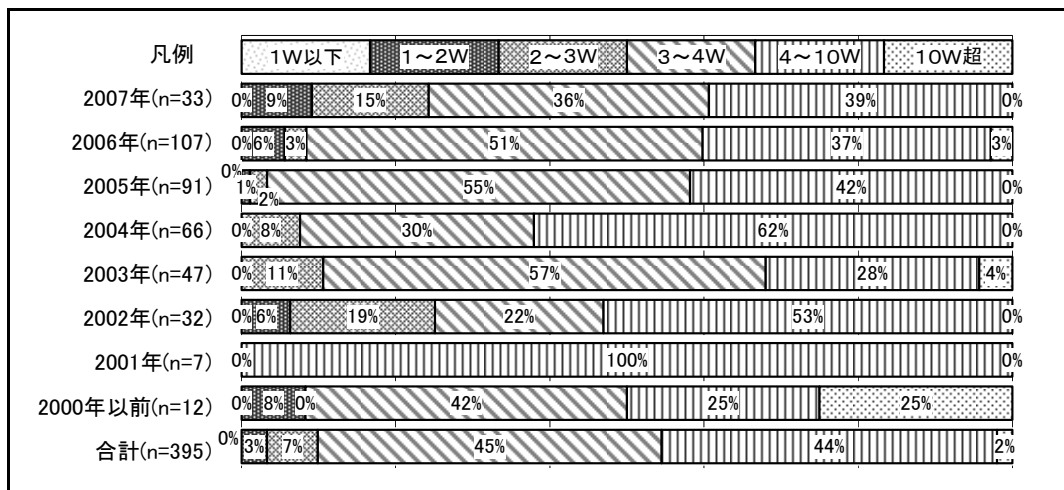


図 3-151 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<オフモード>(ガス給湯機器)

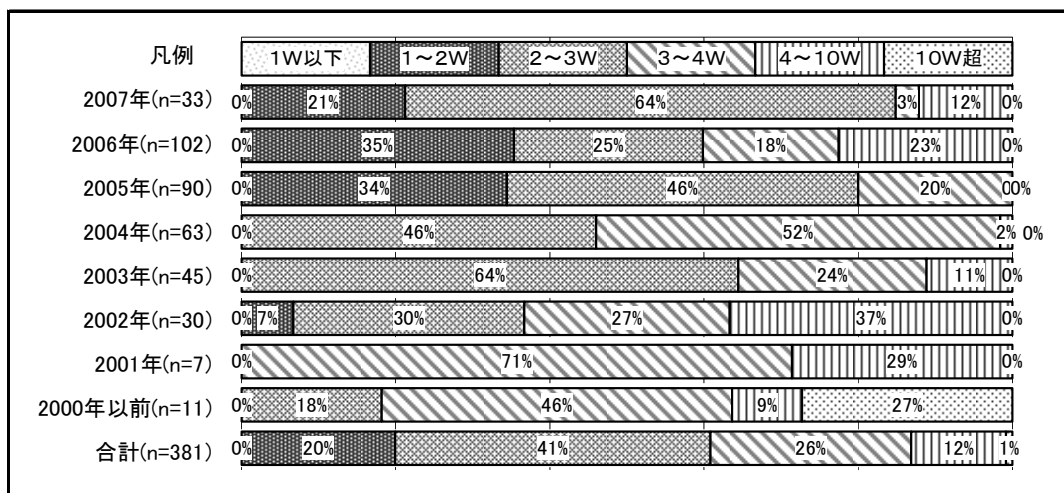
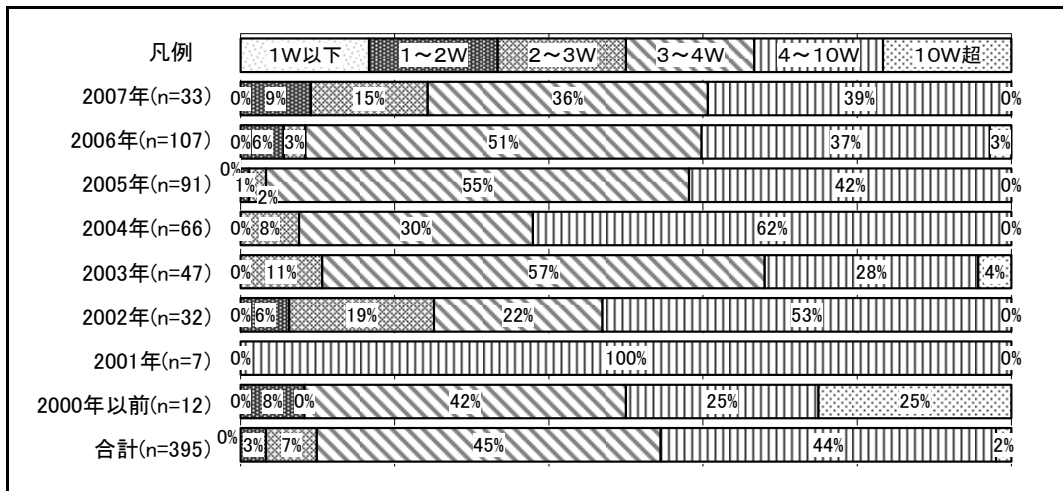


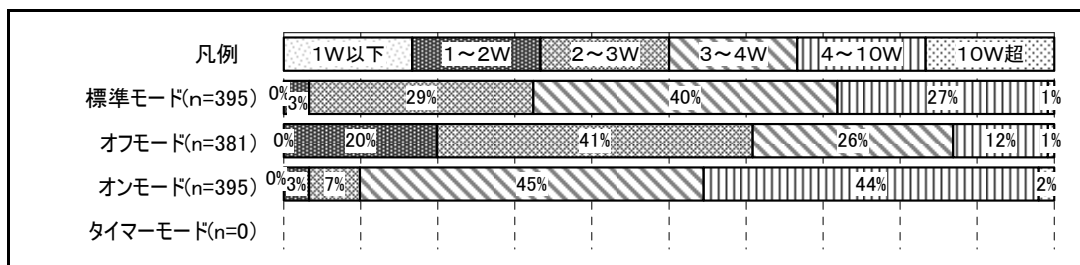
図 3-152 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<オンモード>(ガス給湯機器)



3.2.4.2 モード別 待機時消費電力の構成比

標準モードの待機時消費電力は4W以下の機器が全体の約7割を占めている。タイマーモードについての回答は無かった(n=0)。

図 3-153 モード別 待機時消費電力の構成比(ガス給湯機器)



3.2.4.3 機器別平均待機消費電力

機器別の待機時消費電力(標準モード)はガス瞬間湯沸器(先止)(給湯暖房)が 5.0W、ガス給湯付ふろがま(給湯暖房ふろ)4.6W、ガス給湯付ふろがま(給湯ふろ)3.8W 等となっている。

図 3-154 機器別平均待機時消費電力<標準モード>(ガス給湯機器)

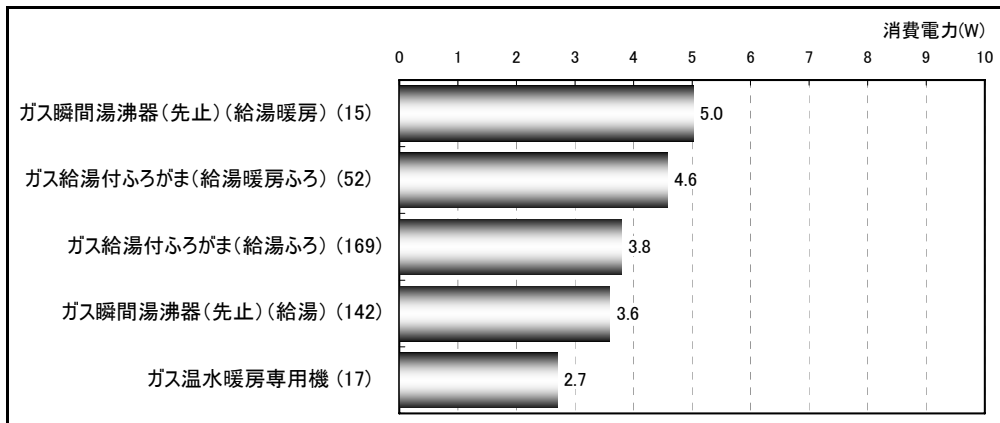


図 3-155 機器別平均待機時消費電力<オフモード>(ガス給湯機器)

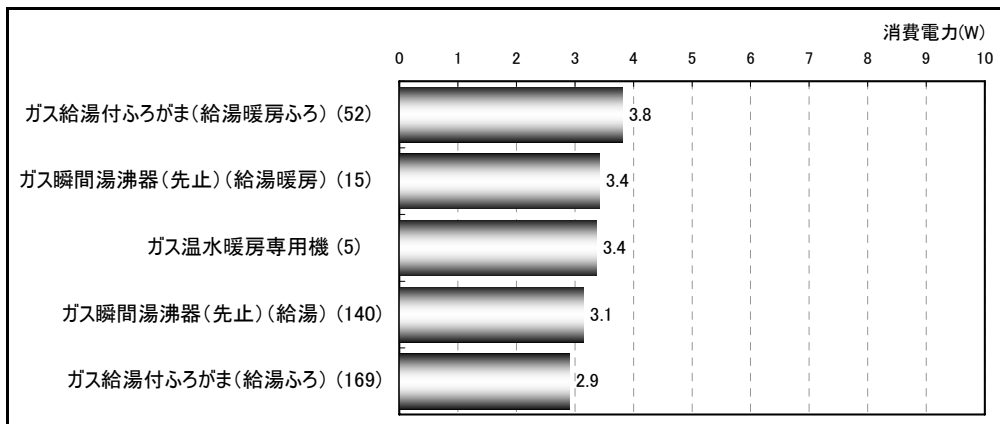
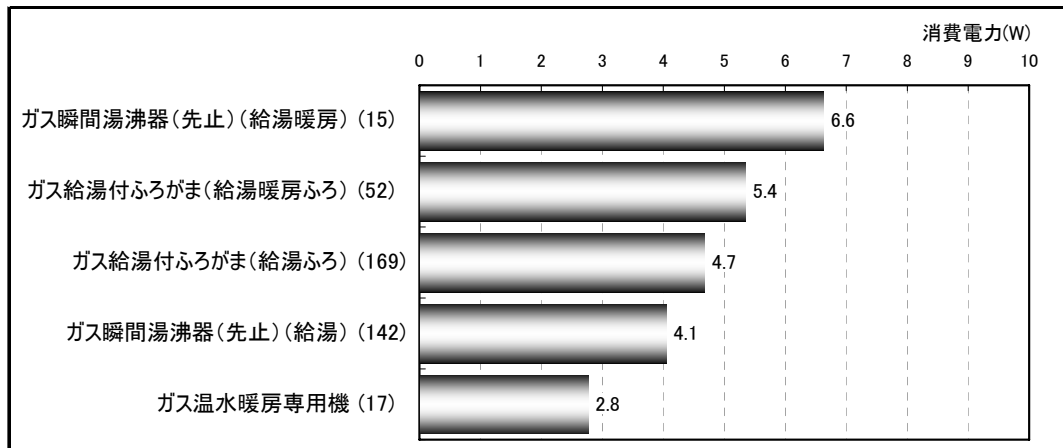


図 3-156 機器別平均待機時消費電力<オンモード>(ガス給湯機器)



3.2.5 石油給湯機器の待機時消費電力

3.2.5.1 販売開始年別 待機時消費電力の構成比

標準モードの推移をみると、2007年に販売開始された製品で、1~2Wの製品の構成比が大幅に増加している。

図 3-157 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<標準モード>(石油給湯機器)

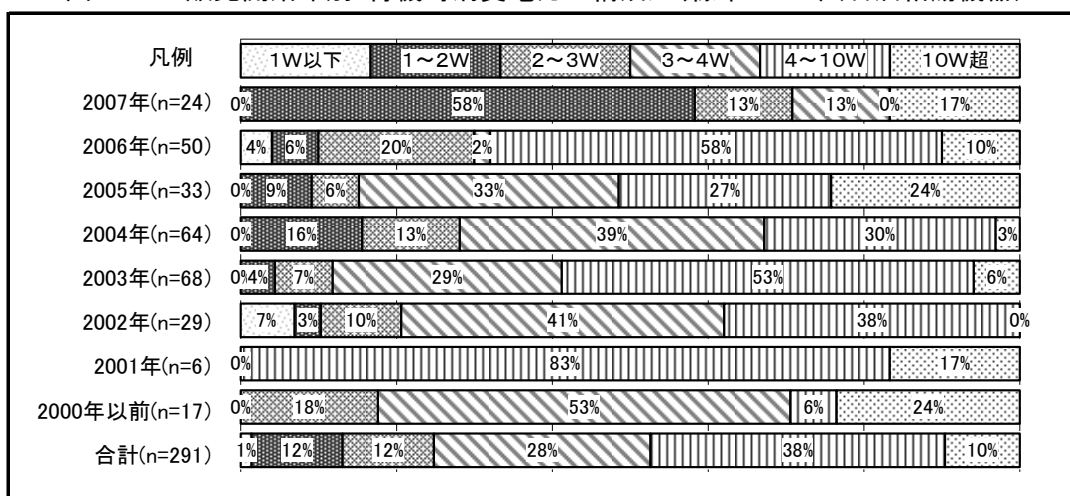


図 3-158 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<オフモード>(石油給湯機器)

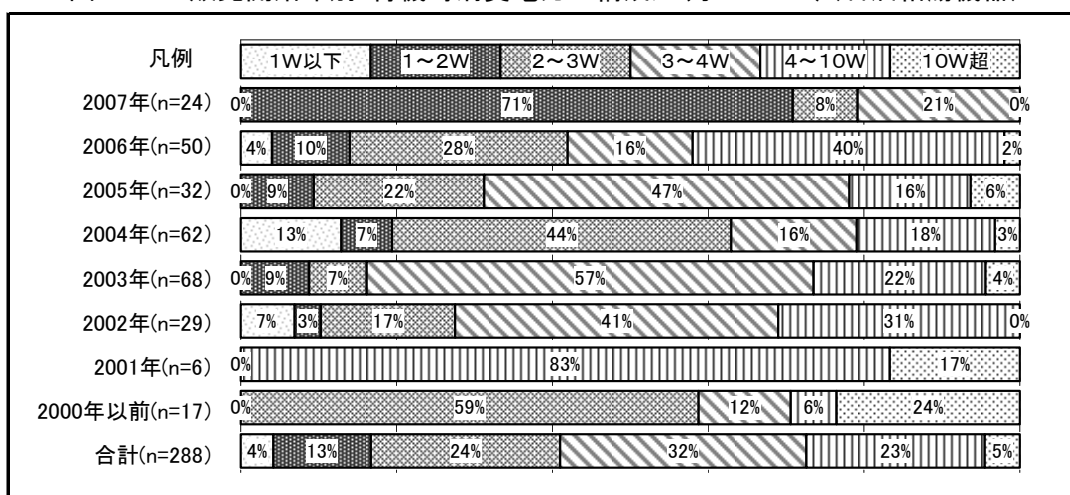
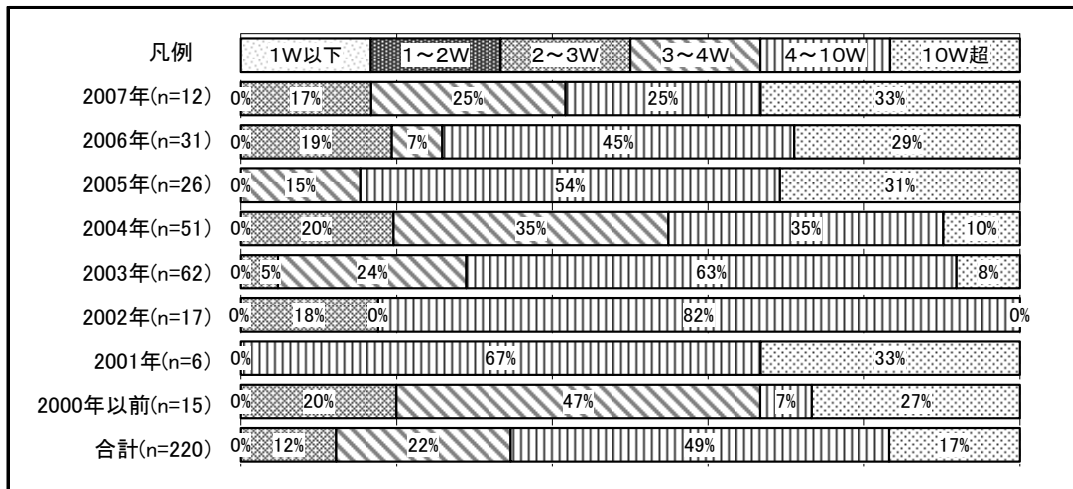


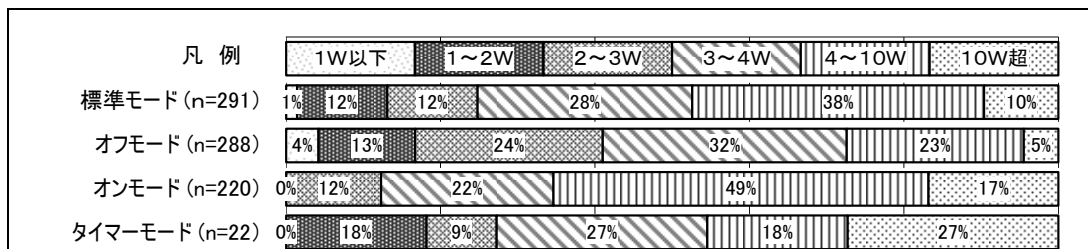
図 3-159 販売開始年別 待機時消費電力の構成比<オンモード>(石油給湯機器)



3.2.5.2 モード別 待機時消費電力の構成比

標準モードの待機時消費電力では4W以下の機器が全体の過半数を占めている。

図 3-160 モード別 待機時消費電力の構成比(石油給湯機器)



3.2.5.3 機器別平均待機消費電力

機器別の待機時消費電力(標準モード)は油だき温水ボイラ(給湯暖房ふろ)が 12.1W、石油給湯器付ふろがま 10.9W、油だき温水ボイラ(温水ルームヒータ用)6.8W、石油小形給湯器 6.6W 等となっている。なお、気化式の石油温水機器には灯油を気化するための電力(100W 程度)が必要であり、平均値にはこれらの数値も含まれている。なお、参考値にはこの予熱のための消費電力を除いた場合の値を示した。これらの機器には燃焼終了後一定時間(90 分程度)が経過すると気化部の保温が自動的にオフされる機能もあり、また、不必要な時にはリモコンをオフ(オフモード)にすれば気化部の保温もオフとなる。

図 3-161 機器別平均待機時消費電力(標準モード)(石油給湯機器)

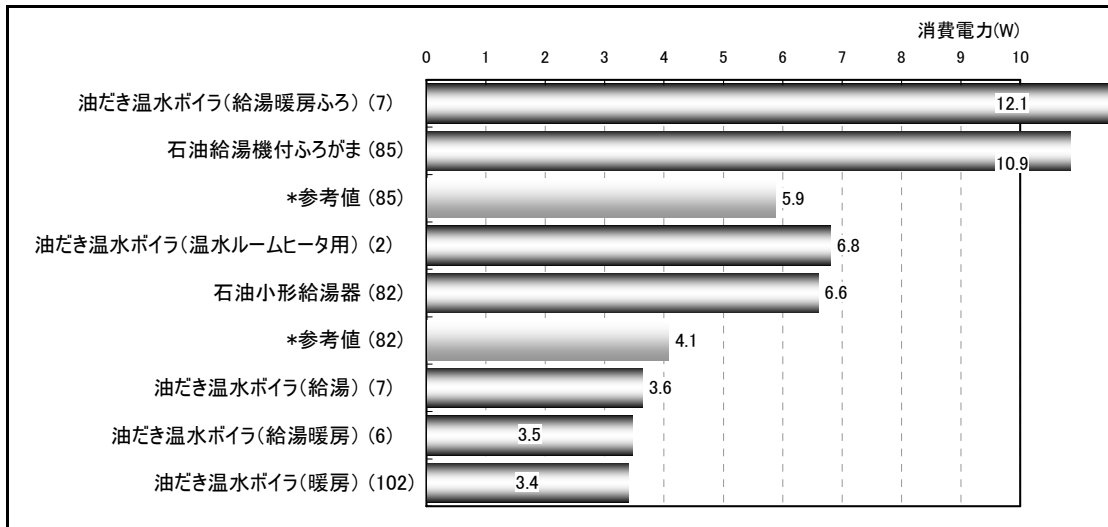


図 3-162 機器別平均待機時消費電力(オフモード)(石油給湯機器)

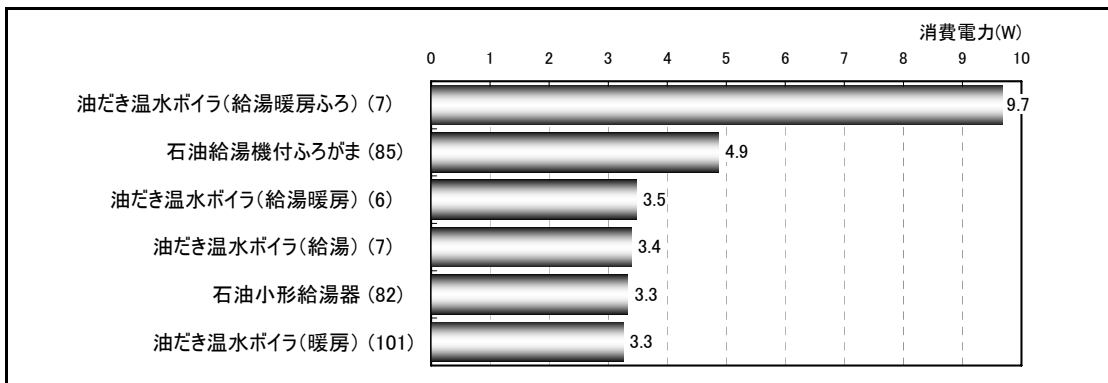
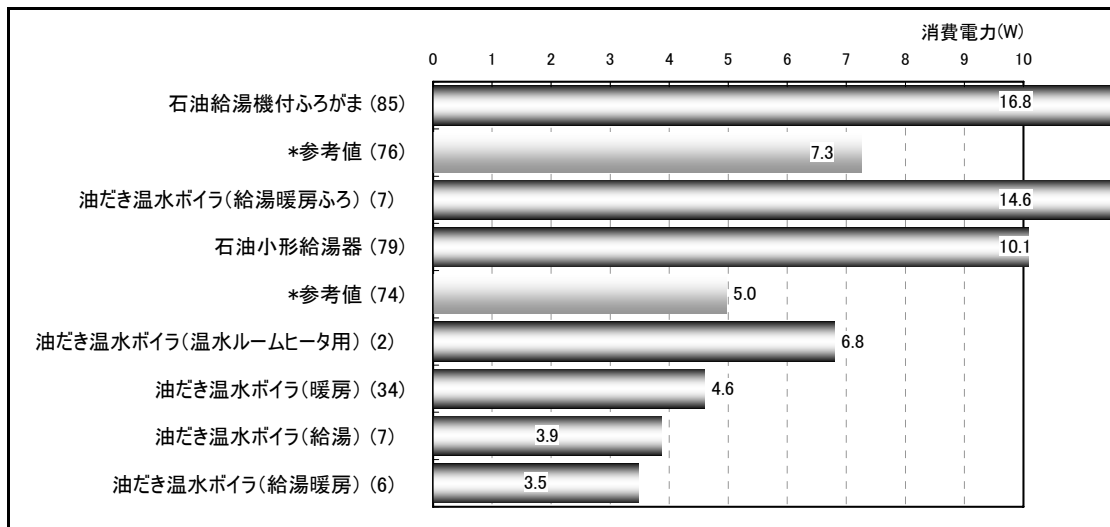


図 3-163 機器別平均待機時消費電力<オンモード>(石油給湯機器)



3.2.5.4 主要機器別の待機時消費電力

i ガス給湯器

表 3-18 タイプ別 モードの有無割合 (ガス給湯器)

	電源スイッチ有	リモコン有	タイマー有	省エネモードへの自動移行有	(%)
ガス瞬間湯沸器(先止)(給湯) (n=115)	98.3	-	-	52.2	
ガス瞬間湯沸器(先止)(給湯暖房) (n=15)	100.0	-	-	60.0	
ガス瞬間湯沸器(先止)(暖房) (n=44)	72.7	-	-	50.0	
ガス給湯付ふろがま(給湯ふろ) (n=169)	100.0	-	-	79.3	
ガス給湯付ふろがま(給湯暖房ふろ) (n=52)	100.0	-	-	73.1	

a モード別 平均待機時消費電力

図 3-164 モード別 平均待機時消費電力(ガス給湯器)

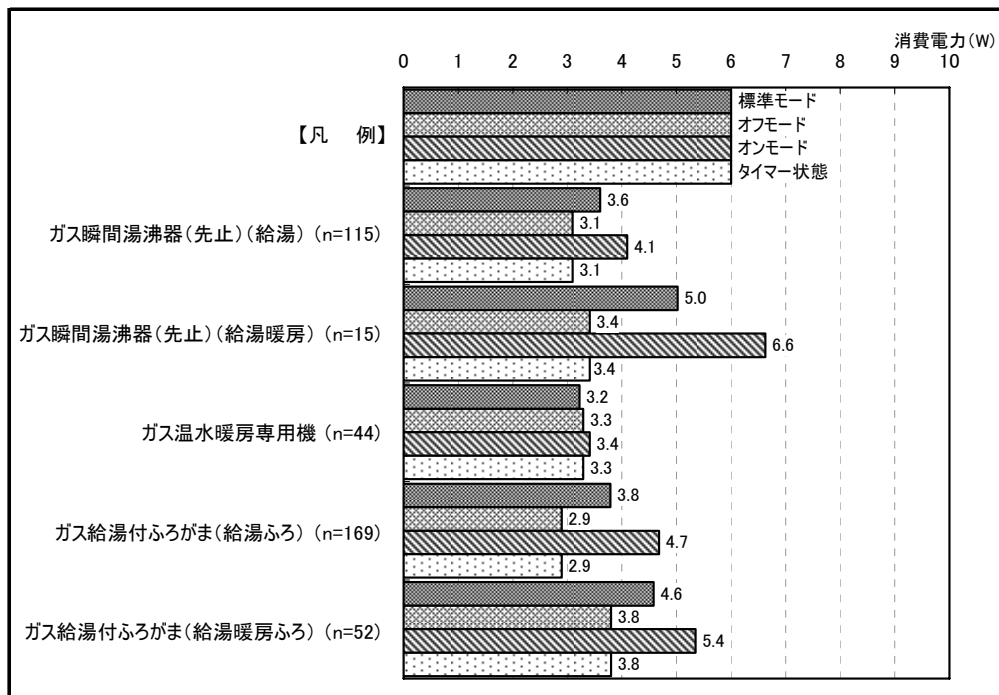


図 3-165 タイプ別待機時消費電力の構成比(標準モード)(ガス給湯器)

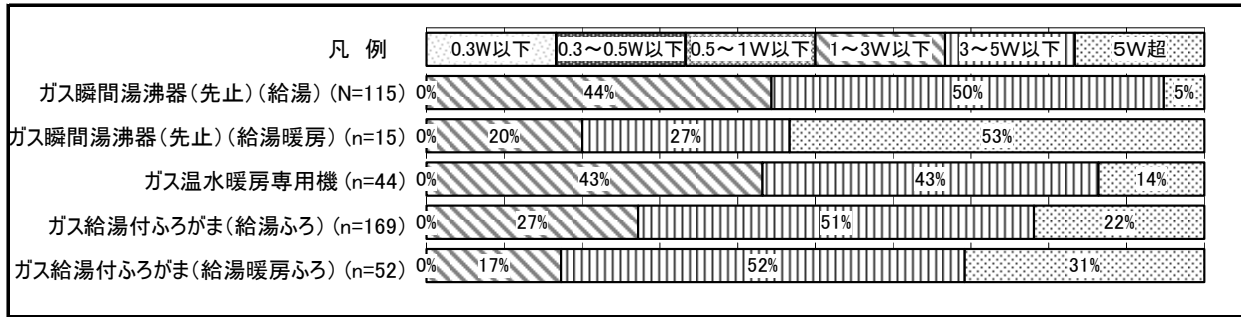
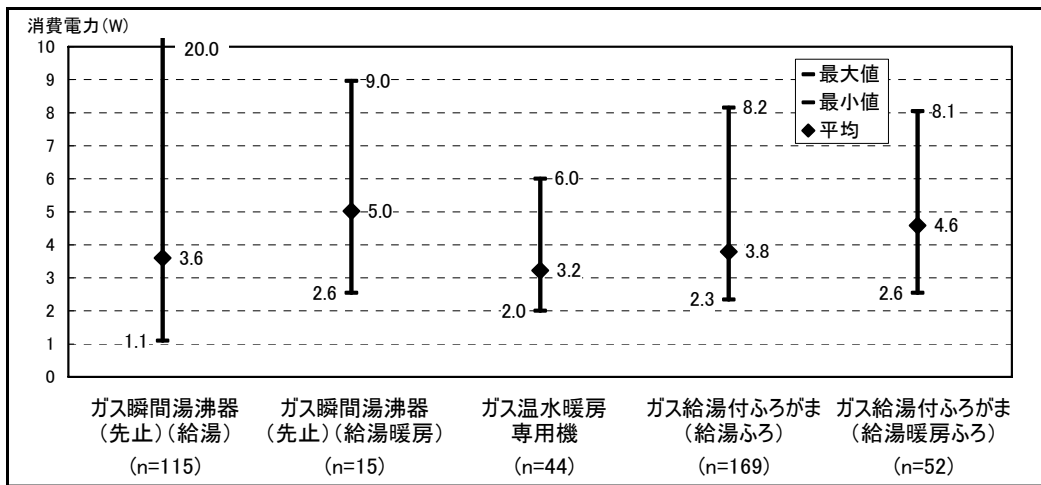


図 3-166 タイプ別 待機時消費電力の分布(標準モード)(ガス給湯器)



e 販売開始年別 待機時消費電力(標準モード)

販売開始年別に待機時消費電力(標準モード)を見ると、最大値・最小値の幅や推移にバラツキはあるが、販売開始年が新しいほど平均値が小さくなる傾向が見られる。

図 3-167 販売開始年別 待機時消費電力の分布(標準モード)(ガス給湯器)

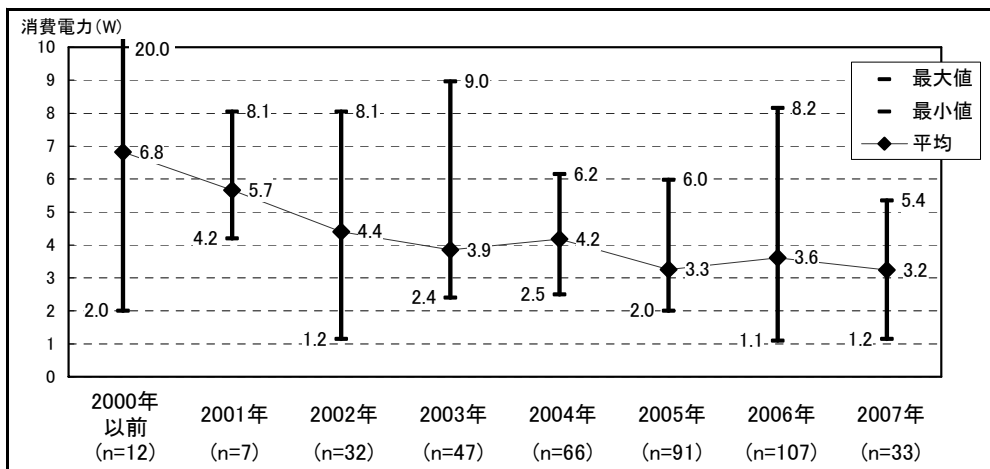
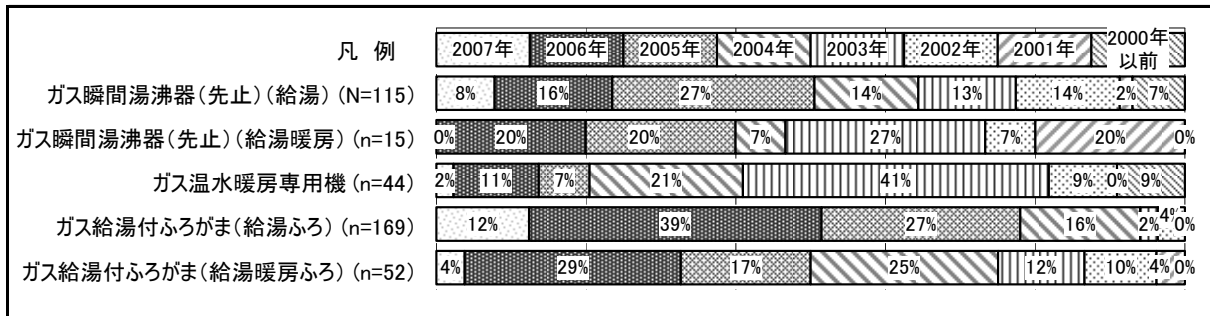


図 3-168 タイプ別 販売開始年別 構成比(ガス給湯器)



3.3 過去調査との比較

3.3.1 家電製品

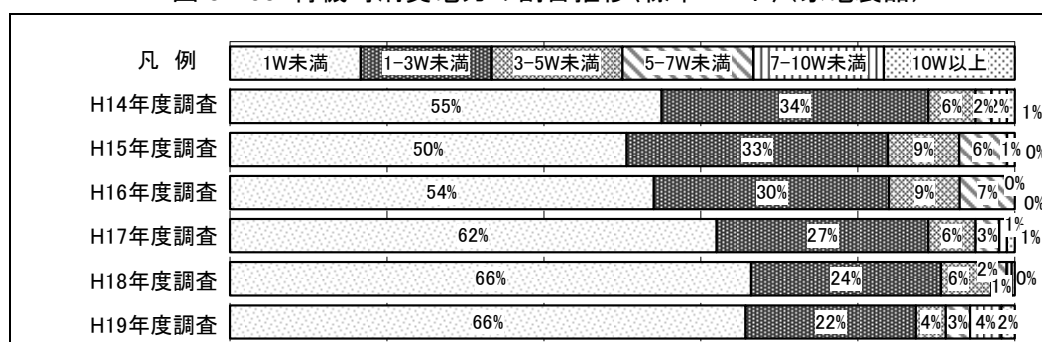
(1) 待機時消費電力の割合推移<標準モード>

過去6年間の調査結果と本年度の調査結果を比較する。

待機時消費電力割合を経年で比較すると、平成14年度に55%であった1W未満の割合は、本年度は66%となった。一方で1-3W未満の割合は34%から22%まで徐々に縮小していることから、1-3W未満の製品が1W未満に削減されてきたことが推察される。

昨年度までには、1W未満と1-3W未満の割合の合計は88%から90%まで増加し、全体の傾向として待機時消費電力が削減されてきたが、昨年度と本年度で、1W未満と1-3W未満の割合の合計は90%から88%とやや減少しているものの、ほぼ前年レベルを維持している。

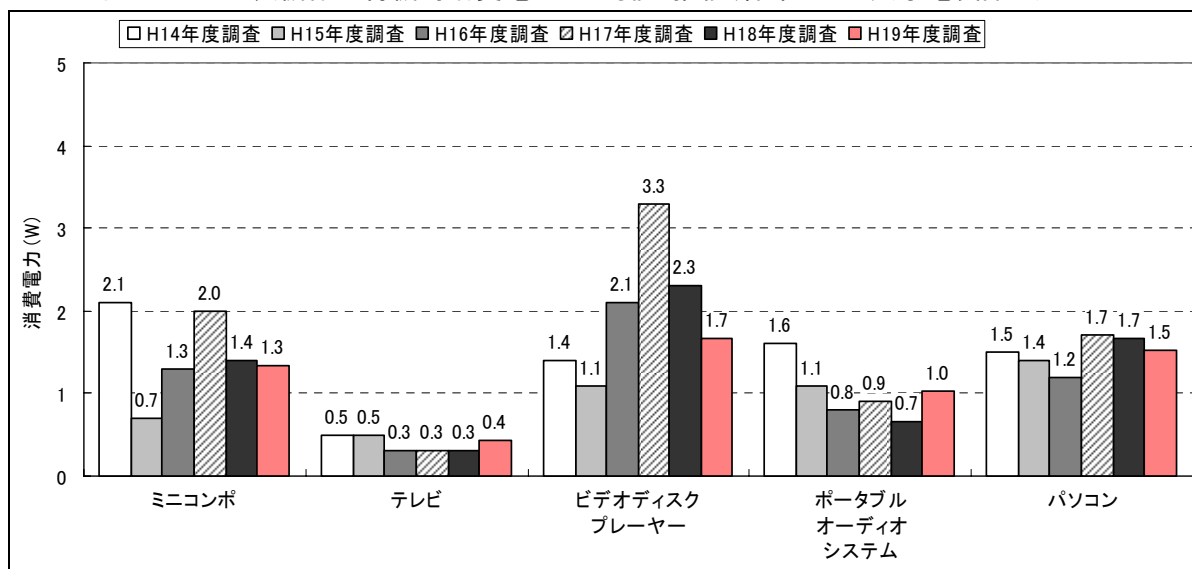
図 3-169 待機時消費電力の割合推移<標準モード>(家電製品)



(2) 代表機器の待機時消費電力 平均値 推移<標準モード>

代表機器の待機時消費電力の推移を見ると、ミニコンポ、ビデオディスクプレーヤー、パソコンについては順調に削減が進んできていることが分かる。テレビについては小さな数値レベルで安定化傾向にある、とみられる。

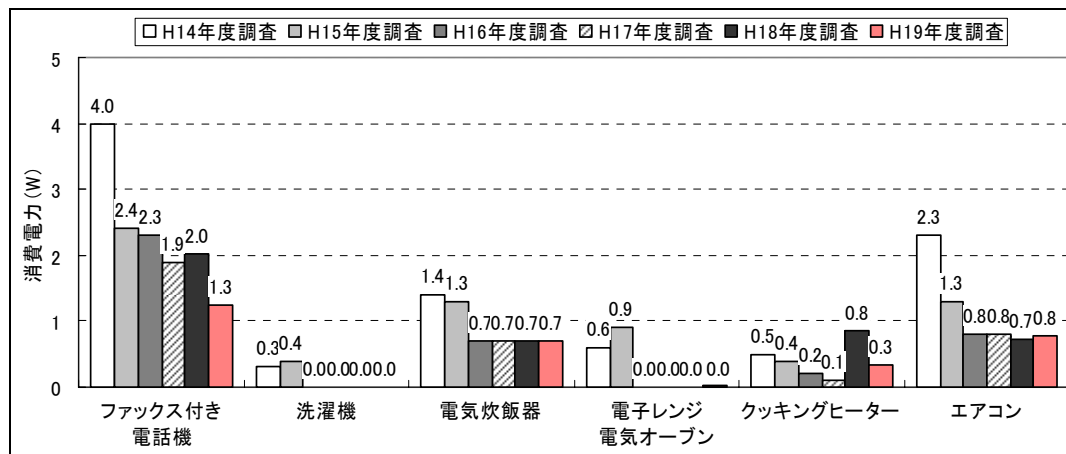
図 3-170 代表機器の待機時消費電力 平均値 推移<標準モード>(家電製品-1)



* H19年度は、「HDD/DVDプレーヤルコーダ」「ポータブルオーディオシステム」「デスクトップパソコン一体型」の数値

ファックス付き電話、電気炊飯器では平成14年度と比較し約1/3、エアコンでは1/3以下と、待機時消費電力の顕著に削減が進んでいる。また、洗濯機、電子レンジ・電気オーブンでは平成16年度より待機時消費電力0Wを実現している。

図 3-171 代表機器の待機時消費電力 平均値 推移(標準モード)(家電製品-2)



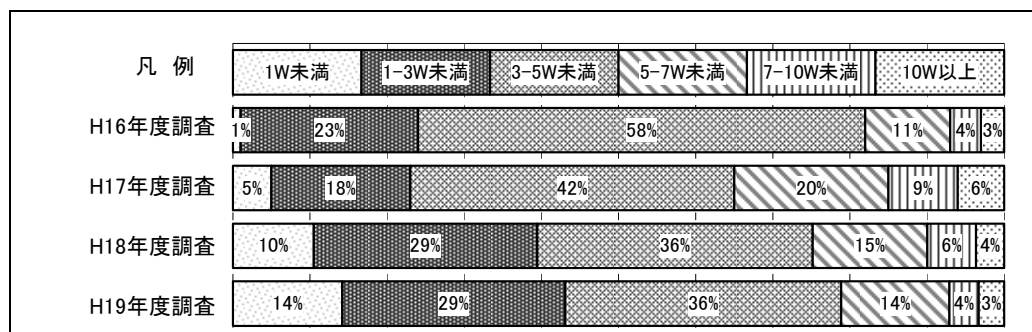
* H19年度調査は「電子レンジ、電子オーブンレンジ、電気オーブン」の合算

3.3.2 ガス・石油製品

(1) 待機時消費電力の割合推移<標準モード>

ガス・石油機器においては平成16年度調査からの調査結果を本年度結果と比較する。平成16年度では1%であった1W未満の製品割合は、昨年度10%、本年度では14%と順調に割合を増していることが分かる。また、1-3W未満の割合についても23%から29%と伸びており、1W未満と合わせると24%から42%まで大きくなっている。一方で10W以上の割合には、大きな変化は見られない

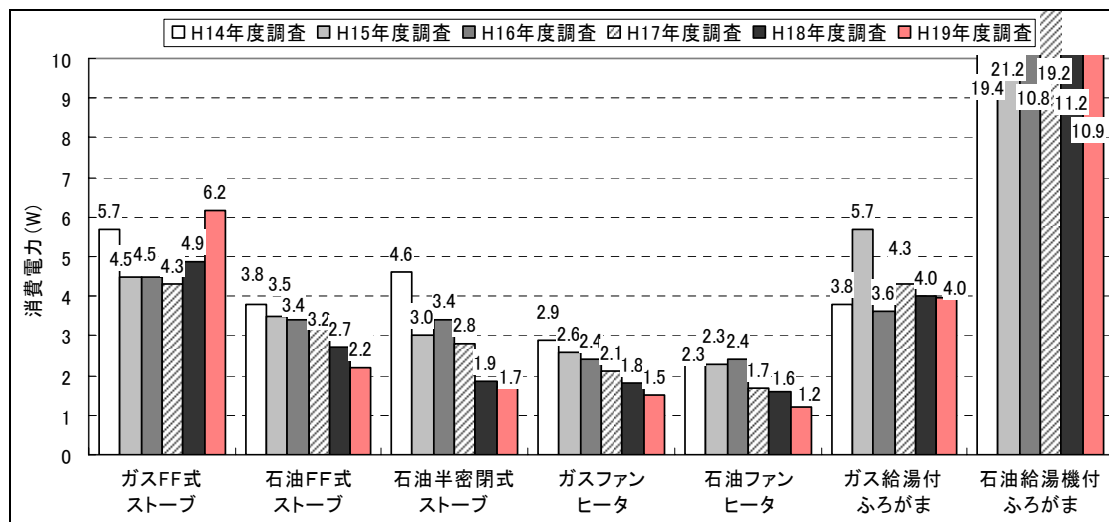
図 3-172 待機時消費電力の割合推移<標準モード>(ガス・石油製品)



(2) 代表機器の待機時消費電力 平均値 推移<標準モード>

代表機器の待機時消費電力平均値の推移を見ると、石油FF式ストーブ、石油半密閉式ストーブ、ガスファンヒータ、石油ファンヒータで順調に消費電力の減少が進んでいることが見て取れる。また、他の機器でも年度による増減は見られるが、全体の傾向としては削減が進みつつあることが分かる。

図 3-173 代表機器の待機時消費電力 平均値 推移<標準モード>(ガス・石油製品)

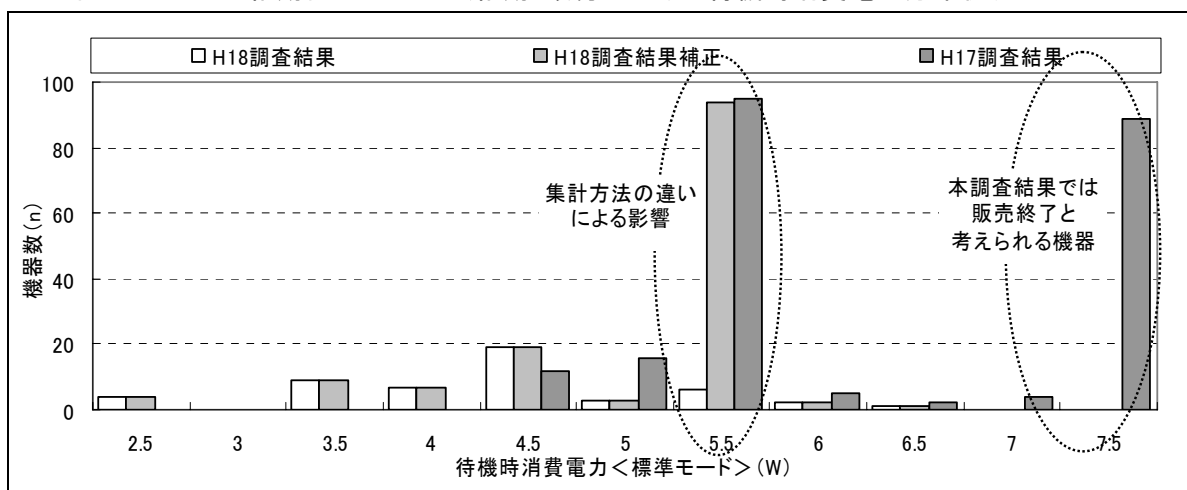


(3) ガス給湯付きふろがま(給湯・暖房・ふろ)の待機時消費電力分布状況

平成 18 年度以降の調査では、ガス石油機器の OEM 製品や派生型式等については調査対象外としたため、集計数が減少している。以下に平成 18 年度調査で考察した待機時消費電力平均値への影響について再掲する。

標準モードの集計数が平成 17 年度調査の 224 件から平成 18 年度調査の 52 件に減少したガス給湯付きふろがま(給湯・暖房・ふろ)について、OEM 製品等の追加による補正を試みたところ、待機時消費電力<標準モード>平均値 4.3W が 4.9W と推計された。これは 5.5W 程度の OEM 製品が追加されたためであるが、平成 17 年度調査で見られた 7.5W 程度の機器は販売終了したと考えられる。同様の補正により、石油小型給湯機は 6.8W が 8.1W に、石油給湯付きふろがまは 11.2W が 12.5W と推計された。

図 3-174 ガス給湯付きふろがま(給湯・暖房・ふろ)の待機時消費電力分布状況



3.4 機器別ヒヤリング調査

3.4.1 ヒートポンプ給湯機

協力：株式会社日立ハウステック

(1)ヒートポンプ給湯機の現状

家庭用自然冷媒(CO₂)ヒートポンプ給湯機は、2001年5月に世界で初めて商品化され、2007年9月時点で(社)日本冷凍空調工業会会員会社からの国内総出荷台数が100万台となった。2008年1月現在の月産出荷台数は35,000台程度である。

①動作原理

ヒートポンプ給湯機は、エアコンの暖房と同じ原理で室外の空気から熱を汲みあげて湯を沸かし、タンクに貯め、使用者の要望に応じて給湯を行う。主として、エアコンの室外機に相当する「ヒートポンプユニット」と、貯湯タンクを含む「貯湯タンクユニット」で構成されている。

ヒートポンプ給湯機は熱を運ぶための動力として電力を使い、外気から熱を汲みあげ、貯湯タンクにお湯を貯める。ヒートポンプ給湯機を運転するために使う電力(エネルギー)に対するヒートポンプで沸かした熱(エネルギー)の比率をCOP(Coefficient of Performance:成績係数)といい、例えば、消費電力1.2kWで加熱能力4.5kWを出すヒートポンプ給湯機のCOPは、 $4.5 \div 1.2 \div 3.7$ となる。発電のために化石燃料を使ったとして、発電所の効率を37%程度、COPが3.7の場合で単純計算すると、湯を得る効果を100とすれば燃料は73となる。ヒートポンプで電気を3倍程度以上に活かすことにより、燃料を直接燃焼させて湯を得るより、小さなエネルギー消費で給湯をまかなえることになる。

②機能・動作状況

主流製品は、通常の給湯機と同様に給湯および追い炊きの機能を持つものと、給湯単機能のものである。また、ミスト機能や浴室換気乾燥機をセットとした製品もある。200V電源を使用し、通常「運転スイッチ」は存在せず、常に給湯操作待ち状態となっている。また、数日以上留守に対して利用できる「休止モード」があり、これにより毎日夜間等に行っている「沸き上げ」を停止する。休止モードではこの沸き上げを行わないこと以外には状況に変化は無い。

タンク容量には3~5人を想定した370リットルや、4~8人の460リットルがあり、設置場所を考慮した薄型タンクや、寒冷地仕様(I~II地域、外気温が-10℃を下まわる地域)の製品なども存在する。給湯時は給水圧を利用し、弁制御(モータ)のみ稼働するため20W程度、追い炊き時はポンプ駆動により100W程度の電力を消費する。

③凍結予防機能

凍結予防にはその部位に応じて3種類の方法が存在する。タンクユニット内配管の凍結予防の場合、凍結予防ヒータが稼働し、80W程度の電力を消費する。ヒートポンプとタンクユニット間の配管の凍結予防の場合は、コンプレッサーを稼働させバイパス配管循環を行う。よって、沸き上げと同程度の電力を消費する。また、追い炊きシステムの凍結防止には、お風呂の水を循環させて対応している。よってこの場合は、追い炊き時と同程度の電力を消費する。

④待機時の状況

待機状態(給湯待ちで沸き上げを行っていない状態)では、1)リモコン、2)タンク内の湯量を確認するための「タンク温度センサ」、3)給湯開始を確認するための流量センサ、等の機能を保持、命令待ちするためにヒートポンプユニットに存在する制御基板への通電を行っている。

(2)消費電力削減への取り組み

ガス給湯機は、例えばリモコン2つの給湯・追い炊きタイプで4W以下、という待機時消費電力の目標値を定めている。この取り組みを参考にして、ヒートポンプ給湯機でも様々な取り組みを行っており、待機時消費電力は3年前の10Wから5W程度（リモコン表示部のオフ時）まで削減されてきている。

トランスからスイッチング電源への変更、各モータの消費電力の削減などを行っている。また、稼動時を含めればヒートポンプユニットのCOPは3年前の4.2から4.9へ改善され、ハード面

でも以下のような対応が実施されている。

- ・ 追い炊き時にプレート式熱交換機を利用した熱交換効率の向上
- ・ 発泡系断熱材(エクспанデッドポリスチレン)の採用による保温性能の向上
- ・ 液晶リモコンの採用

－「運転スイッチ」は無く、常時2つのリモコンがオンでも消費電力は1W程度

－常時ONであるが、節電モードを利用すれば30分の不使用中で液晶バックライトをオフ

また一方で制御面での工夫も行われている。例えば比較的中位の30～45℃程度から湯を作るとヒートポンプの効率が悪くなるため、中温度の湯を優先的に使用し、沸き上げ時の効率低下を避けることでエネルギーを有効利用している。また、運転状況を学習し、必要な量の湯を作ることによって無駄な沸き上げを減らし、電力消費量を削減している。

(3)今後の取り組み

効率の観点からは、ヒートポンプユニットのCOPだけではなく、待機時を含めた全消費電力量を対象としたエネルギー消費効率が、より実態を反映すると考えられる。そのため、2008年4月からは、年間給湯効率(「給湯に使用した年間の熱量/年間消費電力量」)を評価し、カタログにも表示する予定とされている。これにより、機器メーカーは様々な工夫により消費電力量削減へ取り組めることになる。今後想定される課題としては、タンク保温、沸き上げ温度、低温湯利用などの最適化が考えられる。

なお、ヒートポンプ給湯機の業界団体である日本冷凍空調工業会においても、待機時消費電力低減に向けた自主的な活動が始められており、今後ヒートポンプ給湯機全体の待機時消費電力削減が見込まれる。

参考:中間期と冬・夏モード

ヒートポンプ給湯機は、外気温、沸き上げ温度によって性能が変化するため、次のように季節に応じた3つの条件でヒートポンプ性能とシステムの性能を表わす年間給湯効率を表示することになっている。

ヒートポンプの性能表示条件

条件	外気温度	湿球温度	入水温度	出湯温度
中間期	16℃	12℃	17℃	標準沸上げ温度
夏期	25℃	21℃	24℃	標準沸上げ温度
冬期高温	7℃	6℃	9℃	冬期高温沸上げ温度

3.4.2 ネットワーク機器

協力：NECアクセステクニカ株式会社

(1) ネットワーク(ホームゲートウェイ)機器の現状

①機能と利用状況

家庭内の多種多様なネットワークについて、それらのネットワーク間の違いを吸収し、相互接続性を提供し、かつ外部のインターネットとの橋渡しをする装置をホームゲートウェイ機器(システム)と言う。ホームゲートウェイ機器は、一般にインターネットと家庭内ネットワークの間に配置され、ルーティング、プロトコル変換、ファイアウォールなどの機能を提供する。モデム、ルータ、無線LAN、PLC(高速電力線通信)等の機器があり、またモデム機能を持つ機器は契約する通信事業者からの貸しだしが一般的であり、他の機能が内蔵された複合機も存在する。家庭内ネットワークを構築するのに必要な無線LANやPLCモデムを利用者が購入して増設する場合もある。

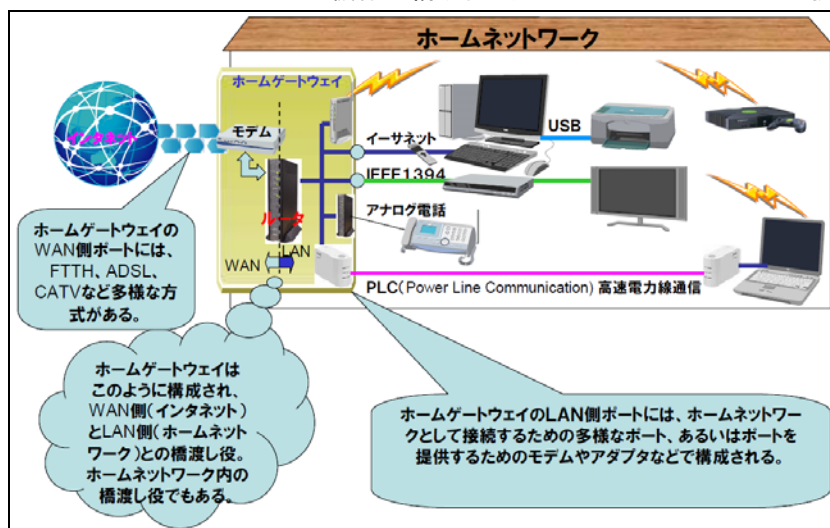
家庭におけるインターネットへの接続については、過去にはダイヤルアップ方式で使用時のみ接続する状況が一般的であったが、接続料金の定額制導入等により常時接続が実質的に可能となった。こうして24時間稼動するブロードバンドネットワークが家庭に接続されたため、ホームゲートウェイ機器は常時オン状態が基本である。また、光ファイバー通信を利用したIP電話サービスでは、常時通電していないと電話機能を利用できないこともあり、多くの機器には電源オン/オフスイッチが存在していない。

また、通信事業者の提供する通信方法等のメニューを選ぶと、通信事業者からホームゲートウェイの基本構成となる機器が提供されるため、利用者による機器選択の余地は少ない。

②機能と消費電力

ホームゲートウェイ機器は、それに接続されている機器の状況によって消費電力が異なる。例えば、パソコンをホームゲートウェイ機器のイーサネットポートに電源オン状態で接続していると、機器内部の送受信機が常時稼働することになり、意図的に通信をしていなくても一定の電力を消費する。具体的には、ホームゲートウェイ機器とパソコンの両方の電源がオンの場合、相手先がオフ、あるいはケーブルが接続されていない状態に比べ、100Mbpsの通信能力を持つ機器の場合で+0.2W程度、1Gbpsでは+1W程度の電力が消費されることがわかっている。

図 3-175 ホームネットワーク機器の構成例 (NECアクセステクニカ提供)



(2)消費電力削減への取り組み

ホームゲートウェイ機器の省エネについて、社内プロジェクトを推進し、以下のような活動を行っている。

- ・開発の初期段階で消費電力の目標値を定め、開発後に実績値を評価する。
- ・目標値は事業の中期目標に沿って設定しており、2010年度基準（2005年度比50%削減）をクリアするか、もしくは、08年には同30%削減、09年には同40%削減の目標値をクリアすることが求められている。基準値は消費電力に機能比による重み付けを考慮した数値である。

具体的な消費電力削減対策は以下のとおりである。

- ・省エネ型の回路部品の採用
- ・機器内部の回路動作電圧の共通化
- ・シリーズレギュレータからDC-DCコンバータへの変更
- ・ノイズ対策が困難な場合における低損失シリーズレギュレータの採用

これらにより、従来機(新機種よりも性能が低く、ベース消費電力も低い)よりも消費電力を低減する方針を立てている。

(3)今後の取り組みと課題

現在、2005年度製品比50%削減などの目標値を掲げて製品開発を行っているが、これには機能比にもとづく加重があり、消費電力の絶対量の削減ではない。ホームゲートウェイ機器の消費電力の絶対値低減のためには、処理能力や動作速度向上に伴う消費電力増加を上回る省エネ対策が必要である。そのような状況であっても、前機種対比-1Wなどの絶対値目標を設定して省エネに取り組みたいと考えている。

また、機器の中でも、常時通電が必要な部分と、そうでない部分があり、未使用状態を利用者が認識でき、利用者の承認のもと消費電力を削減できるシステムが必要と考えている。例えば省エネボタンなどを配置し、常時利用する必要のない部分の消費電力を、利用者の操作により抑える機能を付加することなどが考えられる。さらに、内部クロック停止等により消費電力を低減するなど、低消費電力モードの追加も検討している。

現在ホームゲートウェイ機器の消費電力を測定する方法は規定されておらず、そのため、カタログ等には外部電源装置の定格消費電力が記載されていることが多い。メーカーは独自の方法で測定と自己評価を行っているが、測定条件により消費電力が変動するため、消費電力を比較するためには統一された試験方法が必要である。現在ルータとスイッチを省エネ法特定機器の対象とすべく議論が進められており、そこで測定方法がまとめられれば各社統一された表示が可能となる。これにより省エネに配慮した製品が選択されやすくなり、より一層の省エネが進むことを期待している。

期待の一方で、実際に利用者が最も使用する形態と、共通測定形態がかけ離れると、先に述べたように機器に表示した値（メーカー測定値）と実際に利用者が消費する電力との誤差が大きくなり、混乱を与える危険性も一方で危惧されるので、注意が必要である。

3.4.3 考察

(1)ヒートポンプ給湯機

今回の調査でヒートポンプ給湯機の待機時消費電力はかなりのばらつきがあり、5W～20Wであることが分かった。また、さらに床暖房などの付加機能が付いた場合にはより多くの電力を消費することが予想できる。

ガス石油温水機器に対する待機時消費電力削減のための自主的取り組みでは、安全監視機能・制御機能とそれらの電源回路、およびリモコン待ち受け等のために必要な電力を確保した上で、温水機器本体2W+リモコン1つにつき1Wという目標を掲げている。ヒートポンプ給湯機においても、その省エネ性能のさらなる向上のために、待機時消費電力の削減は重要な課題と考えられる。ヒートポンプと貯湯の2つのユニットが必要となることを考慮すると、ガス石油機器と同じ基準を適用することは困難かもしれないが、ヒヤリング先企業のように待機時消費電力の削減に取り組んでいる状況もある。

待機時消費電力削減のためには、その削減にインセンティブが働くような状況設定が必要である。一日のほとんどの時間が待機となる温水機器については、ガス・石油機器のような自主的取り組みの促進や、評価基準を待機時も含めた総合効率にするなどが考えられる。また、さらにカタログ、取扱説明書において、利用者への分かりやすい判断材料（モードとその消費電力など）の提示や、省エネモードを初期設定として出荷すること、あるいは容易に省エネモード設定が可能となるような工夫が必要と考えられる。

(2)ネットワーク機器

今後、ホームゲートウェイ機器の家庭への普及がより一層進み、それに伴う全消費電力量の増加が想定される。また一方で様々な機能を包含した多機能型の機器の普及も予想され、利用形態によっては不必要な機能が含まれることになり、無駄な消費電力量の増加が危惧される。よって、個々の機器の省エネ推進に加えて、家庭のネットワーク全体で待機時消費電力の総量を把握し、削減のための方法を検討、実施していく必要がある。

また現在は通信事業者がホームゲートウェイ機器を提供するケースが多く、利用者の選択の余地が少ない。省エネ法特定機器への追加等により、市場の全機器の効率を向上させるとともに、より効率の高い機器を通信事業者が採用しやすい状況を作る必要がある。例えば通信事業者から各家庭に提供される機器含めて、その事業者の省エネ努力範囲として評価するなどの検討も必要と考えられる。

ネットワーク利用による利便性向上は大きく、今後もその普及が進むものと考えられる。人・物の移動からネットワーク上の情報移動への転換や、HEMSなどのネットワークを活用したエネルギー管理システムの推進など、ネットワークを活用した省エネについても、より一層推進していく必要がある。

第4章 待機時消費電力の推計および削減可能性の検討

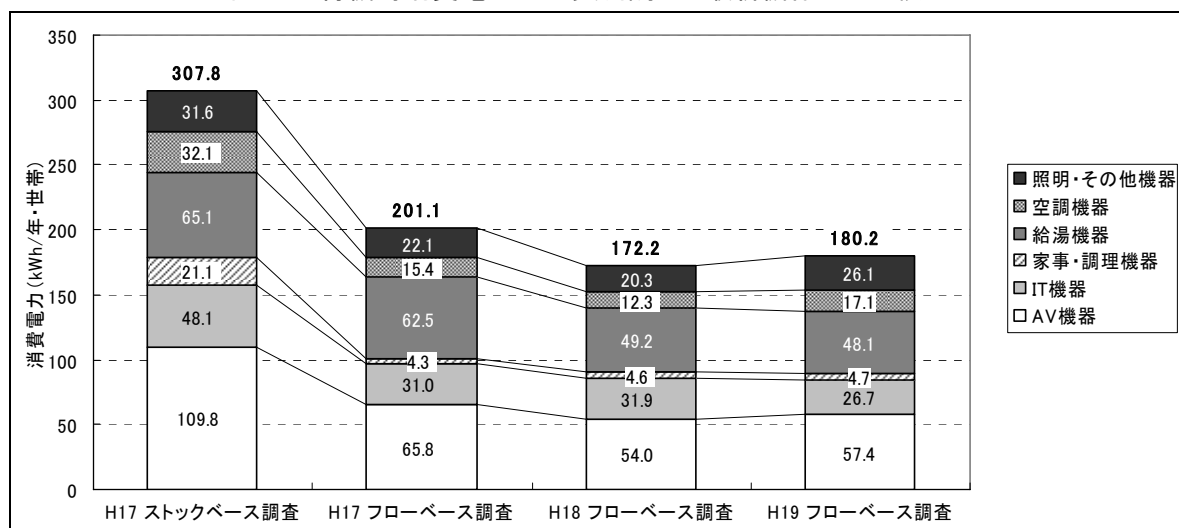
現販売機器を利用した場合の家庭における待機時消費電力量について、機器の待機時消費電力原単位、その発生時間と保有率から推計する。なお、発生時間と保有率は平成17年度調査結果を活用する。

4.1 現販売機器による待機時消費電力量の推計

平成17年度ストックベース調査時の使用実態を前提とし、現在販売開始されている機器による待機時消費電力量を推計すると、世帯あたりの待機時消費電力量は180.2kWh/年・世帯となる。これは平成17年度ストックベース調査時の家庭内で所有されている機器の待機時消費電力量(308kWh/年・世帯)に比べ、128kWh/年・世帯(42%)小さくなっている。また、平成17年度フローベース調査(201kWh/年・世帯)と比較すると、21kWh/年・世帯(10%)小さく、平成18年度フローベース調査(172kWh/年・世帯)と比較すると、8kWh/年・世帯(5%)大きくなった。

平成18年調査からみると、AV機器、空調機器、照明・その他機器でやや大きくなり、IT機器、給湯機器ではやや小さくなっており、各機器により増減はまちまちである。これは、年度ごとの集計の違いによるばらつきとも考えられるが、一方で今後は、各機器の高機能・多機能化、あるいは材料価格の高騰や、製品価格競争等による待機時消費電力への影響を注視していかなければならない状況にあると考えられる。

図4-1 待機時消費電力量の実測調査と最新機器との比較



本推計による待機時消費電力量が大きい機器はガス給湯機・風呂釜(22kWh/年・世帯)、HDD・DVD レコーダ・プレーヤ(15kWh/年・世帯)、ビデオデッキ(15kWh/年・世帯)、石油給湯機・風呂釜(12kWh/年・世帯)、ガス瞬間湯沸器(台所用)(8kWh/年・世帯)などであった。

また、大区分別では AV 機器(32%)、給湯機器(27%)、IT 機器(15%)、照明・その他機器(14%)、空調機器(9%)、家事調理機器(3%)となった。

図 4-2 待機時消費電力量機器別構成比

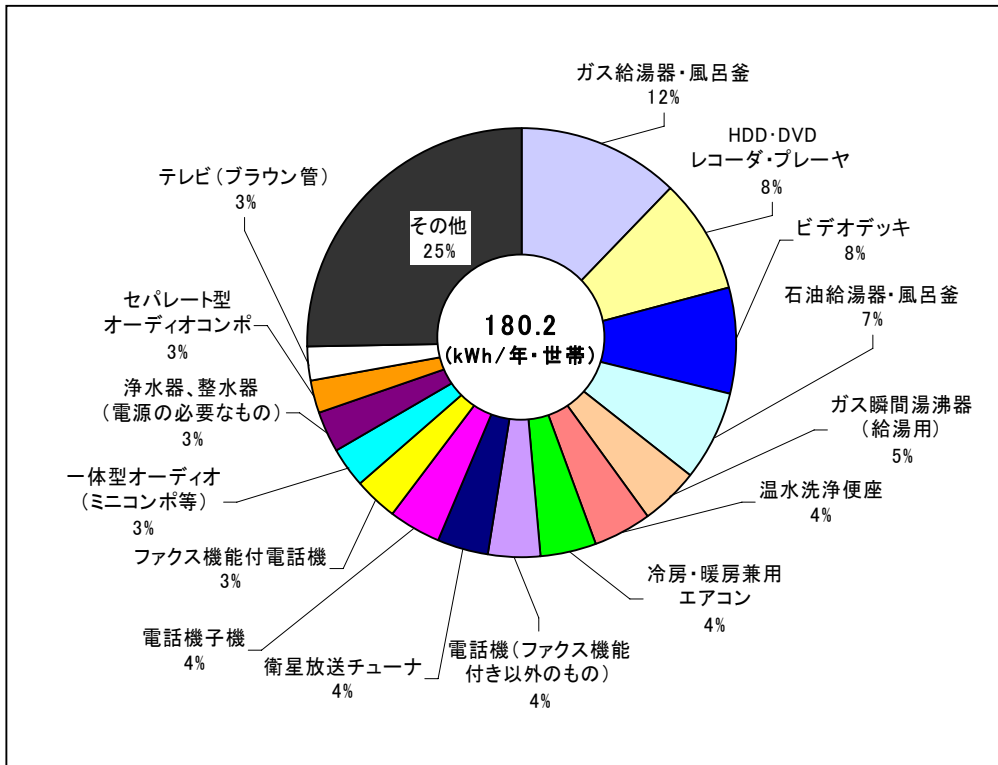
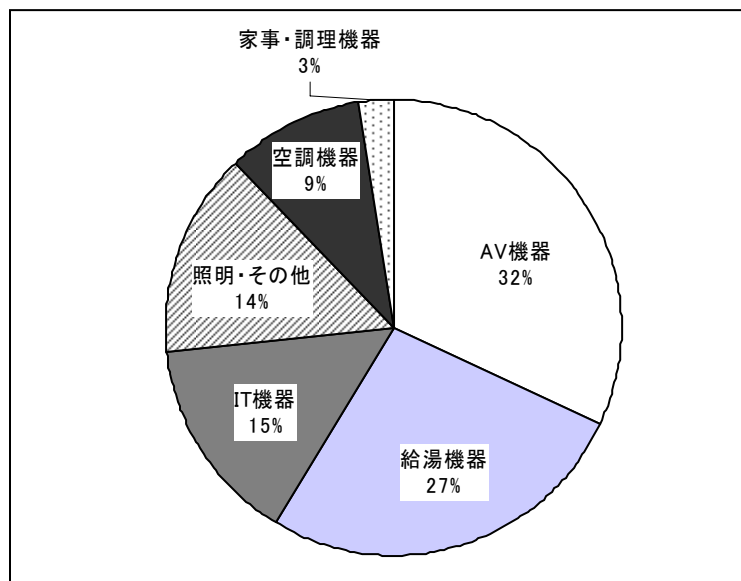


図 4-3 家庭における待機時消費電力量大分類別構成比



第5章 今後の課題

5.1 家庭における省エネ意識と待機時消費電力の削減対策

機器利用者の「待機時消費電力」という言葉の認知率は高いが（よく知っている＝77%、聞いたことがある＝18%）、「電気製品の非使用時はプラグを抜き待機時消費電力を少なくする」という行為を日常的に行っている人は47%で、言葉は知っているが容易に行動に結びつかない”省エネ行動”の一つである。（出典：平成18年1月「省エネルギー対策実態調査／家庭部門編」省エネルギーセンター）また「非使用時はプラグを抜く」という行為は、データ蓄積・取得機能や時計表示・タイマー機能がある機器では躊躇され、現実の行動はプラグを抜くことが容易な製品に限定されてしまう可能性が高い。

よって、待機時消費電力に関する正確な情報の一層の周知により行動を促すとともに、家庭における待機時消費電力量削減の方策は、利用者が容易に取り組むことができる手段をもって講じる必要がある。

5.2 企業における待機時消費電力の削減対策

企業においてはIT機器の待機時消費電力量の削減に注力する必要がある。これは機器調達や動作設定段階と、機器利用段階の両方で行う必要がある。

一般に、業務用ビルにおけるエネルギー消費量の多くは動力系と空調系であるが、IT機器の稼働状況から推察して、これに伴う消費電力量は増加しており、待機時消費電力量も増えてきていると考えられる。企業においては、機器の調達や導入段階で待機時消費電力量削減の方策を講じる一方、待機時消費電力量削減を促す使用規定作りや呼びかけを行い、また、それを受けて、各利用者が行動・実践する必要がある。

5.3 家電製品・ガス石油機器メーカーの待機時消費電力に対する取り組み

家電製品・ガス石油機器メーカーの取り組みは積極的であり、待機時消費電力そのものの削減に加え、非使用時に消費電力を低減する省エネモードへの自動移行機能等も多くの製品に採用されている。

このメーカーの取り組みを結実させるためには、適切な情報提供を行い、機器利用者にも有効な取り組みをしてもらえるように働きかける必要がある。

情報提供の方策としてまず考えられるのは「カタログ等への待機時消費電力の記載」があるが、利用者に注目されるような工夫が必要であろう。僅かな数値である待機時消費電力は見過ごされやすく、仕様書的な記載では実感も薄い。利用者に対する”適切な情報提供”とは、多くの利用者が実感として捉えることができる情報であり、分かりやすい情報提供を工夫する必要があるだろう。

また、利用者の行動による待機時消費電力の削減方策としての「非使用時はプラグを抜く」という行為にはいくつかのハードルが伴うゆえ、「より消費電力の少ない待機状態へと切り替えを行ってもらうことの重要性を認識してもらう」にとどまらず、「より消費電力の少ない待機状態へと切り替える方法」を機器そのものに付加していくことも求められる。省エネモードへの自動移行機能による省エネ効果も大きいですが、オールオフスイッチの採用や省エネモードへの切り替えスイッチの採用など、利用者に分かりやすいハード機能も工夫・開発していく必要がある。

また本調査により、プラグを抜かなくても待機時消費電力がゼロとなる機器や、また、プラグを抜くことを推奨できない機器も存在することが明確になりつつある。待機時消費電力削減の観点から、プラグを抜かなくても良い機器、抜くと機能に支障が生じる機器、あるいは事実上抜くことができない機器などを明確にし、利用者の省エネ意識を煩雑さにより阻害することなく、最大の効果が得られるような情報を適切に提供することが必要と考えられる。

第6章 資料編

6.1 調査機器とモード別待機時消費電力原単位

表 6-1 機器区分表(家電製品)

		機器種類	機能・特徴例
AV機器	オーディオ関連	ミニコンボ	CD+MD+ラジオ、CD+カセット+ラジオ
		CDプレーヤー	
		MDデッキ	
		カセットデッキ	
		アンプ	
		チューナー	
		プロジェクター	
		ホームシアター	AVアンプ、アンプ内蔵スピーカー
		ポータブルオーディオシステム	ラジオ
		デジタルオーディオプレーヤー	
	その他携帯音楽プレーヤー		
	その他AV機器	テレビ	スタンダード、ワイド、BSチューナー内蔵、液晶、PDP
		DVD・ビデオ・HDD内蔵テレビ	スタンダード、ワイド、BSチューナー内蔵
		HDD・DVDレコーダー・プレーヤー	BSチューナー内蔵、S-VHS
		ポータブルDVDプレーヤー	
ビデオデッキ		LD、DVD、プレーヤー・レコーダー	
IT機器	パソコン関連	デスクトップパソコン・一体型	CRTモニター/液晶モニター/スピーカー内蔵、スピーカー外付け
		デスクトップパソコン・セパレート型	
		ノートパソコン	
		パソコン用モニター	CRT、液晶
		プリンタ	インクジェット式、レーザー式
		プリンタ複合機・FAX複合機	
		スキャナ	
		パソコン外部記憶装置	HD、CD-R/RW、MO
		パソコンネットワーク機器	DSU、TA、モデム、ハブ、ルーター
		電話関連	電話
	電話機子機		
	ファックス専用機		感熱紙式、普通紙式
	コピー専用機		単色、カラー
	調理・家事機器		洗濯機
		洗濯乾燥機	
		衣類乾燥機	
		洗濯機乾燥機	電気式・ガス式
		洗濯機乾燥機	
		充電式掃除機	
		電気炊飯器	
		電子レンジ	
		電子オーブンレンジ	
		電気オーブン	
		コーヒーメーカー	
		電気ポット	
		電気ケトル	
		電気圧力鍋	
		クッキングヒーター	IH、ラジエント、シーズ
空調機器		電気ストーブ	電気式
		セラミックヒーター・電気ファンヒーター	電気式
		パネルヒーター	電気式
		オイルヒーター	電気式
		ハロゲンヒーター	電気式
		コタツ	
		電気カーペット	
		床暖房・電気式	
		床暖房・温水式	
		蓄熱式電気暖房機	
		エアコン	電気式、石油・電気式、ガス・電気式
		換気扇	
		扇風機	
		加湿器	
		除湿機	
給湯機器		電気温水器	
		太陽熱温水器	
		熱交換給湯器	
		ヒートポンプ給湯器	
照明・その他機器		家庭用照明器具	
		電気スタンド	白熱灯、蛍光灯、インバータ式
		湯洗乾燥機	瞬間洗滌式、瞬間暖房
		湯洗乾燥機	
		インターホン	画面付き、画面無し
		テレビゲーム・増設型	
		テレビゲーム・ポータブル型(充電器)	
		電気マッサージ器	
		シュレッダー	
		浄水器	
		電気蒸籠	
		電子茶壺	電子ヒーター、電子オルガン、シンセサイザー
		携帯電話・PHS充電器	
		充電式電動歯ブラシ	
		充電式シェーバー	
	電気自転車充電器		
	その他		

表 6-2 モード別待機時消費電力の平均値(家電製品)

	標準モード		オフモード		オンモード	
	W	n	W	n	W	n
AV機器						
ミニコンボ	1.3	52	1.3	52	20.7	23
CDプレーヤー	0.7	36	0.2	36	14.4	22
MDデッキ	0.6	8	0.6	8	8.5	2
カセットデッキ	0.5	5	0.5	5	-	-
アンプ	0.3	52	0.3	52	63.6	29
チューナー	0.3	7	0.3	7	11.4	2
プロジェクター	4.8	42	4.8	42	-	-
ホームシアター	0.4	126	0.4	126	37.2	54
ポータブルオーディオシステム	1.0	49	1.0	49	3.3	10
デジタルオーディオプレーヤー	0.2	2	-	-	0.2	2
その他携帯音楽プレーヤー	1.4	8	-	-	1.4	8
テレビ	0.4	234	0.4	234	0.5	234
DVD・ビデオ・HDD内蔵テレビ	0.7	9	0.7	9	0.7	9
HDD・DVDレコーダー・プレーヤー	1.7	81	1.7	81	30.9	27
ポータブルDVDプレーヤー	0.4	8	0.4	8	7.8	9
ビデオデッキ	1.1	9	1.1	9	9.6	9
デジタル放送受信アンテナ	0.0	4	0.0	4	2.5	13
デジタル放送チューナー	3.1	8	3.1	8	11.0	3
有線放送ホームターミナル	0.2	8	0.2	8	-	-
デジタルカメラ	0.7	32	-	-	0.7	32
ビデオカメラ	0.3	20	-	-	0.3	20
IT機器						
デスクトップパソコンー体型	1.5	6	1.5	6	5.7	7
デスクトップパソコンセハレート型	0.2	28	0.2	28	3.9	21
ノートパソコン	0.4	35	0.4	35	2.0	48
パソコン用モニター	0.7	77	0.7	77	1.6	77
プリンタ	0.5	58	0.5	58	5.5	67
プリンタ複合機・FAX複合機	0.8	39	0.8	39	11.5	46
スキャナ	0.5	4	0.5	4	2.8	9
パソコン外部記憶装置	1.0	63	1.0	63	3.2	22
パソコンネットワーク機器	4.0	24	0.0	3	4.0	24
インターネット・ミナル	-	-	-	-	-	-
電話	1.8	43	0.6	5	1.8	43
電話機子機	1.2	16	-	-	1.2	16
ファックス専用機	2.3	11	0.0	2	2.3	11
コピー専用機	0.0	5	0.0	5	2.9	5
調理家事						
洗濯機	0.0	53	0.0	53	2.9	41
洗濯乾燥機	0.0	29	0.0	29	5.9	29
衣類乾燥機	0.0	11	0.0	11	1.7	11
浴室換気乾燥機・電気式	1.9	69	1.9	69	1.9	16
浴室換気乾燥機・ガス式	1.5	8	1.5	8	0.7	2
電気炊飯器	0.7	125	0.7	125	-	-
電子レンジ	0.0	6	0.0	6	2.6	2
電子オーブンレンジ	0.0	47	0.0	47	2.8	20
電気オーブン	0.2	2	0.2	2	-	-
コーヒーメーカー	0.1	20	0.1	20	-	-
生ごみ処理機	0.1	3	0.1	3	-	-
クッキングヒーター	0.3	109	0.3	109	11.6	80
食器洗い乾燥機	1.3	41	1.3	41	2.9	40
食器乾燥機	0.6	19	0.6	19	1.0	9
赤外線掃除機	3.5	5	-	-	3.5	5
その他	1.0	6	1.0	6	2.3	3
空調給湯						
電気ストーブ	0.1	7	0.1	7	-	-
セラミックヒーター・電気ファンヒーター	0.5	15	0.5	15	-	-
パネルヒーター	0.0	12	0.0	12	-	-
オイルヒーター	0.1	4	0.1	4	1.0	1
ハロゲンヒーター	0.0	1	0.0	1	-	-
コタツ	-	-	-	-	-	-
電気カーペット	0.0	21	0.0	21	1.0	2
床暖房・電気式	1.0	3	1.0	3	1.0	3
床暖房・温水式	5.0	2	5.0	2	7.0	2
蓄熱式電気暖房機	-	-	-	-	-	-
エアコン 冷暖房兼用	0.8	114	0.9	48	0.8	114
エアコン 冷房専用	-	-	-	-	-	-
換気扇	0.2	196	0.2	196	0.9	85
扇風機	0.5	39	0.5	39	1.0	19
加湿機	0.5	42	0.5	42	5.1	13
除湿機	0.7	30	0.7	30	1.3	2
空気清浄機	0.9	42	0.9	42	1.6	13
電気温水器	5.8	129	0.0	104	5.8	129
太陽熱温水器	4.2	7	-	-	4.2	7
ヒートポンプ給湯器	9.0	110	0.0	34	9.0	110
その他	0.0	1	0.0	1	-	-
照明						
家庭用照明器具	0.7	65	0.7	65	0.8	213
電気スタンド	0.3	70	0.3	70	0.3	1
便座						
温水洗浄便座/瞬間洗浄式	2.3	22	2.2	21	2.3	22
温水洗浄便座/瞬間暖房・瞬間洗浄式	1.5	5	1.3	4	1.5	5
温水洗浄便座/貯湯洗浄式	1.4	85	1.3	61	1.4	85
暖房便座	1.1	6	0.4	4	1.1	6
その他						
インターホン	2.5	132	0.0	21	2.5	132
テレビゲーム 箱筒型	0.4	2	0.4	2	105.4	2
テレビゲーム ポータブル型(充電器)	1.3	1	0.0	1	1.3	1
電気マッサージ器具	1.3	13	1.3	13	8.7	19
シュレッダー	-	-	-	-	-	-
浄水器	-	-	-	-	-	-
浄水器	0.4	3	0.4	3	4.1	10
浄水器	0.5	58	0.5	58	22.4	58
電子楽器	0.5	58	0.5	58	22.4	58
携帯電話・PHS充電器	0.1	25	-	-	0.1	25
充電式電動歯ブラシ	1.2	21	-	-	1.2	21
充電式シェーバー	0.8	42	0.2	15	0.8	42
電気自転車充電器	-	-	-	-	-	-
その他	0.0	3	0.0	3	4.0	8

表 6-3 モード別待機時消費電力の最大値・最小値(家電製品)

	標準モード		オフモード		オンモード			
	最大値 (W)	最小値 (W)	最大値 (W)	最小値 (W)	最大値 (W)	最小値 (W)		
AV機器	ミニコンボ	9.8	0.1	9.8	0.1	33.0	8.0	
	CDプレーヤー	2.0	0.0	2.0	0.0	29.0	8.5	
	MDデッキ	1.0	0.1	1.0	0.1	8.5	8.5	
	カセットデッキ	1.0	0.0	1.0	0.0	-	-	
	アンテナ	4.6	0.0	4.6	0.0	300.0	4.5	
	チューナー	1.0	0.0	1.0	0.0	17.0	5.7	
	プロジェクター	12.5	0.0	12.5	0.0	-	-	
	ホームシアター	2.6	0.0	2.6	0.0	231.0	0.5	
	デジタルオーディオシステム	5.0	0.1	5.0	0.1	7.1	0.8	
	デジタルオーディオプレーヤー	0.2	0.1	-	-	0.2	0.1	
	その他携帯音楽プレーヤー	1.7	1.1	-	-	1.7	1.1	
	テレビ	20.0	0.1	20.0	0.1	20.0	0.1	
	DVD・ビデオ・HDD内蔵テレビ	1.0	0.1	1.0	0.1	1.0	0.1	
	HDD・DVDレコーダー・プレーヤー	5.1	0.0	5.1	0.0	64.3	4.4	
	ポータブルDVDプレーヤー	0.5	0.3	0.5	0.3	14.6	3.7	
	ビデオデッキ	1.4	0.8	1.4	0.8	13.0	6.4	
	デジタル放送受信アンテナ	0.0	0.0	0.0	0.0	6.6	1.0	
	デジタル放送チューナー	9.0	0.1	9.0	0.1	13.0	9.0	
	有線放送ホームターミナル	0.5	0.1	0.5	0.1	-	-	
	デジタルカメラ	4.0	0.1	-	-	4.0	0.1	
ビデオカメラ	0.5	0.1	-	-	0.5	0.1		
IT機器	デスクトップパソコン一体型	4.3	0.0	4.3	0.0	13.5	1.1	
	デスクトップパソコンセパレート型	1.6	0.0	1.6	0.0	8.8	2.1	
	ノートパソコン	1.4	0.0	1.4	0.0	8.7	0.7	
	パソコン用モニター	2.0	0.0	2.0	0.0	16.8	0.4	
	プリンタ	4.0	0.0	4.0	0.0	19.0	0.6	
	プリンタ複合機・FAX複合機	5.0	0.0	5.0	0.0	43.0	0.8	
	スキャナ	0.5	0.4	0.5	0.4	5.0	0.6	
	パソコン外部記憶装置	3.1	0.0	3.1	0.0	6.5	1.2	
	パソコンネットワーク機器	10.0	0.9	0.0	0.0	10.0	0.9	
	インターネットターミナル	-	-	-	-	-	-	
	電話	4.3	0.7	0.6	0.6	4.3	0.7	
	電話機子機	2.0	0.6	-	-	2.0	0.6	
	ファックス専用機	7.0	1.3	0.0	0.0	7.0	1.3	
	コピー専用機	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	2.8	
	調理家事	洗濯機	0.1	0.0	0.1	0.0	13.3	0.1
		洗濯乾燥機	0.1	0.0	0.1	0.0	13.3	2.0
		衣類乾燥機	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.1
		乾燥衣類乾燥機・電気式	5.0	0.6	5.3	0.6	5.0	0.6
		乾燥衣類乾燥機・ガス式	3.2	1.0	3.2	0.7	1.0	0.7
		電気炊飯器	1.0	0.1	1.0	0.1	-	-
電子レンジ		0.2	0.0	0.2	0.0	4.0	1.2	
電子オーブンレンジ		0.2	0.0	0.2	0.0	4.8	1.5	
電気オーブン		0.4	0.0	0.4	0.0	-	-	
コーヒーメーカー		1.0	0.0	1.0	0.0	-	-	
生ごみ処理機		0.2	0.0	0.2	0.0	-	-	
クッキングヒーター		3.0	0.0	3.0	0.0	20.6	2.8	
炊飯調理機		2.7	0.0	2.7	0.0	4.5	1.3	
高圧洗浄機		1.4	0.0	1.4	0.0	1.6	0.7	
花電式掃除機		7.0	0.5	-	-	7.0	0.5	
その他		1.2	0.0	1.2	0.0	3.3	0.4	
空調給湯		電気ストーブ	0.2	0.0	0.2	0.0	-	-
		セラミックヒーター・電気ファンヒーター	2.0	0.0	2.0	0.0	-	-
		パネルヒーター	0.4	0.0	0.4	0.0	-	-
		オイルヒーター	0.4	0.0	0.4	0.0	1.0	1.0
	ハロゲンヒーター	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	
	コタツ	-	-	-	-	-	-	
	電気カーペット	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	
	床暖房・電気式	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
	床暖房・温水式	5.0	5.0	5.0	5.0	7.0	7.0	
	蓄熱式電気暖房機	-	-	-	-	-	-	
	エアコン・冷暖房兼用	1.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	
	エアコン・冷房専用	-	-	-	-	-	-	
	換気扇	1.6	0.0	1.6	0.0	3.9	0.2	
	扇風機	2.1	0.0	2.1	0.0	2.1	0.3	
	加湿器	2.0	0.0	2.0	0.0	15.0	0.3	
	除湿機	1.7	0.2	1.7	0.2	2.0	0.5	
	空気清浄機	3.0	0.2	3.0	0.2	3.0	0.4	
	電気湯沸かし器	11.2	0.0	0.0	0.0	11.2	0.0	
	太陽熱湯沸かし器	8.3	1.3	-	-	8.3	1.3	
	ヒートポンプ給湯器	17.0	5.0	0.0	0.0	17.0	5.0	
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-		
照明	家庭用照明器具	1.4	0.0	1.4	0.0	2.0	0.3	
	電気スタンド	1.0	0.0	1.0	0.0	0.3	0.3	
便座	温水洗浄便座/瞬間洗浄式	2.8	1.7	2.8	1.7	2.8	1.7	
	温水洗浄便座/瞬間暖房・瞬間洗浄式	2.1	1.3	1.3	1.3	2.1	1.3	
	温水洗浄便座/貯湯洗浄式	3.3	0.4	2.7	0.6	3.3	0.4	
	暖房便座	1.9	0.0	1.5	0.0	1.9	0.0	
その他	インターホン	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	
	テレビゲーム 据置型	0.8	0.1	0.8	0.1	200.0	10.8	
	テレビゲーム ポータブル型(充電器)	1.3	1.3	0.0	0.0	1.3	1.3	
	電気マッサージ器具	3.2	0.0	3.2	0.0	19.0	1.0	
	シュレッダー	-	-	-	-	-	-	
	浄水器	-	-	-	-	-	-	
	浄水器	0.4	0.4	0.4	0.4	7.3	0.9	
	電子楽器	2.5	0.0	2.8	0.0	56.5	2.4	
	携帯電話・PHS充電器	0.3	0.0	-	-	0.3	0.0	
	充電式電動歯ブラシ	2.5	0.8	-	-	2.5	0.8	
	充電式シェーバー	1.9	0.2	0.2	0.0	1.9	0.2	
	電気自転車充電器	-	-	-	-	-	-	
	その他	0.0	0.0	0.0	0.0	18.0	0.0	

表 6-4 機器区分表(ガス・石油製品)

大区分	機器種類
暖房機器	ガスFF式ストーブ
	ガスファンヒーター
	石油FF式ストーブ
	石油半密閉式ストーブ
	石油ファンヒーター
給湯機器	ガス瞬間湯沸器(先止)(給湯)
	ガス瞬間湯沸器(先止)(給湯暖房)
	ガス温水暖房専用機
	ガス給湯付ふろがま(給湯ふろ)
	ガス給湯付ふろがま(給湯暖房ふろ)
	石油小形給湯器
	石油給湯機付ふろがま
	油だき温水ボイラ(暖房)
	油だき温水ボイラ(給湯)
	油だき温水ボイラ(給湯暖房)
	油だき温水ボイラ(給湯暖房ふろ)
	油だき温水ボイラ(温水ルームヒーター用)
	衣類乾燥機

表 6-5 モード別待機時消費電力の平均値(ガス・石油製品)

		標準モード		オフモード		オンモード	
		W	n	W	n	W	n
暖房機器	ガスFF式ストーブ	6.2	12	6.2	12	-	-
	ガスファンヒーター	1.5	38	1.5	38	0.5	9
	石油FF式ストーブ	2.2	121	2.2	121	4.2	14
	石油半密閉式ストーブ	1.7	21	1.7	21	-	-
	石油ファンヒーター	1.2	66	1.2	66	1.4	9
給湯機器	ガス瞬間湯沸器(先止)(給湯)	3.6	142	3.1	140	4.1	142
	ガス瞬間湯沸器(先止)(給湯暖房)	5.0	15	3.4	15	6.6	15
	ガス温水暖房専用機	2.7	17	3.4	5	2.8	17
	ガス給湯付ふろがま(給湯ふろ)	3.8	169	2.9	169	4.7	169
	ガス給湯付ふろがま(給湯暖房ふろ)	4.6	52	3.8	52	5.4	52
	石油小形給湯器	6.6(4.1)	82(82)	3.3	82	10.1(5.0)	79(74)
	石油給湯機付ふろがま	10.9(5.9)	85(85)	4.9	85	16.8(7.3)	85(76)
	油だき温水ボイラ(暖房)	3.4	102	3.3	101	4.6	34
	油だき温水ボイラ(給湯)	3.6	7	3.3	7	3.6	7
	油だき温水ボイラ(給湯暖房)	3.5	6	3.5	6	3.5	6
	油だき温水ボイラ(給湯暖房ふろ)	12.1	7	9.7	7	14.6	7
	油だき温水ボイラ(温水ルームヒーター用)	6.8	2	-	-	6.8	2
	ガス乾燥機	ガス衣類乾燥機	1.5	6	1.5	6	2.0

表 6-6 モード別待機時消費電力の最大値・最小値(ガス・石油製品)

		標準モード		オフモード		オンモード	
		最大	最小	最大	最小	最大	最小
暖房機器	ガスFF式ストーブ	7.0	3.0	7.0	3.0	-	-
	ガスファンヒーター	4.6	0.5	4.6	0.5	0.5	0.5
	石油FF式ストーブ	8.0	0.3	8.0	0.3	4.4	3.6
	石油半密閉式ストーブ	4.2	0.0	4.2	0.0	-	-
	石油ファンヒーター	2.2	0.8	2.2	0.8	1.5	1.4
給湯機器	ガス瞬間湯沸器(先止)(給湯)	16.2	1.1	15.8	1.1	16.5	1.1
	ガス瞬間湯沸器(先止)(給湯暖房)	9.0	2.6	4.4	1.6	13.7	3.5
	ガス温水暖房専用機	6.0	2.0	5.0	2.5	7.0	2.0
	ガス給湯付ふろがま(給湯ふろ)	8.2	2.3	5.5	1.5	10.8	3.0
	ガス給湯付ふろがま(給湯暖房ふろ)	8.1	2.6	7.5	1.6	8.6	3.5
	石油小形給湯器	50.7(9.6)	1.8(1.8)	8.7	0.8	98.3(10.4)	2.3(2.3)
	石油給湯機付ふろがま	55.6(18.6)	1.4(1.4)	18.3	0.6	107.6(18.9)	2.2(2.2)
	油だき温水ボイラ(暖房)	8.3	1.0	8.0	1.0	8.6	2.8
	油だき温水ボイラ(給湯)	5.8	2.7	6.8	2.1	5.1	3.2
	油だき温水ボイラ(給湯暖房)	5.8	2.7	6.8	2.4	4.7	2.9
	油だき温水ボイラ(給湯暖房ふろ)	16.2	7.6	14.7	3.6	17.6	8.0
	油だき温水ボイラ(温水ルームヒーター用)	6.8	6.8	-	-	6.8	6.8
	ガス乾燥機	ガス衣類乾燥機	3.0	0.0	3.0	0.0	3.0

6.2 家庭で所有されている機器と現販売機器の比較

表 6-7 スtockベース調査とフローベース調査の待機時消費電力原単位(オンモード)の比較

大区分	中区分	ストックベース調査(17年度)		フローベース調査(17年度)		フローベース調査(18年度)		フローベース調査(19年度)		削減量 ①-④ W		
		製造年*	待機時消費電力原単位 (オンモード)①		待機時消費電力原単位 (オンモード)②		待機時消費電力原単位 (オンモード)③		待機時消費電力原単位 (オンモード)④			
			平均値(W)	n数	平均値(W)	n数	平均値(W)	n数	平均値(W)		n数	
AV機器	テレビ(ブラウン管)	1996	1.67	119	0.31	68	0.27	39	0.47	26	1.20	
	テレビ(液晶)	2004	2.39	19	0.46	78	0.25	88	0.52	163	1.87	
	テレビ(PDP)	2003	0.71	1	0.39	18	0.28	18	0.27	36	0.44	
	ビデオ内蔵テレビ	1998	5.51	16	0.62	9	0.72	9	0.73	9	4.78	
	ビデオデッキ	1998	12.29	89	10.63	20	13.99	9	9.59	9	2.70	
	ビデオディスクデッキ	2003	18.48	55	16.85	64	23.08	65	30.85	27	-12.37	
	一体型オーディオ	2000	19.82	43	15.54	24	13.49	40	20.70	23	-0.88	
	セパレート型オーディオ	1994	18.32	39	15.74	19	14.90	17	40.01	55	-21.69	
	ポータブルシステム	1997	7.36	55	3.28	30	2.12	54	3.29	10	4.07	
	有線放送ホームターミナル	2001	10.87	17	-	0	-	0	-	0	-	
	衛星放送チューナー(BS用)	1998	16.78	7	-	0	-	0	-	0	-	
	衛星放送チューナー(CS用)	2002	16.82	9	-	0	-	0	-	0	-	
	IT機器	パソコン(セパレート、ブラウン管)	1999	0.00	0	3.57	-	-	0	-	0	-
PCモニター(ブラウン管)		1999	16.04	8	2.07	-	-	0	-	0	-	
パソコン(セパレート、液晶)		2002	0.00	0	3.57	19	27.33	8	2.45	5	-	
PCモニター(液晶)		2002	1.89	24	2.47	-	1.83	154	1.65	77	0.24	
パソコン(ノート)		2002	0.00	0	2.24	33	9.95	30	2.04	48	-	
パソコン(一体型)		2001	0.00	0	3.28	9	1.88	7	5.73	7	-	
プリンタ		2001	5.19	63	9.08	49	23.82	33	5.49	67	-0.30	
プリンタ複合機(FAX機能付)		2003	7.62	4	14.92	13	7.36	14	17.47	28	-9.85	
プリンタ複合機(FAX機能なし)		2004	13.17	13	-	0	-	0	2.28	18	10.89	
スキャナ		2001	12.26	8	5.04	18	6.57	10	2.81	9	9.45	
外部記憶装置		2004	4.72	15	0.00	13	8.43	128	3.21	22	1.51	
外付けモデム		2003	7.21	83	4.08	-	-	0	10.00	1	-2.79	
ワープロ		1988	4.60	2	-	0	-	0	-	0	-	
家事・調理 機器	洗濯機	1997	0.69	79	3.78	52	1.61	47	2.90	41	-2.21	
	洗濯乾燥機	2003	0.02	13	5.94	-	3.19	23	5.87	29	-5.85	
	衣類乾燥機	1997	0.74	15	3.17	-	1.58	11	1.72	11	-0.98	
	電子レンジ/オープン	1998	1.22	8	0.03	23	0.68	48	2.79	27	-1.57	
	電気炊飯器	2000	0.00	0	-	0	-	0	-	0	-	
	クッキングヒーター	1995	0.00	0	2.40	26	7.74	44	11.51	80	-	
	オーブントースター	1998	0.61	4	-	0	-	0	-	0	-	
	コーヒーメーカー	2001	0.00	0	-	0	0.65	1	-	0	-	
	食器乾燥機	2002	1.28	7	2.61	-	2.89	43	2.89	40	-1.61	
	食器乾燥機	2000	0.00	0	0.80	-	1.80	2	1.02	9	-	
	給湯機器	給湯器(ガス式床暖なし)	1997	7.83	40	6.04	-	4.30	304	4.39	311	3.44
		給湯器(ガス式床暖あり)	2004	9.65	5	-	-	5.41	73	5.06	84	4.59
		ガス瞬間湯沸機	1996	6.09	1	5.05	-	-	0	-	0	-
石油式床暖なし		1997	7.02	16	29.10	-	3.10	3	13.18	171	-6.16	
ヒートポンプ給湯器		1994	19.94	1	15.00	-	8.33	59	9.04	110	10.90	
冷暖房兼用エアコン		1998	2.88	112	0.78	-	0.74	96	0.79	114	2.09	
空調機器	冷房専用エアコン	1991	1.96	4	0.90	-	0.90	2	-	0	-	
	固定式暖房器具	1990	0.00	0	-	0	3.47	104	4.20	14	-	
	可搬式暖房器具	1999	0.00	0	0.95	-	0.18	24	0.97	18	-	
	床暖房	2000	8.77	2	-	0	-	0	3.40	5	5.37	
	電気こたつ	1994	0.00	0	-	0	-	0	-	0	-	
	ホットカーペット	1997	0.00	0	-	0	-	0	1.00	2	-	
	扇風機	1997	0.00	0	0.88	13	0.23	19	0.99	18	-	
	空気清浄機	2002	0.00	0	0.97	30	1.22	17	1.55	13	-	
	除湿器	1998	0.00	0	0.95	15	0.60	16	1.25	2	-	
	加湿器	1999	0.71	1	0.74	1	0.89	19	5.05	11	-4.34	
照明・その 他機器	浄水器/製氷機	2001	2.62	6	0.91	9	1.85	6	4.13	10	-1.51	
	電気マッサージ椅子	1992	5.68	4	3.37	12	-	0	8.71	19	-3.03	
	テレビゲーム機	2000	4.92	36	0.48	2	-	0	105.40	4	-100.48	
	リモコン付き照明	2000	0.00	0	0.83	10	1.22	233	0.74	239	-	
	電気スタンド	1996	0.00	0	1.04	180	0.78	48	0.30	1	-	
	温水洗浄便座(貯湯式)	2000	3.02	67	2.08	98	1.73	108	1.41	85	1.61	
	温水洗浄便座(瞬間式)	2000	4.09	4	-	0	2.51	25	2.16	27	1.93	
	暖房便座	1999	0.24	20	1.90	2	0.76	2	1.12	6	-0.88	
	電子楽器	1995	9.23	16	2.89	9	-	0	22.41	58	-13.18	
	デジタルオーディオプレーヤー	2002	1.28	14	-	0	0.43	7	0.96	7	0.32	
	携帯・PHS	2004	0.38	65	0.08	29	0.21	7	0.09	25	0.29	
	電話機子機	2000	1.43	95	0.67	-	0.90	24	1.23	16	0.20	
	充電式掃除機	2002	2.89	7	1.67	3	1.58	3	3.50	5	-0.61	
	充電式電動歯ブラシ	2003	0.82	18	1.49	18	1.05	14	1.15	21	-0.33	
充電式シェーバー	2000	1.58	36	-	0	0.90	56	0.79	42	0.79		

*H17年度ストック調査での使用機器製造年の平均値

*2 H18年度調査までは「ヘッドフォンステレオ」の数値

表 6-8 ストックベース調査とフローベース調査の待機時消費電力原単位<オフモード>の比較

大区分	中区分	ストックベース調査(17年度)		フローベース調査(17年度)		フローベース調査(18年度)		フローベース調査(19年度)		削減量 ①-④	
		製造年*	待機時消費電力原単位 (オフモード)①		待機時消費電力原単位 (オフモード)②		待機時消費電力原単位 (オフモード)③		待機時消費電力原単位 (オフモード)④		
			平均値(W)	n数	平均値(W)	n数	平均値(W)	n数	平均値(W)		n数
AV機器	テレビ(ブラウン管)	1996	0.98	116	0.19	71	0.16	45	0.39	26	0.59
	テレビ(液晶)	2004	0.27	19	0.36	55	0.29	126	0.47	163	-0.20
	テレビ(PDP)	2003	0.04	1	0.28	18	0.13	20	0.16	36	-0.12
	ビデオ内蔵テレビ	1998	5.32	14	0.74	14	1.32	15	0.73	9	4.59
	ビデオデッキ	1998	3.47	88	2.43	27	1.60	18	1.15	9	2.32
	ビデオディスクデッキ	2003	2.76	55	3.15	100	2.38	127	1.68	81	1.08
	一体型オーディオ	2000	4.70	44	1.96	48	1.39	43	1.33	52	3.37
	セパレート型オーディオ	1994	4.01	36	0.82	45	0.50	31	0.30	108	3.71
	ホームシアターシステム	1997	2.05	75	0.91	29	0.66	29	1.02	49	1.03
	有線放送ホームターミナル	2001	7.48	15	3.00	1	-	0	0.15	8	7.33
	衛星放送チューナー(BS用)	1998	4.91	7	6.31	4	0.18	4	3.11	8	1.80
	衛星放送チューナー(CS用)	2002	13.49	10	6.31	4	0.18	4	3.11	8	10.38
	IT機器	パソコン(セパレート、ブラウン管)	1999	1.92	19	3.08	-	0	-	0	-
PCモニター(ブラウン管)		1999	0.57	14	1.18	-	0	-	0	-	-
パソコン(セパレート、液晶)		2002	2.73	42	3.08	12	1.96	8	1.47	4	1.26
PCモニター(液晶)		2002	0.97	29	1.06	-	0.96	146	0.73	77	0.24
パソコン(ノート)		2002	1.37	34	1.11	24	0.90	21	0.44	35	0.93
パソコン(一体型)		2001	2.00	16	1.47	3	1.61	7	1.52	6	0.48
プリンタ		2001	1.63	66	0.26	29	0.53	21	0.51	58	1.12
プリンタ複合機(FAX機能付)		2003	5.41	3	0.24	7	-	0	1.28	21	4.13
プリンタ複合機(FAX機能なし)		2004	3.55	15	-	0	-	0	0.32	18	3.23
スキャナ		2001	3.82	3	0.59	7	0.60	4	0.45	4	3.37
外部記憶装置		2004	0.49	17	0.00	13	1.76	41	1.00	63	-0.51
外付けモデム		2003	0.86	8	-	0	-	0	-	0	-
ワープロ		1988	0.82	2	-	0	-	0	-	0	-
電話機(FAX付き)		2001	0.00	0	-	0	-	0	-	0	-
電話機(FAXなし)		1998	0.00	0	-	0	-	0	0.60	5	-
パソコンネットワーク機器		2003	0.00	1	-	0	0.00	3	0.00	3	0.00
インターネットターミナル		2000	0.08	2	-	0	-	0	-	0	-
家事・調理 機器	洗濯機	1997	0.47	87	0.00	75	0.00	31	0.00	53	0.47
	洗濯乾燥機	2003	0.02	13	0.01	-	0.00	19	0.01	29	0.01
	衣類乾燥機	1997	0.47	15	0.00	-	0.00	9	0.00	11	0.47
	電子レンジ/オーブン	1998	1.83	90	0.00	17	0.00	13	0.02	55	1.81
	電気炊飯器	2000	1.47	89	0.69	157	0.69	132	0.69	125	0.78
	クッキングヒーター	1995	0.28	4	0.11	22	0.85	44	0.33	109	-0.05
	オーブントースター	1998	0.11	72	-	0	-	0	-	0	-
	コーヒーマーカー	2001	0.00	33	-	0	0.16	10	0.13	10	-0.13
	食器洗乾燥機	2002	1.12	8	0.97	-	1.38	43	1.27	41	-0.15
	食器乾燥機	2000	0.71	5	0.34	-	0.30	5	0.80	19	0.11
	給湯機器	給湯器(ガス式床暖なし)	1997	6.12	31	3.76	-	3.31	255	3.01	309
給湯器(ガス式床暖あり)		2004	5.21	5	-	3.76	75	3.69	72	1.52	
ガス瞬間湯沸機		1996	6.07	1	4.09	-	0	0	0	0	
石油式床暖なし		1997	5.56	15	3.31	-	2.60	3	4.08	174	1.48
ヒートポンプ給湯器		1994	19.31	1	0.00	-	0.00	3	0.00	34	19.31
空調機器	冷暖房兼用エアコン	1998	0.67	36	0.00	-	0.00	4	0.85	48	-0.18
	冷房専用エアコン	1991	1.34	2	-	-	0	-	0	0	
	固定式暖房器具	1990	2.00	9	2.91	-	2.96	136	2.56	133	-0.56
	可搬式暖房器具	1999	1.58	119	1.63	-	1.28	195	1.31	132	0.27
	床暖房	2000	3.89	2	-	0	-	0	2.60	5	1.29
	電気こたつ	1994	0.00	25	-	0	-	0	-	0	-
	ホットカーペット	1997	0.00	32	-	0	0.11	15	0.00	21	0.00
	扇風機	1997	0.40	115	0.54	22	0.49	20	0.49	39	-0.09
	空気清浄機	2002	1.95	36	1.41	22	0.63	21	0.94	42	1.01
	除湿器	1998	0.74	11	0.72	21	0.89	15	0.74	30	0.00
	加湿器	1999	0.50	17	0.71	21	0.72	20	0.52	42	-0.02
照明・その他機器	浄水器/製氷機	2001	0.00	0	1.00	1	-	0	0.40	3	-
	電気マッサージ椅子	1992	0.45	7	-	0	0.00	19	1.30	13	-0.85
	テレビゲーム機	2000	0.48	42	0.37	1	0.08	1	0.42	2	0.06
	リモコン付き照明	2000	1.24	1	0.00	58	0.02	84	0.68	73	0.56
	電気スタンド	1996	0.19	73	-	0	0.04	14	0.27	70	-0.08
	温水洗浄便座(貯湯式)	2000	2.11	44	1.65	71	1.30	39	1.32	61	0.79
	温水洗浄便座(瞬間式)	2000	3.67	1	-	0	2.25	11	2.08	25	1.59
	暖房便座	1999	0.00	0	1.78	2	0.00	1	0.38	4	-
	電子楽器	1995	0.71	20	-	0	1.26	82	0.47	58	0.24
	ヘッドホンステレオ	2002	0.00	0	-	0	-	0	-	0	-
	携帯・PHS	2004	0.00	0	-	0	-	0	-	0	-
	電話機子機	2000	0.00	0	-	0	-	0	-	0	-
	充電式掃除機	2002	0.00	0	-	0	-	0	-	0	-
充電式電動歯ブラシ	2003	0.00	0	-	0	-	0	-	0	-	
充電式シェーバー	2000	0.00	0	-	0	-	0	0.17	15	-	

*H17年度ストック調査での使用機器製造年の平均値

6.3 現販売機器における待機時消費電力の推計

表 6-9 調査機器の待機時消費電力量(フローベース)

機器	保有率 (台/世帯)	モード別待機時消費電力発生時間 (時間)					待機時消費電力原単位 (W)				待機時消費電力 (kWh/(台・年)) * (台/世帯)				待機時 消費電力量 (kWh/ 年・世帯)	
		使用 時間	オン モード	オフ モード	アダプタ モード	タイマー モード	非稼働	オン モード	オフ モード	アダプタ モード	タイマー モード	オン モード	オフ モード	アダプタ モード		タイマー モード
映像・音響	テレビ	1.87	1643.0	3399.7	2067.5	-	1649.8	0.5	0.4	-	-	3.0	1.5	-	4.5	
	液晶テレビ	0.18	1682.9	3399.9	2053.3	-	1628.9	0.5	0.5	0.2	0.6	0.3	0.2	-	0.5	
	プラズマ	0.04	2186.4	3627.6	1248.7	-	1697.3	0.3	0.2	-	-	0.0	0.0	-	0.0	
	DVD・ビデオ・HDD内蔵テレビ注1)	0.28	1009.6	3648.3	2178.5	-	1815.2	0.7	0.7	-	0.1	0.8	0.5	-	1.2	
	ビデオデッキ	1.07	323.4	757.4	5392.9	-	166.0	2120.3	9.6	1.2	-	1.2	7.8	6.6	-	0.2
	HDD内蔵レコーダー・プレーヤー注1)	0.45	483.9	762.8	5056.4	-	222.6	2234.3	30.9	1.7	-	6.3	10.7	3.8	-	0.6
	一体型オーディオ(S・コンボイ等)	0.36	333.7	495.7	4439.0	-	26.4	3465.2	20.7	1.3	-	0.3	3.7	2.1	-	0.0
	セパレート型オーディオコンポ	0.23	289.4	482.5	4374.8	-	10.9	3662.4	40.0	0.3	-	0.7	4.3	0.3	-	0.0
	ポータブルシステム	0.67	408.8	544.2	2574.3	-	15.7	8216.9	3.3	1.0	-	1.2	1.8	-	3.0	
	有線放送ターミナル	0.07	1625.2	1197.4	4477.1	-	-	1460.3	#10.9	0.2	-	-	1.0	0.0	-	1.0
衛星放送チューナー	0.21	710.7	1415.1	5434.1	-	-	1200.1	11.5	3.1	-	-	3.4	3.5	-	6.9	
情報・通信	デスクトップ(ブラウン管)	0.24	761.6	-	3384.7	-	4613.7	\$3.6	\$3.1	-	-	2.5	-	-	3.5	
	モニター(ブラウン管)	0.24	761.6	-	3384.7	-	4613.7	\$2.1	\$1.2	-	-	1.0	-	-	2.8	
	デスクトップ(液晶)	0.31	1100.8	-	4054.5	-	3604.8	2.5	1.5	-	-	1.8	-	-	2.8	
	モニター(液晶)	0.31	1100.8	-	4054.5	-	3604.8	1.7	0.7	-	-	0.9	-	-	2.8	
	ノート型	0.51	715.7	-	2402.7	-	5641.6	2.0	0.4	0.1	-	0.5	-	-	0.5	
	一体型	0.02	778.3	-	5892.5	-	2089.2	5.7	1.5	-	-	0.1	-	-	0.1	
	プリンタ	0.65	78.3	-	2585.8	-	6095.9	5.5	0.5	-	-	0.9	-	-	0.9	
	プリンタ複合機	0.09	290.3	-	2676.1	-	5854.6	13.5	0.8	-	-	0.2	-	-	0.2	
	スキャナ	0.16	73.0	1769.2	-	-	6917.7	2.8	0.5	-	-	0.8	-	-	0.8	
	外部記憶装置	0.17	513.7	-	2820.4	-	-	5425.9	3.2	1.0	-	-	0.5	-	0.5	
外付けモデム、DSLU等	0.11	2722.4	3809.0	-	-	-	2228.6	10.0	-	-	4.2	-	-	4.2		
ワープロ	0.16	75.3	-	642.3	-	8042.4	-	-	-	-	-	-	-	0.0		
コピー機	0.04	50.3	-	2412.2	-	6297.5	2.9	0.0	-	-	0.0	-	-	0.0		
ファクス機能付電話機	0.57	404.5	8355.3	-	-	0.0	1.3	-	-	-	6.0	-	-	6.0		
電話機(ファクス機能付き以外のもの)	0.38	319.4	8440.6	-	-	0.0	2.2	0.6	-	-	7.1	-	-	7.1		
ファクス専用機	0.01	759.8	8000.2	-	-	0.0	2.3	0.0	-	-	0.2	-	-	0.2		
家事・調理	洗濯機	0.99	370.6	-	5458.1	-	75.8	2855.5	2.9	0.0	-	2.6	-	0.0	0.2	
	洗濯乾燥機	0.09	371.4	-	5192.3	-	12.7	3183.6	5.9	0.0	-	5.6	-	0.0	0.0	
	衣類乾燥機	0.10	100.5	-	4347.4	-	-	4312.1	1.7	0.0	-	-	0.0	-	0.0	
	電子レンジ、電気オーブン	1.05	165.2	-	5734.8	-	-	2870.0	2.8	0.0	-	-	0.1	-	0.1	
	電気炊飯器	0.94	1207.0	-	2759.5	-	709.2	4084.3	-	0.7	-	0.9	-	-	0.6	
	炊き込みポトター	0.10	419.4	-	3644.7	-	-	4695.8	11.5	0.3	-	-	0.1	-	0.1	
	オーブントースター、トースター	0.80	73.8	-	3880.6	-	-	4805.6	-	-	-	-	-	-	0.0	
	コーヒーメーカー	0.42	74.2	-	1489.0	-	-	7196.8	-	0.1	-	-	0.1	-	0.1	
	食器乾燥機	0.17	445.7	-	5927.3	-	-	2387.0	2.9	1.3	-	1.6	-	-	1.3	
	食器乾燥機	0.15	323.0	-	5702.3	-	-	2734.7	1.0	0.6	-	1.0	-	-	0.5	
給湯	ガス給湯器・風呂釜	0.74	639.9	3083.7	5036.4	-	-	4.5	3.1	-	-	10.4	11.8	-	22.2	
	ガス瞬間湯沸器(台所用)	0.22	393.6	3571.2	4795.2	-	-	\$5.1	\$4.1	-	-	4.0	4.3	-	8.3	
	石油給湯器・風呂釜	0.18	936.8	3634.5	4188.7	-	-	-	13.2	4.1	-	-	8.9	3.2	-	
	ヒートポンプ給湯器	0.00	2654.4	5500.1	605.6	-	-	-	9.0	0.0	-	9.0	0.2	0.0	-	
	深夜電気温水器	0.07	0.0	8760.0	0.0	-	-	-	5.9	0.0	-	5.2	3.5	0.0	-	
	浴室換気乾燥機	0.13	764.9	0.0	7995.1	-	-	-	1.8	1.8	-	3.2	0.0	1.9	-	
	浴槽・脱衣兼用エアコン	1.96	634.7	3252.4	1449.7	-	40.2	3333.0	0.8	0.9	-	1.5	5.1	2.4	-	
	浴槽専用エアコン	0.24	437.7	2408.8	895.8	-	11.8	5065.8	-	-	-	-	-	-	0.0	
	固定式脱脂器具(FDF式脱脂機等)	0.12	1983.9	2157.9	282.1	-	206.9	4129.5	4.2	2.6	-	3.4	1.1	0.1	-	
	可動式脱脂器具	1.21	685.3	1583.5	35.9	-	27.5	6457.7	1.0	1.3	-	1.7	1.9	0.1	-	
空調・給排水	床暖房	0.07	1143.4	6194.2	1422.3	-	-	0.0	3.4	2.6	-	3.4	1.4	0.2	-	
	電気こたつ	0.57	799.0	1243.8	41.1	-	-	6676.0	-	-	-	-	-	-	0.0	
	ホットカーペット	0.64	803.2	1233.0	32.1	-	-	6691.7	1.0	0.0	-	-	0.8	0.0	-	
	除湿機	1.76	505.7	1090.8	148.4	-	-	7015.1	1.0	0.5	-	-	1.9	0.1	-	
	空気清浄機	0.25	3923.4	1493.8	433.7	-	-	2909.1	1.6	0.9	-	1.5	0.6	0.1	-	
	除湿機	0.23	1015.1	881.0	42.7	-	-	6821.3	1.3	0.7	-	-	0.3	0.0	-	
	加湿器	0.22	702.9	844.4	15.5	-	-	7197.2	5.1	0.5	-	0.3	0.9	0.0	-	
	浄水器、浄水器(電源の必要なもの)	0.15	0.0	8760.0	0.0	-	-	0.0	4.1	0.4	-	-	5.3	-	5.3	
	電気式マックス椅子	0.11	175.1	-	2810.6	-	-	5774.5	8.7	1.3	-	3.4	-	0.4	-	
	テレビゲーム機	0.61	336.0	-	1988.8	-	-	8435.2	103.4	0.4	-	-	0.5	-	0.5	
照明・その他	LED照明	0.44	1829.9	4379.6	-	-	-	2550.5	0.7	0.7	-	-	1.4	-	1.4	
	電気スタンド	0.80	530.5	-	4075.7	-	-	4153.9	0.3	0.3	-	-	0.9	-	0.9	
	風水浄浄機	0.64	1052.6	5080.6	2081.8	-	545.0	-	1.6	1.5	-	1.7	5.2	2.1	-	
	脱脂便座(洗浄機能なし)	0.19	1428.6	-	3722.4	-	425.6	3183.4	1.1	0.4	-	1.8	-	0.3	-	
	電子楽器	0.18	122.6	-	2578.4	-	-	6059.0	22.4	0.5	-	-	0.2	-	0.2	
	デジタルオーディオプレーヤー注3)	0.17	358.8	120.2	-	400.3	-	8000.9	1.0	-	0.3	-	0.0	-	0.0	
	携帯電話・PHS	1.82	757.2	364.3	-	1403.7	-	6599.1	0.1	-	-	0.1	-	-	0.2	
	電話機	0.84	6099.6	5278.2	-	1901.2	-	759.2	1.2	-	0.8	-	5.5	-	1.2	
	充電式掃除機	0.13	2467.5	2046.9	-	976.1	-	5316.5	3.5	-	0.8	-	0.9	-	0.1	
	充電式電動歯ブラシ	0.14	4110.0	3529.8	-	1580.3	-	3069.7	1.2	-	1.0	-	0.6	-	0.2	
充電式電気シェーバー	0.52	706.2	496.6	-	367.2	-	7686.6	0.8	0.2	0.4	-	0.2	0.1	-		
合計															180.2	

注1) 充電機器の調査時間は定義に従い、オンモード時間に分類した。

注2) 原単位欄の記号の意味は下記のとおり

: ストック原単位を流用

\$: 他モードの数値を流用

& : 調査票等より「0」と想定できること

注3) 保有率と発生時間はビデオディスクデッキの値を流用

注4) 保有率と発生時間はビデオ内蔵テレビの値を流用

注5) 保有率と発生時間はヘッドホンステレオの値を流用

6.4 調査入力表(家電製品)

表 6-10 家電製品調査票: 入力票 A

〈 入力票 A 〉 入力票Aは貴部署についてご記入ください。		2007年度
1. ご記入なさる方の部署名、氏名等をご記入ください。(入力票A・B記入内容の確認のためにメールさせていただくことがあります。)		
企業名		
事業部名		
部署名		
部署担当機器		
記入者役職		
記入者氏名		
E-mail アドレス		
事業所郵便番号		
事業所住所		
2. 貴部署で担当されている機器に関して伺います。(本回答は主として統計分析資料として使用します。)		
(1) 貴社において、貴部署の担当機器に対し目標値を設定するなど、待機時消費電力の削減に取り組んでいますか。		
<ul style="list-style-type: none"> ①取り組んでいる ②今後取り組む予定がある ③取り組んでいない ④その他 	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	○印入力欄(○はひとつ)
→ (1)-a 取り組みの具体的な内容を入力ください。(4項目まで、自由記入)		
(2) 貴社において、貴部署の担当機器対し、待機時消費電力に関する具体的な設計基準・設計ルールを設定していますか。		
<ul style="list-style-type: none"> ①具体的な設計基準(基準値等)がある ②今後具体的な設計基準(基準値等)を設ける予定がある ③設計基準等はない ④その他 	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	○印入力欄(○はひとつ)
→ (2)-a 設計基準等の具体的な内容を入力ください。(4項目まで、自由記入)		
(3) 貴部署の担当機器において、待機時消費電力をカタログや取扱説明書等で表示していますか。		
<ul style="list-style-type: none"> ①全ての製品について表示している ②一部の製品について表示している ③表示していない 	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	○印入力欄(○はひとつ)
→ (3)-a 表示の媒体(カタログ、取扱説明書等)やその方法等をご記入ください。(4項目まで、自由記入)		
→ (3)-b 表示しない理由をご記入ください。(4項目まで、自由記入)		
3. 貴部署で担当されている機器の待機時消費電力に関連する情報について伺います。 (本回答は主として待機時消費電力に関する現状分析に使用します。)		
(1) 貴部署で担当されている機器で待機時消費電力を削減するための機構・機能等がありましたらご記入ください。		
(2) 当センターでは、機器を使用しない時にプラグを抜くことを推奨しております。貴部署で担当されている機器で、家庭での使用下において、待機時消費電力を削減するためにプラグを抜いた場合(あるいは分岐用安全ブレーカーを落とした場合など)に、機能面や製品耐久性の面などで、問題となることがありましたらご記入ください。		
(3) 貴部署で担当されている機器で待機時消費電力を削減するために使用者に実施してもらいたい省エネ行動がありましたらご記入ください。		
●入力票Aは以上です。入力票Bにお進みください。		

表 6-11 家電製品調査票 AV 機器:入力票 B

【入力票B-映像音響機器】 入力票Bは貴部署担当の機器について、1つの機器(型番)ごとに1行入力してください。
 別シートの「アンケート票の説明」、別紙「アンケート票の説明」【アンケートの記入方法(3)】をご覧ください。
 ※「録音の種類」をプルダウンより選択すると、入力が必要となる箇所の色が変化します。色が付いていないセルでも該当するものがあれば入力してください。
 ※ 充電式製品の場合は、製品本体ではなく充電器について回答してください。該当するセルを選択すると、注意事項が表示されますのでご確認ください。
 ※「記入方法」欄や該当する回答セルを選択すると、同じように注意事項が表示されますのでご確認ください。

項目	機器の種類	その他機器	小分類	機能・特徴	機器の型番	大きさ・容量等		販売開始年	電源/稼働スイッチの形態				
						大きさ・容量等	単位		内容	①	②	③	
記入方法	プルダウンより選んで入力(該当するものがない場合は他の機器を選択)	機器の種類でその他を選んだ場合機器名称を入力	プルダウンより選んで入力(該当するものがない場合直接入力)	機能・特徴例(HDD内蔵等)		大きさ・容量等	単位	内容	西暦でお答えください	電源/稼働スイッチの有無	電源/稼働スイッチの種類(ACアダプタの有無)	電源/稼働スイッチ以外のスイッチの形態	
記入例	ミニコンボ		CD+カセット+ラジオ	HDD内蔵	ABCD	50	W	最大出力	2000	2	1	2	3
記入例	デジタルオーディオプレーヤー			フラッシュメモリ	ABCD	512	MB	内蔵メモリ	2005	1	2		
記入例	HDD-DVDレコーダー・プレーヤー		ハードディスク内蔵DVDレコーダー	HDD内蔵	ABCD	250	GB	HDD容量	2006	2	1	2	3
記入例	テレビ		液晶ワイド		ABCD	20V	型	画面サイズ	2006	2	1	2	3

以下入力欄

下記の「△△△時における消費電力」欄の色は、このExcelの別シート「消費電力発生時概略図」で示す と同一色で示します。

④	⑤-1				⑤-2				⑥		⑦-1		⑦-2		⑧	
消費電力(W) (入力欄④のみ)	消費電力(W)	内容	表示部オフ時消費電力(W)	消費電力(W)	内容	表示部オフ時消費電力(W)	消費電力(W)	内容	表示部オフ時消費電力(W)	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	表示部オフ時消費電力(W)
	0.30	メモリ保持					0.80	リモコン操作待ち		19.2	CD再生待ち				0.80	
										0.90	過充電時					
	0.50	時計表示	0.20				0.80	リモコン操作待ち	0.50	11.5	DVD再生待ち					
	0.10	トランスロス					0.50	リモコン操作待ち								

以下入力欄

ています。これを参考に各項目に該当する消費電力を記入してください。

その他の主機能非稼働状態						
⑨	⑩	⑪	⑫	⑬-1	⑬-2	⑬-3
タイマー機能利用時	ネットワーク回線からのデータ待ち時	ネットワークデータ取得時	クイックスタート設定など他の一定機能利用時	入力欄1	入力欄2	入力欄3
消費電力(W)	消費電力(W)	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)
0.90				0.70	本体非稼働	
2.0	2.0	40.0	EPGデータ取得	11.5	クイックスタート設定時	

以下入力欄

電源/稼働スイッチのオン時における主機能稼働時の消費電力(稼働状態)と定格消費電力												
⑭-1		⑭-2		⑭-3		⑭-4		⑭-5		(定格)	(定格)	(定格)
入力欄1		入力欄2		入力欄3		入力欄4		入力欄5		入力欄6	入力欄7	入力欄8
消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)
16.0	再生時	14.0	録音時	5.0	ラジオ聴取時	20.0	エンコード処理			56.0	JETTA基準	
5.0	充電時	5.0	再生時(接続時)	5.0	録音時(接続時)							
50.5	再生時	50.5	録音時	50.5	チューナー使用時					55.0	(定格)	
90.0	視聴時	70.5	省エネモード							110.0	定格動作時(定格)	

以下入力欄

省エネ状態への自動移行機能	省エネ状態への自動移行機能(自動移行機能が複数ある場合は、代表的なものから3つ記入してください。※左記ですべてに回答している状態モードを記入する場合は、その状態の名前だけでなく、該当する項目番号(⑭-⑱)も記入してください。)												備考
	入力欄1			入力欄2			入力欄3			自動移行条件			
無し/有り/プルダウンより選んで入力	移行前	移行後(省エネ状態)	自動移行条件	移行前	移行後(省エネ状態)	自動移行条件	移行前	移行後(省エネ状態)	自動移行条件	項目番号	状態モード	項目番号	状態モード
2	⑭-1	CD再生待ち	⑮	(表示部オン)	30分								
2	⑭-1	再生時	⑮	リモコン操作待ち	3時間を超え	⑮-1	時計表示	⑮-1	表示部オフ	1時間後			
2	⑭-1	視聴時	⑮	オア(通常使用)	180分								

以下入力欄

表 6-12 家電製品調査票 AV 機器: アンケート票の説明

【 アンケート票の記入方法について 】

(1)入力方法及び入力上の注意

- ① 「調査票.xls」のワークシート「入力票A」、「入力票B」に入力していただきます。
「調査票.xls」は対象製品によって異なります。
「映像音響機器」、「情報通信機器」、「調理家事機器」、「空調給湯機器」、「家電その他機器」のいずれかのExcelファイルが入った3.5フロッピーディスクをご用意してあります。
専用WEBサイトから各アンケート票のダウンロードもできますので、ご活用ください。
また貴部署にて、お送りしたアンケート票(3.5FD)以外のお取り扱い機器がある場合は、下記サイトより該当するアンケート票をダウンロードしてご回答願いたく存じます。
◆当調査の専用WEBサイト <http://enquet.net/eccj/>
- ② 「入力票A」は貴部署についてお答えください。
- ③ 「入力票B」は貴部署で担当している機器についてお答えください。

(2)「入力票A」について

- ① 「入力票A」は貴部署についてお答えください。
- ② まず、記入者の部署、氏名等を入力してください。
(注)ご記入いただいた部署、氏名等は本調査に関連するお問合せ以外に使用することはございません。
個人情報とは適法、且つ慎重に取り扱います。
- ③ 次に、貴部署で担当されている機器に関する質問にお答えください。
- ④ 自由記入欄への入力文字数は無制限です。
- ⑤ 選択項目は○印入力欄に○印を入力してください。○印の入力は一つです。

(3)「入力票B」について

- ① 「入力票B」は貴部署担当の機器について、1つの機器(型番)ごとに1行入力してください。
- ② 入力していただく対象は、2007年7月末時点でカタログに記載している機種種の全てです。
- ③ 機器に該当する項目について、可能な限り回答にご協力ください。回答が困難な項目、および該当しない項目には回答不要です。回答可能な箇所のみを記入して返送してください。
・「機器の種類」をプルダウンより選択すると、入力想定される箇所のセルの色が変化します。色が付いていないセルでも該当するものがあれば入力してください。
・予備の「入力欄」は、規定項目について記入欄が不足している場合、および規定項目以外の消費電力状態が存在する場合に利用してください。
- ④ 消費電力は、小数点以下第1位までお答えください。消費電力が1W未満の場合は、集計による誤差を小さくするため、可能な限り小数点以下第2位までお答えください。
また、集計漏れを防ぐため、機器に該当する状態が存在し、その時の消費電力が発生しない場合は、必ず入力欄に「0」Wと入力してください。
- ⑤ 周波数は50Hz時をお答えください。50Hz製品がない場合は60Hz製品についてお答えください。
- ⑥ カラーバリエーションなど同一設計であり消費電力に違いが生じない場合は、そのうちの代表的な型式1つについて記入してください。
- ⑦ 在庫限りの販売となっている製品は、備考欄に「在庫限り」と記入してください。また、その他注意事項等がありましたら、ご自由にご記入ください。

(4)調査対象製品についての注意事項

・映像音響機器

- ・ミニコンポのようにセット販売しているものはセット単位で、個別に販売しているものはそれぞれの機種(アンプ、CDプレーヤー等)ごとに入力してください。ホームシアターは、システム単位で販売するもの、構成要素ごとに販売するもの両方を入力してください。
- ・オーディオコンポ、ポータブルシステムの「電源/稼働スイッチのオン時における主機能非稼働時の消費電力」は、CD再生待ちの消費電力を入力してください。CDの無いものは、MD再生待ち、カセット再生待ちの順でお答えください。
- ・携帯音楽プレーヤー、デジタルカメラ等の充電式製品については、以下の点に留意し、適宜記入してください。
※「電源/稼働スイッチの形態」は、充電器について回答してください。
※満充電後の「過充電時」、アダプタまたは充電器のみ給電されている「製品本体非接続時」、「充電時」、および製品本体を充電器またはアダプタに接続した状態で稼働させる「接続稼働時」の消費電力を記入してください。
※「接続稼働」ができない製品の場合は、製品本体のみの稼働時消費電力を記入し、その旨を『内容』に記載してください。

表 6-13 家電製品調査票 IT 機器: 入力票 B

【入力票B-情報通信機器】 入力票Bは貴部署担当の機器について、1つの機器(型番)ごとに1行入力してください。
 別紙「アンケート票の説明」【アンケートの記入方法(3)】をご覧ください。
 ・「機器の種類」をプルダウンより選択すると、入力が想定される箇所のセルの色が変化します。色が付いていないセルでも該当するものがあれば入力してください。
 ※ 充電式製品の場合は、製品本体ではなく充電器について回答してください。該当するセルを選択すると、注意事項が表示されますのでご確認ください。
 ※「記入方法」欄や該当する回答セルを選択すると、同じように注意事項が表示されますのでご確認ください。

項目	機器の種類	その他機器	小分類	機能・特徴	機器の型番	大きさ・容量等			販売開始年	電源/稼働スイッチの形態			
						大きさ・容量等	単位	内容		①	②	③	
記入方法	プルダウンより選んで入力(該当するものがない場合は他を選択)	機器の種類でその他を選んだ場合機器名称を入力	プルダウンより選んで入力(該当するものがない場合直接入力)	機能・特徴例(HDD内蔵等)					西暦でお答えください	電源/稼働オンオフ機能の有無	外部電源装置(ACアダプタ)の有無	電源/稼働スイッチの種類(電源スイッチのみの場合のみ記入)	オールオンスイッチ以外のスイッチの形態
記入例	ノートパソコン			液晶タイプ	ABC-1234	15.4	型	モニター画面サイズ	2000	2	2	2	1
記入例	電話		留守番・ファックス機能		abc-5678	145×138×148	mm/幅×奥行き×高さ	A4/A4	2005	1	2		

以下入力欄

下記の「△△△時における消費電力」欄の色は、この Excel の別シート「消費電力発生時概略図」

④	⑤-1				⑤-2				⑥			
消費電力(W) (入力欄は0.00)	消費電力(W)	内容	表示部オフ時消費電力(W)	消費電力(W)	内容	表示部オフ時消費電力(W)	消費電力(W)	内容	表示部オフ時消費電力(W)	消費電力(W)	内容	表示部オフ時消費電力(W)
	0.70	ACアダプタによるトランスロス										

以下入力欄

で示す と同一色で示しています。これを参考に各項目に該当する消費電力を記入してください。

電源/稼働スイッチのオン時における主機能非稼働時の消費電力													
⑦-1	⑦-2	⑦-3	⑦-4	⑦-5	⑦-6	⑦-7	⑧						
入力欄1	入力欄2	入力欄3	入力欄4	入力欄5	入力欄6	入力欄7	表示部オフ時						
消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	
1.2	アイドル	32.7	スリープ	2.5	モニタオフ	25.2	HDD電源オフ	32.0	システムスタンバイ	0.70	休止状態	1.5	過充電時

以下入力欄

その他の主機能非稼働状態									
⑨	⑩	⑪		⑫-1		⑫-2		⑫-3	
タイマー機能利用時	ネットワーク接続時のデータ待ち時	ネットワークデータ取得時		クイックスタート設定などその他の一定機能利用時		入力欄1		入力欄3	
消費電力(W)	消費電力(W)	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容
	2.5					0.70	(本体非接続)		
						1.5	蓄電待ち・留守	1.0	表示部オフ

以下入力欄

電源/稼働スイッチのオン時における主機能稼働時の消費電力(稼働状態)と定格消費電力													
⑬-1		⑬-2		⑬-3		⑬-4		⑬-5		(定格)		(定格)	
入力欄1	入力欄2	入力欄3	入力欄4	入力欄5	入力欄6	入力欄7	入力欄8						
消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容
60.8	(充電時)	47.5	PC使用時(稼働)	46.6	テレビ視聴時(接続稼働時)			65.0	最大	36.0	標準		
3.2	通話時	2.8	留守電録音時	2.8	留守電再生時	15.2	ファックス受信時	10.5	ファックス送信時	70.0	最大		

以下入力欄

省エネ状態への自動移行機能	省エネ状態への自動移行機能(自動移行機能が複数ある場合は、代表者のものを3つ記入してください。)												備考						
	入力欄1						入力欄2							入力欄3					
	移行前		移行後(省エネ状態)		自動移行条件		移行前		移行後(省エネ状態)		自動移行条件			移行前		移行後(省エネ状態)		自動移行条件	
項目番号	状態モード	項目番号	状態モード	項目番号	状態モード	項目番号	状態モード	項目番号	状態モード	項目番号	状態モード	項目番号	状態モード	項目番号	状態モード	項目番号	状態モード	項目番号	状態モード
2	⑦-1	アイドル時	⑦-2	スリープ時	15分(出荷時)	⑦-1	アイドル時	⑦-6	休止状態	30分(出荷時)	⑦-1	アイドル時	⑦-3	モニタオフ	15分(出荷時)				
2	⑩-1	蓄電待ち	⑩-2	表示部オフ	通話等終了直後から15分														

以下入力欄

表 6-14 家電製品調査票 IT 機器:アンケート票の説明

【 アンケート票の記入方法について 】

(1)入力方法及び入力上の注意

- ① 「調査票.xls」のワークシート「入力票A」、「入力票B」に入力していただきます。
「調査票.xls」は対象製品によって異なります。
「映像音響機器」、「情報通信機器」、「調理家事機器」、「空調給湯機器」、「家電その他機器」のいずれかのExcelファイルが入った3.5フロッピーディスクをご用意してあります。
専用WEBサイトから各アンケート票のダウンロードもできますので、ご利用ください。
また貴部署にて、お送りしたアンケート票(3.5FD)以外のお取り扱い機器がある場合は、下記サイトより該当するアンケート票をダウンロードしてご回答願いたく存じます。
◆当調査の専用WEBサイト <http://enquet.net/eccj/>
- ② 「入力票A」は貴部署についてお答えください。
- ③ 「入力票B」は貴部署で担当している機器についてお答えください。

(2)「入力票A」について

- ① 「入力票A」は貴部署についてお答えください。
- ② まず、記入者の部署、氏名等を入力してください。
(注)ご記入いただいた部署、氏名等は本調査に関連するお問合せ以外に使用することはございません。
個人情報とは適法、且つ慎重に取り扱います。
- ③ 次に、貴部署で担当されている機器に関する質問にお答えください。
- ④ 自由記入欄への入力文字数は無制限です。
- ⑤ 選択項目は○印入力欄に○印を入力してください。○印の入力は一つです。

(3)「入力票B」について

- ① 「入力票B」は貴部署担当の機器について、1つの機器(型番)ごとに1行入力してください。
- ② 入力していただく対象は、2007年7月末時点でカタログに記載している機種全てのです。
- ③ 機器に該当する項目について、可能な限り回答にご協力ください。回答が困難な項目、および該当しない項目には回答不要です。回答可能な箇所のみを記入して返送してください。
・「機器の種類」をプルダウンより選択すると、入力が想定される箇所のセルの色が変化します。色が付いていないセルでも該当するものがあれば入力してください。
・予備の「入力欄」は、規定項目について記入欄が不足している場合、および規定項目以外の消費電力状態が存在する場合に利用してください。
- ④ 消費電力は、小数点以下第1位までお答えください。消費電力が1W未満の場合は、集計による誤差を小さくするため、可能な限り小数点以下第2位までお答えください。
また、集計漏れを防ぐため、機器に該当する状態が存在し、その時の消費電力が発生しない場合は、必ず入力欄に「0」Wと入力してください。
- ⑤ 周波数は50Hz時をお答えください。50Hz製品がない場合は60Hz製品についてお答えください。
- ⑥ カラーバリエーションなど同一設計であり消費電力に違いが生じない場合は、そのうちの代表的な型式1つについて記入してください。
- ⑦ 在庫限りの販売となっている製品は、備考欄に「在庫限り」と記入してください。また、その他注意事項等がありましたら、ご自由にご記入ください。

(4)調査対象製品についての注意事項

情報通信機器

- ・パソコンの場合、お答えいただく機種が多く全ての記入が困難な場合は、セパレートタイプ、一体型、ノートごとに、次の条件に合う機種をお答えください。
※セパレートタイプはセット販売している機種で、LCD17インチもしくは19インチのもの。情報記録媒体が異なる複数の同等モデルがある場合はDVD読み書き可能モデル、OSは現販売機器で主流としているもの。
- ※一体型は、情報記録媒体が異なる複数の同等モデルがある場合はDVD読み書き可能モデル、OSは現販売機器で主流としているもの。
- ※ノート型はA4サイズで、情報記録媒体が異なる複数の同等モデルがある場合はDVD読み書き可能モデル、OSは現販売機器で主流としているもの。
- ・プリンタは、インクジェット式は全て、レーザー式の場合はA4用紙対応型機種をお答えください。
- ・コピー機は家庭向け製品で、卓上式のものをお答えください。
- ・子機付の電話は、本体と子機を別々に入力してください。
- ・電話機子機等の充電式製品については、以下の点に留意し、適宜記入してください。
※「電源/稼働スイッチの状態」は、充電器について回答してください。
※満充電後の「過充電時」、アダプタまたは充電器のみ給電されている「製品本体非接続時」、「充電時」、および製品本体を充電器またはアダプタに接続した状態で稼働させる「接続稼働時」の消費電力を記入してください。
※「接続稼働」ができない製品の場合は、製品本体のみの稼働時消費電力を記入し、その旨を「内容」に記載してください。
※ノートパソコンは、充電式製品ですが、コンセントにつないだまま使用されることも想定されるため、「スイッチの状態」はノートパソコン本体について回答してください。詳細は記入例を参照してください。

表 6-15 家電製品調査票 調理家事機器:入力票 B

＜ 入力票B-調理家事機器 ＞ 入力票Bは貴部署担当の機器について、1つの機器(型番)ごとに1行入力してください。
 別シートの「アンケート票の説明」、別紙「アンケート票の説明」【アンケートの記入方法(9)】をご覧になりながらご記入ください。
 ・「機器の種類」をプルダウンより選択すると、入力が想定される箇所のセルの色が変化します。色が付いていないセルでも該当するものがあれば入力してください。
 ※ 充電式製品の場合には、製品本体ではなく、充電器について回答してください。該当するセルを選択すると、注意事項が表示されますのでご確認ください。
 ※「記入方法」欄や該当する回答セルを選択すると、同じように注意事項が表示されますのでご確認ください。

項目	機器の種類	その他機器	小分類	機能・特徴	機器の型番	大きさ・容量等			販売開始年	電源/稼働スイッチの形態			
						大きさ・容量等	単位	内容		①	②	③	
記入方法	プルダウンより選んで入力(該当するものがない場合、その他を選択)	機器の種類でその他を選んだ場合機器名称を入力	プルダウンより選んで入力(該当するものがない場合直接入力)	機能・特徴例(クッキングヒーターの場合:オールメタル対応等、食器洗い乾燥機の場合:給水接続、給湯接続等)					西暦でお答えください	電源/稼働オンオフ機能の有無	外部電源装置(ACアダプタ)の有無	電源/稼働スイッチの種類(設け①の箇所が20の場合のみ記入)	オールオフスイッチ以外のスイッチの形態
記入例	洗濯機		全自動		HJ-91011	8kg		洗濯容量	2000	2	1	2	1
記入例	電気炊飯器		マイコン式		KLM-1213	1リットル		最大炊飯容量	2005	2	1	2	1
記入例	充電式掃除機				OPQ-9876	300mA		充電電流	2007	1	2		

以下入力欄

下記の「△△△時における消費電力」欄の色は、この Excel の別シート「消費電力発生時概略図」で示す

オールオフスイッチのオフ時の消費電力		本体と物理的につながっている電源/稼働スイッチ(有線リモコンを含む)のオフ時における消費電力(複数ある場合は、⑤-1, ⑤-2に分けて記入してください。)				本体から離れた電源/稼働スイッチ(無線/赤外線リモコン)のオフ時における消費電力			
④		⑤-1		⑤-2		⑥			
消費電力(W) (入力値は0のみ)	内容	表示部オフ時消費電力(W)	内容	表示部オフ時消費電力(W)	内容	表示部オフ時消費電力(W)	内容	表示部オフ時消費電力(W)	内容
		0.40	トランスロス						
		0.30	時計表示						

以下入力欄

※ ○ ○ ○ ○ と同一色で示しています。これを参考に各項目に該当する消費電力を記入してください。

電源/稼働スイッチのオン時における主機能非稼働時の消費電力			その他の主機能非稼働状態													
⑦-1			⑦-2		⑧		⑨		⑩		⑪-1		⑪-2		⑪-3	
消費電力(W)	内容 (再生待ち等)	消費電力(W)	内容 (再生待ち等)	表示部オフ時消費電力(W)	内容	ネットワーク接続中のデータ受け取り時	ネットワークデータ取得時	クイックスタート設定などその他一定期間利用時	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容
22	稼働操作待ち															
22	過充電時												1.7	本体非接続		

以下入力欄

電源/稼働スイッチのオン時における主機能稼働時の消費電力(稼働状態)と定格消費電力													
⑫-1		⑫-2		⑫-3		⑫-4		⑫-5		(定格)		(定格)	
消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容
442.5	洗濯	442.5	すすぎ	210.7	脱水					490.0	洗濯時(定格)		
680.0	炊飯	60.3	保温							680.0	最大炊飯電力(定格)		
9.8	充電時	9.8	強(接続稼働時)	6.5	弱(接続稼働時)								

以下入力欄

省エネ状態への自動移行機能	省エネ状態への自動移行機能(自動移行機能が複数ある場合は、代表的なものから3つ記入してください。) ※ 左記すでに回答している状態・モードを記入する場合は、その状態の名称だけでなく、該当する項目番号(⑫-⑭)も記入してください。												備考	
	入力欄1				入力欄2				入力欄3					
	移行前(省エネ状態)項目番号	移行後(省エネ状態)項目番号	自動移行条件	項目番号	移行前(省エネ状態)項目番号	移行後(省エネ状態)項目番号	自動移行条件	項目番号	移行前(省エネ状態)項目番号	移行後(省エネ状態)項目番号	自動移行条件			
無し:1 有り:2 プルダウンより選んで入力														
	2	⑫-3	脱水	⑫-1	オフ	脱水終了時								
	1													
	1													

以下入力欄

表 6-16 家電製品調査票 調理家事機器:アンケート票の説明

【 アンケート票の記入方法について 】

(1)入力方法及び入力上の注意

- ① 「調査票.xls」のワークシート「入力票A」、「入力票B」に入力していただきます。
「調査票.xls」は対象製品によって異なります。
「映像音響機器」、「情報通信機器」、「調理家事機器」、「空調給湯機器」、「家電その他機器」のいずれかのExcelファイルが入った3.5フロッピーディスクをご用意してあります。
専用WEBサイトから各アンケート票のダウンロードもできますので、ご活用ください。
また貴部署にて、お送りしたアンケート票(3.5FD)以外のお取り扱い機器がある場合は、下記サイトより該当するアンケート票をダウンロードしてご回答願いたく存じます。
◆当調査の専用WEBサイト <http://enquet.net/eccj/>
- ② 「入力票A」は貴部署についてお答えください。
- ③ 「入力票B」は貴部署で担当している機器についてお答えください。

(2)「入力票A」について

- ① 「入力票A」は貴部署についてお答えください。
- ② まず、記入者の部署、氏名等を入力してください。
(注)ご記入いただいた部署、氏名等は本調査に関連するお問合せ以外に使用することはございません。
個人情報適法、且つ慎重に取り扱います。
- ③ 次に、貴部署で担当されている機器に関する質問にお答えください。
- ④ 自由記入欄への入力文字数は無制限です。
- ⑤ 選択項目は○印入力欄に○印を入力してください。○印の入力は一つです。

(3)「入力票B」について

- ① 「入力票B」は貴部署担当の機器について、1つの機器(型番)ごとに1行入力してください。
- ② 入力していただく対象は、2007年7月末時点でカタログに記載している機種のみです。
- ③ 機器に該当する項目について、可能な限り回答にご協力ください。回答が困難な項目、および該当しない項目には回答不要です。回答可能な箇所のみを記入して返送してください。
・「機器の種類」をプルダウンより選択すると、入力が想定される箇所のセルの色が変化します。色が付いていないセルでも該当するものがあれば入力してください。
・予備の「入力欄」は、規定項目について記入欄が不足している場合、および規定項目以外の消費電力状態が存在する場合に利用してください。
- ④ 消費電力は、小数点以下第1位までお答えください。消費電力が1W未満の場合は、集計による誤差を小さくするため、可能な限り小数点以下第2位までお答えください。
また、集計漏れを防ぐため、機器に該当する状態が存在し、その時の消費電力が発生しない場合は、必ず入力欄に「0」Wと入力してください。
- ⑤ 周波数は50Hz時をお答えください。50Hz製品がない場合は60Hz製品についてお答えください。
- ⑥ カラーバリエーションなど同一設計であり消費電力に違いが生じない場合は、そのうちの代表的な型式1つについて記入してください。
- ⑦ 在庫限りの販売となっている製品は、備考欄に「在庫限り」と記入してください。また、その他注意事項等がありましたら、ご自由にご記入ください。

(4)調査対象製品についての注意事項

・調理家事機器

- ・クッキングヒーターは据置型のみご記入ください。可搬式のみは除きます。
- ・充電式掃除機等の充電式製品については、以下の点に留意し、適宜記入してください。
※「電源／稼働スイッチの状態」は、充電器について回答してください。
※満充電後の「過充電時」、アダプタまたは充電器のみ給電されている「製品本体非接続時」、「充電時」、および製品本体を充電器またはアダプタに接続した状態で稼働させる「接続稼働時」の消費電力を記入してください。
※「接続稼働」ができない製品の場合は、製品本体のみの稼働時消費電力を記入し、その旨を『内容』に記載してください。

表 6-17 家電製品調査票 空調給湯機器：入力票 B

＜ 入力票B・空調給湯機器 ＞ 入力票Bは貴部署担当の機器について、1つの機器(型番)ごとに1行入力してください。
 別シートの「アンケート票の説明」、別紙「アンケート票の説明」【アンケートの記入方法(3)】をご覧ください。
 ・「機器の種類」をプルダウンより選択すると、入力欄が想定される箇所の色が変化します。色が付いていないセルでも該当するものがあれば入力してください。
 ※ 充電式製品の場合には、製品本体ではなく充電器について回答してください。該当するセルを選択すると、注意事項が表示されますのでご確認ください。
 ※「記入方法」欄や該当する回答セルを選択すると、同じように注意事項が表示されますのでご確認ください。

項目	機器の種類	その他機器	小分類	機能・特徴	機器の型番	大きさ・容量等			販売開始年	電源/稼働スイッチの形態			
						大きさ・容量等	単位	内容		①	②	③	
記入方法	プルダウン (該当するものがない場合は他を選択)	機器の種類で その他を選んだ 場合機器名称を入力	プルダウンより 選んで入力 (該当するものがない場合は直接入力)	機能・特徴 例 (換気扇の場合：24時間換気等)		大きさ・容量等	単位	内容	西暦でお答えください	電源/稼働 オンオフ機能の有無	電源/稼働 スイッチの種類 (①②③の欄 が2つの場合は のみ記入)	オールオース イフ以外の スイッチの形態	
記入例 1	エアコン・冷暖房兼用			除湿機能付	A28	2.8kW		冷房能力	2006	2	1	2	2
記入例 2	エアコン・冷暖房兼用			除湿機能付	B28	2.8kW		冷房能力	2006	2	1	3	2
記入例 3	除湿機		デシカント式	衣類乾燥機	ABC-1234	6L/日		除湿能力	2006	2	1	2	1

以下入力欄

下記の「△△△時における消費電力」欄の色は、この Excel の別シート「消費電力発生時概略図」で示す ● ● ● ● と同一色で示しています

オールオースイッチの オフ時の消費電力		本体と物理的につながっている電源/稼働スイッチ (有線リモコンを含む)のオフ時の消費電力 (複数ある場合は、⑤-1, ⑤-2に分けて記入してください)				本体から離れた電源/稼働スイッチ (無線/赤外線リモコン)のオフ時 における消費電力				電源/稼働スイッチのオン時における主機能非稼働時の消費電力				
④		⑤-1		⑤-2		⑥				⑦-1		⑦-2		⑧
消費電力(W) (入力欄は0.00)	消費電力(W)	内容	表示部オフ時 消費電力(W)	消費電力(W)	内容	表示部オフ時 消費電力(W)	消費電力(W)	内容	表示部オフ時 消費電力(W)	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	表示部オフ時 消費電力(W)
0							0.50	リモコン操作待ち						
							0.50	リモコン操作待ち						
	0.30	トランスロス												

以下入力欄

その他の 主機能非稼働状態		電源/稼働スイッチのオン時における主機能稼働時の消費電力(稼働状態)と定格消費電力																	
⑨		⑩-1		⑩-2		⑩-1		⑩-2		⑩-3		⑩-4		⑩-5		(定格)		(定格)	
消費電力(W)	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)
1.6				500.0	冷房時	600.0	暖房時	500.0	除湿時										
1.6				501.0	冷房時	601.0	暖房時	501.0	除湿時										
				400.0	強	260.0	中	198.0	弱	300.0	衣類乾燥時				450.0	(定格)			

以下入力欄

省エネ状態 への 自動移行機能	省エネ状態への自動移行機能 (自動移行機能が複数ある場合は、代表的なものから3つ記入してください) ※ 左記ですべて回答している状態モードを記入する場合は、その状態の名前だけでなく、該当する項目番号(④-⑩)も記入してください。														備考					
	入力欄1				入力欄2				入力欄3				入力欄4							
	移行前 項目 番号	移行後 (省エネ状態) 項目 番号	自動移行 条件	移行前 項目 番号	移行後 (省エネ状態) 項目 番号	自動移行 条件	移行前 項目 番号	移行後 (省エネ状態) 項目 番号	自動移行 条件	移行前 項目 番号	移行後 (省エネ状態) 項目 番号	自動移行 条件	移行前 項目 番号	移行後 (省エネ状態) 項目 番号		自動移行 条件				
無し・1 有り・2 プルダウンより 選んで入力																				・その他自由記入欄 ・在庫限りの販売機器は本欄に 「在庫限り」と入力
1																				
2	⑩-4	衣類乾燥時	⑤-1	オフ	室内の湿度に応じて移行															

以下入力欄

表 6-18 家電製品調査票 空調給湯機器:アンケート票の説明

【 アンケート票の記入方法について 】

(1)入力方法及び入力上の注意

- ① 「調査票.xls」のワークシート「入力票A」、「入力票B」に入力していただきます。
「調査票.xls」は対象製品によって異なります。
「映像音響機器」、「情報通信機器」、「調理家事機器」、「空調給湯機器」、「家電その他機器」のいずれかのExcelファイルが入った3.5フロッピーディスクをご用意してあります。
専用WEBサイトから各アンケート票のダウンロードもできますので、ご活用ください。
また貴部署にて、お送りしたアンケート票(3.5FD)以外のお取り扱い機器がある場合は、下記サイトより該当するアンケート票をダウンロードしてご回答願いたく存じます。
◆当調査の専用WEBサイト <http://enquet.net/eccj/>
- ② 「入力票A」は貴部署についてお答えください。
- ③ 「入力票B」は貴部署で担当している機器についてお答えください。

(2)「入力票A」について

- ① 「入力票A」は貴部署についてお答えください。
- ② まず、記入者の部署、氏名等を入力してください。
(注)ご記入いただいた部署、氏名等は本調査に関連するお問合せ以外に使用することはございません。
個人情報には適法、且つ慎重に取り扱います。
- ③ 次に、貴部署で担当されている機器に関する質問にお答えください。
- ④ 自由記入欄への入力文字数は無制限です。
- ⑤ 選択項目は○印入力欄に○印を入力してください。○印の入力は一つです。

(3)「入力票B」について

- ① 「入力票B」は貴部署担当の機器について、1つの機器(型番)ごとに1行入力してください。
- ② 入力していただく対象は、2007年7月末時点でカタログに記載している機種全てです。
- ③ 機器に該当する項目について、可能な限り回答にご協力ください。回答が困難な項目、および該当しない項目には回答不要です。回答可能な箇所のみを記入して返送してください。
・「機器の種類」をプルダウンより選択すると、入力が想定される箇所のセルの色が変化します。色が付いていないセルでも該当するものがあれば入力してください。
・予備の「入力欄」は、規定項目について記入欄が不足している場合、および規定項目以外の消費電力状態が存在する場合に利用してください。
- ④ 消費電力は、小数点以下第1位までお答えください。消費電力が1W未満の場合は、集計による誤差を小さくするため、可能な限り小数点以下第2位までお答えください。
また、集計漏れを防ぐため、機器に該当する状態が存在し、その時の消費電力が発生しない場合は、必ず入力欄に「0」Wと入力してください。
- ⑤ 周波数は50Hz時をお答えください。50Hz製品がない場合は60Hz製品についてお答えください。
- ⑥ カラーバリエーションなど同一設計であり消費電力に違いが生じない場合は、そのうちの代表的な型式1つについて記入してください。
- ⑦ 在庫限りの販売となっている製品は、備考欄に「在庫限り」と記入してください。また、その他注意事項等がありましたら、ご自由にご記入ください。

(4)調査対象製品についての注意事項

空調給湯機器

- ・エアコンについて、お答えいただく機種が多く、全ての記入が困難な場合は、冷房能力2.8kWクラスの全機種をお答えください。

表 6-19 家電製品調査票 照明器具: 入力票 B

＜ 入力票B・照明機器 ＞ 入力票Bは貴部署担当の機器について、1つの機器(型番)ごとに1行入力してください。
 別シートの「アンケート票の説明」、別紙「アンケート票の説明」【アンケートの記入方法(3)】をご覧ください。
 ・「機器の種類」をプルダウンより選択すると、入力が必要となるセルの色が変化します。色が付いていないセルでも該当するものがあれば入力してください。
 ※「記入方法」欄や該当する回答セルを選択すると、同じように注意事項が表示されますのでご確認ください。

項目	機器の種類	機能・特徴		機種タイプ	機器の型番	販売開始年	電源/稼働スイッチの形態			
		光源	形状				①	②	③	
記入方法	プルダウン より選んで入力 *「家庭用照明器具」もしくは「電気スタンド」	プルダウンより選んで入力	プルダウンより選んで入力	次の要項により記載のこと。 ランプの種類 (FL,FCL,FHC,FHD,FPLL,W) 大きさは定格の値 (2,4,24,70,100など) 灯数(×数、又は+により表示)	(グループで記載の場合は、代表機種の型番)	西暦でお答えください	電源/稼働 オンオフ機能の有無	外部電源装置 (ACアダプタ)の有無	電源/稼働スイッチの種類 *「電源」の欄に 記載の有無を 記入	オールオフ スイッチ以外のスイッチの形態
記入例	家庭用照明器具	蛍光灯	シーリング	FCL34+27x20	ABC-123	2002	2	1	2	3
記入例	電気スタンド	蛍光灯	卓上	FPL27x1	EFG-456	2008	2	1	2	1

以下入力欄

下記の「△△△時における消費電力」欄の色は、この Excel の別シート「消費電力発生時概略図」で示すと同一色で示しています。これを参考に各項目に該当する消費電力を記入してください。

④ 消費電力(W) (入力欄は0.05) <th colspan="2">⑤ 消費電力(W) 内容</th> <th colspan="2">⑥ 消費電力(W) 内容</th> <th colspan="2">⑦ 消費電力(W) 内容</th> <th colspan="2">⑧ 消費電力(W) 内容</th> <th colspan="4">⑨-1 消費電力(W) 内容</th> <th colspan="4">⑨-2 消費電力(W) 内容</th>	⑤ 消費電力(W) 内容		⑥ 消費電力(W) 内容		⑦ 消費電力(W) 内容		⑧ 消費電力(W) 内容		⑨-1 消費電力(W) 内容				⑨-2 消費電力(W) 内容					
	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容		
	0.30	リモコン待ち			0.30	リモコン待ち											95.0	定格
	0.50	タッチスイッチ待機							19.0	標準			14.0	弱				

以下入力欄

省エネ状態への自動移行機能	省エネ状態への自動移行機能 (自動移行機能が実装する場合は、代表的ものを記入してください) ※左記ですべてに回答している状態・モードを記入する場合は、その状態の名称だけでなく、該当する項目番号(④~⑨)も記入してください。				備考
	入力欄1				
無し・1 有り・2 プルダウンより選んで入力	移行前		移行後 (省エネ状態)		自動移行条件
	項目番号	状態モード	項目番号	状態モード	

以下入力欄

表 6-20 家電製品調査票 照明器具: アンケート票の説明

【 アンケート票の記入方法について 】

(1)入力方法及び入力上の注意

- ①「調査票.xls」のワークシート「入力票A」、「入力票B」に入力していただきます。
- ②「入力票A」は貴部署についてお答えください。
- ③「入力票B」は貴部署で担当している機器についてお答えください。

(2)「入力票A」について

- ①「入力票A」は貴部署についてお答えください。
- ②まず、記入者の部署、氏名等を入力してください。
(注)ご記入いただいた部署、氏名等は本調査に関連するお問合せ以外に使用することはございません。
個人情報適法、且つ慎重に取り扱います。
- ③次に、貴部署で担当されている機器に関する質問にお答えください。
- ④自由記入欄への入力文字数は無制限です。
- ⑤選択項目は○印入力欄に○印を入力してください。○印の入力は一つです。

(3)「入力票B」について

- ①「入力票B」は1機種1行の入力です。
- ②入力していただく対象は、2007年7月末時点でカタログに記載している機種のものであります。
- ③機器に該当する項目について、可能な限り回答にご協力ください。回答が困難な項目、および該当しない項目には回答不要です。回答可能な箇所のみを記入して返送してください。
・「機器の種類」をプルダウンより選択すると、入力が想定される箇所のセルの色が変化します。色が付いていないセルでも該当するものがあれば入力してください。
・予備の「入力欄」は、規定項目について記入欄が不足している場合、および規定項目以外の消費電力状態が存在する場合に利用してください。
- ④消費電力は、小数点以下第1位までお答えください。消費電力が1W未満の場合は、集計による誤差を小さくするため、可能な限り小数点以下第2位までお答えください。
また、集計漏れを防ぐため、機器に該当する状態が存在し、その時の消費電力が発生しない場合は、必ず入力欄に「0」Wと入力してください。
- ⑤調査対象製品の詳細は以下をご参照の上、お答えください。
a.家庭用照明器具
・家庭仕様(業務仕様は除く)。
・リモコンによる点灯・消灯・調光等が可能なもの。(送信機がオプションの場合も含まれます。)
・使用ランプの形式、大きさ(形)、ワット、数、光色が同じで、かさの形状等のデザインが異なることによる型番の違いがある場合は、このような製品を1グループとして扱い、代表的な(生産台数の多い順等)製品1つをご記入ください。
・お取り扱いの製品が多く、上記の条件でのグループも多い場合は、生産台数の多いグループの順にできる限りご記入ください。
b.電気スタンド
・家庭仕様
・お取り扱いの製品が多い場合は、生産台数もしくは販売台数の多い順に可能な限りご記入ください。
- ⑥「電源/稼働スイッチ」には、家庭用照明器具のプルスイッチ、電気スタンドの電気コード上にある中間スイッチも含まれます。
- ⑦周波数は50Hz時をお答えください。50Hz製品がない場合は60Hz製品についてお答えください。
- ⑧在庫限りの販売となっている製品は、備考欄に「在庫限り」と記入してください。また、その他注意事項等がありましたら、ご自由にご記入ください。

表 6-21 家電製品調査票 高機能便座機器:入力票 B

＜ 入力票B・電気便座 ＞ 入力票Bは貴部署担当の機器について、1つの機器(型番)ごとに1行入力してください。
 別シートの「アンケート票の説明」、別紙「アンケート票の説明」【アンケートの記入方法(3)】をご覧ください。
 ・「機器の種類」をプルダウンより選択すると、入力が想定される箇所のセルの色が変化します。色が付いていないセルでも該当するものがあれば入力してください。
 ※「記入方法」欄や該当する回答セルを選択すると、同じように注意事項が表示されますのでご確認ください。

項目	機器の種類	方式	機能・特徴	機器の型番	販売開始年	電源/稼働スイッチの形態				オールオフスイッチのオフ時の消費電力
						①	②	③	④	
記入方法	プルダウンより選んで入力 (温水洗浄便座または暖房便座)	プルダウンより選んで入力 (温水洗浄便座のみ)	便座との一体型、即座暖房機能、さら自動開閉機能等		西暦でお答えください	電源/稼働オンオフ機能の有無	電源/稼働スイッチの種類	標準個数	種類	消費電力(W) (入力値は0のみ)
記入例	温水洗浄便座	貯湯洗浄式	温風乾燥	ABC-1234	2000	2	2	1	1	設定②の回答が1または8の場合に記入してください
記入例	温水洗浄便座	瞬間洗浄式	温風乾燥	ABC-5678	2005	2	2	2	3	
記入例	温水洗浄便座	瞬間暖房・瞬間洗浄式	温風乾燥	ABC-6789	2006	1		1	1	

以下入力欄

△△時における消費電力欄の色は、この Excel の別シート「消費電力発生時概略図」で示す     と同一色で示しています。

本体と物理的につながっている電源/稼働スイッチ(有線リモコンを含む)のオフ時における消費電力		本体から離れた電源/稼働スイッチ(無線/赤外線リモコン)のオフ時における消費電力		電源/稼働スイッチのオフ時におけるその他の消費電力		非使用時の消費電力 (全ての製品に共通)					(瞬間便座暖房式のみ)
⑤		⑥		⑦		⑧		⑨	⑩	⑪	⑫
消費電力(W)	内容	表示部オフ時消費電力(W)	内容	表示部オフ時消費電力(W)	内容	温水及び便座ヒータオフ時消費電力(W)	内容	節約タイマー設定時	表示部オフ時	入力欄1	瞬間便座暖房機能を利用している時の待機状態
0.50	マイコン制御							5.0	20.0		
0.50	トランスロス		0.80	リモコン待機				5.0	20.0		
								5.0	20.0		20.0

以下入力欄

これを参考に各項目に該当する消費電力を記入してください。

電源/稼働スイッチのオン時における主機能稼働時の消費電力(稼働状態)と定格消費電力																				
③-1		③-2		③-3		④-1		④-2		④-3		⑤		(定格)	(定格)	(定格)	(定格)	(定格)	(定格)	
便座部						温水保温部(貯湯洗浄式のみ)						入力欄1		最大消費電力(W)	温水ヒータ消費電力(W)	便座ヒータ消費電力(W)	制御部消費電力(W)	脱臭部消費電力(W)	部座暖房部消費電力(W)	温風乾燥部消費電力(W)
最高温度設定時	平均温度設定時	最低温度設定時	最高温度設定時	平均温度設定時	最低温度設定時	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)
30.0	45.0	40.0	35.0	30.0	25.0			400.0		350.0		50.0		5.0		3.0		3.0		40.0
50.0	45.0	40.0						512.0		1200.0		50.0		5.0		3.0		3.0		40.0
50.0	45.0	40.0						1400.0		1300.0		1300.0		5.0		3.0		3.0		40.0

以下入力欄

省エネ状態への自動移行機能	省エネ状態への自動移行機能 (自動移行機能が複数ある場合は、代表的なものから3つ記入してください。) ※ 左記ですべてに回答している状態・モードを記入する場合は、その状態の名称だけでなく、該当する項目番号(④~⑫)も記入してください。												備考			
	入力欄1				入力欄2				入力欄3							
無し・1有り・2プルダウンより選んで入力	移行前		移行後(省エネ状態)		自動移行条件	移行前		移行後(省エネ状態)		自動移行条件	移行前		移行後(省エネ状態)		自動移行条件	
	項目番号	状態モード	項目番号	状態モード		項目番号	状態モード	項目番号	状態モード		項目番号	状態モード	項目番号	状態モード		
2	稼働状態(使用時)	低遊状態	便ふたを閉める													
2	稼働状態(便⑤)	節約タイマー設定	人感センサーによる待機状態(便⑥)	リモコン待機	オフタイム節電の設置による											
2	稼働状態(便⑫)	瞬間便座暖房	人感センサーによる使用者の退出感知													

以下入力欄

表 6-22 家電製品調査票 高機能便座機器:アンケート票の説明

【 アンケート票の記入方法について 】

(1)入力方法及び入力上の注意

- ① 調査票.xlsのワークシート「入力票A」、「入力票B」に入力していただきます。
- ② 「入力票A」は貴部署についてお答えください。
- ③ 「入力票B」は貴部署で担当している機器についてお答えください。

(2)「入力票A」について

- ① 「入力票A」は貴部署についてお答えください。
- ② まず、記入者の部署、氏名等を入力してください。
(注)ご記入いただいた部署、氏名等は本調査に関連するお問合せ以外に使用することはございません。
個人情報とは適法、且つ慎重に取り扱います。
- ③ 次に、貴部署で担当されている機器に関する質問にお答えください。
- ④ 自由記入欄への入力文字数は無制限です。
- ⑤ 選択項目は○印入力欄に○印を入力してください。○印の入力は一つです。

(3)「入力票B」について

- ① 「入力票B」は1機種1行の入力です。
- ② 入力していただく対象は、2007年7月末時点でカタログに記載している機種のものであります。
- ③ 機器に該当する項目について、可能な限り回答にご協力ください。回答が困難な項目、および該当しない項目には回答不要です。回答可能な箇所のみを記入して返送してください。
・「機器の種類」をプルダウンより選択すると、入力が想定される箇所のセルの色が変化します。色が付いていないセルでも該当するものがあれば入力してください。
・予備の「入力欄」は、規定項目について記入欄が不足している場合、および規定項目以外の消費電力状態が存在する場合に利用してください。
- ④ 消費電力は、小数点以下第1位までお答えください。消費電力が1W未満の場合は、集計による誤差を小さくするため、可能な限り小数点以下第2位までお答えください。
また、集計漏れを防ぐため、機器に該当する状態が存在し、その時の消費電力が発生しない場合は、必ず入力欄に「0」Wと入力してください。
- ⑤ 周波数は50Hz時をお答えください。50Hz製品がない場合は60Hz製品についてお答えください。
- ⑥ 「非使用時の消費電力」は以下をお答えください。
・「温水及び便座ヒータオフ時」は、電源スイッチオン(電源スイッチがない場合はコンセント接続)時で便座及び温水のヒータスイッチをオフにした状態の消費電力を入力してください。
・「節約タイマー設定時」は、タイマースイッチをオンにしてヒーターなどの全機能がオフになった状態の消費電力を入力してください。
・瞬間便座暖房方式の製品については、「瞬間便座暖房機能を利用している時の待機状態」の消費電力も記入してください。
- ⑦ 「稼動時の消費電力」においては、便座部・温水保温部の設定温度別の消費電力をご記入ください。
- ⑧ カラーバリエーションなど同一設計であり消費電力に違いが生じない場合は、そのうちの代表的な型式1つについて記入してください。
- ⑨ 在庫限りの販売となっている製品は、備考欄に「在庫限り」と記入してください。
また、その他注意事項等がありましたら、ご自由にご記入ください。

表 6-24 家電製品調査票 家電その他機器:入力票 B

【 アンケート票の記入方法について 】

(1)入力方法及び入力上の注意

- ① 「調査票.xls」のワークシート「入力票A」、「入力票B」に入力していただきます。
「調査票.xls」は対象製品によって異なります。
「映像音響機器」、「情報通信機器」、「調理家事機器」、「空調給湯機器」、「家電その他機器」のいずれかのExcelファイルが入った3.5フロッピーディスクをご用意してあります。
専用WEBサイトから各アンケート票のダウンロードもできますので、ご活用ください。
また貴部署にて、お送りしたアンケート票(3.5FD)以外のお取り扱い機器がある場合は、下記サイトより該当するアンケート票をダウンロードしてご回答願いたく存じます。
◆当調査の専用WEBサイト <http://enquet.net/eccj/>
- ② 「入力票A」は貴部署についてお答えください。
- ③ 「入力票B」は貴部署で担当している機器についてお答えください。

(2)「入力票A」について

- ① 「入力票A」は貴部署についてお答えください。
- ② まず、記入者の部署、氏名等を入力してください。
(注)ご記入いただいた部署、氏名等は本調査に関連するお問合せ以外に使用することはございません。
個人情報とは適法、且つ慎重に取り扱います。
- ③ 次に、貴部署で担当されている機器に関する質問にお答えください。
- ④ 自由記入欄への入力文字数は無制限です。
- ⑤ 選択項目は○印入力欄に○印を入力してください。○印の入力は一つです。

(3)「入力票B」について

- ① 「入力票B」は貴部署担当の機器について、1つの機器(型番)ごとに1行入力してください。
- ② 入力していただく対象は、2007年7月末時点でカタログに記載している機種のものであります。
- ③ 機器に該当する項目について、可能な限り回答にご協力ください。回答が困難な項目、および該当しない項目には回答不要です。回答可能な箇所のみを記入して返送してください。
・「機器の種類」をプルダウンより選択すると、入力想定される箇所のセルの色が変化します。色が付いていないセルでも該当するものがあれば入力してください。
・予備の「入力欄」は、規定項目について記入欄が不足している場合、および規定項目以外の消費電力状態が存在する場合に利用してください。
- ④ 消費電力は、小数点以下第1位までお答えください。消費電力が1W未満の場合は、集計による誤差を小さくするため、可能な限り小数点以下第2位までお答えください。
また、集計漏れを防ぐため、機器に該当する状態が存在し、その時の消費電力が発生しない場合は、必ず入力欄に「0」Wと入力してください。
- ⑤ 周波数は50Hz時をお答えください。50Hz製品がない場合は60Hz製品についてお答えください。
- ⑥ カラーバリエーションなど同一設計であり消費電力に違いが生じない場合は、そのうちの代表的な型式1つについて記入してください。
- ⑦ 在庫限りの販売となっている製品は、備考欄に「在庫限り」と記入してください。また、その他注意事項等がありましたら、ご自由にご記入ください。

(4)調査対象製品についての注意事項

家電その他機器

- ・充電式製品については、以下の点に留意し、適宜記入してください。
※「電源／稼働スイッチの形態」は、充電器について回答してください。
※満充電後の「過充電時」、アダプタまたは充電器のみ給電されている「製品本体非接続時」、「充電時」、および製品本体を充電器またはアダプタに接続した状態で稼働させる「接続稼働時」の消費電力を記入してください。
※「接続稼働」ができない製品の場合は、製品本体のみの稼働時消費電力を記入し、その旨を『内容』に記載してください。

6.5 調査入力表(ガス・石油機器)

表 6-25 ガス・石油機器調査票:入力票 A

〈 入力票 A 〉 入力票Aは貴部署についてご記入ください。		2007年度
1. ご記入なさる方の部署名、氏名等をご記入ください。(入力票A・B記入内容の確認のためにメールさせていただくことがあります。)		
企業名		
事業部名		
部署名		
部署担当機器		
記入者役職		
記入者氏名		
E-mail アドレス		
事業所郵便番号		
事業所住所		
2. 貴部署で担当されている機器に関してお問い合わせします。(本回答は主として統計分析資料として使用します。)		
(1) 貴社において、貴部署の担当機器に対し目標値を設定するなど、待機時消費電力の削減に取り組んでいますか。		
<ul style="list-style-type: none"> ①取り組んでいる ②今後取り組む予定がある ③取り組んでいない ④その他 	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	○印入力欄(○はひとつ)
→ (1)-a 取り組みの具体的内容を入力ください。(4項目まで、自由記入)		
(2) 貴社において、貴部署の担当機器対し、待機時消費電力に関する具体的な設計基準・設計ルールを設定していますか。		
<ul style="list-style-type: none"> ①具体的な設計基準(基準値等)がある ②今後具体的な設計基準(基準値等)を設ける予定がある ③設計基準等はない ④その他 	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	○印入力欄(○はひとつ)
→ (2)-a 設計基準等の具体的内容を入力ください。(4項目まで、自由記入)		
(3) 貴部署の担当機器において、待機時消費電力をカタログや取扱説明書等で表示していますか。		
<ul style="list-style-type: none"> ①全ての製品について表示している ②一部の製品について表示している ③表示していない 	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	○印入力欄(○はひとつ)
→ (3)-a 表示の媒体(カタログ、取扱説明書等)やその方法等をご記入ください。(4項目まで、自由記入)		
→ (3)-b 表示しない理由をご記入ください。(4項目まで、自由記入)		
3. 貴部署で担当されている機器の待機時消費電力に関連する情報についてお問い合わせします。 (本回答は主として待機時消費電力に関する現状分析に使用します。)		
(1) 貴部署で担当されている機器で待機時消費電力を削減するための機構・機能等がありましたらご記入ください。		
(2) 当センターでは、機器を使用しない時にプラグを抜くことを推奨しております。貴部署で担当されている機器で、家庭での使用下において、待機時消費電力を削減するためにプラグを抜いた場合(あるいは分岐用安全ブレーカーを落とした場合など)に、機能面や製品耐久性の面などで、問題となることがありましたらご記入ください。		
(3) 貴部署で担当されている機器で待機時消費電力を削減するために使用者に実施してもらいたい省エネ行動がありましたらご記入ください。		
●入力票Aは以上です。入力票Bにお進みください。		


表 6-26 ガス・石油機器調査票 暖房機：入力票 B

〈 入力票B・ガス・石油暖房機器 〉 入力票Bは貴部署担当の機器について、1つの機器(型番)ごとに1行入力してください。
 別シートの「アンケート票の説明」、別紙「アンケート票の説明」【アンケートの記入方法(3)】をご覧ください。
 ・「機器の種類」をプルダウンより選択すると、入力が必要となる箇所のセルの色が変化します。色が付いていないセルでも該当するものがあれば入力してください。
 ※「記入方法」欄や該当する回答セルを選択すると、同じように注意事項が表示されますので、ご確認ください。

下記の「△△△時における消費電力」欄の色は、この Excel の別シ

項目	機器の種類	機能・特徴	型式名	販売開始年	暖房出力 (kW)	電源/稼働スイッチの形態			オールオンスイッチのオフ時の消費電力		本体と物理的につながっている電源/稼働スイッチ(有線/モコンを含む)のオフ時における消費電力 (種数ある場合には、④-1、④-2に分けて記入してください。)				
						①	②	③	④-1		④-2				
記入方法	プルダウンより選んで入力			西暦でお茶えください	最大出力を記入	① 電源/稼働 オンオフ機能 の有無	② 電源/稼働ス イッチの種類 稼働ONの箇 が2の場合のみ 記入	③ オールオンスイッチ 以外のスイッチの 形態	④ 消費電力(W) (入力欄は0のみ)	消費電力 (W)	内容	表示部オフ時 消費電力(W)	消費電力 (W)	内容	表示部オフ時 消費電力(W)
記入例	ガスファンヒーター	空気清浄機付	ABC-6543	2006	4.1	2	3	1	0	1.0	マイコン保持				
記入例	ガスFF式ストーブ		DEF-4321	2002	5	2	2	1		2.2	トランスロス		1.2		

以下入力欄

ト「消費電力発生時概略図」で示す  と同一色で示しています。これを参考に各項目に該当する消費電力を記入し

本体から離れた電源/稼働スイッチ (無線/赤外線/モコン)のオフ時における消費電力			電源/稼働スイッチのオン時における主機能稼働時の消費電力				その他の主機能非稼働状態					
⑤			⑤-1		⑤-2		⑦		⑧		⑨	
消費電力 (W)	内容	表示部オフ時 消費電力(W)	入力欄1		入力欄2		表示部オフ時		タイマ機能利用時		クイックスタート予定など その他一定機能利用時	
			消費電力(W)	内容 (稼働操作待ち等)	消費電力(W)	内容 (稼働操作待ち等)	消費電力(W)	消費電力(W)	消費電力(W)	消費電力(W)	内容	消費電力 (W)
			2.0	稼働操作待ち					3.3			
			3.0	稼働操作待ち					4.0			

以下入力欄

電源/稼働スイッチのオン時における主機能稼働時の消費電力(稼働状態)						省エネ状態への自動移行機能		省エネ状態への自動移行機能 (自動移行機能が複数ある場合は、代表的なものから2つ記入してください。) ※ 本記号で回答していない状態モードを記入する場合は、その状態の名称だけでなく、該当する項目番号(①~⑩)も記入し						備考 その他自由記入欄 在庫限りの販売機種は本欄に 「在庫限り」と入力	
①		②		③-1		③-2		入力欄1			入力欄2				
強出力時		弱出力時		入力欄1		入力欄2		移行前		移行後 (省エネ状態)		自動移行条件			
消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	項目番号	状態モード	項目番号	状態モード	項目番号	状態モード		
20.2	暖房(強)	15.1	暖房(弱)	9.1	空気清浄(強)	5.5	空気清浄(弱)	2	①② 暖房	6-1	稼働操作待ち	8時間	① 暖房(強)	② 暖房(弱)	設定温度に到達後
48.0	暖房(強)	26.0	暖房(弱)					1							


以下入力欄

表 6-27 ガス・石油機器調査票 ガス給湯器:入力票 B

〈 入力票B・ガス給湯機器 〉 入力票Bは貴部署担当の機器について、1つの機器(型番)ごとに1行入力してください。
 別シートの「アンケート票の説明」、別紙「アンケート票の説明」【アンケートの記入方法 (3)】をご覧ください。
 ・「機器の種類」をプルダウンより選択すると、入力が増える箇所のセルの色が変化します。色が付いていないセルでも該当するものがあれば入力してください。
 ※「記入方法」欄や該当する回答セルを選択すると、同じように注意事項が表示されますので、ご参照ください。

項目	機器の種類	型式名	販売開始年	最大入力(kW)					電源/稼働スイッチの形態								
				給湯	暖房	ふろ	同時使用合計	①	②	③	オールオンスイッチを除く(その他スイッチ(有線/無線)にコンタクトリレー等)の種数と種類						
								ガス消費量(kW)	ガス消費量(kW)	ガス消費量(kW)		ガス消費量(kW)	内容 プルダウンより選択	電源/稼働 オンオフ機能の有無	電源/稼働 スイッチの種類	標準個数	種類
記入方法	プルダウンより選んで入力		西暦でお答えください														
記入例	ガス給湯付ふろがま(給湯ふろ)	EFQ-5678	2005	42		11.6	53.8	給湯+ふろ	2		2	2		1			

以下入力欄

下記の「△△△時における消費電力」欄の色は、この Excel の別シート「消費電力発生時概略図」で示す  と同一色で示して

オールオンスイッチのオフ時の消費電力	本体と物理的につながっている電源/稼働スイッチ(有線/無線)を含む)のオフ時における消費電力(種数ある場合には、⑤-1, ⑤-2に分けて記入してください。)						本体から離れた電源/稼働スイッチ(無線/赤外線/モコン)のオフ時における消費電力				電源/稼働スイッチのオン時における主機能稼働時の消費電力					
④	⑤-1			⑤-2			⑥				⑦-1		⑦-2	⑧		
消費電力(W) (入力値は0のみ)	消費電力(W)	内容	表示部オフ時消費電力(W)	消費電力(W)	内容	表示部オフ時消費電力(W)	消費電力(W)	内容	表示部オフ時消費電力(W)	内容	表示部オフ時消費電力(W)	入力欄1		入力欄2		表示部オフ時
説明2スイッチの種類」の回答が「または3」の場合に記入してください。	消費電力(W)			消費電力(W)			消費電力(W)		消費電力(W)		消費電力(W)	消費電力(W)	内容(稼働操作待ち等)	消費電力(W)	内容(稼働操作待ち等)	消費電力(W)
	3.5	時刻表示	1.5									4.0	稼働操作待ち			2.0

以下入力欄

います。これを参考に各項目に該当する消費電力を記入してください。

その他の主機能稼働状態						電源/稼働スイッチのオン時における主機能稼働時の消費電力(稼働状態)												
⑨	⑩	⑪-1				⑪-2				⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱		
タイマー機能利用時	アイクワースタート設定などその他一定機能利用時	入力欄1				入力欄2				給湯時(最大負荷時)	湯張り時(最大負荷時)	追い炊き時(最大負荷時)	凍結防止時(最大負荷時)	暖房時(最大負荷時)	同時使用時(最大負荷時)	入力欄1		
消費電力(W)	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	消費電力(W)	消費電力(W)	消費電力(W)	消費電力(W)	消費電力(W)	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容
									40.5	40.5	135.5	145.5	140.5	200.5	給湯+ふろ			

以下入力欄

省エネ状態への自動移行機能	省エネ状態への自動移行機能(自動移行機能が複数ある場合は、代表的なものから3つ記入してください。) ※左記ですべてに回答している状態・モードを記入する場合は、その状態の名称だけでなく、該当する項目番号(⑭~⑰)も記入してください。														備考		
	入力欄1				入力欄2				入力欄3								
	移行前(省エネ状態)	移行後(省エネ状態)	自動移行条件	移行前(省エネ状態)	移行後(省エネ状態)	自動移行条件	移行前(省エネ状態)	移行後(省エネ状態)	自動移行条件	項目番号	状態モード	項目番号	状態モード	項目番号		状態モード	
無し、1有り プルダウンより選んで入力																	その他自由記入欄 在庫限りの販売機器は本欄に「在庫限り」と入力
	2	⑦-1	稼働操作待ち	⑧	表示部オフ	60分											





以下入力欄

表 6-28 ガス・石油機器調査票 石油給湯器:入力票 B

〈 入力票B・石油給湯機器 〉 入力票Bは貴部署担当の機器について、1つの機器(型番)ごとに1行入力してください。
 別シートの「アンケート票の説明」、別紙「アンケート票の説明」【アンケートの記入方法 (3)】をご覧ください。
 ・「機器の種類」をプルダウンより選択すると、入力が見定される箇所のセルの色が変化します。色が付いていないセルでも該当するものがあれば入力してください。
 ※「記入方法」欄や該当する回答セルを選択すると、同じように注意事項が表示されますので、ご確認ください。

項目	機器の種類	型式名	販売開始年	最大出力(kW)					電源/稼働スイッチの形態								
				給湯	暖房	ふろ	同時使用合計		①	② (設問①の回答が2の場合のみ、記入してください。)	③ (設問②の回答が2または3の場合のみ、記入してください。)						
							連続給湯出力(kW)	最大出力(kW)			最大出力(kW)	最大出力(kW)	内容 プルダウンより選択	電源/稼働 オンオフ機能の有無	電源/稼働スイッチの種類	標準個数	種類
記入方法	プルダウンより選んで入力		西暦でお答えください														
記入例	石油給湯機付風呂がま	XYZ-1234	2006	42		14.3	42	給湯+ふろ	2		2	2	2				1

以下入力欄

下記の「△△△時における消費電力」欄の色は、この Excel の別シート「消費電力発生時概略図」で示す     と同一色で示して

オールオフスイッチのオフ時の消費電力	本体と物理的につながっている電源/稼働スイッチ(有線/リモコンを含む)のオフ時における消費電力 (種数ある場合は、⑤-1, 2に分けて記入してください。)						本体から離れた電源/稼働スイッチ(無線/赤外線リモコン)のオフ時における消費電力				電源/稼働スイッチのオン時における主機能非稼働時の消費電力					
④	⑤-1			⑤-2			⑥				⑦-1		⑦-2	⑧		
消費電力(W) (入力欄は0のみ)	消費電力(W)	内容	表示部オフ時消費電力(W)	消費電力(W)	内容	表示部オフ時消費電力(W)	消費電力(W)	内容	表示部オフ時消費電力(W)	内容	表示部オフ時消費電力(W)	入力欄1		入力欄2	表示部オフ時	
設問2「スイッチの種類」の回答が1または3の場合に記入してください	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	消費電力(W)	内容 (稼働操作待ち等)	消費電力(W)	内容 (稼働操作待ち等)	消費電力(W)
	4.5	リモコン保持	4.0									8.2	稼働操作待ち			5.5

以下入力欄

います。これを参考に各項目に該当する消費電力を記入してください。

その他の 主機能非稼働状態						電源/稼働スイッチのオン時における主機能稼働時の消費電力(稼働状態)									
⑨	⑩	⑪-1		⑪-2		⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰		⑱		
タイマー機能利用時	グッズスタート設定などその他一定機能利用時	入力欄1		入力欄2		給湯時 (最大負荷時)	湯張り時 (最大負荷時)	追い炊き時 (最大負荷時)	連続防止時 (最大負荷時)	暖房時 (最大負荷時)	同時使用時 (最大負荷時)		入力欄1		
消費電力(W)	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	消費電力(W)	内容	
						100.0	115.0	170.0	88.5	130.8	210.0	給湯+ふろ			

以下入力欄

省エネ状態への自動移行機能	省エネ状態への自動移行機能 (自動移行機能が複数ある場合は、代表的なものから3つ記入してください。) ※左記ですでに回答している状態モードを記入する場合は、その状態の名称だけでなく、該当する項目番号(④~⑩)も記入してください。														備考 -その他自由記入欄 -在庫限りの販売機器は本欄に「在庫限り」と入力
	入力欄1				入力欄2				入力欄3						
	移行前		移行後 (省エネ状態)		移行前		移行後 (省エネ状態)		移行前		移行後 (省エネ状態)		自動移行条件		
項目番号	状態モード	項目番号	状態モード	項目番号	状態モード	項目番号	状態モード	項目番号	状態モード	項目番号	状態モード	項目番号	状態モード	項目番号	状態モード
2)	⑦-1	稼働操作待ち	⑧	表示部オフ	30分										

以下入力欄

表 6-30 ガス・石油機器調査票 ガス・石油機器共通: アンケート票の説明

【 アンケート票の記入方法について 】

(1)入力方法及び入力上の注意

- ① 「調査票.xls」のワークシートに「入力票A」、「ガス・石油暖房機」、「ガス給湯機」、「石油給湯機」、「ガス衣類乾燥機」を用意してあります。
- ② 「入力票A」は貴部署についてお答えください。
- ③ 「ガス・石油暖房機」、「ガス給湯機」、「石油給湯機」、「ガス衣類乾燥機」の各シートは、貴部署で担当している機器について該当するシートのみお答えください。

(2)「入力票A」について

- ① 「入力票A」は貴部署についてお答えください。
- ② まず、記入者の部署、氏名等を入力してください。
(注)ご記入いただいた部署、氏名等は本調査に関連するお問合せ以外に使用することはございません。
個人情報とは適法、且つ慎重に取り扱います。
- ③ 次に、貴部署で担当されている機器に関する質問にお答えください。
- ④ 自由記入欄への入力文字数は無制限です。
- ⑤ 選択項目は○印入力欄に○印を入力してください。○印の入力は一つです。

(3)各製品の回答入力シートについて

- ① 回答入力シートは「ガス・石油暖房機」、「ガス給湯機」、「石油給湯機」、「ガス衣類乾燥機」の別に用意してあります。
- ② 各シートとも、1機種1行の入力です。
- ③ 入力していただく対象は、2007年7月末時点でカタログに記載している機種のものであります。
- ④ 機器に該当する項目について、可能な限り回答にご協力ください。回答が困難な項目、および該当しない項目には回答不要です。回答可能な箇所のみを記入して返送してください。
・「機器の種類」をプルダウンより選択すると、入力が想定される箇所のセルの色が変化します。色が付いていないセルでも該当するものがあれば入力してください。
・予備の「入力欄」は、規定項目について記入欄が不足している場合、および規定項目以外の消費電力状態が存在する場合に利用してください。
- ⑤ 消費電力は、小数点以下第1位までお答えください。消費電力が1W未満の場合は、集計による誤差を小さくするため、可能な限り小数点以下第2位までお答えください。
また、集計漏れを防ぐため、機器に該当する状態が存在し、その時の消費電力が発生しない場合は、必ず入力欄に「0」Wと入力してください。
- ⑥ 取扱製品が多い場合は生産数量の多い順に可能な限り記載してください。
- ⑦ メーカー間、量販店・ガス事業者等へのOEM製品は、製造元メーカーでの調査対象とします。
・自社ブランドと同じ製品を他社に供給している場合は、自社ブランド品を代表として記載してください。
・他社に供給しているOEM製品で自社ブランド品として販売していない製品については、そのうちの代表1形式を記載してください(OEM先の型式で記載してください)。
- ⑧ 業務用仕様、受注生産品、特殊仕様品は対象外です。(アンケート票に記入しないでください)
- ⑨ 周波数は50Hz時をお答えください。50Hz製品がない場合は60Hz製品についてお答えください。
- ⑩ 在庫限りの販売となっている製品は、備考欄に「在庫限り」と記入してください。

(4)各調査対象製品についての注意事項

<ガス・石油暖房機>

- ・対象機器:ファンヒーター、密閉式、半密閉式・FE(※密閉式、半密閉式・FEは床暖房内蔵含む)等
- ・同一機器のバリエーションであっても、待機時消費電力値が異なるものは記載してください。
- ・カラーバリエーションは基本型式で代表してください。

<ガス給湯機>

- ・対象機器:瞬間湯沸器(先止)および給湯付きふろがま等
- ・バーナー・熱交換器・インプットが同じ場合は、排気バリエーションが異なっても同じ型式と見なし、代表型式の値を入力してください。
- ・同一型式の排気バリエーションであっても、待機時消費電力値が異なるものは記載してください。
- ・壁掛け式と据置き式は分けて記載してください。
- ・屋外式と屋内式は分けて記載してください。
- ・カラーバリエーションは基本型式で代表してください。
- ・リモコンがある製品の消費電力は、標準個数を設置している場合を想定しお答えください。

<石油給湯機>

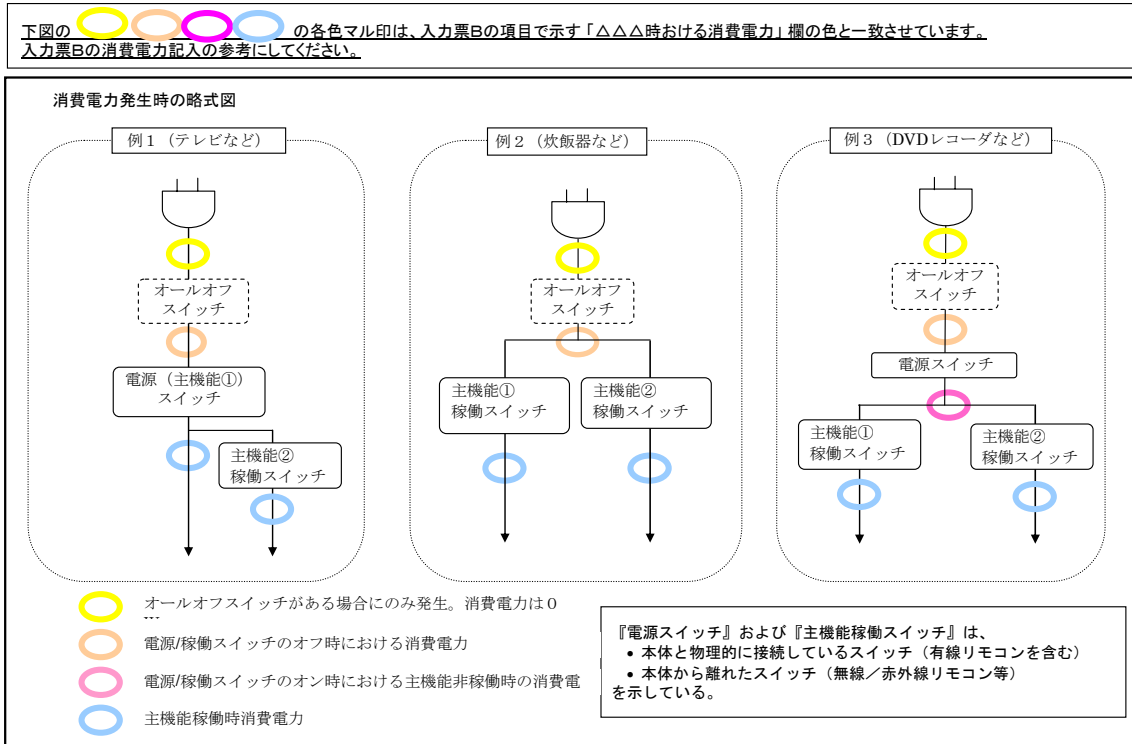
- ・対象機器:石油小形給湯機、給湯機付きふろがま、油だき温水ポイラ等
- ・バーナー・熱交換器・インプットが同じ場合は、排気バリエーションが異なっても同じ型式と見なし、代表型式の値を入力してください。
- ・同一型式の排気バリエーションであっても、待機時消費電力値が異なるものは記載してください。
- ・壁掛け式と据置き式は分けて記載してください。
- ・屋外式と屋内式は分けて記載してください。
- ・カラーバリエーションは基本型式で代表してください。
- ・リモコンがある製品の消費電力は、標準個数を設置している場合を想定しお答えください。

<ガス衣類乾燥機>

- ・対象機器:ガス衣類乾燥機
- ・同一機器のバリエーションであっても、待機時消費電力値が異なるものは記載してください。
- ・カラーバリエーションは基本型式で代表してください。

6.6 調査入力補助表

表 6-31 消費電力発生時概略図(家電製品・ガス・石油機器共通)



調査にご協力いただいた企業名(順不同)

家電製品調査

日本ヒューレット・パッカード株式会社
株式会社アイ・オー・データ機器
日本電気株式会社
東陶機器株式会社
岩谷産業株式会社
オムロン株式会社
オリオン電機株式会社
オンキヨー株式会社
キヤノン株式会社
株式会社ケンウッド
株式会社コロナ
三洋電機株式会社
シャープ株式会社
セイコーエプソン株式会社
象印マホービン株式会社
ソニー株式会社
タイガー魔法瓶株式会社
ダイキン工業株式会社
株式会社 長府製作所
ツインバード工業株式会社
株式会社ティアックエソテリックカンパニー
株式会社デノンコンシューマーマーケティング
株式会社東芝
東芝機器株式会社
東芝キャリア株式会社
東芝ホームテクノ株式会社
東芝ライテック株式会社
パイオニア株式会社
日本ビクター株式会社
株式会社日立製作所
日立アプライアンス株式会社
株式会社日立リビングサプライ
富士ゼロックス株式会社
株式会社富士通ゼネラル
船井電機株式会社
ブラザー工業株式会社
松下電器産業株式会社
三菱電機株式会社
三菱重工空調システム株式会社
ヤマハ株式会社

リンナイ株式会社
ローランド株式会社
DXアンテナ株式会社
株式会社ナナオ
NEC アクセステクニカ株式会社
NEC ディスプレイソリューションズ株式会社
アイホン株式会社
朝日ソーラー株式会社
株式会社グレン・ディンプレックス・ジャパン
セイコーエスヤード株式会社
ダイニチ工業株式会社
長州産業株式会社
株式会社トヨトミ
株式会社フジ医療器
プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン株式会社
加賀コンポーネント株式会社
マスプロ電工株式会社
株式会社河合楽器製作所
東芝コンシューママーケティング株式会社
レノボ・ジャパン株式会社
富士フイルム株式会社
富士通アクセス株式会社
株式会社日立ハウステック
三化工業株式会社

家電製品調査(照明機器)

NECライティング株式会社
オーデリック株式会社
コイズミ照明株式会社
大光電機株式会社
ツインバード工業株式会社
東芝ライテック株式会社
日立ライティング株式会社
松下電工株式会社
三菱電機照明株式会社
山田照明株式会社

家電製品調査(電気便座機器)

株式会社 INAX
株式会社三栄水栓製作所
ジャニス工業株式会社
テガ三洋工業株式会社
東芝コンシューママーケティング株式会社
TOTOウォシュレットテクノ株式会社
株式会社日立ハウステック
松下電器産業株式会社

ガス・石油機器調査

株式会社ガスター
株式会社コロナ
サンデン株式会社
サンポット株式会社
三洋電機株式会社
ダイニチ工業株式会社
高木産業株式会社
タカラスタANDARD株式会社
株式会社長府製作所
長府工産株式会社
株式会社トヨミ
株式会社ノーリツ
株式会社パロマ
株式会社日立ハウステック
株式会社富士通ゼネラル
松下電器産業株式会社
三菱電機株式会社
ヤマハリビングテック株式会社
リンナイ株式会社
長州産業株式会社

ありがとうございました